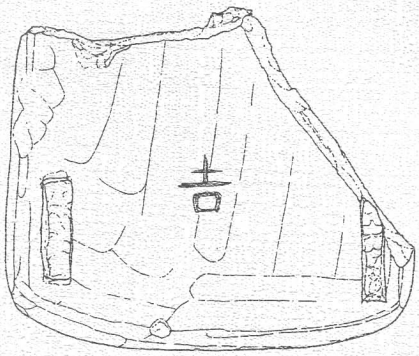
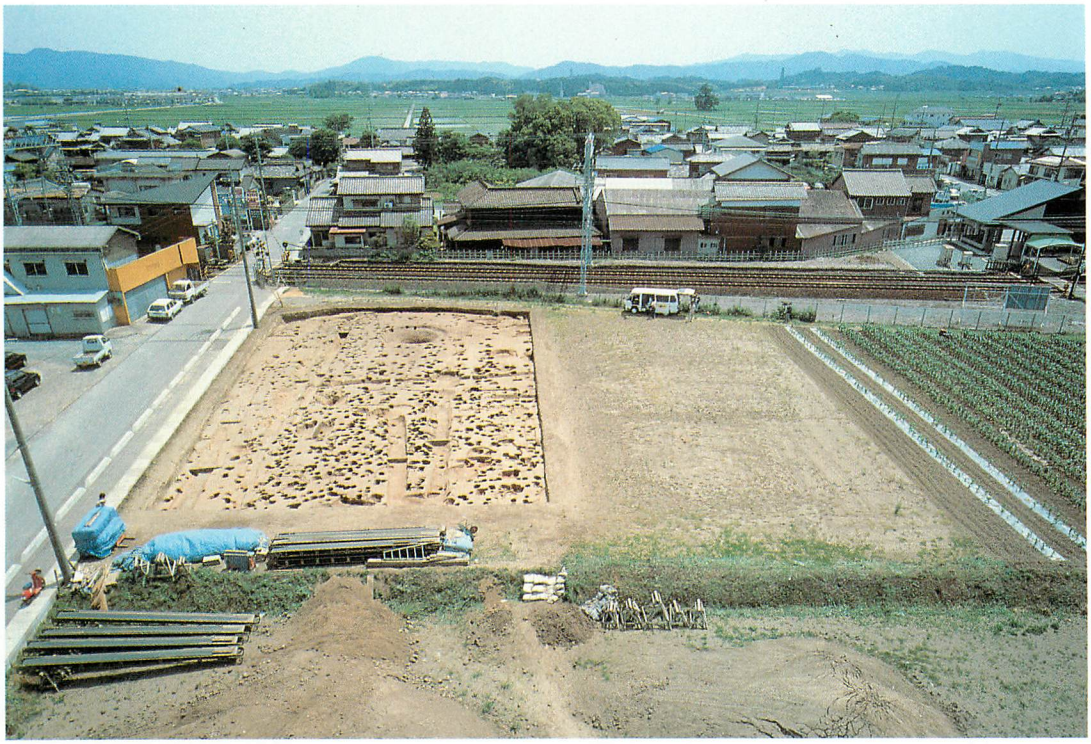
史跡 斎宮跡

平成5年度発掘調査概報



1994

斎宮歴史博物館



第99次調査区遠景（北から）

第103次調査区遠景（北西から）

史跡斎宮跡

第1図　平成5年度発掘調査地区（1：10,000）

はじめに

「幻の宮」と呼ばれていた斎宮跡の解明のために続けられてきた発掘調査・研究も昭和45年以来本年で早くも25年が過ぎようとしています。この間、とくに10年毎の節目には、国史跡への指定、普及・公開の場としての斎宮歴史博物館の開館などを得て、史跡の保存も大きく前進いたしてきております。これも一重に地元住民の皆様をはじめ、関係各機関、諸先輩各位のご努力とご理解・ご協力の賜物と感謝いたしております。

また、地元明和町が事業主体となり、国・県の補助を得て進めておられます史跡公有化事業もすでに２０ヘクタール近くに達し、その整備と有効な活用の促進は各方面から強く求められているところでございます。そこで本年度は三重県といたしましても、この整備・活用の指針ともいえます「史跡斎宮跡整備基本構想」を策定すべく予算化し、専門の先生方をはじめ関係各方面の方々のご指導・ご助言・ご協力をいただき、その作業に努力してまいりました。しかしながら、その具体化・事業化に向けて土地公有化と発掘調査の整合、周辺の様々な開発事業との調整、地域生活環境との調和など、今後検討・解決してまいらなければなりません課題は山積していると認識いたしております。

その課題の一つであります史跡の実態解明のための発掘調査も、漸くその調査率が史跡全体の12%に達し、おぼろげながら史跡の概観が判りかけるところまで進んでまいりました。これらの作業は一朝一夕に進むものではなく、長い期間の中での成果の積み上げにより成しえるものと思いますので、この冊子がその一助となるよう念願いたしております。

最後になりましたが、平素から当斎宮跡の保存・調査・研究等に種々ご指導・ご助言を賜っております文化庁及び調査指導委員の先生方並びに関係各位にお礼申し上げてご挨拶に代えさせていただきます。

平成６年３月

斎宮歴史博物館
館長　久保富子

例　　言

1．本書は、斎宮歴史博物館が国庫補助金の交付を受けて平成５年度に実施した史跡斎宮跡の発掘調査の概要をまとめたものである。

2．明和町教育委員会が、国庫補助金の交付を受け調査主体となって実施した史跡現状変更等に伴う緊急発掘調査の報告書は別途、明和町教育委員会が刊行している。

3．遺構の実測にあたっては国土調査法による第Ⅵ座標系を基準とし、方位は座標北を用いた。

4．遺構の時期区分は、「斎宮の土師器（三重県斎宮跡調査事務所年報1984）」による。

5．遺構表示記号は次の通りである。

ＳＢ；建物　ＳＫ；土坑　ＳＤ；溝　ＳＥ；井戸　ＳＡ；柵列　ＳＦ；道路　ＳＸ；その他

6．遺物実測図は、特に標示がない限り実物の４分の１である。

7．斎宮跡の調査全般については、次の先生方の指導を得た。

京都府立大学名誉教授	門脇禎二
千葉大学教授	北原理雄
椙山女学園大学名誉教授	久徳高文
奈良国立文化財研究所　所長	鈴木嘉吉
㈶大阪文化財センター理事長	坪井清足
名古屋学院大学教授	楢崎彰一
三重大学教授	八賀晋
名古屋大学教授	早川庄八
㈶京都府埋蔵文化財調査研究センター理事長	福山敏男
皇学館大学教授	渡辺寛

8．本概報の編集・執筆は斎宮歴史博物館調査研究課の吉水康夫、野原宏司、大川勝宏があたり、赤岩操、大滝靖子がこれを補佐した。

また、遺物整理には島村紀久子、角谷和代、奥田康子、鈴木美智子の協力を得た。

目　　次

Ⅰ．調査の経過と概要 …… 1
Ⅱ．第99次調査 …… 3
Ⅲ．第100次調査 …… 17
Ⅳ．第101次調査 …… 23
Ⅴ．第103次調査 …… 32
Ⅵ．第104次調査 …… 53

表・挿図目次

［表］1．平成５年度発掘調査地区一覧 …… 2
2．第99次調査　時期別遺構分類表 …… 4
3．ＳＥ6920出土土器構成 …… 14
4．第100次調査　時期別遺構分類表 …… 19
5．第101次調査　時期別遺構分類表 …… 24
6．第103次調査　時期別遺構分類表 …… 33
7．ＳＢ7045・ＳＫ7017・ＳＫ7040出土土器構成 …… 49
8．第104次調査　時期別遺構分類表 …… 54
9．ＳＥ7060出土土器構成 …… 59
10．掘立柱建物・柵列一覧表 …… 61
11．竪穴住居一覧表 …… 62
12．遺物（土器）観察表 …… 63
13．斎宮跡発掘調査次数一覧表 …… 80
［図］1．平成５年度発掘調査地区（１：10,000） …… i
2．第99次調査　調査区位置図（１：2,000） …… 3
3．　〃　遺構実測図（１：200） …… 5
4．　〃　ＳＸ6900実測図（１：20） …… 7
5．　〃　調査区北部遺構実測図（１：100） …… 8
6．　〃　出土遺物実測図（ＳＥ6920） …… 10
7．　〃　出土遺物実測図（ＳＥ6920） …… 11
8．　〃　出土遺物実測図（ＳＥ6920） …… 12
9．　〃　出土遺物実測図（ＳＥ6920・ＳＫ6890・6914・6875・6905・6894・ＳＤ6870・Ｑ－39攪乱土坑） …… 13
10．　〃　出土遺物実測図（ＳＸ6900） …… 14
11．　〃　ＳＥ6920出土土師器杯径高比 …… 14
12．　〃　猿面硯実測図（１：２） …… 15
13．第100次調査　調査区位置図（１：2,000） …… 18
14．　〃　遺構実測図（１：200） …… 20
15．　〃　出土遺物実測図（包含層　他） …… 22
16．第101次調査　調査区位置図（１：2,000） …… 23
17．　〃　遺構実測図（１：200） …… 25
18．　〃　ＳＤ0081・0082・ＳＦ6983断面図（１：50） …… 26
19．　〃　土坑・中世墓実測図（１：40） …… 29
20．　〃　出土遺物実測図（ＳＫ6979） …… 29
21．　〃　出土遺物実測図（ＳＸ6975・6976・6977・ＳＤ6984・0081・ＳＦ6983・ＳＫ6973・包含層） …… 30
22．第103次調査　調査区位置図（１：2,000） …… 32
23．　〃　遺構実測図（１：200） …… 35

24. 第103次調査 出土遺物実測図（ＳＢ7045・ＳＫ7046・ＳＡ7000） …… 40
25. 〃 出土遺物実測図（ＳＫ7017） …… 41
26. 〃 出土遺物実測図（ＳＫ7017） …… 42
27. 〃 出土遺物実測図（ＳＫ7017） …… 43
28. 〃 出土遺物実測図（ＳＫ7030） …… 44
29. 〃 出土遺物実測図（ＳＫ7030） …… 45
30. 〃 出土遺物実測図（ＳＫ7030） …… 46
31. 〃 出土遺物実測図（ＳＫ7040） …… 47
32. 〃 出土遺物実測図（ＳＫ7040・7029・7052・7051・ＳＤ7014・7007） …… 48
33. 〃 ＳＫ7030・7040出土土師器杯径高比 …… 48
34. 〃 周辺主要遺構分布図（１：2,000） …… 51
35. 第104次調査 調査区位置図（１：2,000） …… 53
36. 〃 遺構実測図（１：200） …… 55
37. 〃 出土遺物実測図（ＳＥ7060） …… 57
38. 〃 出土遺物実測図（ＳＥ7060・7065・ＳＤ7063・包含層） …… 58
39. 〃 ＳＥ7060出土土師器杯径高比 …… 59
40. 斎宮跡地区表示 …… 84

写 真 図 版

巻頭 上：第99次調査区遠景（北から） 下：第103次調査区遠景（北西から）
1．第99次調査区全景（真上から）
2．上：調査区全景（北から） 下：調査区北東部（南から）
3．上：調査区南東部（北から） 下：ＳＢ0251（東から）
4．上：調査区北部（南から） 下：ＳＤ6919・ＳＢ6922（東から）
5．上：ＳＢ6918（南から） 下：ＳＢ6923（東から）
6．上：ＳＥ6920（東から） 下：ＳＸ6900検出状況（南から）
7．第100次調査区全景（真上から）
8．上：調査区全景（西から） 下：ＳＡ6940・6941～6943（東から）
9．第101次調査区全景（真上から）
10．上：第101次調査区全景（北から） 下：ＳＦ6983南端（西から）
11．上：ＳＦ6983（南から） 下：中世墓群（北から）
12．上：ＳＸ6975（南から） 下：ＳＸ6975遺物検出状況（東から）
13．上：ＳＸ6977（東から） 下：ＳＸ6976（南から）
14．第103次調査区全景（真上から）
15．上：調査区全景（西から） 下：調査区全景（北西から）
16．上：ＳＡ7000（東から） 下：調査区南東部（西から）
17．上：ＳＢ7024（北から） 下：ＳＢ7020（西から）
18．上：ＳＫ7017（東から） 下：ＳＫ7040（北から）
19．上：ＳＫ7030（東から） 下：ＳＫ7030遺物検出状況（北東から）
20．上：第104次調査区遠景（南から） 下：調査区遠景（東から）
21．上：調査区全景（南から） 下：ＳＤ7067（西から）
22．上：ＳＥ7060（東から） 下：ＳＤ7063（南から）
23．第99次調査 出土遺物
24．第100次調査 出土遺物
25．上：第101次調査 出土遺物 下：第104次調査 出土遺物
26．第103次調査 出土遺物

Ⅰ．　調査の経過と概要

年度末の３月30日まで調査現場の対応に追われた平成４年度が５年度と替わっても、心機一転する暇もなく本年度最初の計画調査は第99次調査として約740㎡を対象に、昨年に引き続いて近鉄斎宮駅の北側、内山地区で平成５年４月５日から開始した。当該地は方格地割のうち、斎王の森から南に延びる道路の西側に接し、南北４列を想定する区画の中央を東西に延びる道路との交差点に相当し、その詳細が明らかになることを期待した調査である。

調査の結果、掘立柱建物や近年その検出例が増える生垣、井戸等を検出したほか、区画道路の溝と思われる溝も検出されたが、交差点の詳細については充分に把握できなかった。

また、出土遺物については、これまでの斎宮跡でわずか３例目の資料である猿面硯が出土している。そのほか、大半が小片とはいえ緑釉陶器の出土が80点近くになる点は注目される。従来から斎宮駅周辺の地域ではその集中する傾向が知られていたが、斎宮跡全体の中での当該地域の位置づけを考察するうえで貴重な知見である。なお、これら調査結果は６月６日に行われた「斎王まつり」に併せ開催した現地説明会で600名余りの参加者を得て公開している。

続く第100次調査は、史跡西部の竹川字中垣内地内で約280㎡の調査区を設定し、平成５年７月８日から10月６日まで実施した。当該地域は斎宮成立期の飛鳥時代～奈良時代前期の遺構や遺物が比較的集中していることが知られており、その確認や例年の「体験発掘教室」をここで実施することを考慮して設定したものである。面積が狭く、これまであまり調査が進んでいないこともあって、重複する４条の柵列や８棟の掘立柱建物を検出したがその意義付けについては充分に明らかにすることはできなかった。

さらに、第100次調査とほぼ並行して平成５年７月19日から10月13日の期間で、斎宮字篠林で約540㎡を対象に第101次調査を実施した。昭和63年度以降５か年で上園地区で史跡整備の一環として芝生広場の造成を行い、遠足で史跡を訪れる児童や地域住民から好評を得ており、農道を隔ててその北側に隣接する当地区でその充実を図るべく検討していたところである。そこで、文化庁からの指導もあり事前に発掘調査を実施し、その成果も含めた整備とすることを意図したものである。調査の結果、方格地割の北西角から北にのびる平安時代中期以降の道路跡や中世墓等が検出された。そこで整備に当たってはとりあえず、道路跡に限って砂利広場として表示している。なお、毎年８月上旬に斎宮歴史博物館で受け入れている博物館実習では、学生諸君にここで斎宮跡の調査研究の片鱗を実体験してもらった。

次に、第103次調査は平成５年10月４日から、竹神社の近鉄線を隔てて北側の斎宮字柳原地内で約1,170㎡の調査区を設定して実施した。竹神社を含め、方格地割におけるこの一画は歴史的にも地域住民から長らくタブー視されてきた区域と考えられ、「斎宮」にとって重要な位

置を占めていた場所であることが想定されていた。調査の結果は、方格地割の交差点を検出したほか、大型の柱掘形を持つ柵列や掘立柱建物を検出し、極めて重要な一画であることは想像に難くないが、その核心部分は近鉄線路敷及びその南側の竹神社の境内地に広がるものと思われる。この調査では、当館が平成5年度及び6年度の2か年事業として進めている映像展示の更新ソフトの作成のための現地ロケーションを実施しているほか、平成5年12月12日には現地説明会を開催して約210名の見学者の参加を得、平成6年1月25日に調査を完了した。

本年度の計画調査はもう1か所、旧参宮街道沿いの集落の南側、斎宮字笛川で平成6年1月31日から3月25日まで約350㎡を対象に実施した。当該地は方格地割の南東隅に当たる区画の南辺中央に位置し、調査前には門等の存在も予想された。調査の結果はこれに類する遺構は検出されず、斎宮の南限を画する溝と平安時代前半の井戸1基等を検出したにすぎない。

その他、史跡現状変更に伴う事前の発掘調査を明和町教委が調査主体となり、斎宮歴史博物館が担当して第102-1～8次調査として8件実施した。その概要は別途明和町教委より刊行の予定であるが、昨年度の調査で検出された八脚門に取りつく柵列の延長部の検出をはじめ、史跡の保存にとって様々な問題を残しつつも、多くの成果を収めることとなった。　（吉水康夫）

調査次数	地区名	調査面積㎡	調査期間	地籍・地番	所有者	備考	区分
99	6ADN	740	H.5.4.5～H.5.7.13	明和町斎宮字内山3046-11 他	明和町他	計画発掘調査	1
100	6ABI-T	280	H.5.7.8～H.5.10.6	明和町竹川字中垣内423	沢恒一	計画発掘調査	3
101	6ADG	540	H.5.7.19～H.5.10.13	明和町斎宮字篠林3194 他	明和町	計画発掘調査	1
102-1	6ADS	60	H.5.4.9～H.5.4.23	明和町斎宮字木葉山119-5	澄野国雄	車庫の新築	3
102-2	6AED-J	90	H.5.6.16～H.5.7.26	明和町斎宮字楽殿2882-5 他	杉本雅之	住宅の新築	3
102-3	6AAQ	390	H.5.5.11～H.6.3.30	明和町竹川字花園663-1 他	中川速雄	盛土工事	3
102-4	6ACF-A	50	H.5.9.17～H.5.9.30	明和町竹川字東裏365-1	樋口泰弘	住宅の新築	3
102-5	6ABJ-D	260	H.5.10.12～H.5.11.25	明和町竹川字中垣内493-6 他	川口清一	店舗の新築	3
102-6	6AGN 他	270	H.5.12.16～H.6.1.25	明和町斎宮字鍛冶山 地内	明和町	側溝の改修	2
102-7	6ACG-E	250	H.6.2.2～H.6.3.17	明和町竹川字東裏318-1	川本正武	住宅の新築	3
102-8	6AEI 他	310	H.6.2.3～H.6.3.14	明和町斎宮字楽殿 地内	明和町	側溝の新設	1
103	6AEQ-A	1,170	H.5.10.4～H.6.1.25	明和町斎宮字柳原2779-3	吉田寿	計画発掘調査	1
104	6AGT	350	H.6.1.31～H.6.3.25	明和町斎宮字笛川1048-1 他	佐々木茂	計画発掘調査	3

第1表　平成5年度発掘調査地区一覧

Ⅱ．　第 99 次 調 査

6ＡＤＮ（内山地区）

1．はじめに

平成５年度第１回目の計画調査は第93次、第95次調査に引き続き、近鉄斎宮駅北側の地域で実施した。史跡東半の平安時代前半の方格地割は、昨年度の第96-5次調査で発見された八脚門ＳＢ6850と柵列ＳＡ6849によって南辺は最大で東西７列分の区画が想定できるようになった。

第99次調査は方格地割を構成する道路のうち、これまで少なくとも確実視されていた最も西側の道路である東から６本目の道路と、北から３本めの道路の交差点部分を調査し、この交差点からさらに西へ道路が延長するのかどうかを確かめ、さらに近鉄斎宮駅北側一帯で将来予想される史跡環境整備に資する情報を得ることを目的として４月５日から７月13日まで、740㎡を対象として実施した。

周辺の調査としては、先述の第93次、第95次調査が実施されてきており、Ｅ４°Ｎの方格地割の軸線に棟方向を揃えた平安時代初期の掘立柱建物ＳＢ0241・0242などや、平安時代前期まで遡る可能性のある生垣ＳＡ6645、それに並走する平安時代後期～末期のＳＤ0244やＳＤ6671など方格地割との関連を窺わせる遺構が多数見つかっている。その反面、平安時代前期から方格地割とは向きを異にする掘立柱建物もある。北方約100ｍの水田地で実施した第78次調査の検出建物は奈良時代古道に関わる溝に向きを揃える平安時代前期の掘立柱建物のみで、この一帯の土地利用の状況は複雑な様相を呈している。また、第95次調査で発見された延喜通寶を入

第２図　調査区位置図（１：2,000）

れた土師器壺を埋納する平安時代中期のＳＸ6666は墓坑等の可能性もあり、当地域の性格は依然不明瞭な部分が多いと言える。

調査区の現況は標高11.2m～11.5mほどの畑地で、北東に向かって緩やかに傾斜している。また、調査区の北側約５m先は0.9mほど落ち込んで水田となっており、土取りなどがあった可能性がある。遺構面は灰色系の耕作土と黒褐色壌土系の包含層を30cm～50cm掘削した下部の粘性の強い黄褐色土（地山）を遺構面として捉えた。遺構面は現地表面とはやや異なり、北西部で標高約11.2mと最も高く、南東で10.8m、北東部で10.7mと南東方向にも緩やかに傾斜している。

２．遺　構

遺構の分布は、調査区全体でも東部に溝が集中し、北部に径30cm～40cmを中心とする柱穴が極度に密集して検出された。遺構の時期は平安時代初期から鎌倉時代に至るまでのものがあるが、特に平安時代末期のものが量的に卓越している。

（１）平安時代初期の遺構

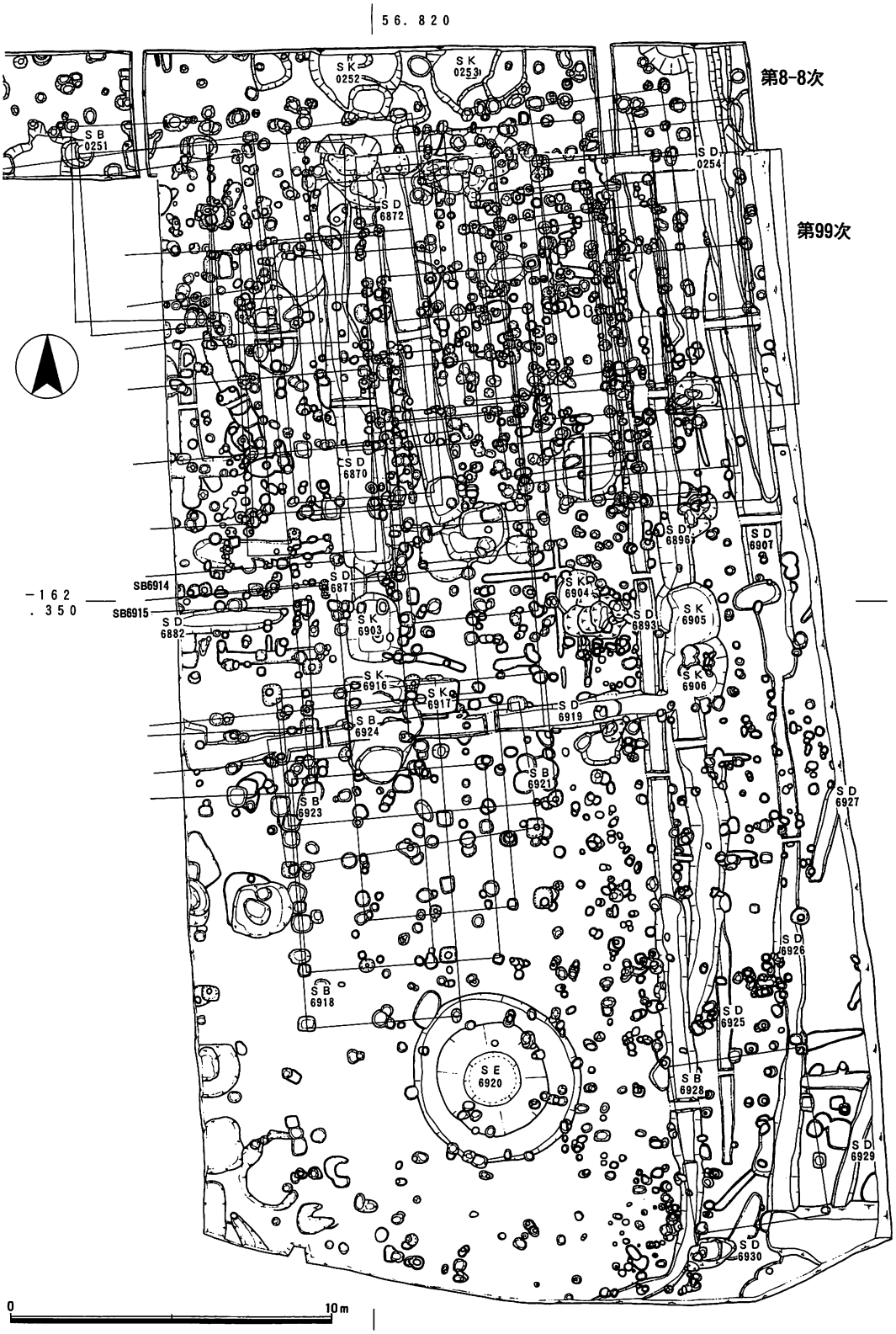
掘立柱建物１棟、土坑が２基ある。

掘立柱建物ＳＢ0251は第8-8次調査のＭトレンチにかかり確認されていたものだが、今回３間×２間の規模である事が確定した。柱掘形は一辺１m弱と比較的大型に関わらず、柱間寸法は桁行、梁間とも1.9mと狭い。棟方向はＮ４°Ｗと、方格地割と同一である。

土坑はＳＫ6903とＳＫ6916がある。ＳＫ6903は、長径約2.2m、深さ約20cmの隅丸方形の土坑

		遺構の種別					
		ＳＡ	ＳＢ	ＳＤ	ＳＥ	ＳＫ	ＳＸ
平安時代	初期		0251			6903 6916	
	前期		6915		6920	6917	
	中期		6918 6922				6900
	後期		6914 6921 6923 6924				
	末期	6863	6860 6861 6862 6864 6865 6866 6867 6868 6869 6873 6874 6875 6878 6879 6883 6884 6885 6886 6887 6888 6889 6890 6891 6892 6897 6898 6899 6908 6909 6910 6911 6912 6913 6931	0254 6871 6872 6879 6880 6881 6882 6893 6896 6907 6919 6925 6926 6927 6929 6930 6931		6876 6877 6899 6894 6895 6904 6905 6906	
鎌倉時代				6870			
時期不明			6928			6901 6902	

第２表　時期別遺構分類表



第3図　遺構実測図（1：200）

で、杯・皿・壺・鉢・甕・甑といった土師器類、杯・蓋・甕といった須恵器類が出土している。ＳＫ6916はＳＫ6903の南約0.5ｍで隣接する3.0ｍ×2.2ｍ、深さ約30㎝の長方形土坑で、土師器杯・皿・甕、須恵器蓋・甕、灰釉陶器椀や鉄滓が出土した。

（２）平安時代前期の遺構

掘立柱建物ＳＢ6915と井戸ＳＥ6920、土坑ＳＫ6917がある。

調査区西端中央で検出されたＳＢ6915は、西辺は調査区外に延びて全容は窺い知れないが、約2.4ｍ間の桁行が３間、1.9ｍ間の梁行２間の東西棟の南側に、約2.0ｍの出の庇が付くものとみられる。棟方向もＥ４°Ｎに近く、依然方格地割の規制が残っている。柱穴から平安時代前Ⅱ期の新段階の遺物が出土しており、９世紀後葉の建物と考えられる。

ＳＥ6920は、遺構の分布の薄い調査区の南半で検出された。遺構面での検出段階では直径約5.2ｍの円形で、約30㎝ほど掘削した段階で幅の広い肩部をもって、直径3.2ｍの井戸掘形になる。遺構面から約２ｍの深さまで砂質を多量に含んだ黒色土に平安時代前Ⅱ期新段階の土器片が多量に包含されている。灰釉陶器では黒笹90号窯式期～折戸53号窯式期までのものがみられる。最終的な埋没は10世紀前葉であろう。深さ約４ｍまでは比較的遺物の少ない埋土層が続き、約５ｍ前後でオリーブ黒色砂質層から黒色シルト質壌土層になり、僅かな土器片が出土したが、期待された有機質の遺物は発見できなかった。遺構面下約5.6ｍの井戸底の上部層からは土師器壺の底部とみられるものが出土し、深さ4.5ｍ程では前Ⅰ期に属する土師器片も包含されており、掘削時期は前期以前に遡る可能性がある。なお、ＳＥ6920は方格地割がここより西に拡がるとみた際に、東方からの東西道路（北から３番目の道路）の北側溝が延長してくると予想された部分だったが、この部分で平安時代前期の井戸が検出された事は、方格地割の道路の復元という点で問題を残したと言える。

土坑ＳＫ6917は初期のＳＫ6916の東に隣接する1.4ｍ×1.1ｍ、深さ約20㎝の方形土坑で、前Ⅱ期の新段階に相当する土師器杯・鉢・甕、須恵器片が出土している。

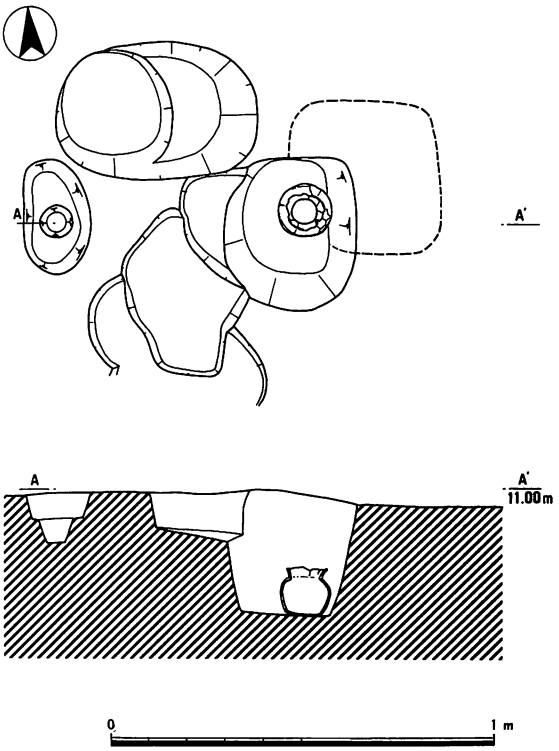
（３）平安時代中期の遺構

掘立柱建物２棟、不明土坑１基がある。

ＳＢ6918は今回の調査区では最大の建物で、桁行10.5ｍ、梁行4.8ｍの５間×２間の南北棟で、柱穴埋土から折戸53号窯式期の灰釉陶器椀が出土している。ＳＢ6922は４間×２間の東西棟だが、ＳＢ6918が方格地割と棟方向を揃えるのに対し、ＳＢ6922はＥ９°Ｎと異なった傾向を示す。

ＳＸ6900は40㎝×36㎝、深さ約35㎝の柱穴状の小土坑で、底部に土師器壺を正置し、その上部に土師器杯５枚以上が埋納されていた。壺内部には「延喜通寶」約９枚と骨片の可能性のある白色物が底部に見られ、その上に焼成されない径約３㎝の白色粘土玉２個が入っていた。第

95次調査で検出されたＳＸ6666とほぼ同一の内容を持ち、土器の形式からもほぼ同時期のものである。斎宮の平安時代中期に位置づけられてきた土師器類に、10世紀前葉（907年初鋳）の絶対年代を付与する資料が再度補強されたと言える。遺構の性格については、墓の可能性がまず考えられるが、胞衣壺や地鎮に関わる祭祀遺構の可能性も残されている。



第４図　ＳＸ6900実測図（１：20）

（４）平安時代後期の遺構

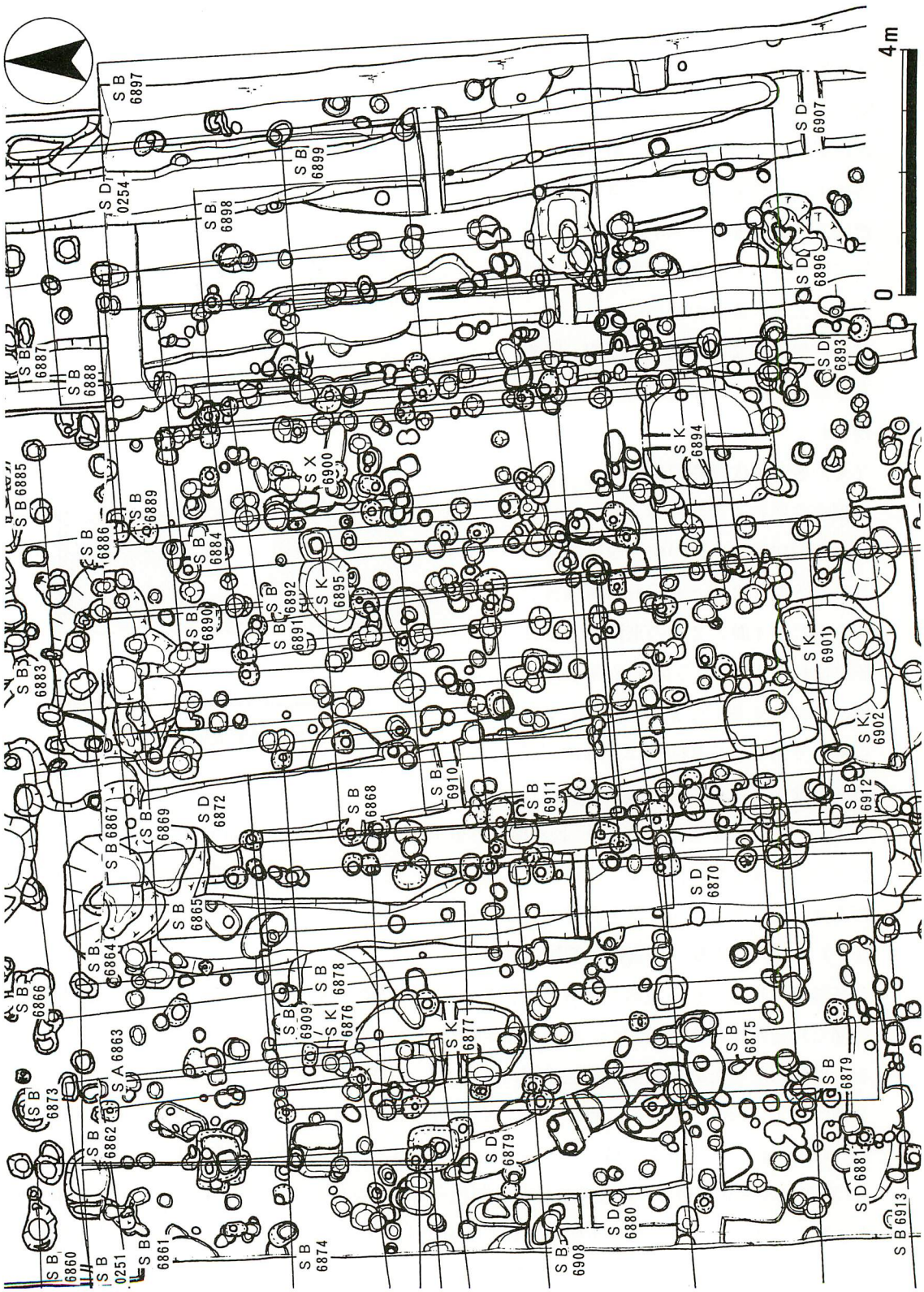
掘立柱建物４棟がある。

ＳＢ6914は調査区の中央西端で検出された５間×２間とみられる東西棟、ＳＢ6921は４間×２間の東西棟、ＳＢ6923は柱間2.0ｍの３間×２間の南北棟の身舎の東側に2.1ｍの出の庇が付くものである。ＳＢ6924は３間×２間の南北棟である。これらの棟方向はＮ４°Ｗ～Ｎ５°Ｗあるいは、Ｅ５°Ｎと概ね方格地割の棟方向に沿うものである。柱穴埋土にはＳＢ6923に後Ⅰ期～後Ⅱ期、ＳＢ6921とＳＢ6924に後Ⅱ期、ＳＢ6914に後Ⅱ期～末期にかけての遺物が包含されており、それぞれ若干の時期差が認められる。

（５）平安時代末期～鎌倉時代初頭の遺構

当該期に比定される遺構が最も多く、掘立柱建物33棟、柵列１条、溝17条、土坑７基がある。

掘立柱建物は柱穴の径が30㎝前後の小規模なものが大半で、４間×２間の南北棟が中心になる。煩雑になるために個々の記述は避けるが、タイプ別に分類すると、棟方向ではＮ１°Ｗが２棟、Ｎ２°Ｗが１棟、Ｎ３°Ｗが２棟、Ｎ４°Ｗが５棟、Ｎ５°ＷあるいはＥ５°Ｎが13棟、Ｎ６°Ｗが３棟、Ｎ７°Ｗが５棟、Ｎ８°Ｗが２棟で、すべて調査区北半に集中し、Ｎ４°ＷとＮ５°Ｗが約60％を占める。建物規模は最大規模の５間×２間のものが１棟、４間×２間のものが26棟、３間×２間が３棟、不明が３棟で79％が４間×２間のものである事が分かる。柱間寸法は1.9ｍ～2.2ｍで、梁・桁の間にも統一性は認められない。建物の重複関係は詳細に全てを確認しきれないが、調査区北半の西側と東側でそれぞれ４～５群ほどが３～４回ほど建て替え



第５図　調査区北部遺構実測図（１：100）

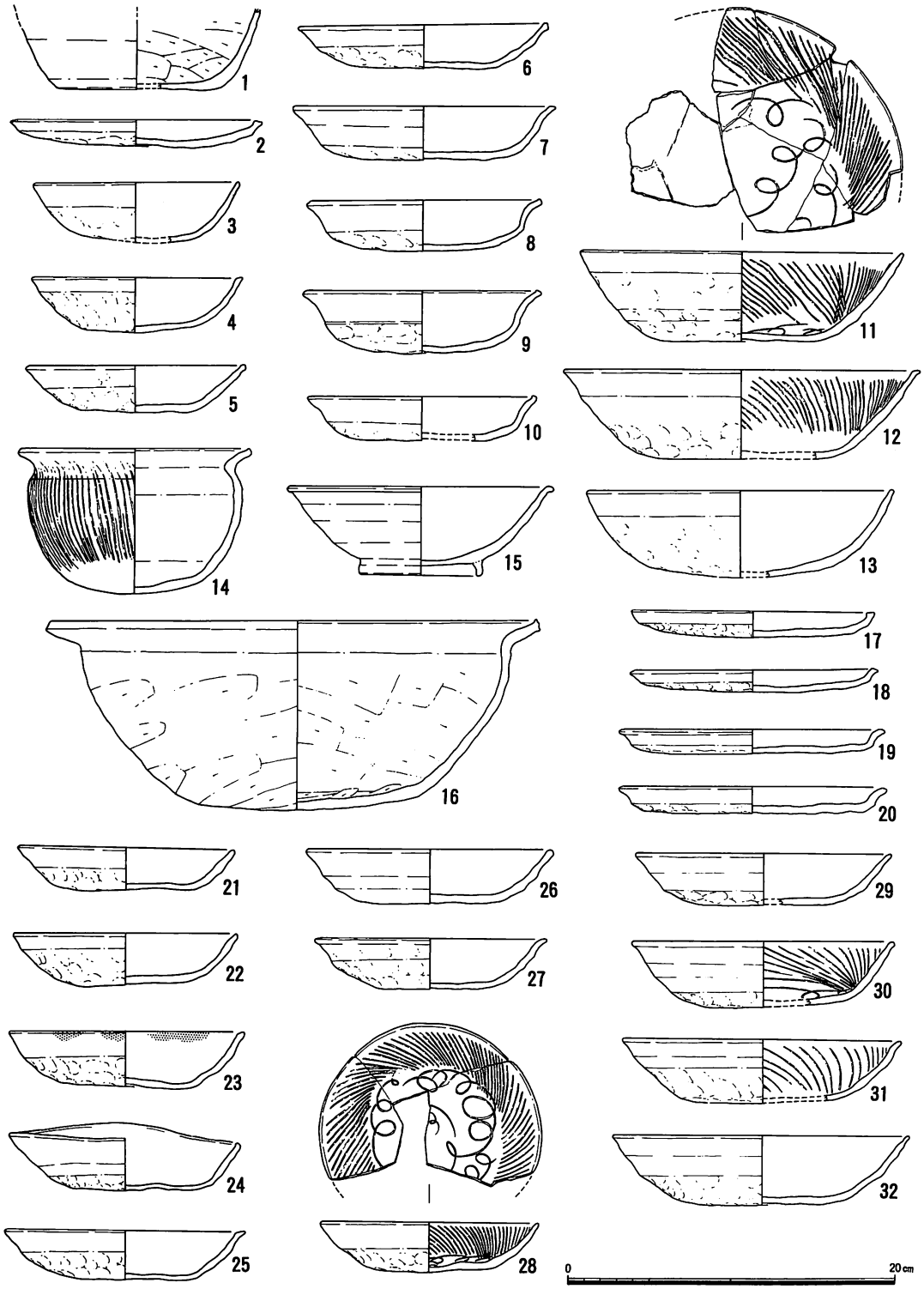
られているものと考えられる（例えば、ＳＢ6890・ＳＢ6891・ＳＢ6892やＳＢ6884・ＳＢ6885・ＳＢ6886・ＳＢ6889の関係など）。斎宮の土器編年観で平安時代末期を概ね12世紀代と捉えているので、単純にみると１軒あたり20年程度までの時間幅が想定できる。

次に溝についてみると、多くは調査区東部を縦断する南北溝と調査区西北の長さ10ｍ強の南北溝、調査区中央部を東西に横断する溝がある。調査区東部の南北溝は、Ｎ４°Ｗの方向を取り、今回の調査で検出が期待された方格地割に関わる南北道路の西側溝になるとみられるもので、ＳＤ0254・ＳＤ6893・ＳＤ6896・ＳＤ6907・ＳＤ6925・ＳＤ6926がある。この中で重複関係上最も古いとみられるものは最も西側のＳＤ6893で、幅0.3ｍ～0.5ｍの断面Ｕ字形の溝が南に向かって広がりながら続き、調査区南端で再度収束して西南西に折れていく。溝底部の標高は10.7ｍ～10.8ｍで高低差はほとんどない。埋土はやや粘性を持つ黒色土で土師器杯・皿・高杯・甕、土錘、須恵器蓋・甕片の他、ロクロ土師器椀・杯や山茶椀が出土している。土師器類については、奈良時代の皿や平安時代前Ⅱ期の杯・甕が多数混入しており、平安時代末期とみられる土器類も古相のものである点から、ＳＤ6893は少なくとも11世紀代以前には掘削年代が、11世紀末葉～12世紀初頭に埋没年代が想定できる。このＳＤ6893が調査区南端で西に屈曲する点は、その大部分が調査区外になるため明言できないが、この付近が東西道路と南北道路の交差点であった可能性を示唆していると言えよう。他の当該期の溝にこうした明確な屈曲部分は認められないものの、ＳＤ6896は調査区南部で西にカーブしている様子が窺われ、ＳＤ6927・ＳＤ6929・ＳＤ6930はＮ15°Ｅほどでこれに向きを揃えている。これらの溝も12世紀末葉までこの部分に道路が曲がる地点＝交差点が存した可能性を示している。他の南北溝も、この道路側溝が道路の幅や位置を僅かずつずらしながら数次にわたって掘削されたものとみられる。次に調査区西北部の溝をみると、南北溝ではＳＤ6872がＮ12°Ｗと他の遺構とやや向きを違えるが、ＳＤ6870はＮ６°Ｗで一部の掘立柱建物と揃っている。また、東西溝ＳＤ6919は幅90㎝、深さ35㎝ほどの断面逆台形状の溝で、Ｅ６°Ｎの方向をとってＳＤ6896に接続する。こうした溝は掘立柱建物群に伴う区画溝であると考えられる。なお、ＳＤ6870からは常滑産の山茶椀が出土しており、13世紀初頭まで継続する可能性がある。

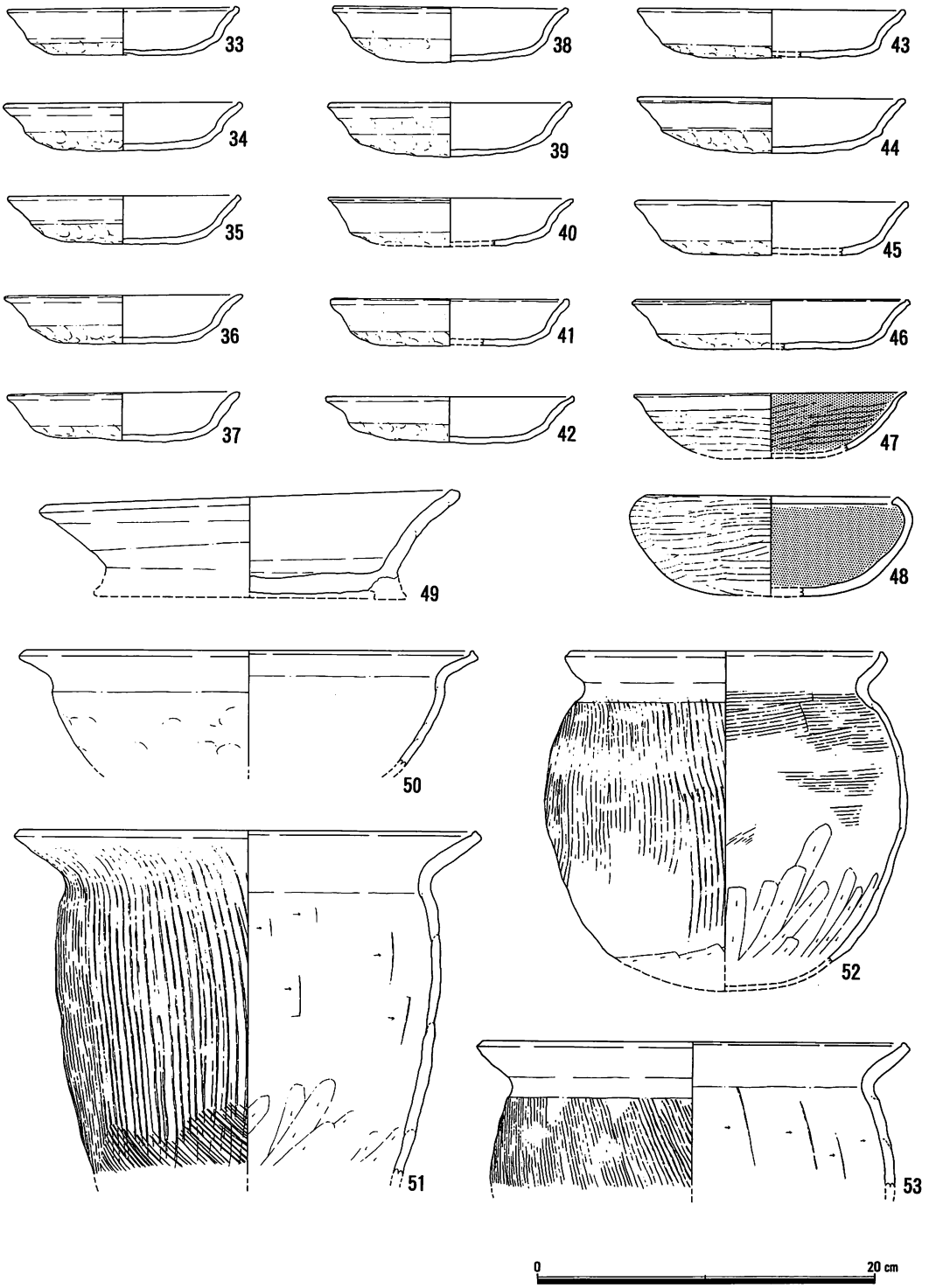
土坑も調査区北半に集まっており、楕円形ないし不整円形を呈する。ＳＫ6876からは灰釉陶器椀を模倣したロクロ土師器椀が、ＳＫ6905からは「て」の字口縁の土師器皿が出土している点が注目されるが、この他にもこれらの土坑からは土師器杯・皿・甕片、ロクロ土師器杯類、山茶椀が出土している。

３．遺　物

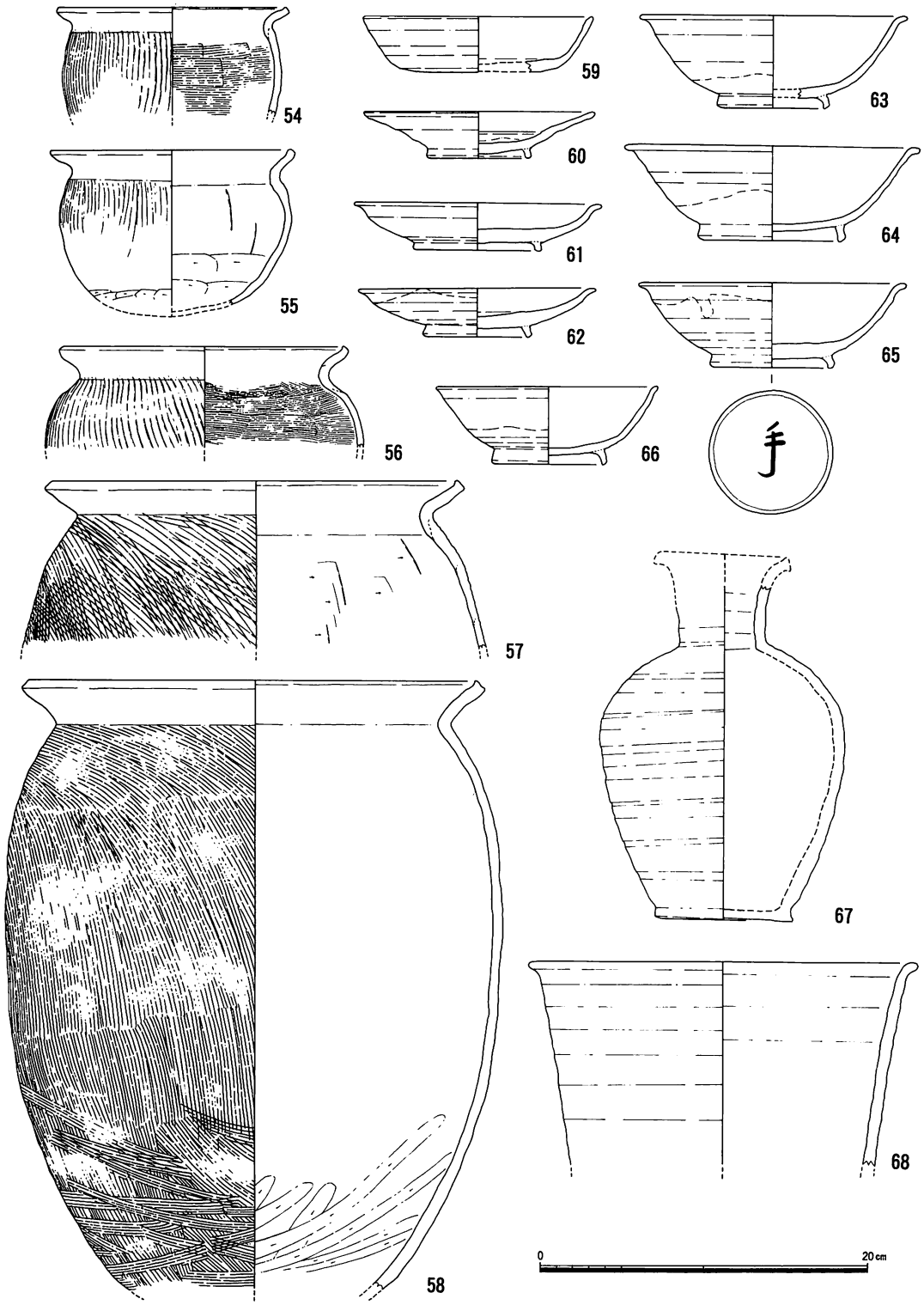
奈良時代から鎌倉時代にかけての土器類を中心に整理箱で72箱の遺物が出土している。この中でも最も多量の遺物を出土した平安時代前Ⅱ期の井戸ＳＥ6920出土の主として土器類を中心



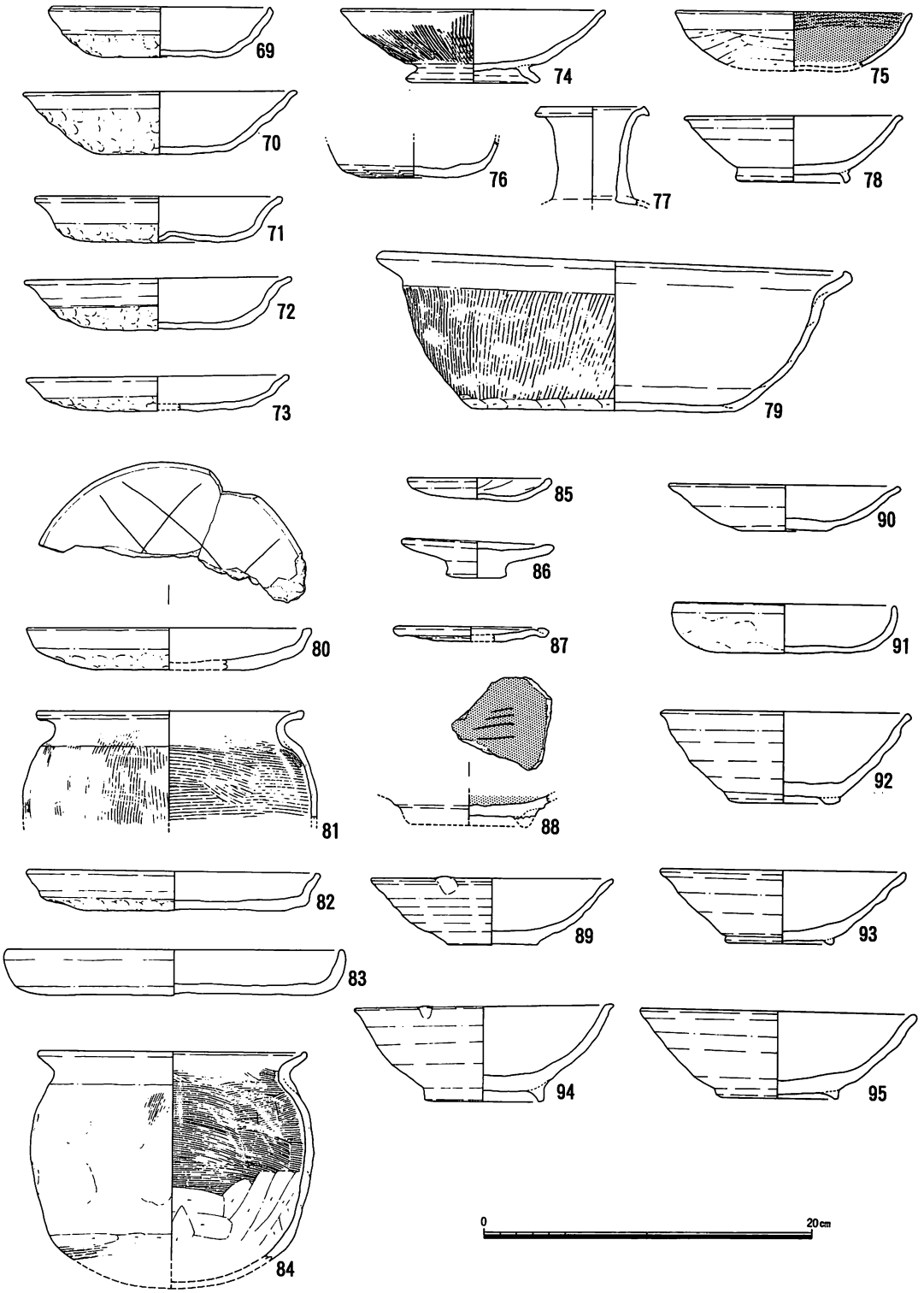
第6図　出土遺物実測図　ＳＥ6920



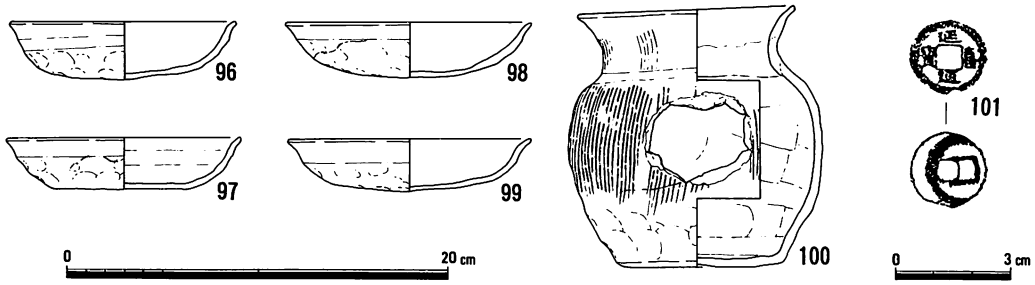
第７図　出土遺物実測図　ＳＥ6920



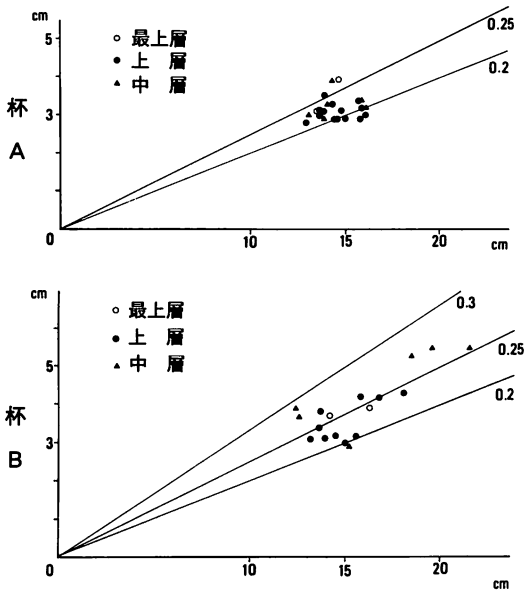
第８図　出土遺物実測図　ＳＥ6920



第9図　出土遺物実測図　ＳＥ6920：69～79，ＳＫ6890：80･81，ＳＫ6914：82～84，ＳＫ6875：85・86，ＳＫ6905：87・88，ＳＤ6870：89，ＳＫ6894：90，ＳＤ6870：91～93・95，Q-39攪乱土坑：94



第10図　出土遺物実測図　ＳＸ6900　96～100（１：４），101（１：２）



第11図　ＳＥ6920出土土師器杯径高比

器　種		破片数	器種別比率(%)	類別比率(%)
土師器	杯･皿･高杯類	1167	44.28	92.93
	壺・鉢類	81	3.07	
	甕･瓶･竈類	1137	43.16	
	製塩土器	63	2.39	
	土　錘	1	0.03	
黒色土器	杯　類	14	0.53	0.53
須恵器	杯･蓋･高杯類	13	3.04	3.53
	壺・甕類	80	0.49	
灰釉陶器	椀・皿類	61	2.32	2.93
	壺・瓶類	16	0.61	
緑釉陶器	椀　類	2	0.08	0.08
総　計		2635	100.00	100.00

第３表　ＳＥ6920出土土器構成

に報告したい。

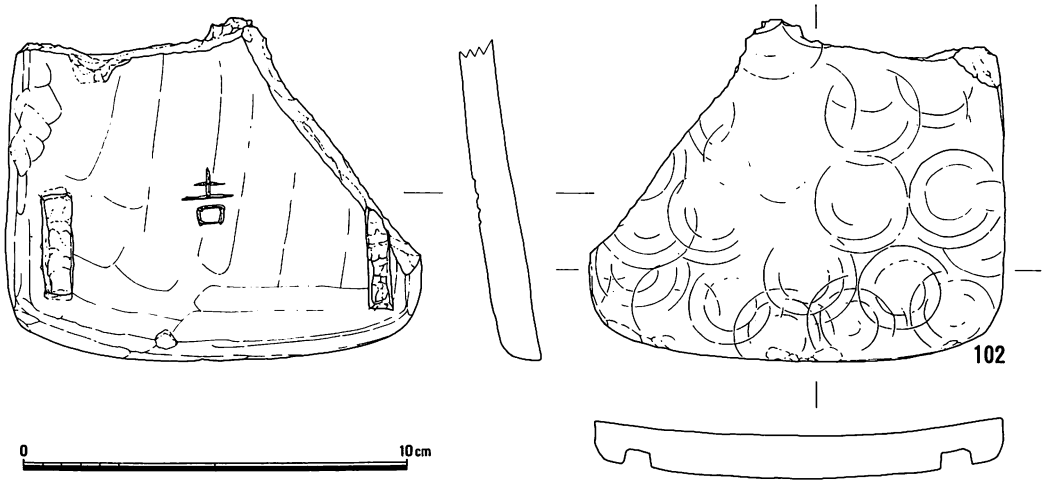
ＳＥ6920から出土した遺物の量は土器類で整理箱22箱になるが、破片数をもとに種別の出土量をみたのが第３表である。土師器の比率が90％を越えるのは斎宮における一般的傾向といえる。また、土師器の中でも供膳形態と煮沸形態がほぼ同率となっている。黒色土器類約0.5％、須恵器類が3.5％、灰釉陶器約3.0％の他に製塩土器が約2.4％含まれている点が留意される。出土遺物は遺構検出面から約30cm下の肩部までを最上層（69～79）、遺構埋土上部のうち遺構面から1.4ｍまでの上層（２～68）、1.4ｍ～2.0ｍまでの中層、深さ５ｍ付近の黒色砂壌土の下層（１）に分けた。このうち土師器杯類を口径と器高でみた分布図が第11図である。杯類で口縁が外方に屈曲してのびるものを杯Ａ類、口縁部が内弯するものを杯Ｂ類としたが、中層では杯Ａは口径13.5cm前後の中型品と16cm前後の大型品に分離できる。杯Ｂも口径20cm前後を越える

ような大型品、15cm程度の中型品、12cm～13cmの小型品に分離できる。上層では、杯Ａは口径13cm～16cmの間にまんべんなく分布し、大中小の区別がやや困難になる。杯Ｂでも大型品が欠失するとともに、やはりサイズの区別が難しくなる。最上層の資料も量的に少なく混入の危険性もあるが、この傾向が進んでいると見ることができるだろう。暗文は杯Ｂの中型品以上に放射状暗文や螺旋状暗文が施されるが、再上層では認められない。共伴する灰釉陶器は中層では黒笹90号窯式期の新段階の椀が、中層以上はこれに折戸53号窯式期の椀・皿類が加わる。

次にＳＸ6900の遺物についてみてみる。土師器杯５個以上、平底の土師器壺１個が小土坑に納められる。壺は胴部に径５cmほどの穿孔があり、内部には銅銭が９枚以上納められる。これらは腐蝕が進んでいるが数枚は「延喜通寶」と判読された。ここまでの内容については第95次調査のＳＸ6666と全く同様であり、土師器杯は同形式、同一のサイズである。先述したように木簡などの紀年銘資料が全く出土していない斎宮では土師器類に絶対年代の一点を付与する上で貴重な資料である。なお、壺内部に今回は未焼成の白色の粘土玉が２個入っていたが、内部の状態などは今後の非破壊検査に委ねたい。

その他特筆すべき遺物としては、須恵器猿面硯（102）がある。およそ１／２を欠失するが、硯面にはスタンプの同心円によって青海波文を表現し、ケズリ調整によって平滑にされる背面には木製の脚が挿入されたとみられる臍穴が刀子状の工具で開けられる。また、背面の中央には「吉」の文字を線刻する。側縁部までていねいにケズリ調整され、木枠等に装着されていたものとは考えられない。猿面硯の出土例としては斎宮では３例目である。

墨書土器は３点あるが、鮮明なのは（65）の灰釉陶器椀で「手」と判読できる。（87）は所謂「て」の字口縁の土師器皿で、斎宮では僅かながら12世紀代まで散見される。胎土は精良だが、京都産のものとは考えられない。黒色土器（88）はロクロ成形の椀で、内面のみ黒化処理され



第12図　猿面硯実測図（１：２）

る。これまでロクロ成形のものは報告されておらず、斎宮では初出であろう。近江産の搬入品だろうか。(89) は須恵器の杯で、底部は糸切り痕が残る。口縁部には輪花表現が認められる。産地は今のところ不明である。緑釉陶器は79片出土しており、近江産、猿投産のものが多く、史跡中央部一帯の一般的傾向を示していると言える。また、明示していないが、調査区北半の各地から鉄滓が出土しており、フイゴの羽口も出土している。焼土などは未検出ながら鍛冶工房に関わる遺構が周辺に存在していたものと考えられる。

4．まとめ

今回の第99次調査は、昨年度の八脚門ＳＢ6850の発見をうけて、方格地割の区画道路の交差点を確認する事で、方格地割の西方への広がりを探索する事を最大の目的として実施した。その結果、平安時代末期を主とする多数の南北道路の西側側溝は検出する事ができたが、御館・柳原地区から伸びてくると予想された道路側溝の想定部分で、平安時代前期の井戸が発見され、東西方向の溝も明確にする事ができなかった。しかしながら、この南北道路側溝のいくつかは西へ屈曲あるいはカーブする様子がうかがわれ、調査区の東南端から調査区外にかけて、当初予想されたよりも幅員の狭い道路がこの部分を巡っていたという想定ができ、また大半が平安時代末期に属するとはいえ、平安時代初期から多少の振れはあっても概ねＮ４°Ｗを基調とした軸線を持つ遺構が多い。第93次調査や第95次調査の成果と同様、土地利用の上でこの一帯に方格地割の規制が生きており、なおかつ今回の調査地では平安時代末期まで紆余曲折しながらも南北道路が存続し、現在の「斎王の森」の前から伸びてくる町道に引き継がれているものとみられる。以上の点は、方格地割が上園地区や内山地区にかけてさらに広がっていた可能性に対するささやかながら傍証となるものと考えられる。

ＳＸ6900出土の遺物は、第95次調査のＳＸ6666と並び、10世紀前葉の実年代観を付与する点で斎宮の土師器編年に寄与するものは極めて大きいと言える。しかし、遺構そのものの性格は依然不明のままで、史跡斎宮内における当地域の意味付けの上での大きな問題は残されたままである。壺の内容物の分析など別の機会に譲る点もまた大きい。

調査区北半に密集して検出された平安時代末期を中心とする掘立柱建物群は、第95次調査の東南端で同様の遺構密度を持った部分が見つかっているが、これまでの斎宮跡の発掘調査ではこれほど平安時代末期の遺構が集中して検出された例は少ない。かねがね史跡中央部一帯には平安時代後半から鎌倉時代にかけての遺構・遺物が卓越する点が指摘されてきている。今回の調査データのみでは、残念ながらこの地域の正当な評価には及ばなかったが、平安時代前半の方格地割の構造と内容の解明とともに、斎王制度終焉のこの時代の様相もまた古代史研究あるいは中世史研究の上での重要課題と言えよう。今後の再検討の機会に期したい。（大川勝宏）

Ⅳ.　第 100 次 調 査

6ＡＢＩ－Ｔ（中垣内地区）

1．はじめに

第100次調査は、本年度第２回目の計画調査として平成５年７月８日から10月６日にかけて実施した。調査地は史跡西部の台地縁辺部にあたる大字竹川字中垣内423番地に所在し、斎宮歴史博物館の南方約500ｍ、近鉄山田線北側の現況畑地に立地する。西側の段丘低位面は祓川の沖積地で現況水田地帯となる。調査区は東西24ｍ×南北12ｍを設定し、面積は280㎡である。

史跡西部の古里・中垣内地区はかつて古里遺跡と呼ばれ、斎宮跡発見の端緒となった地域であるが、これまでの調査成果から飛鳥時代～奈良時代と平安時代末期～鎌倉時代を中心とする遺構分布が顕著であり、弥生時代の遺構・遺物の存在も知られる地域である。

調査区周辺では、計画調査として昭和55年度第30次調査、昭和56年度第36次調査が行われ、飛鳥時代～奈良時代を中心とする竪穴住居・掘立柱建物等の遺構や三彩陶器・円面硯等の遺物が発見され、当該時期の斎宮跡を考える上では貴重な資料を得ている。また、昨年度実施した第97次調査では所謂鎌倉時代大溝と重複すると考えられた奈良時代大溝が現在山林となっている旧竹神社・小倉神社跡地内に延びていくことが確認された。

近年この地域では現状変更に伴う事前調査として小規模な調査が数箇所で実施されているにすぎないが、調査区の西隣、平成２年度第85-8次調査では飛鳥時代の柵列ＳＡ6280やそれに伴う掘立柱建物ＳＢ6279が検出されている。また、線路を挟んで南側でも昭和60年度の第58-6次調査において飛鳥時代の柵列ＳＡ4281・4282が確認されている。

今回の調査は、斎宮跡の成立期及び終末期を考える上でこれまで面的な調査が充分とは言えない状況であった当該地域の遺構・遺物の実態を解明するための資料を蓄積することを主たる目的とした。

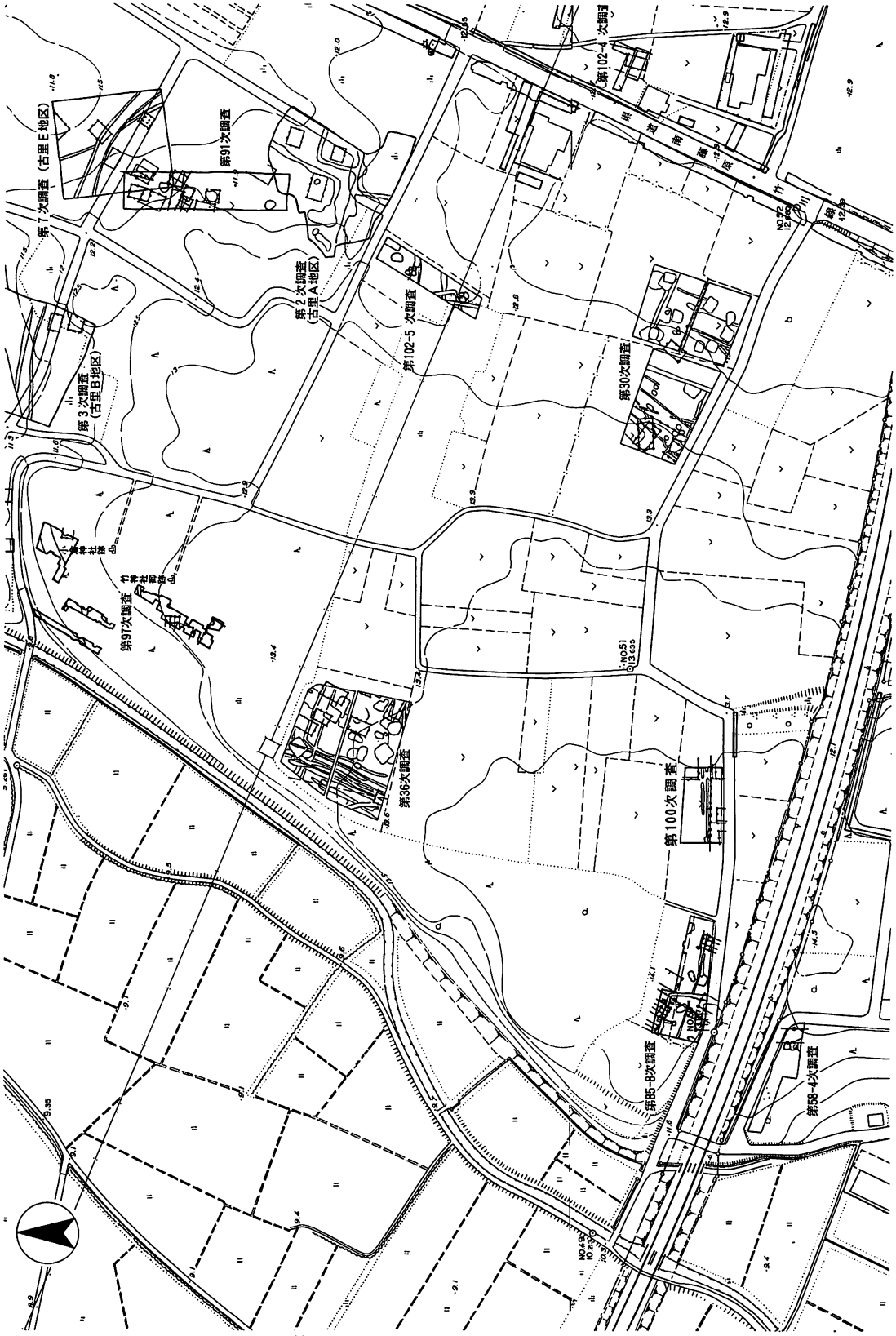
2．遺　構

遺構検出面（地山）は現況表土面から60㎝～80㎝下で検出したが、調査区東辺で標高13.4ｍ、西辺で13.6ｍと西から東に向けてやや傾斜している。基本層序としては上層より表土（褐灰色土）、遺物包含層（黒褐色土）、地山（黄橙色土）である。

主な遺構としては、柵列４条、掘立柱建物８棟、溝４条、土坑14基がある。東西溝を境として南半に柵列・掘立柱建物等の柱穴が密集し、北半には土坑が疎らに見られる。

（１）弥生時代の遺構

土坑ＳＫ6944～6946がある。ＳＫ6944は深さ約20㎝、直径約1.4ｍの円形土坑で南半分を検出した。ＳＫ6945は2.8ｍ×2.6ｍの不整円形、深さは約60㎝である。ＳＫ6946は深さ約30㎝で1.6



第13図　調査区位置図（1：2,000）

m×1.0mの隅丸長方形を呈する。埋土からはいずれも弥生土器小片が出土した。

（2）奈良時代前期の遺構

柵列4条、掘立柱建物8棟、溝4条がある。柵列ＳＡ6940～6943は調査区南部、東西方向でほぼ一直線上に重複しながら柱穴が並んでおり、柱列の方位はいずれもＥ0°Ｗを示す。

柵列ＳＡ6940の柱間はほぼ2.1m等間であり、東西方向で10間分を検出した。柱掘形は重複のため不明瞭だが、柱穴の直径は20cm～40cm、深さは40cm前後を測る。ＳＡ6941の柱間は2.0m～2.2mとやや一定でなく9間分を検出したが、東端で検出した柱穴から南折する可能性をもつ。

柵列ＳＡ6942は柱間2.4m等間でＳＡ6940と重複して9間分確認した。ＳＡ6940・6942は調査区外の東西に延びるものと考えるが、ＳＡ6943は調査区の中央付近で終わっており、しかも北あるいは南に延びる柱穴は見られず柵列とした。柱間は2.7m等間で4間分を確認し、柱穴は直径約30cmで深さ40cm前後を測る。これらの柵列は出土した遺物が細片のため包含層・遺構上面で奈良時代前期の土器が比較的多いことを根拠に時期決定をした。なお、新旧関係は柱穴の切り合いより古い方からＳＡ6940→ＳＡ6941→ＳＡ6942→ＳＡ6943と考えられる。

調査区南部で掘立柱建物ＳＢ6950～6955、北東部でＳＢ6956・6957を検出したが、桁行や梁行の総長が確認できないためその規模全体は不明である。また、柱穴からの出土遺物があまりに細片であるため詳細な時期決定は難しいが、棟方向はいずれも柵列に対してほぼ並行あるいは直交し、柵列と重複するＳＢ6951・6954を除くと同時期の可能性をもつ。

掘立柱建物ＳＢ6950は柱掘形が一辺約60cmの方形を呈し、深さ約60cm、柱痕跡は直径約25cmを測る。柱間は2.4mで東西1間分を検出したが、対応する柱列を確認できなかった。ＳＢ6951は桁行2間以上×梁行1間以上の東西棟と思われ柱間は2.1m等間、桁行の柱列は柵列ＳＡ6941と重複する。

	遺構の種別			
	ＳＡ	ＳＢ	ＳＤ	ＳＫ
弥生時代				6944 6945 6946
奈良時代前期	6940 6941 6942 6943	6950 6951 6952 6953 6954 6955 6956 6957	6960 6961 6962 6963	
平安時代後期				6949
時期不明				6947 6948 6958 6959 6964 6965 6966 6967 6968 6969

第4表　時期別遺構分類表

ＳＢ6952・6953は南北棟と考えられ、梁行２間分を検出し、柱間隔はそれぞれ2.1ｍ、2.3ｍを測る。ＳＢ6954は柱間2.1ｍ等間で東西１間×南北１間を確認したが、柱掘形は一辺約50cmの方形で柱痕跡は直径約20cm、深さ約30cmを測る。ＳＢ6955は柱間2.1ｍで東西１間分を検出した。柱掘形は一辺約60cmの方形で柱痕跡は直径約20cm、深さは45cm程である。ＳＢ6956・6957は東西１間以上×南北１間以上を検出したが、柱間はそれぞれ2.1ｍ、2.7ｍである。

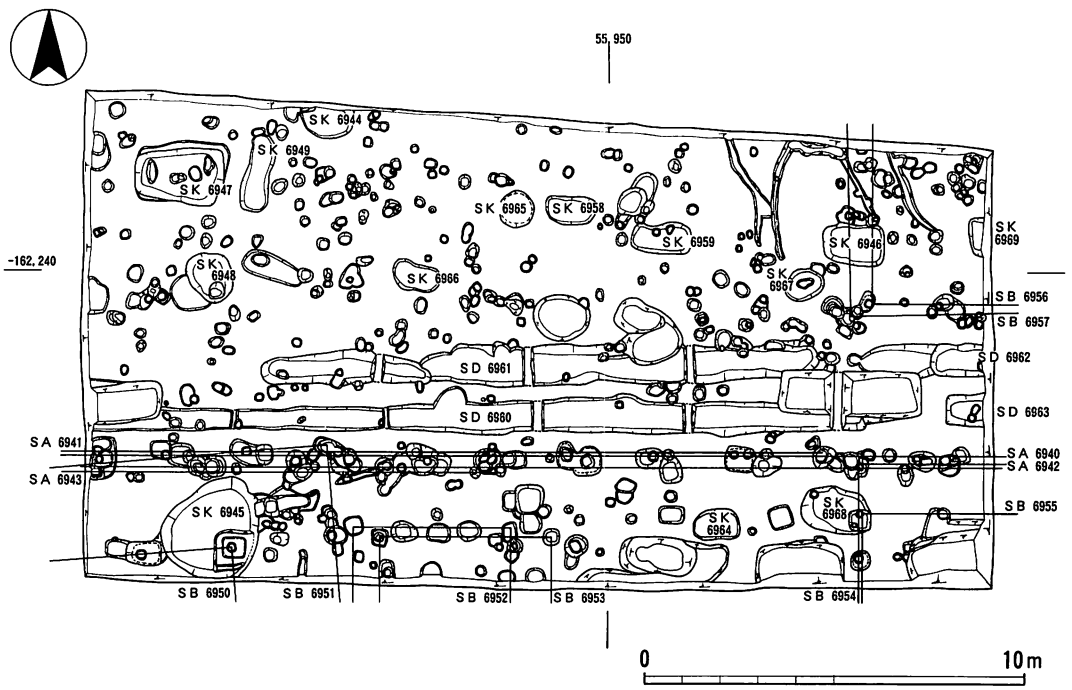
溝ＳＤ6960～6963は調査区中央で検出した東西溝で柵列ＳＡ6940の北側に位置し、幅50cm～80cm、深さ10cm～30cmを測る。ＳＤ6960は確認長20.5ｍ、東へ約２ｍの間隔をおいてＳＤ6993が続く。ＳＤ6961・6962はＳＤ6960のさらに北側約1.2ｍで並行し、確認総長はそれぞれ14.8ｍ、3.2ｍである。出土遺物は少ないが、柵列と並行することから同時期の可能性がある。

（４）平安時代後期の遺構

土坑ＳＫ6949は、2.0ｍ×0.7ｍ、深さ約30cmの南北に長い楕円形土坑で、土師器杯がほぼ完形で出土した。

（５）時期不明の遺構

土坑ＳＫ6947・6948・6958・6959・6964～6969がある。遺物としては弥生土器や奈良時代、平安時代末期～鎌倉時代の土師器及び山茶椀の細片が混在するなど時期決定が難しいものである。ＳＫ6965は完掘できなかったが、深さ1.5ｍ以上、直径１ｍの素掘りの井戸と考えられる。ＳＫ6967は直径１ｍの不定円形で深さ40cmを測り、埋土には木炭片が多量に含まれていた。



第14図　遺構実測図（１：200）

3．遺　物

第100次調査での出土遺物は遺物整理箱にして42箱あるが、遺構に伴うものは少なく大半が包含層からの出土で完形品は皆無に等しい。弥生時代の土器としては、前期から中期の壺・甕破片が少量出土しているが、前期後半（１～12）と中期前葉（13～17）のものがある。飛鳥時代の遺物では、須恵器杯（18）と古相と考える土師器椀（19）がある。奈良時代前期に比定する土器（20～24）は出土遺物の中心となり、ｂ手法による調整の土師器皿（21）・杯（22）がある。ＳＤ6960出土の杯Ｂ（23）は、口縁端部をヨコナデし、体部外面をヘラミガキ、内面は放射状と螺旋状２段の暗文を施したものである。また、平安時代初期から前期とみられる土師器（25～28）や平安時代後期の土師器杯（29・30）や灰釉陶器皿（31）が出土している。平安時代末期としては、山茶椀（32）、土師器皿（33）がある。特殊な遺物としては、緑釉陶器片３点、黒色土器片５点、青磁片３点、転用硯２点、その他ふいごの羽口及び鉄滓も出土している。

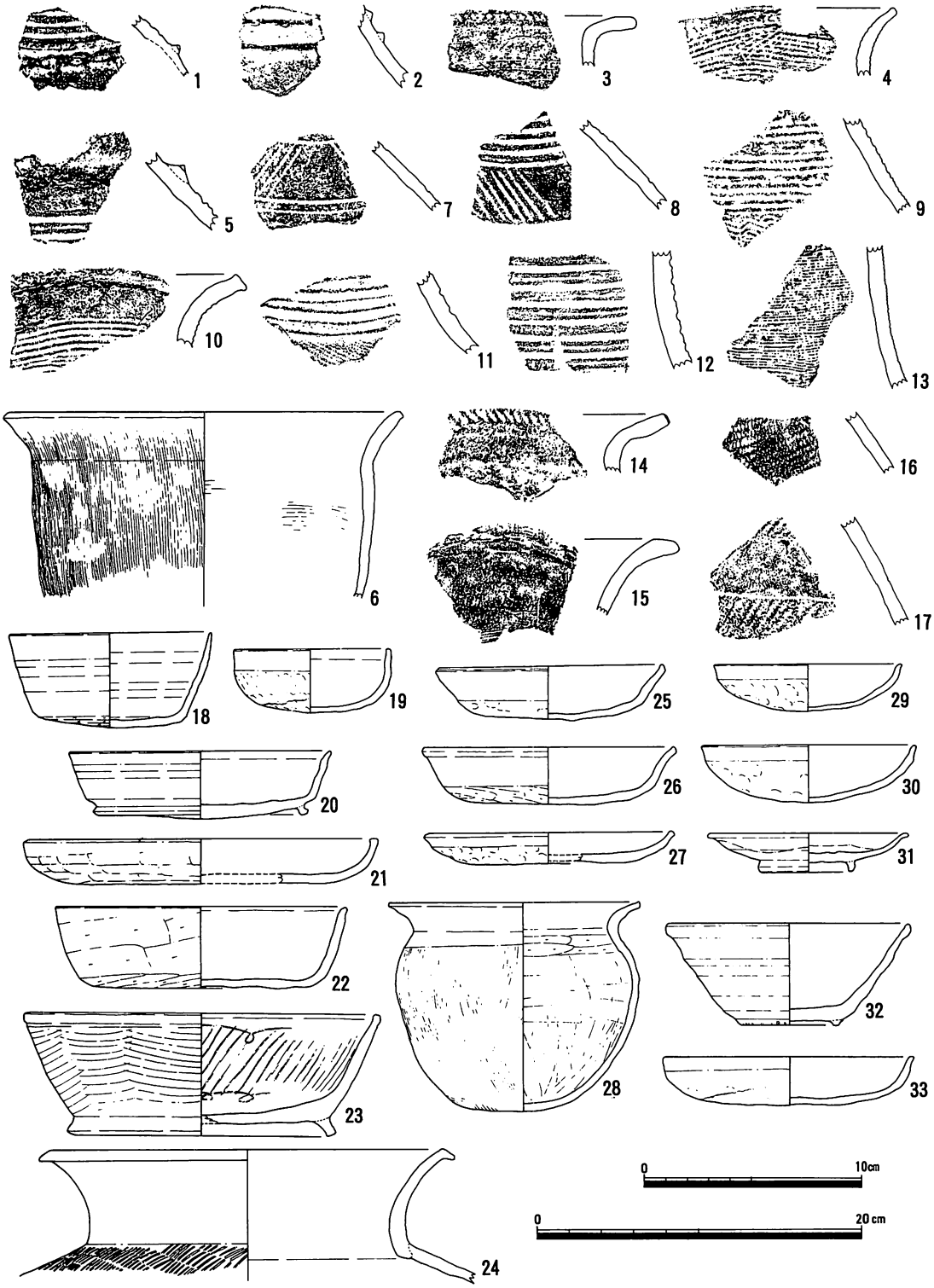
4．まとめ

中垣内地区を中心とした台地西辺部における遺構・遺物の状況等を知ることを主たる目的の一つとした今回の調査では、弥生時代前期から中期の遺構・遺物を確認した。周辺ではこれまで当該時期の竪穴住居が検出されているが、調査区の南西約800ｍに所在する金剛坂遺跡など祓川にのぞむ台地西辺には弥生時代において小単位の住居群が点在する集落が営まれており、斎宮成立以前の当地域を解明する上でも貴重な資料となった。

今回検出された柵列の柱通りは東西の方位とほぼ合致するものであるが、調査区北側の古里・中垣内地区で確認された飛鳥時代～奈良時代の建物の棟方向はいずれも北に対して東や西に相当大きく振れるものが多く、竪穴住居から掘立柱建物への変遷が見られることが判明している。

これまでの調査結果では、第30次調査の奈良時代のＳＢ1616・1620の棟方向はＮ37°Ｅを示し、ＳＡ1674はＮ31°Ｅの方位を持つ。第36次調査における奈良時代の掘立柱建物群の棟方向はＮ30°ＥからＮ19°Ｅへと変移する。調査区西隣、第85-８次調査のＳＡ6280やＳＢ6279の方位はＮ33°Ｅを示し、新旧関係よりＳＢ6290の棟方向はＮ１°Ｅと移行する。また、近鉄線を挟んですぐ南側の第58-４次調査で検出したＳＡ4281・4282はＮ１°Ｅである。

すなわち柵列や建物の柱通りは飛鳥時代から奈良時代にかけてはＮ30°Ｅ前後→Ｎ１°Ｅへ、奈良時代ではＮ１°Ｅ→Ｎ30°Ｅ→Ｎ19°Ｅへの変遷が考えられる。今回奈良時代前期とした柵列ＳＡ6940～6943の柱筋は東西方向のＥ０°Ｗを示し、Ｎ１°Ｅとの関連性が重要視される。したがって、これらの柵列は飛鳥時代末から奈良時代初頭にかけて大幅な変換期を迎えることと、新たな柵列による大規模な区画が構成されることが想定される。なお、これらの検証は今後の面的調査の展開に拠るところが大きいが、当該地区や古里地区を合わせた史跡西部一帯は、飛鳥時代～奈良時代の斎宮を解明するための重要な鍵を握るものと考える。　　（野原宏司）



第15図　出土遺物実測図　包含層出土：1～6，8～22, 24～28, 31～33　SK6945：7
SD6960：23　SK6949：29, 30　（1～5，7～17は1：3）

Ⅳ.　第 101 次 調 査

6ＡＤＧ（篠林地区）

1．はじめに

今年度３回目の計画調査は今年度史跡整備を予定している上園公園の北西の旧畑地の調査である。これまでの調査で確認されてきている史跡東部の方格地割は、昨年度の史跡現状変更に関わる第96-5次調査で八脚門ＳＢ6850と柵列ＳＡ6849が発見されて東西の広がりが最大で７区画まであった事が確認された。第101次調査は方格地割の南北方向が４列とみた場合、北西の隅と目される地点を調査し、方格地割の範囲を明確にする事を主たる目的として実施した。

これまでの周辺の調査では、東南東で第82次調査が実施されている。この調査では、調査区の北端で方格地割の北辺の区画溝ＳＤ0291の延長部分の可能性のあるＳＤ0136とＳＤ5602が確認されている。また南南西の第87次調査では、方格地割範囲に沿ってＳＤ0207が屈曲する事が確かめられている。これらの溝はいずれも鎌倉時代に埋没したものだが、何らかの形で方格地

第16図　調査区位置図（１：2,000）

割の規制を受けていたものと考えられている。今回の調査地には史跡範囲確認の際に実施した第8-1次調査のＦトレンチがかかるが、平安時代の南北溝ＳＤ0083と鎌倉時代の南北溝ＳＤ0081、ＳＤ0082が見つかっている。他の遺構としては史跡西部には一般的に言えるが、奈良時代や鎌倉時代のものが中心になる事も知られている。

第101次調査はこれらの成果を受けて、方格地割の北西隅と推定される部分の具体相の解明が期待された。調査は平成５年７月19日から10月13日まで、540m²を対象に実施した。

調査地は標高10.8mほどの畑地であったものを公有化しており、0.5m～0.6mの掘削で遺構面に達する。遺構面は10cmほどの高低差で西から東に極めて緩やかに傾斜するが、ほぼ平坦である。表土の下は砂質を含んだ黒色土の包含層で、飛鳥時代～奈良時代・鎌倉時代の遺物を多量に含み、緑釉陶器も27片出土している。

２．遺　構

今回の調査では建物跡は全く発見されず、奈良時代～鎌倉時代の溝11条と道路とみられる遺構、鎌倉時代の墓３基が確認された。また、樹木の根の痕跡とみられる不定形の小穴が多数散在しており、倒木痕とみられる撹乱土坑もあるところから、以前は一時期林地となっていたものとみられる。

（１）飛鳥時代の遺構

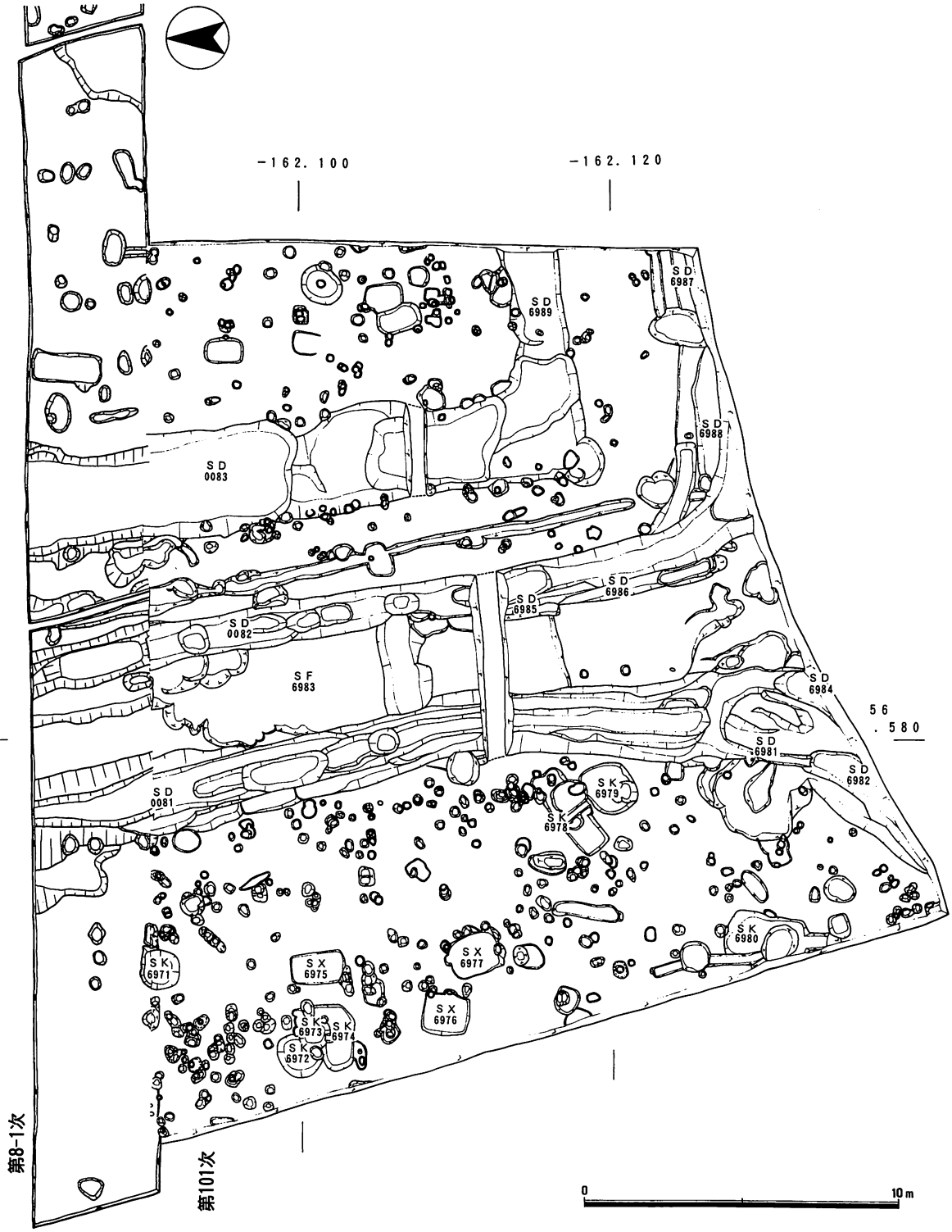
土坑ＳＫ6979がある。径1.7m×1.5m、深さは遺構面から約30cmで土坑内からは飛鳥時代後葉の土師器直口壺１個、甕３個体以上が出土した。近辺では第82次、第87次調査でも当該期の遺構は見つかっていない。

（３）奈良時代の遺構

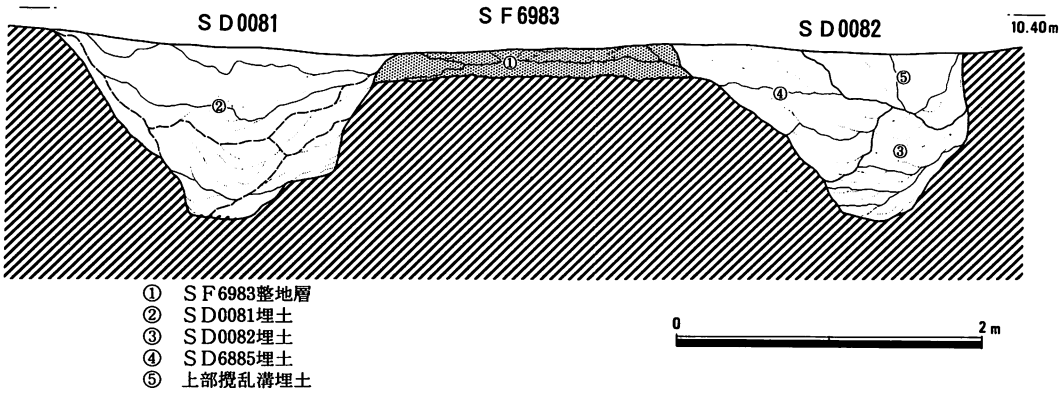
土坑ＳＫ6978は2.7m×1.0mの長方形の土坑で、深さは遺構面から約20cmである。遺物は少なく、須恵器片や土師器片がわずかにみられるのみだが、土師器皿にはｂ手法による調整が施されており、奈良時代でも後半のものと思われる。

		遺構の種別			
		ＳＫ	ＳＸ	ＳＦ	ＳＤ
飛鳥時代		6979			
奈良時代		6978			
平安時代	前期				6988
	後期				0083　6987　6989
	末期	6972　6973　6974			6981
鎌倉時代		6971　6980	6975　6976 6977	6983	0081　0082　6982 6984　6985　6986

第５表　時期別遺構分類表



第17図　遺構実測図（1：200）



第18図　ＳＤ0081・0082・ＳＦ6983断面図（１：50）

（４）平安時代の遺構

土坑３基、溝５条がある。以下時期別にみていく。

平安時代前期では道路側溝と考えられる東西溝ＳＤ6988がある。遺構埋土は漆黒色で、幅は80cm以上、断面は緩やかな逆台形状になる。遺物は少なく土師器杯・甕片や須恵器甕片が僅かにみられ、埋没は平安時代前Ⅱ期（９世紀後葉）、掘削はさらに遡るものとみられる。現農道に沿って斎王の森の方向へ直線的に伸びて第８次調査Ｆトレンチと繋がると考えるならば、第82次調査のＳＤ5604やＳＤ5605など、平安時代後期とされる溝と溝心間で約６ｍの間隔を持つ東西道路が延びていたものと考えられる。

後期では道路側溝とみられる溝が３条ある。調査区の東部をＬ字状に掘削されたＳＤ0083はそのままＳＤ6989に続き、東にのびていく。後述する鎌倉時代のＳＦ6983の東側溝ＳＤ0082などに先行する溝の可能性がある。幅3.4ｍ～2.0ｍ、深さ40cmほどの浅い溝で、埋土は黒色土である。調査区内での溝底の高低差はほとんどない。東山72号窯式期の灰釉陶器椀の他、土師器杯・皿、須恵器片、土錘が出土しており、これらの遺物から後Ⅰ期（11世紀前半）に埋没時期が求められる。この東方での延長部分と考えられる溝が第８次調査Ｆトレンチのｓ Ｋ0133と繋がるとみると、第82次のＳＤ0136やＳＤ5602と溝心間で9.4ｍ、肩間で約8.0ｍ幅の道路が想定できる。ＳＤ6987はＳＤ6988に重複するほぼ同規模の溝で、灰釉陶器模倣のロクロ土師器椀や土師器片が出土しており、後Ⅱ期に相当するものとみられる。

末期では土坑３基、溝１条がある。

ＳＫ6972・6973・6974は調査区北西部の土坑で、重複関係からはＳＫ6974→ＳＫ6972→ＳＫ6973の順になる。いずれも不整楕円形でＳＫ6972からは土師器片が、ＳＫ6973からはロクロ土師器杯片や土師器小皿・鍋、渥美産とみられる山茶椀・山皿が、ＳＫ6974からは土師器片が出土しているが、遺物の上では時期差は看取できない。溝では道路側溝と考えられるＳＤ6981が

ある。鎌倉時代に埋没するＳＤ0081などの下部で確かめられた検出幅35cmほどの溝で、山茶椀片、青磁片、土師器鍋片が出土した。

（５）鎌倉時代の遺構

土坑２基、中世墓３基、溝６条、溝に画される道路遺構がある。

ＳＫ6971とＳＫ6980は調査区の北西端と南西端で検出されている。ＳＫ6971は直径1.3ｍ、遺構面からの深さ約30cmの円形土坑で、土師器片が出土しており鎌倉時代のものとみられるが、詳細な時期は判別できない。ＳＫ6980は長径2.8ｍ、深さ約25cmの土坑で、土師器鍋・皿・小皿が出土した。伊藤裕偉[注]氏の分類で第Ⅱ段階ｃ型式の土師器鍋が含まれ、13世紀後葉から14世紀初頭のものと考えられる。

中世墓ＳＸ6975は長辺1.8ｍ、短辺1.0ｍ、深さ25cmで、北側に古瀬戸施釉陶器椀片１片、土師器鍋１点・皿４点・小皿１点・鉄製刀子１本がかためて埋納され、土師器皿（７）は鍋（10）の中に入れられていた。遺物から13世紀前葉に属するとみられる。ＳＸ6976とＳＸ6977はＳＸ6975の南2.5ｍ～3.0ｍ離れたところに隣接して掘削されている。いずれも長辺1.5ｍ～1.6ｍ、短辺1.3ｍ、深さ30cm～40cmで、ＳＸ6976からは土師器皿３点、小皿２点が、ＳＸ6977からは土師器皿１点、小皿６点、鉄製短刀１本が墓坑の北あるいは北西にかためて埋納されていた。この２基の遺物はいずれも13世紀後葉から14世紀初頭のものとみられ、時期差は判断しがたい。

溝はいずれも道路側溝と考えられる。ＳＤ0081とＳＤ0082は道路遺構ＳＦ6983の東西の側溝で、断面はいずれも弱いＶ字状を呈する。埋土から数次の掘削および堆積が認められるが、径５cm～７cmの円礫や砂質を多量に含む黒褐色土で、溝底はＳＤ0081で9.3ｍ～9.0ｍ、ＳＤ0082で9.5ｍ～9.3ｍで北から南に傾斜している。ＳＤ0081は南で緩やかに南西にカーブして一度溝底が持ち上がった後、ＳＤ6982やＳＤ6984に繋がる。さらにＳＤ6982は調査区外で再び南に方向を変えて第87次調査のＳＤ0207に続くものと考えられる。ただしこのＳＤ0207は逆に南から北に傾斜しており、これらの溝は道路側溝あるいは区画溝の性格が強い事が看取される。ＳＤ0082も南でＳＤ6985に続き調査区南端で大きく東に折れ、現農道に沿って続くものとみられる。これらの埋土内の遺物には土師器皿・小皿・鍋、ロクロ土師器杯、山茶椀、常滑産陶器甕片などがみられ、最終の埋没年代は13世紀後葉から14世紀初頭の中で考えられる。

道路遺構ＳＦ6983は地山面まで掘削したため、遺構面に凹凸があるが、この上面には土器片や径約15cmの亜角礫による整地層がある。道路幅は両肩間で2.8ｍ～3.0ｍで側溝底からの高低差は１ｍ前後となる。遺物は磨耗が著しい物が多く、高杯・甕片などの土師器片、ロクロ土師器片、渥美産とみられる第７型式の山茶椀や須恵器片が混在し、この整地層は道路両側溝の最終埋没時期に近い13世紀後葉から14世紀初頭に位置付けられるものと考える。因みに道路の方向はＮ10°Ｗほどと想定され、方格地割とは様相を違える。

3．遺　物

今回の調査では整理箱で23箱の遺物が出土している。ほとんどが土器類で、包含層からの出土が多く、溝からの出土はあまり多くはないが、中世墓と一部の土坑からはまとまった資料があり、これらについて述べたい。

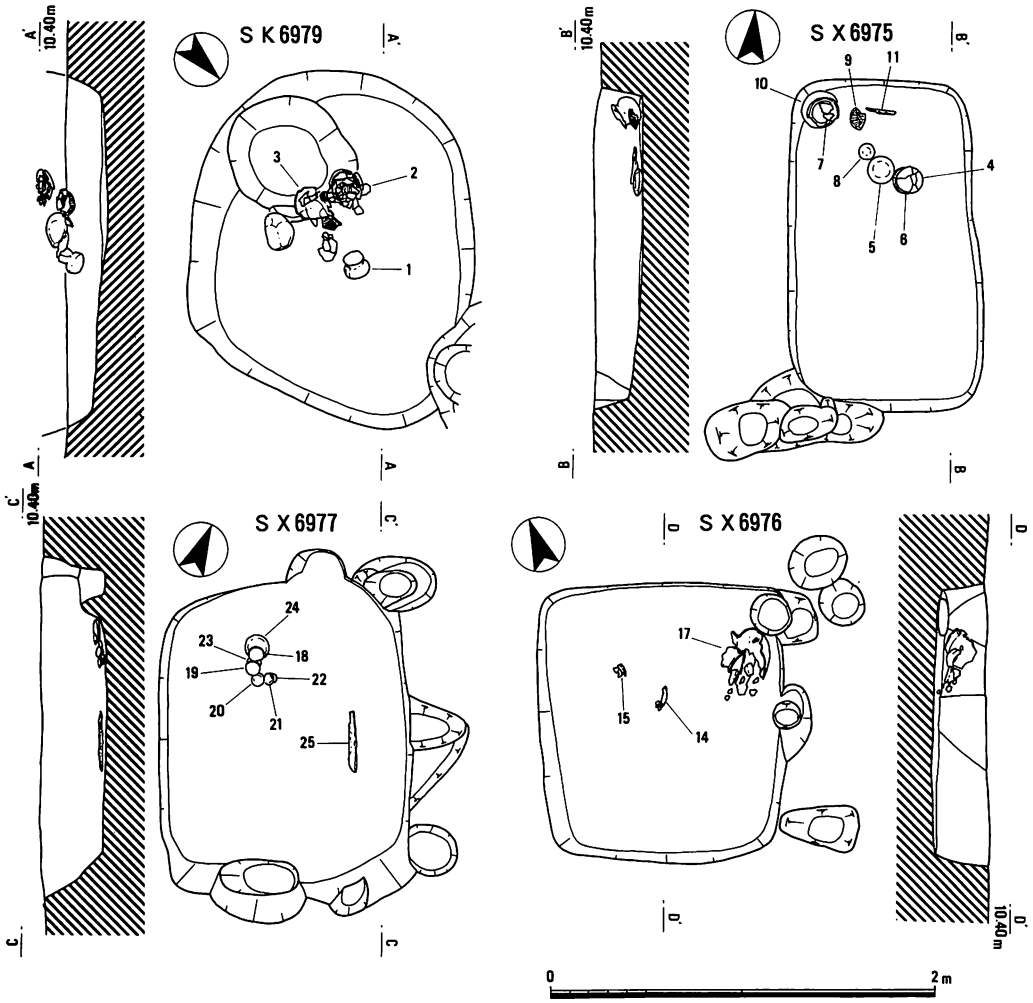
ＳＫ6979からは飛鳥時代の遺物がある。いずれも土坑の底部からは浮いた形で出土しているが、図示した資料は共時性の高いものとみられる。土師器直口壺（１）は器表面を細かいハケメで調整するが、緻密な胎土で精良なつくりである。６世紀代の資料は南勢地方でも伊勢市昼河古墳・南山古墳、多気町河田古墳群など古墳出土の資料が認められるが、７世紀代には少なく、近辺では明和町北野遺跡で出土しているのみである。共伴する土師器甕（２・３）は同形のもので口縁部が強く外方へ屈曲し、概ね球形の体部で飛鳥時代でも後葉のものとみられる。

奈良時代の遺物は比較的少なく、包含層から土師器杯・皿片などが見られるにすぎない。

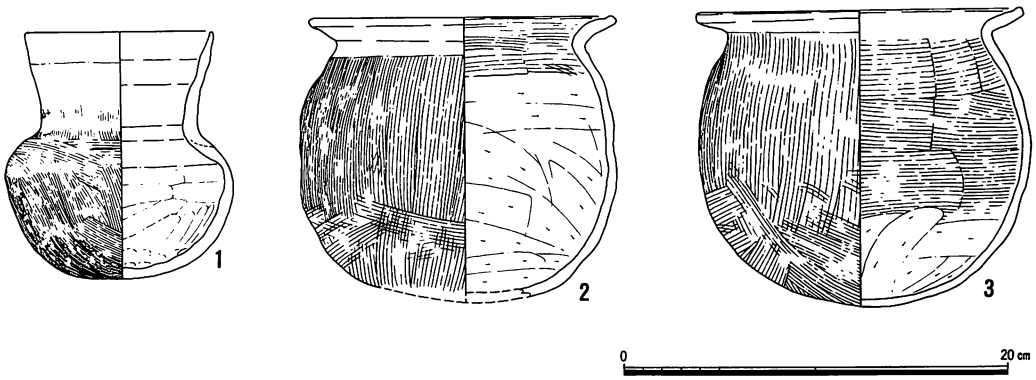
平安時代の遺物も包含層からの出土が大半で土師器、灰釉陶器がある。また緑釉陶器が比較的多量に出土しており特筆できる。灰釉陶器は折戸53号窯式期から東山72号窯式期にかけての椀・皿がある。緑釉陶器は27片あり、近江産とみられるものが顕著だが、猿投産とみられるものも少量ある。土師器は杯・皿を主とするロクロ土師器を含んだ平安時代後期のものが主体となり、全般に10世紀～11世紀の遺物が大半を占めている。

鎌倉時代の遺物は今回の調査では最も多量に出土してるが、まず３基の中世墓からの出土品があげられる。ＳＸ6975からは最も豊富な資料が出土しており、土師器皿・小皿・鍋、古瀬戸施釉陶器椀片、鉄製刀子がある。土師器鍋（10）は伊藤裕偉氏の編年で第Ⅰ段階ｂ型式に相当し、また土師器皿（４～７）は口径13.6cmほどのものと15cmを越えるものがあり、第49次調査のＳＸ2990に相当する時期のものとみられることから、13世紀前葉に位置付けられるであろう。古瀬戸施釉陶器（９）は２分の１ほど欠失した状態で埋納されたもので、淡緑青色の灰釉が内外面に施される。

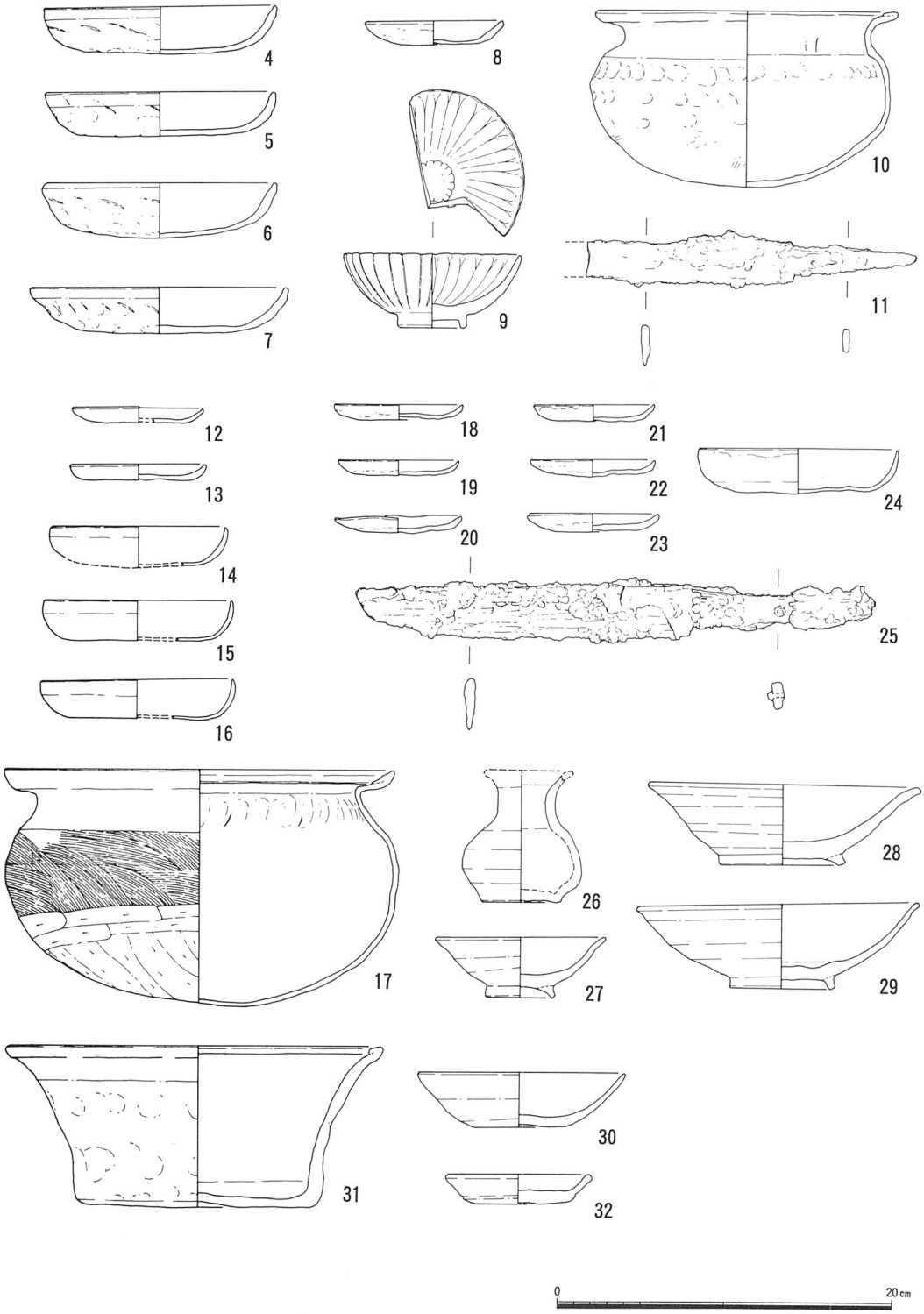
ＳＸ6976からは土師器皿・小皿・鍋が、ＳＸ6977からは土師器皿・小皿と鉄製短刀が出土している。これらの土師器皿は口径10.2cm～11.8cmで口縁部がやや内弯気味に立ち上がるもの、小皿は口径7.2cm～8.0cmで、口縁端部をやや上に引き上げてまとめるもので、ＳＸ6976の鍋も伊藤氏の分類の第Ⅱ段階ｃ型式に相当すると考えられ、13世紀後葉～14世紀初頭のものとみられる。ＳＸ6976とＳＸ6977の間には遺物の上でも時期差はほとんどないものとみられる。鎌倉時代の遺物はこの他にＳＦ6984の路面整地層から磨耗した多量の山茶椀類が、またこの両側溝ＳＤ0081・0082などからも山茶椀、土師器皿・鍋片が出土しているが、これらも13世紀後葉～14世紀前葉のものとみられる。その他の遺物としては無釉陶器の小瓶（26）や灰釉陶器模倣のロクロ土師器椀（29）が注目される。また粗製の土師器鉢（31）は13世紀後葉以降のものと考



第19図　土坑・中世墓実測図（1：40）



第20図　出土遺物実測図　SK6979



第21図　出土遺物実測図　ＳＸ6975：４～11，ＳＸ6976：12～17，ＳＸ6977：18～25，ＳＤ6984：26～27，ＳＫ6973：28，ＳＦ6983：29，ＳＤ0081：30，包含層31・32

えられるが、類例が知られない資料である。

平安時代末期～鎌倉時代の特殊遺物とされるものとしては、他に中国陶磁器類があり、白磁片２点、青白磁片２点、青磁片４点が出土している。

４．まとめ

方格地割の北西隅の確認を目的とした第101次調査であったが、明確には平安時代前半の道路角や交差点を見出す事ができなかった。しかし、鎌倉時代の終わり頃には埋没あるいは廃絶した道路やその側溝が調査区の南側で東と東南東に分かれていく事から、この時期には道路交差点が存在していた事が窺われ、間接的ながらこの周辺が少なくとも鎌倉時代以前まで遡って「角」の意識が持たれていた事、その道路「角」はやや位置を西へずらして現在の農道の交差点にまで生き続けている事は判明した。また、道路側溝とみられる平安時代前期のＳＤ6988やＳＤ0083・6989などが残る事から、この「角」の意識はさらに遡及できる可能性は充分にある。

方格地割の北西地域では、第78次調査などでみられるように、史跡を北西から南東に横断する奈良時代古道の影響もまた根強く残る地域として知られている。また、今回調査地の南方の第49次調査などでも方格地割の規制はむしろ希薄であるといえる。しかしながら、こうした複雑さの解明という課題は残されたものの、今回調査地の一角が地割りのコーナーの部分である事はほぼ判明したと言えるだろう。

最後に中世墓についてふれたい。今回発見された３基の中世墓の他にも周辺では第49次調査のＳＸ2990（13世紀前葉）、第50次調査のＳＸ3084（平安時代中期）、第93次調査のＳＸ6533・6534・6537（13世紀中葉～後葉）などの墓遺構が見つかっている。こうした遺構はその性格上斎宮とは相いれないはずのものであるが、現在までのところ斎王制度廃絶後の14世紀中葉以降に入る墓遺構は見つかっていない。これは建物などの遺構でも共通して言える点で、こうした墓であっても斎宮の消長とは何らかの関連があった可能性は考えられる。墓の規模・性格あるいは分布について今後再検討が必要であろう。　（大川勝宏）

注）伊藤裕偉「中世南伊勢系の土師器に関する一試論」『Mie history』Vol. 1　1990

Ⅴ．　第 103 次 調 査

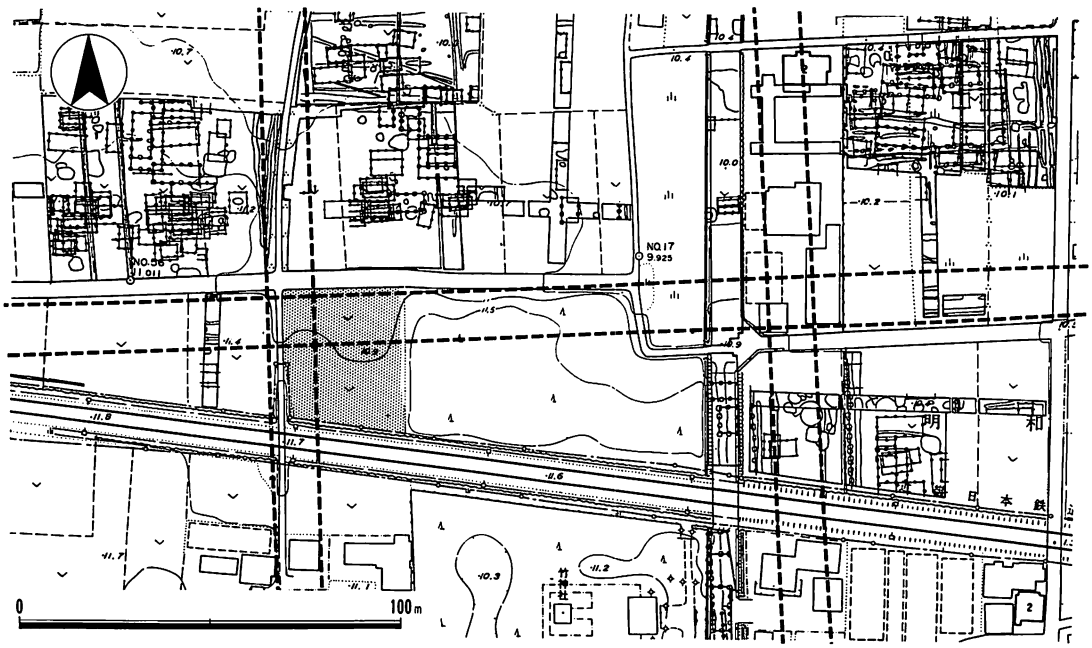
6ＡＥＱ－Ａ（柳原地区）

1．はじめに

史跡斎宮跡東部に東西７列南北４列まで想定されている方格地割の中でも、第44次、第46次、第98次調査などで大規模な柵列や大型の掘立柱建物などが発見され、鍛冶山地区を含む区画が平安時代前半の斎宮の極めて重要な部分である事が判明してきている。そしてその西隣の区画も、式内社竹神社が鎮座する事からも重要なポイントである可能性が考えられてきた。

この一帯では、第19次、第20次、第28次、第55次という一連の御館・柳原地区の調査で、二面庇の大型掘立柱建物などがＬ字形に配置されたり、多数の建物が重複して建て替えが行われた様子が窺われ、竹神社のすぐ北側の区画では官衙として重要な部分があった可能性が指摘されてきている。しかしながら、竹神社を含む区画そのものの調査は、大半が近鉄山田線の南側に入り、近世の参宮街道沿いの住宅密集地にもかかる事から、広域圏道路建設に先立つ第10次調査や第44次調査の一部で調査された以外はほとんど資料の蓄積がない。

しかし、これまでの僅かな調査の中でも、第44次調査区の西半部で方格地割を構成する幅約13.7ｍの南北道路とその内側の区画東辺を画する柱間約３ｍを測る大型の柵列ＳＡ2655が見つかっており、方格地割内でも一部でしか同様な柵列が見つかってきていない点は、この竹神社を含む区画が斎宮において重要なポイントである事を示唆しているとみられる。



第22図　調査区位置図（１：2,000）

第103次調査は、この竹神社を含む区画の情報、就中、区画北西の東西・南北の道路交差点の検出と、先述の第44次調査のＳＡ2655に対応する北辺、西辺の柵列を確認し、この区画の性格を解明する事を目的とした。調査は、柳原地区の農道と近鉄線に沿って1,170㎡の調査区を設定し、平成５年10月４日から平成６年１月25日にかけて実施した。現況は標高約10.7ｍ～11.1ｍで、南から北へ緩やかに傾斜している。黒褐色系の表土と包含層は比較的薄く、調査区北で約30㎝、南でおよそ40㎝～60㎝掘削した段階で認められる橙色から黄褐色の粘性が強い洪積層（地山）を遺構面として捉えた。遺構面は標高10.5ｍ前後でほとんど起伏差がない。

包含層は調査区の北半では多量の粘土質や直径５㎝前後の礫を含み、遺物の出土はほとんどみられないが、南半では奈良時代から平安時代後期の土器類が含まれていた。

２．遺　構

遺構は、奈良時代後期から鎌倉時代までおよび、竪穴住居１棟、掘立柱建物23棟、溝26条、土坑12基を検出した。調査区の北半と西３分の１に東西と南北の道路遺構が広がり、東南部の面積にして４分の１ほどに建物跡などの多数の遺構が密集する。この部分の標高は10.2ｍで、やや下がるが、その他は全体に10.4ｍ～10.5ｍでほぼ均平である。

（１）奈良時代後期の遺構

竪穴住居ＳＢ7045が調査区の南端で検出された。南辺が調査区外に伸び、東側にＳＫ7046が重複するため全体は窺い知れないが、一辺約４ｍの方形プランになるものとみられる。遺構面からの深さは約40㎝で、土師器杯・皿・把手付鍋、須恵器杯・無台杯・蓋など床面から浮いた状態だが比較的多量の遺物が出土している。柱穴やカマド等の施設は検出されなかった。

		遺構の種別				
		ＳＡ	ＳＢ	ＳＦ	ＳＤ	ＳＫ
奈良時代			7045			
平安時代	初期	6999 7000		6990 7010		7046
	前Ⅰ期		7050		6991 6992 7003	
	前Ⅱ期	7016	7020 7024 7033 7047 7049		7004 7032 7034 7035	7008 7017 7039 7053 7055
	中期		7018 7019 7021 7023 7025 7028		6995 7009 7011 7036	7030 7040
	後Ⅰ期		7022 7026 7027 7037 7038 7041 7042 7043 7044		7012 7013 7014 7015 7054	
	後Ⅱ期		7048		6993 6994 7005 7006 7007	7029 7031
	末期					7051 7052
鎌倉時代					6996 6997	
時期不明					6998 7001 7002	

第６表　時期別遺構分類表

（２）平安時代初期の遺構

この時期に成立したと考えられる道路遺構と柵列２条、土坑１基がある。

調査区北半の東西道路ＳＦ6990と南北道路ＳＦ7010は平安時代初期に成立したと考えられている方格地割の区画道路である。後述するが、側溝は埋没時期が平安時代の前Ⅰ期から後期にわたるが、後Ⅱ期にはＳＦ7010にはＳＤ7005やＳＤ7007が、末期にはＳＦ6990の中央部には土坑ＳＫ7051とＳＫ7052が掘削されるなど、調査区内では廃絶していったようである。しかし、その後も東西道路は北へ、南北道路は西へ幅員を狭めて現代の農道に継承されている。道路面はＳＦ7010は後世の撹乱のため詳らかではないが、ＳＦ6990は他の遺構が比較的少ないため、明瞭に観察される。なおＳＦ6990の遺構面上は、径２㎝～４㎝程度の亜円礫や固結した粘質土が５㎝～10㎝の厚みで覆っていた。

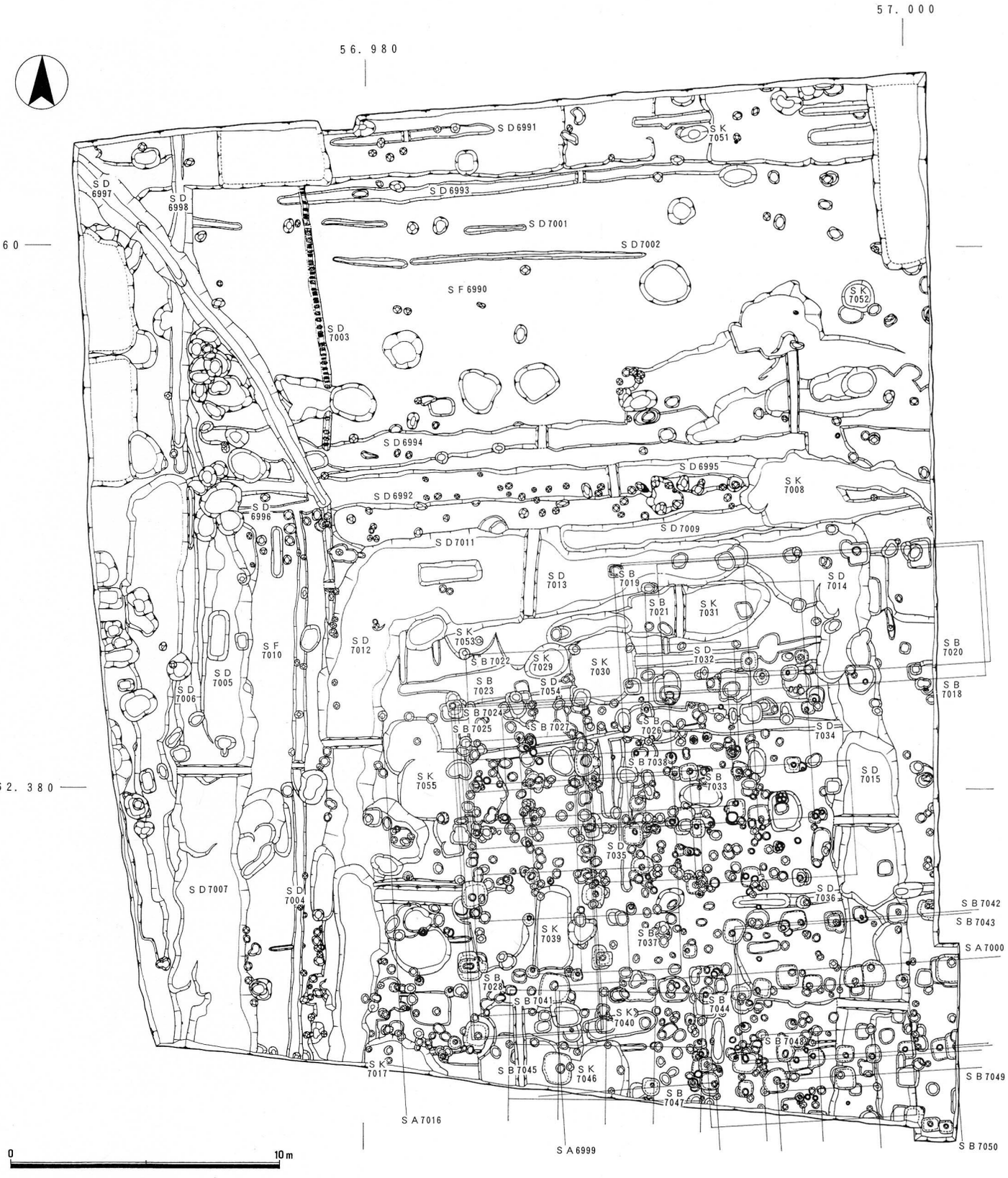
柵列はコーナー部分を挟んで東西方向と南北方向の調査区外に伸びている。ＳＡ7000は東西に５間、ＳＡ6999は南北に１間分が検出された。いずれも柱穴の掘形が一辺1.1ｍ～1.3ｍ、柱痕跡は直径約40㎝を測る。柱間寸法はＳＡ7000、ＳＡ6999いずれもほぼ３ｍを測り、平安時代初期の基準尺のひとつと考えられている１尺＝0.296ｍでみると１間10尺の規模といえる。これは第44次・第46次・第88次・第92次・第98次調査で確認されている鍛冶山地区のＳＡ6760・6770等、第83次・第84次調査でのＳＡ5840、第70-3次・第96-5次調査のＳＡ5110・6849と同等の規模を持つ極めて大型の区画施設であり、平安時代初期のうちに廃絶すると考えられるものもある中で、当地区では前Ⅰ期までは存続していたものと考えられる。

調査区南端で検出されたＳＫ7046は、短径で約２ｍ、遺構面からの深さが約60㎝の楕円形土坑で、土師器杯・高杯・甕、須恵器甕が出土している。

（３）平安時代前Ⅰ期の遺構

調査区南東端で検出されたＳＢ7050は、柱穴２個が調査区東壁にかかって検出されたのみだが、柱穴掘形は一辺約１ｍの大型建物であろうか。Ｅ４°Ｎの棟方向を取り、先述のＳＡ7000などと共存していた可能性もある。

溝は３条あるが、このうちＳＤ6991とＳＤ6992はＳＦ6990の側溝となるものである。北側溝ＳＤ6991は後世の撹乱・削平を受けているため断続的に確認され、南側溝ＳＤ6992は平安時代中期のＳＤ6995に北肩を掘削されているがいずれも幅約50㎝で、概ねＥ３°Ｎの方向を取る。ＳＤ6991は溝底高が10.1ｍ～10.3ｍと東へ緩やかに傾斜するものの、ＳＤ6992にはほとんど溝底の高低差がない。この溝によって画される道路の規模は、２条の心々間で約13.3ｍを測り、平安時代初期で基準尺とみられる１尺＝0.296ｍでみると道路幅の規格は45尺とみることができる。また、ＳＦ7010の東側溝となるものにＳＤ7003がある。幅は約30㎝と細く、溝底高はおよそ10.3㎝～10.4㎝と緩やかに北へ傾斜している。長さ約16ｍ分を検出したが、平安時代後Ⅰ



第23図　遺構実測図（1：200）

期のＳＤ7012に南部は掘削されている。なお、この溝底には10cmほどの間隔で掘削時の鋤先痕とみられる窪みが連続して残っている。ＳＦ6990の中央部で北と南に分かれて溝の掘削を進めた様子が窺われ、掘削後短期間のうちに埋没したものとみられる。これら３条の道路側溝は埋土に包含される土師器片から埋没時期を前Ⅰ期に比定できるが、掘削時期は平安時代初期まで遡らせて考えられるだろう。

（４）平安時代前Ⅱ期の遺構

掘立柱建物５棟、柵列１条、溝４条、土坑５基がある。

ＳＢ7020とＳＢ7024はＬ字形配置で共存した建物と考えられ、ＳＢ7020は東辺が調査区外へ延びているものの、両者共５間×２間の規模を持つものと考えられる。ＳＢ7020南側柱とＳＢ7024の北妻柱はその柱筋を揃えており、共通の計画性を窺わせる。ＳＡ7016はＳＢ7024の西側に2.8ｍの間隔をおいて並列する柵列で、検出された北端の柱穴もＳＢ7020とＳＢ7024のラインに揃い、２棟の建物と共存した施設と考えられる。これらは柱穴の遺物から前Ⅱ期でも新段階のものとみられる。なお、平安時代初期に作られた大型の柵列ＳＡ7000・6999は当該期までには消失している。ＳＢ7033は東辺の柱列をＳＤ7015に掘削されているが、３間×２間の東西棟とみられる。この建物の周囲には、柱筋から約２ｍおいて西側に、約1.5ｍおいて北側に雨落溝とみられる幅50cm～70cmのＳＤ7034とＳＤ7035が巡る（これらの最終的な埋没時期は平安時代中期～後Ⅰ期）。柱穴内の遺物は前Ⅱ期の古段階のもので、ＳＢ7020・7024に先行するものとみられる。調査区南端のＳＢ7047は東西で１間分まで、ＳＢ7049は２間分が検出された。いずれも東西棟と考えられるが、桁行の柱筋を揃える事、柱間寸法が2.4ｍと共通である事から、相互に関連の強い建物とみられる。ただし柱掘形の規模はＳＢ7047で一辺約70cm、ＳＢ7049で約１ｍと格差が認められる。

溝ＳＤ7004はＳＦ7010の東側溝ＳＤ7003を踏襲した溝と考えられる。幅約50cm～60cmで、溝底の高低差はない。土師器杯や灰釉陶器片が出土しており、前Ⅱ期新段階に埋没している。ほぼ真北に向き、ＳＤ7003とはやや異なる方向を取る。ＳＤ7032もＥ６°ＮとＳＤ6992などとやや異なる。幅約50cmで、前Ⅱ期新段階の土師器杯・皿などの大型破片が埋土に混入する。

ＳＫ7008・7017・7039・7053・7055はいずれも円形あるいは不整円形の土坑だが、特に調査区南端のＳＫ7017は長径約３ｍの不整円形の土坑で、北半分を検出した。前Ⅱ期新段階の土器が大量に投棄されており、整理箱で17箱の土器が出土した。大半は土師器で、杯・皿・鉢・甕と若干の須恵器片、木炭片がある。

（５）平安時代中期の遺構

掘立柱建物６棟、溝４条、土坑２基がある。

ＳＢ7018とＳＢ7025は前代のＳＢ7020・ＳＢ7024が建て替えられたもので、いずれも５間×

２間の規模を受け継ぐものとみられる。さらにＳＢ7028はＳＢ7025の敷地を踏襲している可能性がある。なおＳＢ7028の柱穴からは折戸53号窯式期の灰釉陶器椀を模倣したとみられるロクロ土師器椀が出土している。ＳＢ7021はＳＢ7018に重複して建てられた３間×２間の身舎に南面庇を持つＥ２°Ｎの東西棟で、ＳＢ7018のＥ４°Ｎとはやや棟方向は振るものの、位置的にはＳＢ7028と対応する関係にあるものと考える。ＳＢ7019は５間×２間の南北棟の身舎に東面庇を持つものである。ＳＢ7023もＳＢ7025のプランに重複するが東西棟に変化し、ＳＢ7019に後出するものである。

溝では前Ｉ期頃に埋没したＳＤ6992を踏襲するＳＤ6995と、Ｅ６°Ｎとやや向きを変えて掘削されたＳＤ7009・ＳＤ7011がある。後二者の埋土には若干のロクロ土師器が混在し、中期から後Ｉ期にかけて存続したものであろう。ＳＤ7036は幅60cmの溝だが、深さは10cm～30cmで部分的に落ち込み状の部分がある。

ＳＫ7030は2.4m×2.9mの円形土坑で、遺構面から約30cmの深さがある。整理箱で20箱出土した遺物の大半が土師器杯で、他に皿・鉢・台付鉢・甕と僅かに灰釉陶器椀・皿、須恵器片がある。検出した段階で数枚がまとまって投棄された状況がみられ、また大まかなブロックを想定して遺物は取り上げた。中期の古い段階から新段階にかけての形式幅が想定される。調査区南端のＳＫ7040は2.7m×0.9m、深さ約30cmの長楕円土坑で、ここからも整理箱で９箱の土器類が出土した。遺物の上ではＳＫ7030より新相で、中期の新段階に属するものである。

（６）平安時代後Ｉ期の遺構

掘立柱建物９棟、溝５条がある。

ＳＢ7022は先代のＳＢ7023を規模を縮小して北へずらす形で建てられている。ＳＢ7026は３間×２間の東西棟で、これらは柱穴が直径30cm～40cm程度の小規模なものになる。調査区東南部のＳＢ7042とＳＢ7043は建て替えの関係を持つ。東辺が調査区の外へ続くが、（３）間×２間で柱穴の掘形は90cm×70cmと当該期の斎宮においては大型建物と言える。ＳＢ7042は柱間が2.4m取られ、規模などの点から前代に近く、中期末葉～後Ｉ期前半にかけての間に存続したものとみたい。なおＳＢ7042が先行し、ＳＢ7043は桁行の柱間寸法を約2.0mに縮小される。ＳＢ7044も４間×２間で、桁行の柱間が約1.9mとＳＢ7043に近似する点からＳＢ7043に後出するものとみてよいだろう。これら５棟の東西棟は、いずれもＥ３°～４°Ｎに桁行の柱筋を揃え、方格地割の区画が意識されている。この他に４棟の総柱建物がある。ＳＢ7037は４間×３間の身舎の南側に３間分の庇が付くもので、比較的大型の総柱建物と言える。２間×２間のＳＢ7027とＳＢ7038は全く同一の規模を持つ。重複関係はないが、柱穴埋土の遺物からＳＢ7038が先行するものと考える。調査区南端のＳＢ7041も４間×（２）間の総柱建物で、Ｎ１°Ｅの棟方向を取り、当区画内において方格地割の遺制がこの段階で弊えた事を示すと思われる。ＳＢ

7037等との先後関係を示す証左は無いが、この点からＳＢ7041は後Ⅰ期でも最後出のものと捉えておきたい。

ＳＤ7012・7013・7014・7015はこれまでの建物密集地を「コ」の字形に囲むように掘削されている。幅が約2.0ｍ～2.7ｍ、深さは遺構面から30cmほどで、断面が浅いＵ字形を呈する。溝底の高低差は顕著ではない。この溝によって画される範囲は東西で約17ｍ、南北で20ｍ以上になるが、溝の北辺と西辺は初期からの区画道路の内側に収まるように掘削されている。なお、後Ⅰ期に存続したとみられるＳＢ7042・7043・7044の柱穴に重複しており、後Ⅰ期は「コ」の字区画成立の前後２時期には分離できるとみられる。なお、「コ」の字区画に伴う建物としてはＳＢ7037がそのほぼ中央に位置し、調査区内では単独で建てられていたものと考えられ注目される。これらの溝からは比較的多量の遺物が出土しており（整理箱約15箱）、土師器類、ロクロ土師器類、須恵器類、黒笹14号窯式期～折戸53号窯式期までの灰釉陶器類、青磁、白磁、緑釉陶器片や製塩土器片が出土している。土師器の中には「て」の字口縁の皿や台杯皿が含まれており、また朱の付着した須恵器片も混入しており注目される。ＳＤ7054はＳＤ7032に沿うように掘削された幅約50cm、深さ10cmほどの溝で、土師器杯・皿、ロクロ土師器杯・高台付杯、灰釉陶器椀、須恵器片が出土した。

（７）平安時代後Ⅱ期の遺構

掘立柱建物は調査区東南端のＳＢ7048のみとなる。40cm程度の柱穴を持つ２間×（１）間の総柱建物で、後Ⅱ期から末期にかけて存続したものとみられる。

ＳＤ6993とＳＤ6994は東西道路ＳＦ6990に関わる南北側溝である。幅はそれぞれ約50cmと1.0ｍ～1.3ｍでＳＤ6993は緩やかに東へ傾斜している。土師器片、須恵器片、ロクロ土師器類や百代寺窯式期とみられる灰釉陶器椀などが出土している。この両者は溝心間で約9.5ｍあり、幅30尺前後の道路として機能していたと考えられる。それに対しＳＤ7005・7006・7007は一連の南北溝で、かつての南北道路ＳＦ7010の上に掘削される。幅は最大で約３ｍ、深さは30cm～50cmほどあり、単純に道路側溝としての性格は看取し難い。ＳＦ7010はＳＦ6990に比べて早くから西へ変遷していったのであろう。

（８）平安時代末期の遺構

２基の土坑ＳＫ7051・7052はいずれもＳＦ6990路面上に穿たれている。ＳＫ7051は1.1ｍ×0.6ｍ、深さ約30cmの長楕円形土坑で、土師器皿やロクロ土師器杯・台付杯・高台付杯・椀が一括して投棄されていた。ＳＫ7052は直径約1.2ｍ、深さ約30cmの円形土坑で、同様に土師器片、ロクロ土師器片が出土している。

（９）鎌倉時代の遺構

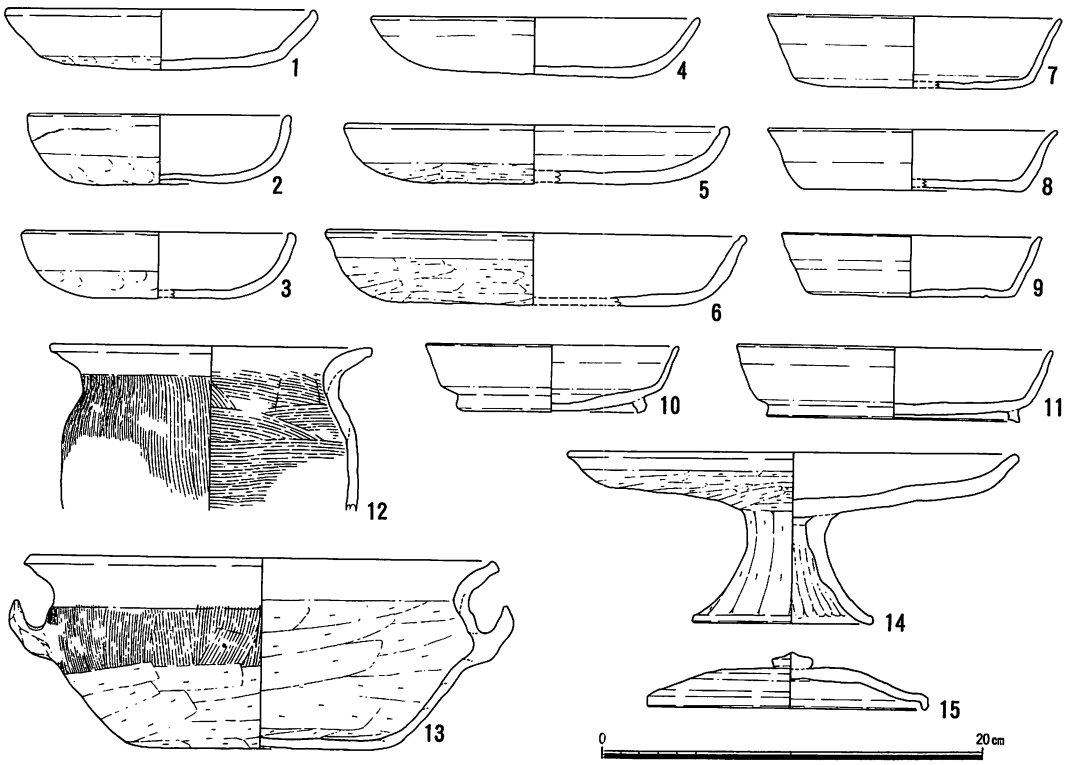
調査区西北部のＳＤ6996とＳＤ6997がある。ＳＤ6996は幅約25cm。残存する深さは約10cmの

もので、位置的にみて平安時代前Ⅰ期に埋没したＳＤ6992がＳＤ7003との交差部分を越えて西へ伸びていた部分の痕跡である可能性もあるが、今回出土した山茶椀からは13世紀後半に埋没したものとみられる。ＳＤ6997はＳＦ6990とＳＦ7010の交差点部分を斜めに横断するように掘削された溝で、溝底高は10.4m～9.9mで北西に向かって傾斜しており、N35°Wの方向を取る。土師器類やロクロ土師器類が出土しており、平安時代末期から鎌倉時代の初めにかけてのものであろう。なお、時期不明の遺構として３条の溝があるが、他の溝との重複関係からＳＤ6998・7001・7002はいずれも鎌倉時代以降の掘削と判断される。

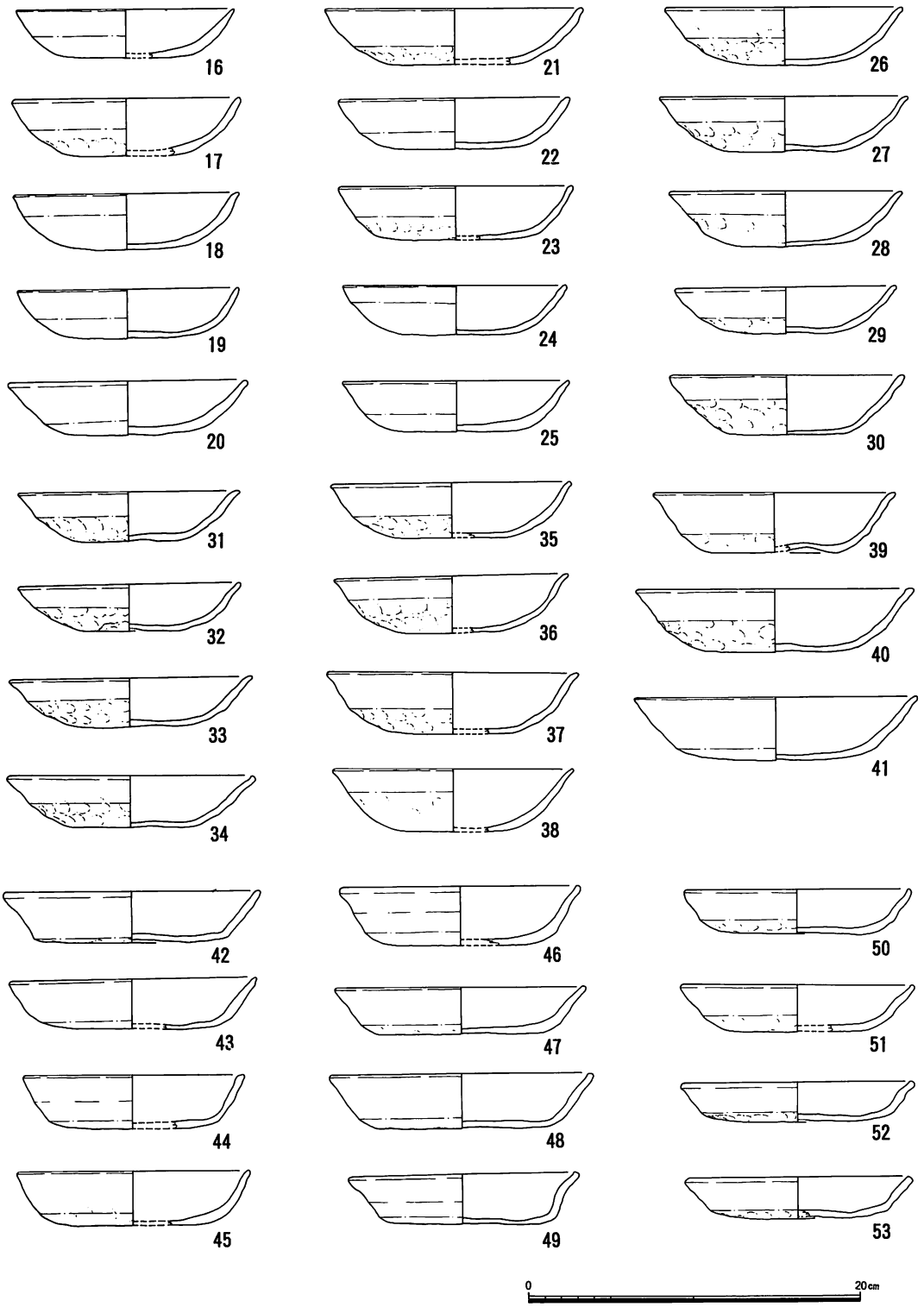
３．遺　物

第103次調査では、整理箱154箱の遺物が出土しているが、若干の鉄滓を除けばすべて土器類である。緑釉陶器は41片出土しているが、比較的特殊遺物は少ない。

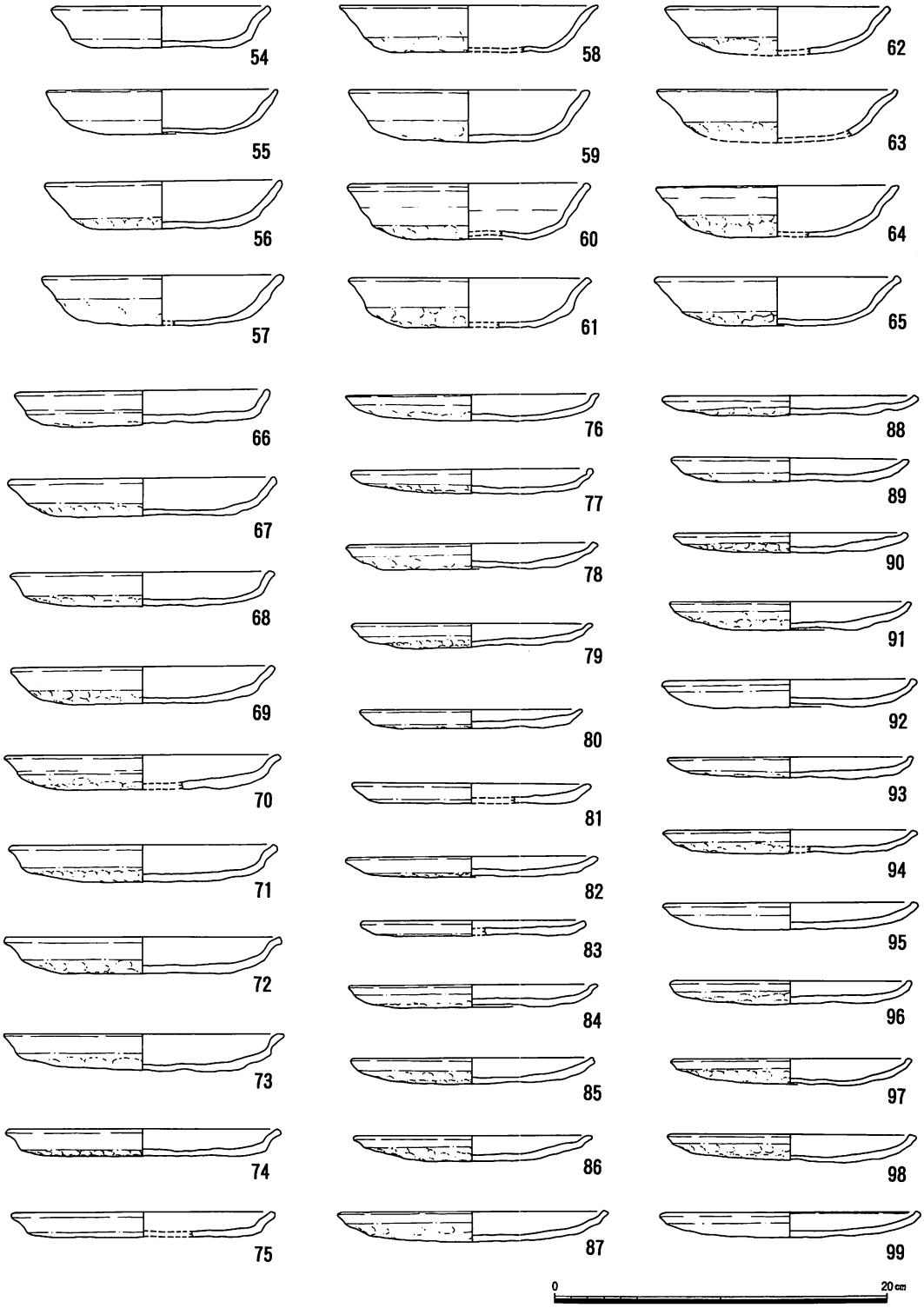
奈良時代の遺物ではＳＢ7045から後期の良好な遺物が出土している（１～13)。出土状況から廃絶した竪穴住居内に投棄した状態のものとみられるが、土師器約90％、須恵器約10％の割合で、土師器の供膳形態と煮沸形態の比はおよそ２：１になる。また、土師器杯の中では破片数でカウントすると丸い体部と厚い器壁を持つ在地系の杯（２・３など）が約７割を占める。須恵器は供膳形態と貯蔵形態が破片数の発現率でほぼ同数といえる。杯類では有台のものと無



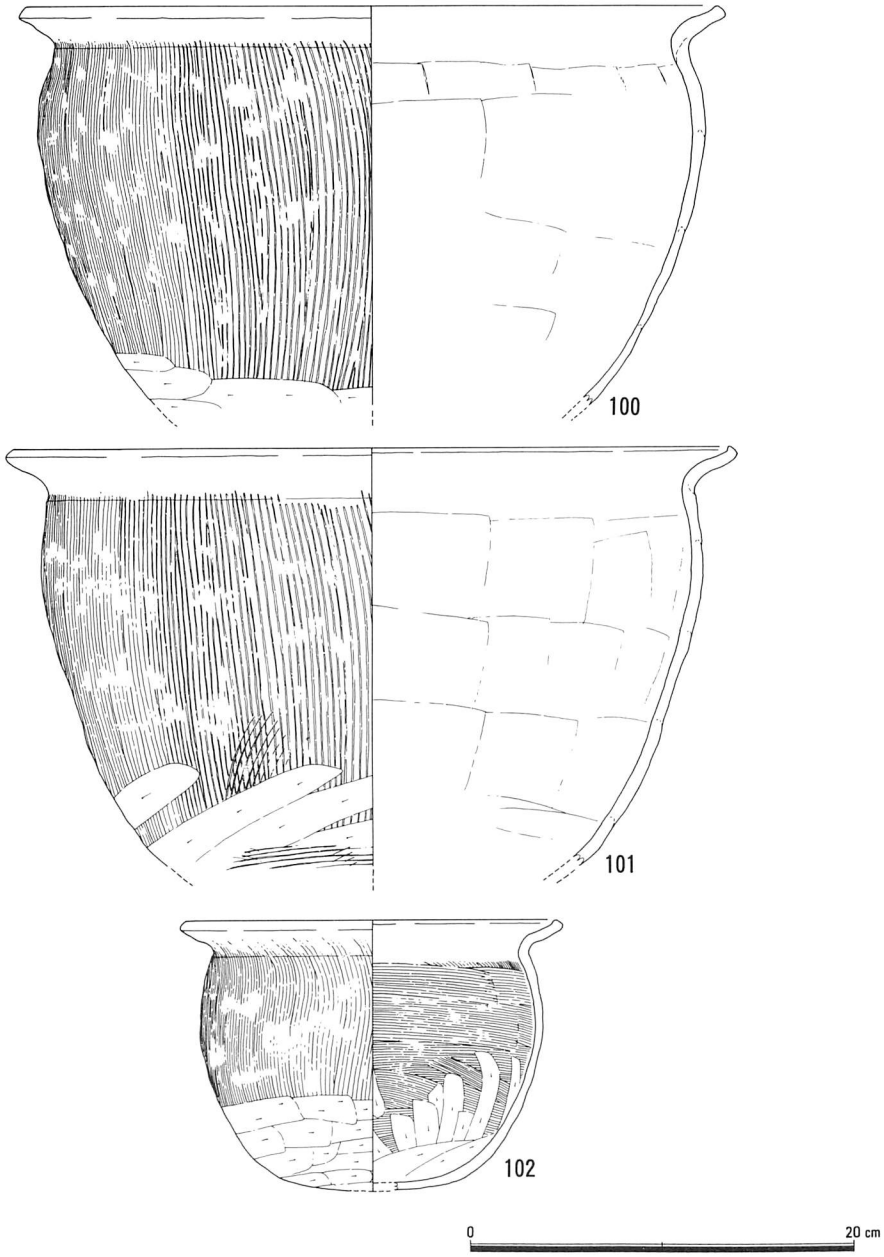
第24図　出土遺物実測図　ＳＢ7045：１～13，ＳＫ7046：14，ＳＡ7000：15



第25図　出土遺物実測図　ＳＫ7017



第26図　出土遺物実測図　ＳＫ7017

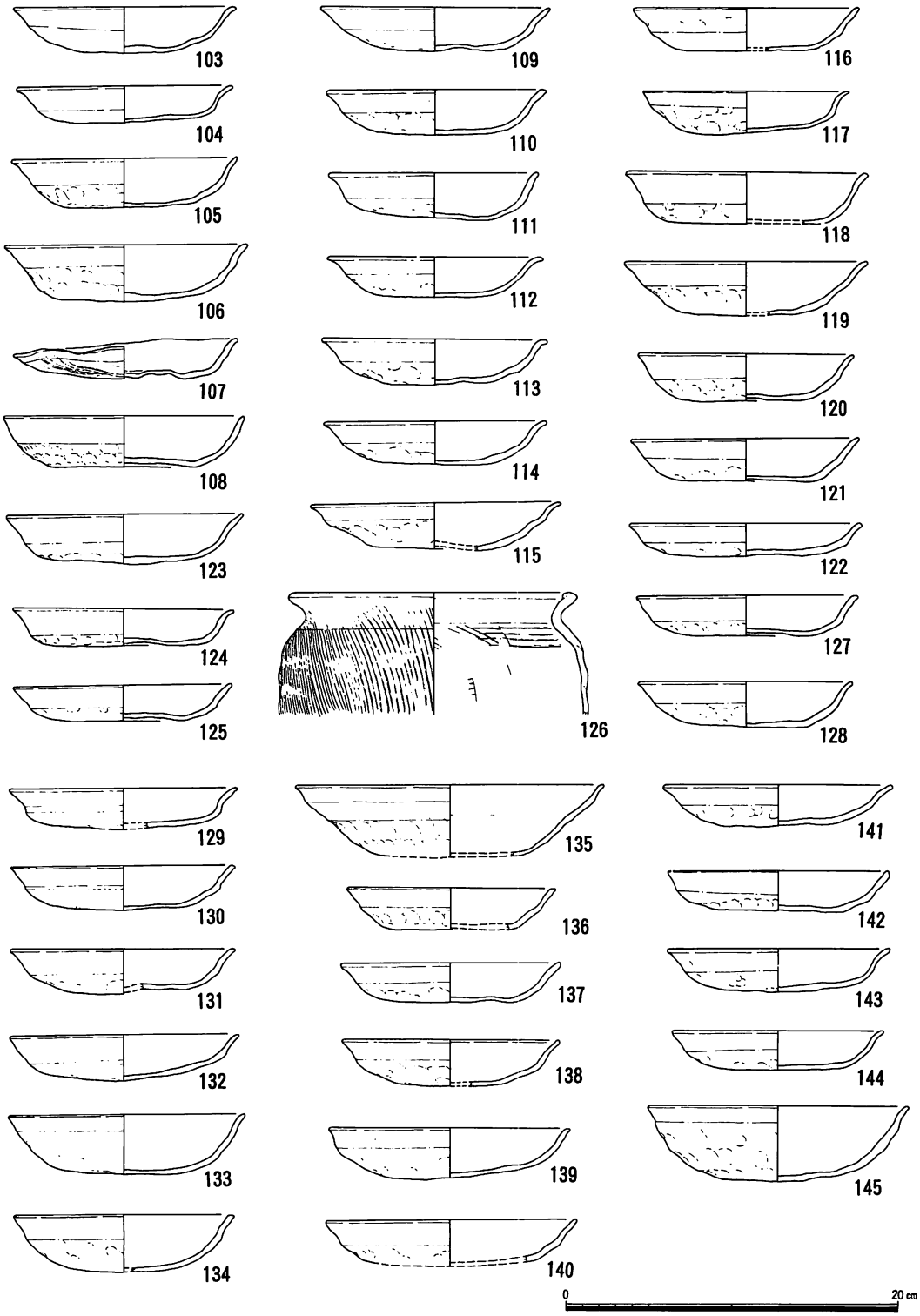


第27図　出土遺物実測図　ＳＫ7017

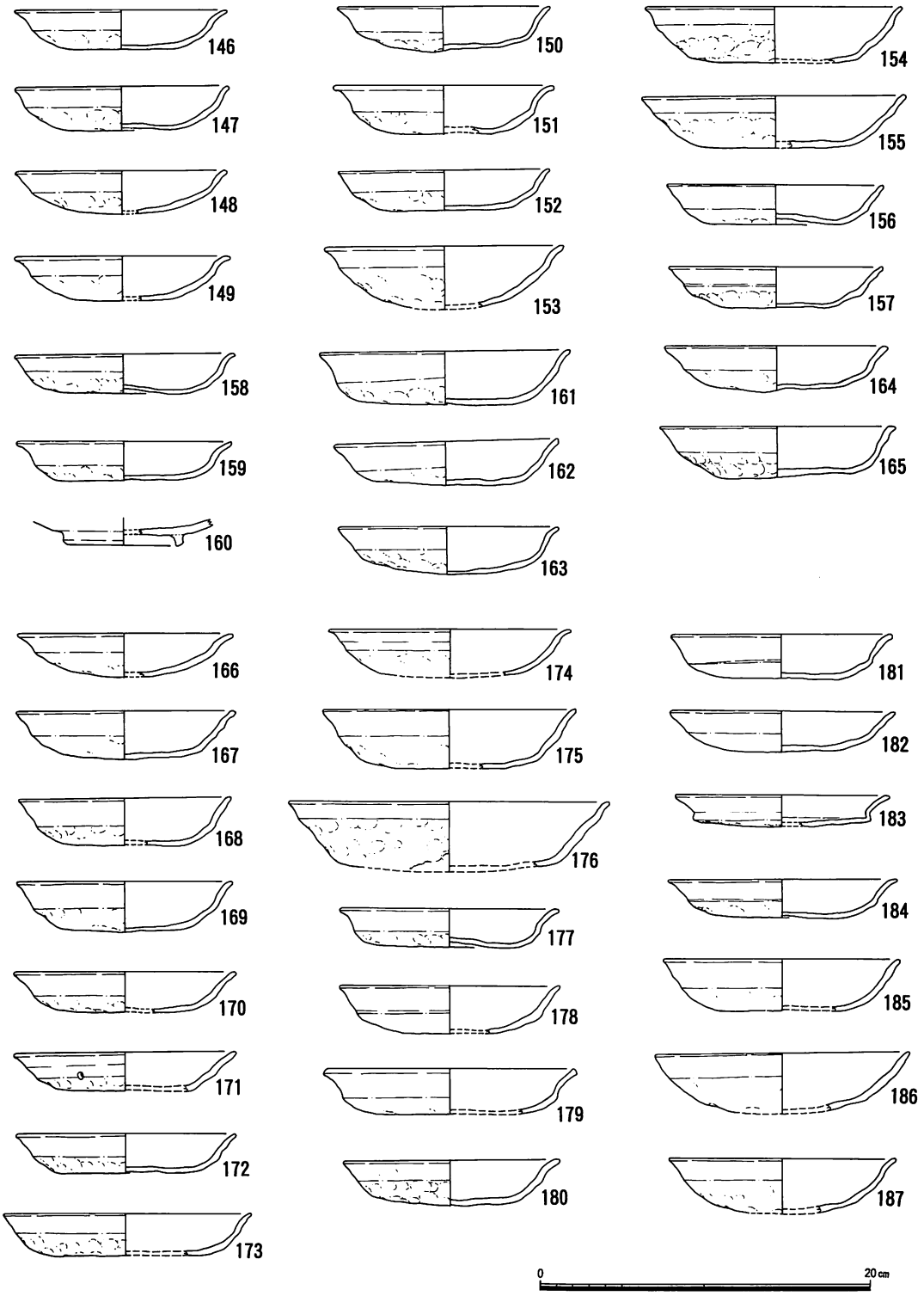
台のものがほぼ同数で、これらは猿投窯編年で鳴海32号窯式期に相当すると考えられる。

平安時代の遺物では、３基の土坑から出土した大量の土器群が着目され、今回これらの一部について概観したい。

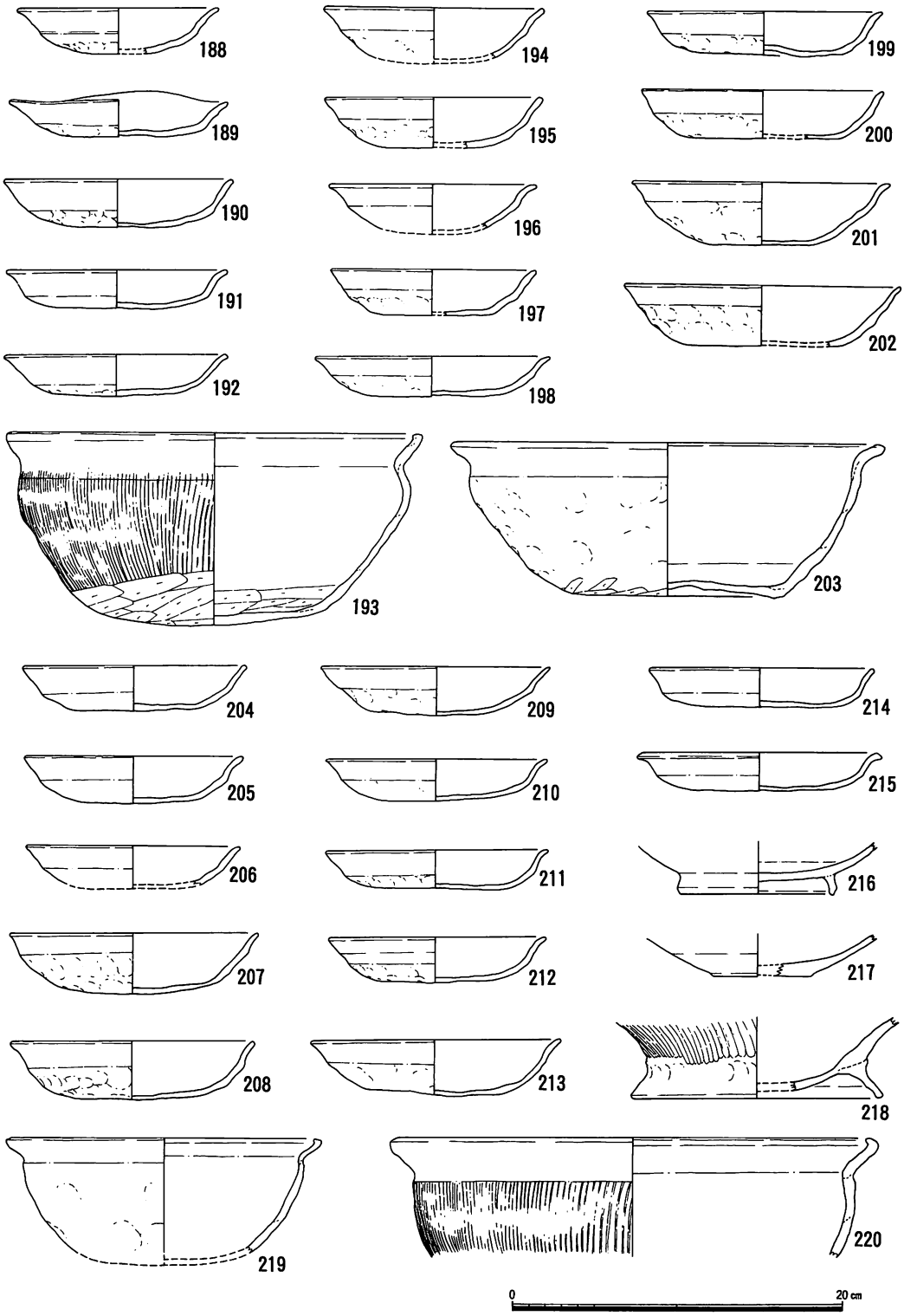
ＳＫ7017から半裁分で総数6651片の土器類を取り上げたが、その99％以上が土師器であり、そのおよそ88％は杯・皿などの供膳形態のものである。杯には口縁が幅広くヨコナデされてや



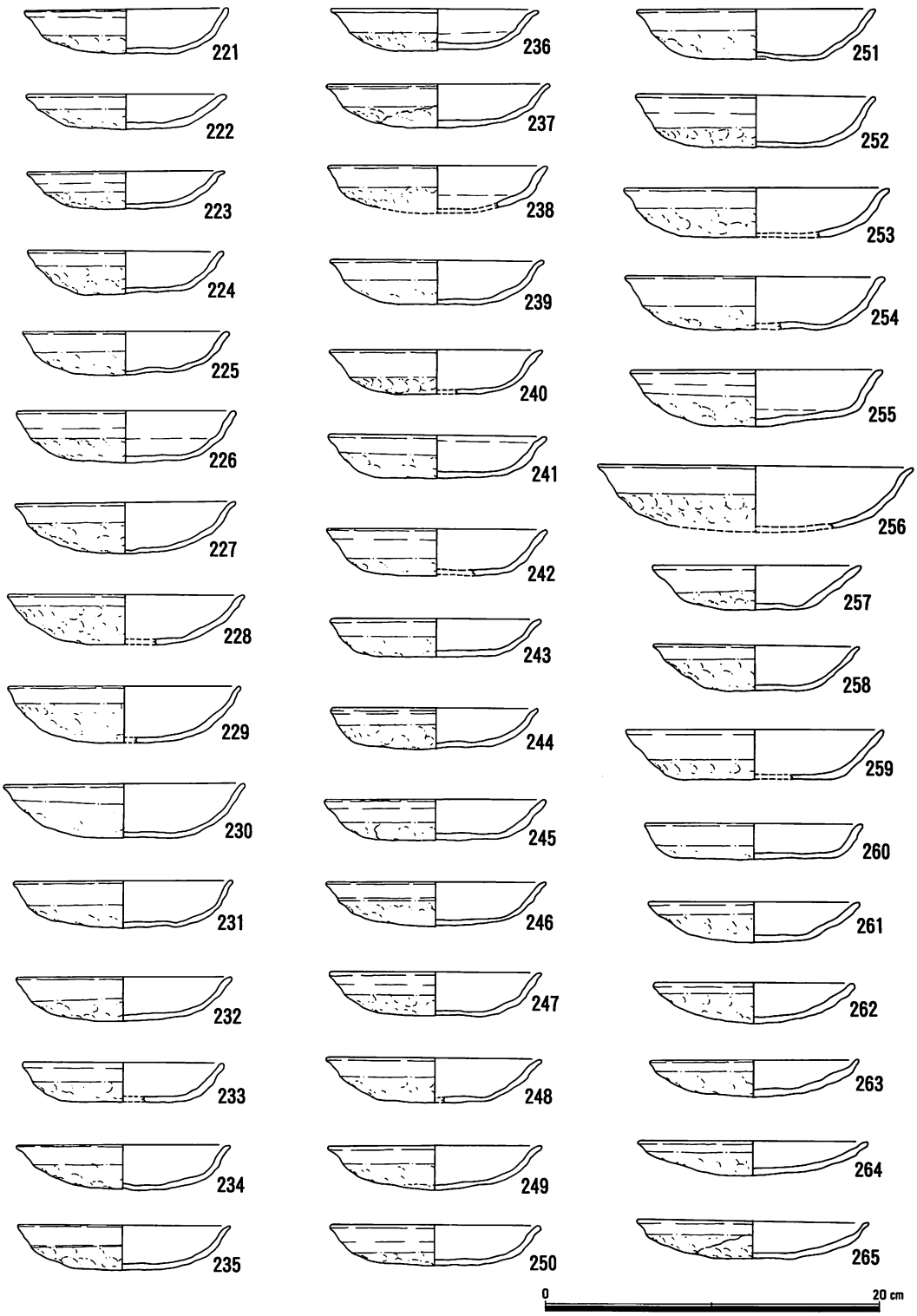
第28図　出土遺物実測図　ＳＫ7030



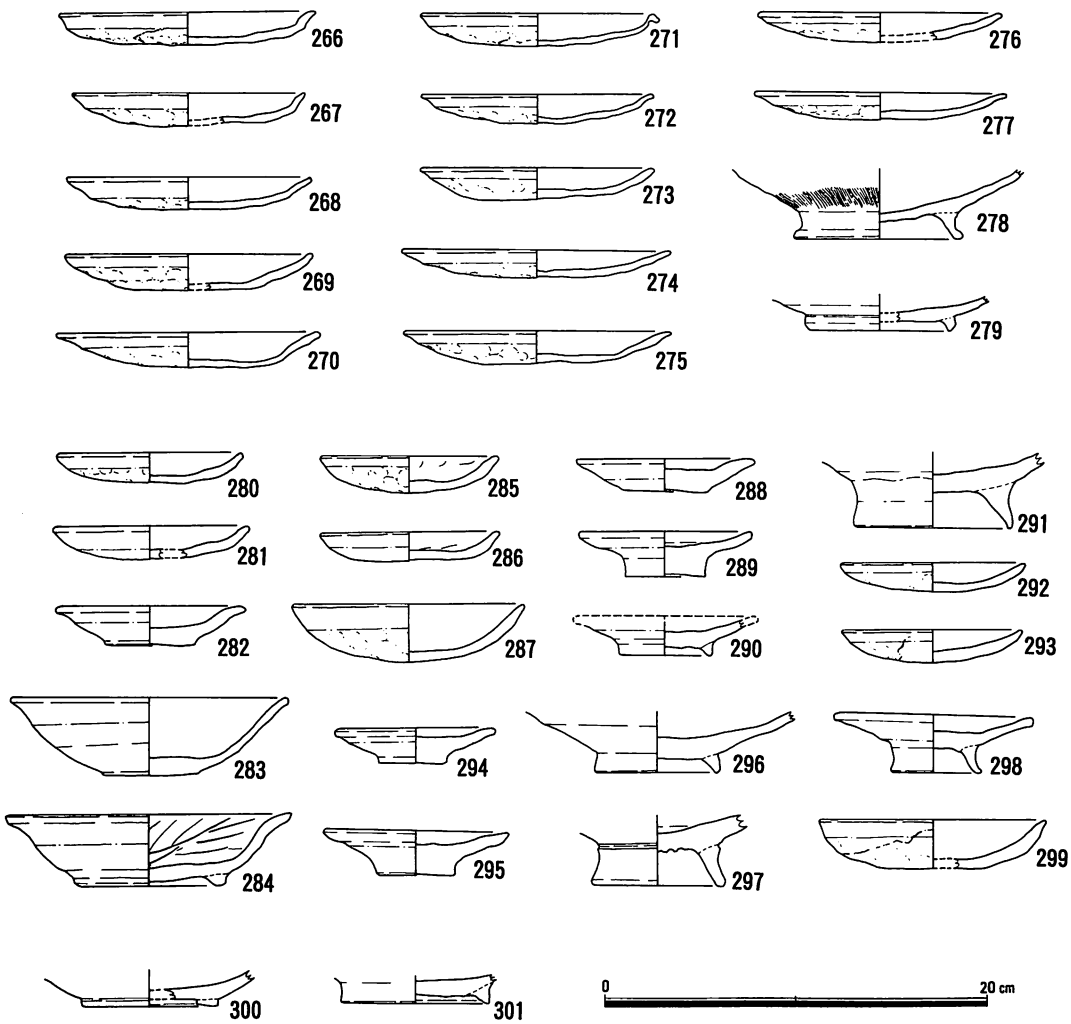
第29図　出土遺物実測図　ＳＫ7030



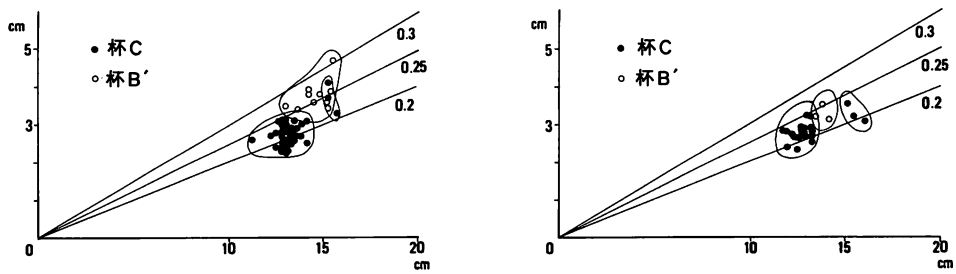
第30図　出土遺物実測図　ＳＫ7030



第31図　出土遺物実測図　ＳＫ7040



第32図　出土遺物実測図　ＳＫ7040：266～279，ＳＫ7029：280～284，ＳＫ7052：285～291，ＳＫ7051：292～299，ＳＤ7014：300，ＳＤ7007：301



第33図　ＳＫ7030・7040出土土師器杯径高比

ＳＢ7045

器種		破片数	器種別比率(%)	類別比率(%)
土師器	杯・皿・高杯類	298	57.97	90.66
	鉢類	39	7.59	
	甕・鍋類	129	25.10	
須恵器	杯・蓋・椀類	26	5.06	9.34
	壺・甕類	22	4.28	
総計		514	100.00	100.00

ＳＫ7017

器種		破片数	器種別比率(%)	類別比率(%)
土師器	杯・皿類	6627	88.63	99.68
	甕・鉢類	126	1.69	
	製塩土器	160	2.14	
	不明	540	7.22	
須恵器	杯・蓋類	4	0.05	0.28
	壺・甕類	12	0.16	
	不明	5	0.07	
灰釉陶器	椀・皿類	3	0.04	0.04
総計		7477	100.00	100.00

ＳＫ7040

器種		破片数	器種別比率(%)	類別比率(%)
土師器	杯・甕・皿類	5387	89.89	99.28
	甕類	58	0.97	
	製塩土器	8	0.13	
	不明	497	8.29	
須恵器	杯類	10	0.17	0.57
	壺・甕類	23	0.38	
	不明	1	0.02	
灰釉陶器	椀・蓋類	4	0.07	0.15
	壺類	2	0.03	
	不明	3	0.05	
総計		5993	100.00	100.00

第７表　ＳＢ7045・ＳＫ7017・ＳＫ7040出土土器構成

や外反する杯Ａ（42～64）と、内弯して底部と口縁部の境が不明瞭な杯Ｂ（16～41）があり、杯Ｂの中でも口縁部のヨコナデがやや強くなり、肉薄の体部から心持ち外反する口縁を持つもの（31～41）は新しい傾向と言える。なお杯Ａと杯Ｂは破片数で47：53とほぼ同率といえる。皿では、強く屈曲した口縁部が真っ直ぐ（66）、あるいは外反して立ち上がる皿Ａ（67～75）と、明瞭な口縁部を作らず、端部のみ上方へ引き上げて口縁部を成形する皿Ｂ（76～99）がある。両者の破片数の比率は32：67で後者の割合が高い。これは皿Ｂが、後代に至って主流になるほとんど口縁部に成形を加えないタイプのものに連続する事を示していると思われる。この他土師器では大型の鉢が２個体分出土している点や、製塩土器の比率が比較的高い点、また炭化材も混入している点も注意される。これらは土器群全体の用途・性格を示すものとみられるが、現時点では祭祀に関わる器物の廃棄土坑と考え得るに止まる。陶器類はほとんどないが、灰釉陶器椀片は黒笹90号窯式期のものと思われ、土師器に若干の形式幅は窺われるものの前Ⅱ期の終わりから中期にかけてのものが主体となる。

ＳＫ7030は最も多量の遺物を出土しているが、やはり土師器の杯・皿類が中心となる。出土破片数が多いため現在集計していないが、今後データを整理したい。器種としては前代からの杯Ａ、杯Ｂに加え、薄手の器壁で底部から口縁にかけて内弯する体部を持ち、口縁部はヨコナデされてゆるやかに外反するタイプのものがある。杯Ａと杯Ｂの形質を受け継いでおり、杯Ｃとして分離できると考える。杯Ｃは口径13cm～14cmを中心とする中型のタイプと15cmを越える

大型のタイプに分けられる。また、杯Ｂにも底部が丸く半球状に成形されるもの杯Ｂ′（133・134・145・207・208)がみられるようになる。皿はほとんどみられず、若干の皿Ｂの破片が散見されるに止まる。なお、ＳＫ7030では遺構に50cmメッシュを設定して分割し、またブロック状のものを区分して取り上げた。この中では(103～108)が重ねられた状況で出土している。廃棄の１単位としては口径12.8cm～14.5cmの杯Ａ、杯Ｂ、杯Ｃを含み、器種の区別はない。遺物の時期は、土師器類の形状や僅かに共伴する灰釉陶器の椀片が折戸53号窯式期のものとみられる点から平安中期のものと判断できるが、先述のＳＫ7017の土器群とは若干の時期差が窺われる。

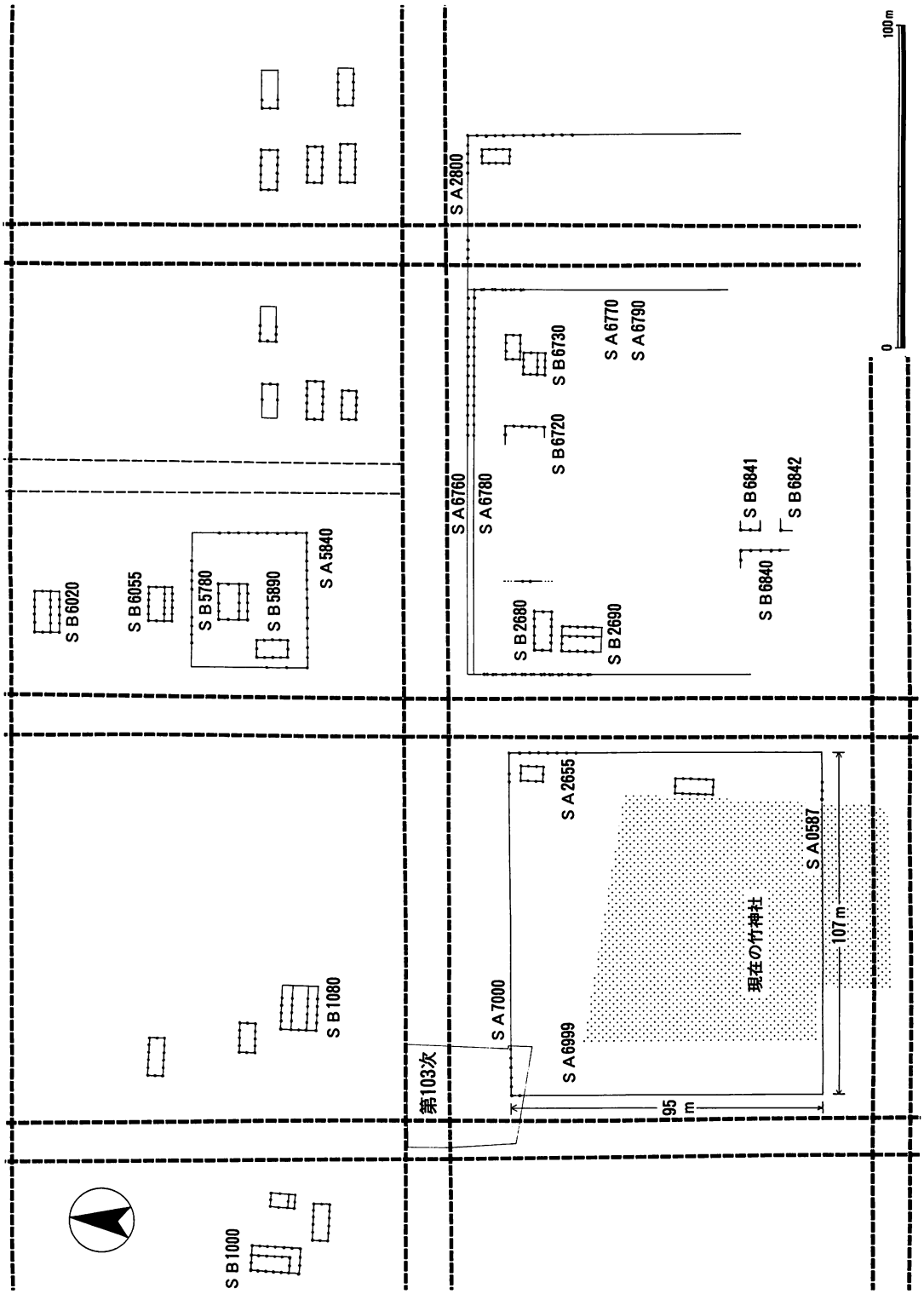
ＳＫ7040から出土した遺物も破片数で99％が土師器であり、その９割以上が杯・皿類である。須恵器や灰釉陶器はそれぞれ１％にも満たない。ほぼＳＫ7030と共通した性格が窺われるが、製塩土器の比率は低い。炭化材片は僅かだが出土している。土師器杯と皿の比率は６：４で、杯類はＡ類、Ｂ類、Ｃ類とＣ類から派生するとみられる皿との識別が困難なタイプ(261～265など）がある。器種ごとの発現率をみるとＡ類約14％、Ｂ類約20％、Ｃ類約65％となる。最終的にはＣ類の系譜のものが後期の杯・皿類に変化するものとみられる。皿類はＡ類、Ｂ類に加えて口縁部と底部の境がなく、口縁部は軽くヨコナデするのみで屈曲が全く見られない円盤状になるまで成形や調整を省略したものが含まれ(272～277)、Ｃ類として分離する。皿類の発現率をみるとＡ類10％、Ｂ類36％、Ｃ類54％ほどになる。皿Ｃ類は口径12cm～14cmあるが、これが退化して、平安時代的な土師器皿は終束する。ロクロ土師器は含まれていない点からＳＫ7040は中期に属するものと判断できるが、ＳＫ7030との比較を試みると、第33図に示した通り、多数を占める杯Ｃ類は口径が僅かに縮小傾向にあり、杯Ｂ′がＳＫ7040では杯Ｃに収束していく点も看取できると考える。これらの点からこの二つの土器群の間には中期の中でもＳＫ7030→ＳＫ7040の若干の時期差が想定される。

その他特殊遺物に、黒色土器片２点、判読不能な墨書土器片４点、朱の付着した陶器片５点、転用硯片３点、製塩土器片約110点、白磁片３点、青白磁片１点、青磁片１点がある。

４．まとめ

史跡東部に想定されている平安時代前半を中心とする方格地割内において、これまでの調査成果から中枢部の候補に挙げられてきた地点での調査だったが、ＳＦ6990・ＳＦ7010という道路の状況を明らかにし、また、この区画道路の内側に大型の柵列ＳＡ6999とＳＡ7000や、平安時代前期から後期（９世紀～11世紀代）にかけて、多数の掘立柱建物が幾度にもわたる建て替えを経ながら存続していた様子が確かめられるなど多大な収穫をあげる事ができた。

東西道路については、南北両側溝を他の遺構と重複なく明瞭に検出する事ができたため、道路幅が溝心々間から約13.3ｍ、45尺という規格が看取された。また、この道路が平安時代後期(11世紀後葉）まで幅員を縮小させながら存続し、現農道にまで遺制をとどめている事も明ら



第34図　周辺主要遺構分布図（1：2,000）

かにする事ができた。

しかし、今回の調査で最も大きな成果は大型の柵列の確認だろう。柱間約３ｍを測る柵列による区画は、これまでの調査においても重要と考えられる地区のみに見られたものである。第103次調査地を含む方形区画内での調査は、第10次・第44次など僅かな例を数えるのみだが、これらの成果とあわせて区画の規模を検討すると、東西柵列ＳＡ7000は第10次の２個の柱穴を経て、第44次調査の南北柵列ＳＡ2655に続くものとみられる。ＳＡ2655に接続した後、南下して西折し、再び第10次調査区内でＳＡ0587の３個の柱穴に続くと推定される。このように考えるとこの大型柵列が囲繞する方形区画の規模は、東西延長で約107ｍで、これは0.296ｍを１尺と取ると360尺＝36間のものになる。南北方向は約95ｍを測るが、尺単位ではおよそ321尺と明快に10尺等間では割り切れず、東門が存在する可能性も想定しなければならない。なお、この区画の北辺ＳＡ7000は、東接する鍛冶山地区の柵列ＳＡ6780より約11ｍ南に下がっており、やや小規模な区画であると考えられるが、こうして想定された区画は、現在の竹神社の敷地を囲むようにある事は注意されるべき点である。式内社竹神社は明治44年に史跡西部の中垣内地区から、当地にあった斎宮神社（旧野々宮神社）を合祀してここに鎮座したもので、当地には明治以前から郷社等があった事が知られ、また、『勢陽雑記』には、野呂三郎が弘治元(1555)年の徳政一揆の際に拠った斎宮城があったという伝承がある。いずれにしても近世の参宮街道沿いの立地でありながら、社殿地などとして近代まで空閑地のまま遺存してきており、推測の域を出ないが、地元でもこの地を特別視するような慣習があったとも考えられる。

次に、東隣の区画と比較すると、第44次・第98次調査区には平安時代後期の遺構・遺物はほとんどみられず、この時期の掘立柱建物10棟や区画溝などを検出した当調査地とは歴然とした差がある事が分かる。こうした差異が何に起因するのかは今のところ明らかではないが、方格地割内において、大規模な柵列を造営する重要区画の中でも、存続時期に差がみられる点は、斎宮寮の構造を考える上でも大きな問題を内包していると言えよう。

遺物の上では平安時代前Ⅱ期から中期にかけての土器溜まりが検出された。当該期は斎宮においても古代的な有り方から中世的なそれに変わる大きな変換点であり、平安時代後期の土器様式の重要な構成要素である椀器形やロクロ土師器類の発生期である。今回はこの時期の土師器の変遷について若干の観察を述べるに止まったが、これらの資料を充分に咀嚼できたとは言い難い。別の機会を待って幅広い評価を試みたい。

以上のように第103次調査は多大な成果と課題を残したと言える。先述したように、当区画の調査はまだ縁辺の一部で実施されたにすぎず、竹神社社殿地など、中心部分は全く解明されていない。しかしながら、史跡斎宮跡の実態解明と史跡整備の重要ポイントとしてこの地の評価を高める上で第103次調査の果たした役割も極めて大きいと言えるだろう。　（大川勝宏）

Ⅵ.　第 104 次 調 査

6ＡＧＴ（笛川地区）

1．はじめに

平成４年度の第96-５次調査で発見された八脚門ＳＢ6850と柵列ＳＡ6849によって、史跡東半に広がっていたとされる方格地割の東西の幅が最大で７区画分におよぶとともに、その南端がほぼ確定したと考えられる。

ＳＢ6850は現在明らかになっている最も南西の方形区画の南面中央の正門と考えられるが、これまでの調査では、この方格地割の南辺地域において他の区画施設や門に係わるとみられる遺構は明確にはなっていない。また、八脚門の持つ格式から考えて、方格地割の中でこれが存する区画とそうでない区画では、おのずと格差や機能差が想定され得る。

第104次発掘調査は今年度最後の計画調査として、こうした門と、それに取りつく柵列等の区画施設が方格地割南面の各区画に普遍的に存在するかどうかを確認する事を目的として、史跡東南端の区画南辺中央付近に調査区を設定し、平成６年１月31日から３月25日まで350㎡を対象に実施した。

現況の地目は水田で、すぐ南を昭和54年度の圃場整備で作られた東西方向の農道と、その両側側溝が走っている。調査地の標高は現地表面で９ｍ～9.3ｍである。周辺での調査はこれまではほとんど実施されておらず、史跡範囲確認のための第9-7次トレンチ調査が実施され、東西方向の溝などが検出されたにとどまる。

第35図　調査区位置図（１：2,000）

現地表面から表土と水田床土を約50cmほど掘削した段階で、亜円礫を含む黄褐色の洪積層面（地山面）が現れ、これを遺構面として捉えた。遺構面の標高は8.6m～8.7mほどで大きな起伏差はない。

2．遺　構

調査区は推定される方格地割の東南端の区画の東西正中線が通る地点に設定したが、門や区画施設あるいは建物跡などは確認することができなかった。今回見つかった遺構としては、井戸３基、溝５条、土坑１基と樹木の根の痕跡とみられる不定形の小穴が散在するのみだった。

（１）平安時代前期の遺構

井戸ＳＥ7060を発見した。長径で約2.4m、短径で約1.8mの楕円形の掘形を持つ素掘りの井戸で、地下水の影響か、深さが約１mのあたりで壁面の一部が横へ水平に抉れていた。規模が小さく、壁面の崩落の恐れがあるため、遺構面から3.1mほどで掘削を中断した。ここまでの埋土は黒色土と黄灰色砂の互層で、この遺構上部埋土層から斎宮編年で平安時代前Ⅱ期～中期の土器類が多量に出土した。井戸の掘削時期も９世紀の中頃以前に比定できるとみられる。

（２）鎌倉時代後期の遺構

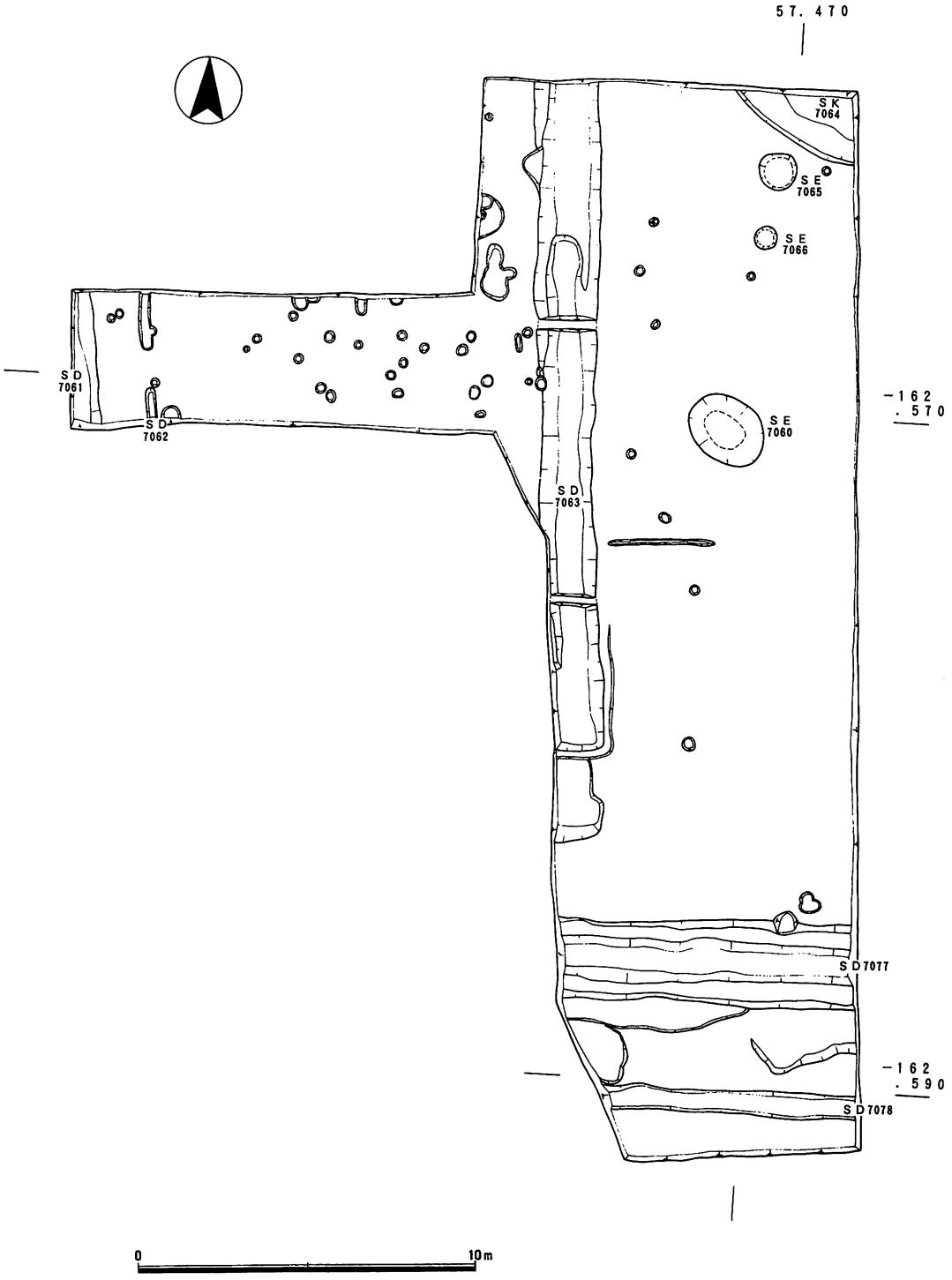
井戸ＳＥ7065とＳＥ7066がある。両者とも調査区の北部に２mほどの距離で隣接して掘削されており、ＳＥ7065が直径約1.1m、ＳＥ7066が直径約0.7mと小規模なものである。井戸枠等の施設は認められなかった。これらも作業の安全上からＳＥ7065は遺構面から２m、ＳＥ7066は1.6mほどで掘削を中断した。それぞれ黒褐色の埋土から13世紀後葉のものとみられる土師器皿、鍋片などが出土しており、遺物の上から両者の時期差は判断できない。かなり近接した時間幅の中で掘削、廃棄されたものとみられる。

（３）室町時代後期～江戸時代の遺構

溝５条、土坑１基がある。調査区北東隅で発見されたＳＫ7064は深さ40cmのすり鉢状で、埋

	遺構の種別		
	ＳＫ	ＳＤ	ＳＥ
平安時代			７０６０
鎌倉時代			７０６５　７０６６
室町時代以降	７０６４	７０６１　７０６２　７０６３ ７０７７　７０７８	

第８表　時期別遺構分類表



第36図　遺構実測図（1：200）

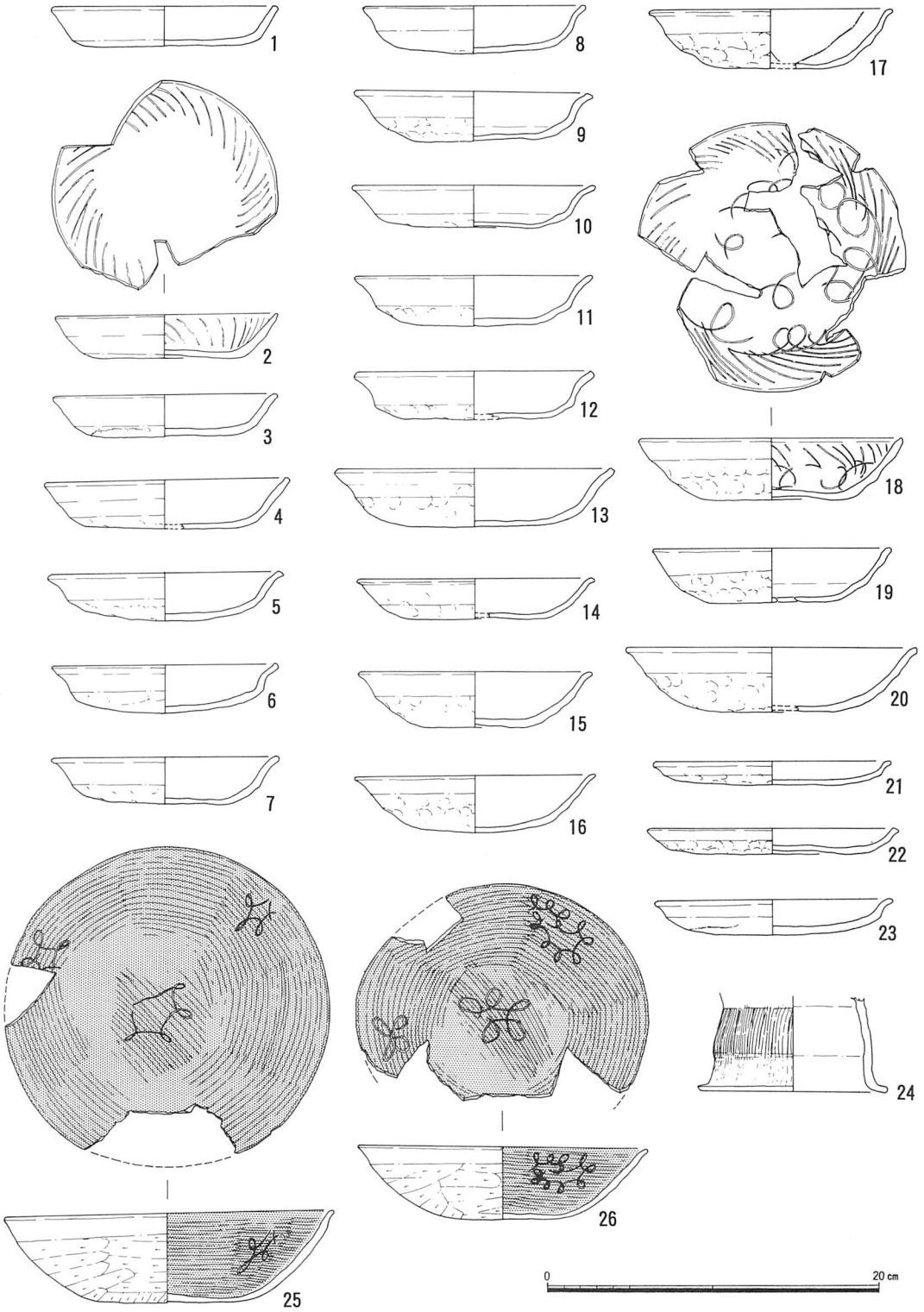
土は一部鉄分の沈着のみられる黄色あるいは灰色のシルト質土壌である。近世以後の溝の肩部である可能性もある。

調査区の西端の南北溝ＳＤ7061は東肩部のみ検出されたに止まるが、溝壁は遺構面から深さ約70cmまで約65°の傾斜で落ち込む。断面逆台形状の溝であろう。径３cm～５cmの円礫を多量に含む黒褐色の埋土からは16世紀後葉以降の土師器皿・鍋や陶器片が狭小な検出範囲にかかわらず多量に出土している。その東側のＳＤ7062は深さ10cmほどしか残存していないが同時期の土師器細片が出土している。南北溝ＳＤ7063は幅1.4m、遺構面からの深さは40cm程だが、調査区内で検出された長さ約20mの間で、溝底高は北から南まで約8.3mとほとんど差がない。出土遺物には16世紀後葉の土師器皿・鍋の他、鎌倉時代の土師器片、平安時代の土器なども同一調査区内では比較的多量に混入している。また、検出された溝南端は調査区の西へほぼ直角に折れて続く事が確かめられたが、西へ13m離れたＳＤ7061と合流する可能性が高い。中世末期から近世初頭にかけての旧参宮街道沿いの屋敷地の区画を構成する溝と考えられる。ＳＤ7063の屈曲部分付近からは、土師器の把手付茶釜と羽釜が並んで正置された状態で出土している。17世紀には入るものとみられるが、遺構掘形は明確にできなかったものの、溝埋土中に土坑状に掘り込んで埋められたものと考えられる。

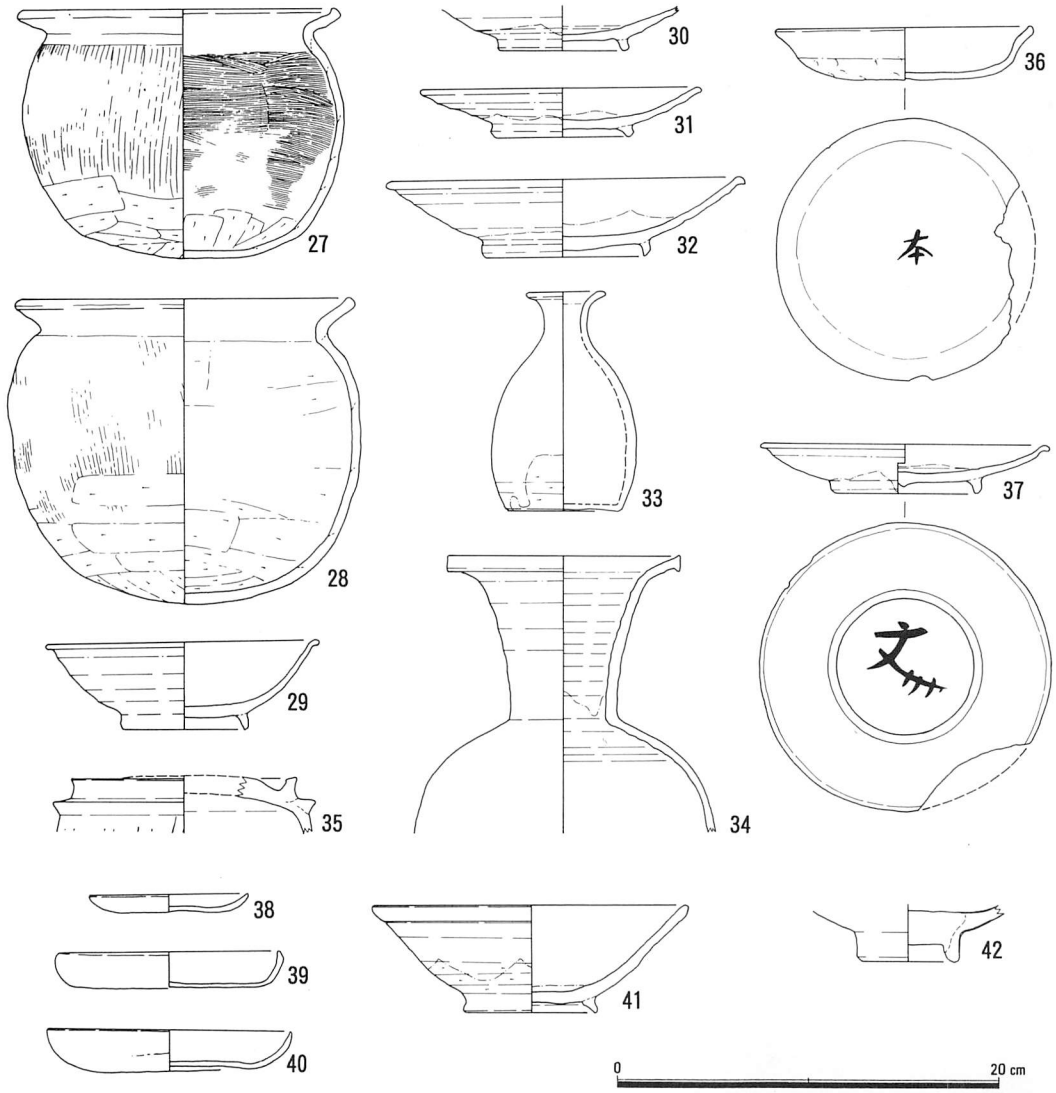
調査区南部では２条の東西溝が見つかっている。ＳＤ7067は幅約2.6m、遺構面からの深さ約80cmの溝で溝底の標高は7.9mで調査区内での高低差はない。深さ約30cmで南北両側に段を作り、数次にわたり掘削された形跡と考えられる。径３cm～20cmの円礫や砂質を多量に含み、自然木片もわずかにみられる。埋土上層からは近世後期以後のものとみられる土師器ほうろくが出土している。逆Ｌ字に折れたＳＤ7063との間に幅約５mの道路を形成する可能性がある。ＳＤ7068は幅80cmの断面逆台形状の溝で、溝底の標高8.3m～8.4mで西から東へ非常にゆるやかに傾斜している。

３．遺　物

全体に遺物の出土量は少ない。調査地が水田に造成されていたために地盤が均平されたと考えられ、特に包含層からの出土が極めて少ない。この中では質・量的に際立つ平安時代の井戸ＳＥ7060からの出土品を中心に概述したい。ＳＥ7060出土遺物は先に述べたように完掘しておらず、遺構の掘削時期を示す物とは考えられない。種別としては土師器杯・皿・鍋・台付杯・甑・竈片、黒色土器Ａ類の杯、灰釉陶器椀・皿・段皿・小瓶・長頸壺、須恵器円面硯・甕・高杯・杯・盤・壺片や製塩土器片がある。遺物量は整理箱で８箱になる。これらの破片数での割合を示したのが第９表である。約90％を占める土師器の内、杯・皿などの供膳形態の物と甕・甑等の煮沸形態の物はほぼ半々になる。須恵器約５％、灰釉陶器約３％の割合は一般的な傾向と言える。土師器杯類をみると杯Ａ類と杯Ｂ類があるが、杯Ａ類には口縁部が底部から強く屈

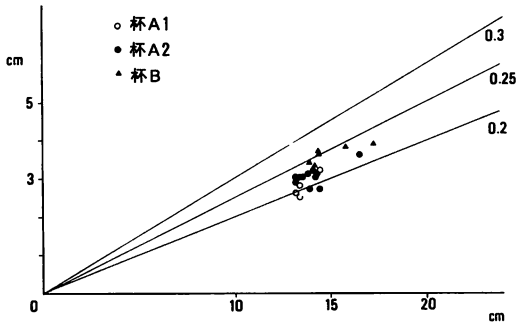


第37図　出土遺物実測図　ＳＥ7060



第38図　出土遺物実測図　ＳＥ7060：27～37，ＳＥ7065：38～40，ＳＤ7063：41，包含層：42

曲して比較的真っ直ぐのびるもの（杯Ａ１類：１～４）と強いヨコナデのため口縁部が外反して屈曲するもの（杯Ａ２類：５～14）がある。杯Ａ１類は平均で口径13.3cm、器高2.6cmの中型品と、口径14.5cm、器高3.2cmの大型品が、杯Ａ２類は器高13.9cm、器高2.9cmの中型品と、口径16.6cm、器高3.6cmの大型品がある。杯Ｂ（15～20）には口径14.3cm、器高約3.5cmの中型品の他、口径が15cmを越える大型品がある。暗文は杯Ｂにのみ見られるが、放射状暗文や退化した螺旋状暗文が施される。土師器杯類などからＳＫ2650にほぼ併行する段階のものと考えられる。黒色土器はＡ類の杯（25・26）があり、いずれも外面をヘラケズリし、内面はヘラミガキの後、雑な螺旋状暗文を施す。残存状態は良好である。須恵器では円面硯（35）が出土しているが、



第39図　ＳＥ7060出土土師器杯径高比

器種			破片数	器種別比率(%)	類別比率(%)
土師器	杯・皿・高杯類		346	44.35	89.35
	壺・鉢類		1	0.13	
	甕・瓶・竈類		331	42.43	
	製塩土器		19	2.44	
黒色土器	A類	杯・椀類	16	2.05	2.05
須恵器	杯・盤・高杯類		7	0.90	5.39
	壺・甕類		34	4.36	
	硯類		1	0.13	
灰釉陶器	椀・皿類		23	2.95	3.21
	壺・瓶類		2	0.26	
総計			780	100.00	100.00

第９表　ＳＥ7060出土土器構成

混入品であろう。灰釉陶器では椀９片に対し皿類が14片と多い。釉はハケ塗りのものとツケガケのものが混在し、形式からみると黒笹90号窯式期から折戸53号窯式期にかけてのものが含まれる。壺（34）は白色の胎土で薄い器壁を持ち、透明な灰釉が均等にかかる良品である。完形で出土した小瓶（33）は灰緑色の自然釉が肩から流れ、弱い肩の張りから折戸53号窯式期に相当すると考えられる。墨書土器は５点あるが、文字が判読できるものは２点のみである。（36）は土師器杯Ａ２類の底面に「本」と墨書される。灰釉陶器皿（37）は不明瞭だが、底面に「文」と筆揃えの痕跡が重複するものとみておきたい。「文」は第58-1次調査の黒色土器の例があり、書体も類似する。以上ＳＥ7060出土遺物は、遺構埋土上層にまとまって投棄された一群と考えられ、若干の形式差があるが、９世紀末葉に主体を持ち、10世紀初頭までに埋没したものとみられる。

ＳＤ7063出土の灰釉陶器椀（41）は混入品で、口縁部をやや肥厚させ外面に沈線をひき、白磁椀を模倣した形態のものである。ツケガケの釉は明灰白色を呈し、内側がやや内弯した三角形の高台をつけ、見込み部に重ね焼き痕が残る。系譜は明確ではないが、直線的にのびる体部や施釉から平安時代後期以後の東濃系のものと考えられる。

鎌倉時代のＳＥ7065・7066からは土師器皿や鍋の破片が出土している。皿は口径13cm～14cmで、ほぼ完形で８個ほど出土している。鍋は小片が多いが、口縁部の形状などから伊藤裕偉氏

分類[注]の２段階ｂ型式～ｃ形式に相当するとみられ、13世紀後葉～14世紀初頭に位置付けられるものと考える。なお先述したように、この両者間の時期差はほとんどないものとみられ、前後関係は明らかではない。

特殊遺物とされるものの出土は少なく、青磁片５点、青白磁片１点があり、緑釉陶器はみられなかった。また、ＳＥ7060などから製塩土器片が約20片出土した。

４．まとめ

八脚門と柵列の検出が期待された第104次調査だったが、これらの遺構は確認する事ができなかった。しかしながら平安時代の井戸ＳＥ7060が検出され、その他の遺構からも混入の形で平安時代前期の遺物は散見される。こうした点からみれば例え後世の削平があったとしても、周辺に当該期の建物等の遺構が分布していた可能性も残されたと言える。また周辺の調査例が僅少なため、この付近では方形区画を構成する遺構は明確には確認されていないが、ＳＥ7060は推定される区画の東西のほぼ正中線に乗る位置にある。方格地割東南の区画の状況は他の区画とは異なった様相を呈する可能性も想定される。

次に調査区南端ＳＤ7067についてみると、調査区内での方向はＥ１°Ｎであり、東西方向にはほとんど振れがなく、南の現農道の北側溝排水路の部分との間に溝肩間で約６ｍ程の東西道路が想定されうる。また、同様に農道南側溝の部分まで延長して考えると幅約12ｍほどの道路も想定できる。これらはいずれも仮定であり、比較分析するデータに欠けるが、ＳＤ7067が方格地割の南限道路に規制されている可能性もまた残されている。振り返って先の第96-5次調査の八脚門ＳＢ6850周辺を見ると、第70-3次調査での柵列ＳＡ5110の西側約７ｍの未命名の南北溝や、ＳＡ6849の南の平安時代初期の東西溝ＳＤ5108、鎌倉時代の東西溝とされる第81-3次調査のＳＤ5962、ＳＤ5963などが平安時代斎宮寮を囲繞する道路側溝あるいはそれを踏襲する溝である可能性がある。しかし、現状ではこれらもまた、その連続などが確認されておらず、いずれも可能性の域を出ていない。今回の第104次調査も斎宮寮南限の状況を考える上での材料は提供したものの、古代官衙において重要な南面の状況は今後の地道な調査の蓄積に期待するところが依然大きいと言わざるを得ない。

（大川勝宏）

注）　伊藤裕偉「中世南伊勢系の土師器に関する一試論」『Mie history』Vol. 1　1990

掘立柱建物・柵列一覧表

遺構番号	規模	棟方向	桁行（m）	梁行（m）	柱間寸法（m） 桁行	柱間寸法（m） 梁行	時期	備考
第99次調査（6ADN）								
SB0251	3×2	N4°W	5.70	4.00	1.90	2.00	平安初	
SB6915	(1)×2	E2°N	(2.40)	3.60	2.40	1.80	平安前Ⅱ	南庇出2.0m
SB6918	5×2	N4°W	10.50	4.80	2.10	2.40	平安中	
SB6922	4×2	N9°W	8.00	4.00	2.00	2.00	〃	
SB6914	(4)×2	E5°N	(8.40)	3.80	2.10	1.90	平安後Ⅱ	5間×2間か
SB6921	4×2	E5°W	8.40	4.00	2.10	2.00	〃	
SB6923	3×2	N4°W	6.00	4.00	2.00	2.00	〃	東庇出2.1m
SB6924	3×2	N5°W	6.60	4.80	2.20	2.40	〃	
SB6860	(2)×−	N1°W	(4.40)	−	2.20	−	平安末	
SB6861	(2)×(1)	N8°W	(4.20)	(1.90)	2.10	1.90	〃	
SB6862	(2)×−	N1°W	(4.20)	−	2.10	−	〃	
SB6864	(3)×2	N5°W	(6.30)	4.00	2.10	2.00	〃	4間×2間か
SB6865	(3)×2	N3°W	(6.30)	4.20	2.10	2.10	〃	4間×2間か　SB6891より古
SB6866	4×2	N7°W	8.00	4.00	2.00	2.00	〃	
SB6867	(3)×2	N5°W	(6.45)	4.30	2.15	2.15	〃	4間×2間か
SB6868	4×2	N4°W	8.00	4.40	2.00	2.20	〃	SB6884・6910より古
SB6869	(3)×2	N5°W	(6.00)	3.80	2.00	1.90	〃	4間×2間か
SB6873	(2)×(1)	N7°W	(4.20)	(2.10)	2.10	2.10	〃	
SB6874	4×(1)	N3°W	8.60	(2.00)	2.15	2.00	〃	
SB6875	4×2	N5°W	8.60	3.80	2.15	1.90	〃	
SB6878	4×2	N4°W	8.60	4.00	2.15	2.00	〃	
SB6879	4×2	N2°W	8.00	4.00	2.00	2.00	〃	SB6867より古
SB6883	(3)×2	N6°W	(6.30)	4.20	2.10	2.10	〃	4間×2間か
SB6884	4×2	N5°W	8.40	4.20	2.10	2.10	〃	
SB6885	(3)×2	N8°W	(6.30)	4.20	2.10	2.10	〃	4間×2間か
SB6886	4×2	N5°W	8.40	3.80	2.10	1.90	〃	
SB6887	(2)×2	N5°W	(4.20)	3.80	2.10	1.90	〃	
SB6888	(3)×2	N6°W	(6.00)	4.00	2.00	2.00	〃	4間×2間か　SB6887より古
SB6889	5×2	N5°W	10.50	4.20	2.10	2.10	〃	SB6885より古
SB6890	4×2	N4°W	8.00	3.60	2.00	1.80	〃	SB6883より古
SB6891	4×2	N7°W	8.00	4.00	2.00	2.00	〃	
SB6892	4×2	N7°W	8.00	3.80	2.00	1.90	〃	
SB6897	4×−	N4°W	8.00	−	2.00	−	〃	4間×2間か　SB6886より古
SB6898	(3)×(1)	N5°W	(6.30)	1.90	2.10	1.90	〃	4間×2間か
SB6899	4×−	N7°W	8.00	4.20	2.00	2.10	〃	SB6891より古
SB6908	3×2	E5°N	6.00	4.20	2.00	2.10	〃	北庇出2.1m　SB6866・6874より古
SB6909	4×−	N5°W	8.20	−	2.05	−	〃	
SB6910	4×2	N6°W	7.60	4.00	1.90	2.00	〃	SB6883より古
SB6911	4×2	N5°W	8.00	4.00	2.00	2.00	〃	SB6867・6869・6875・6878・6912より古
SB6912	4×2	N4°W	10.25	4.20	2.05	2.10	〃	SB6867・6869より古
SB6913	(2)×3	E5°N	(3.60)	6.00	1.80	2.00	〃	
SA6863	(9)	N5°W	(23.40)		2.60		〃	9間分検出・柱間不揃
SB6928	(2)×2	N8°W	(3.60)	4.20	1.80	2.10	不明	

遺構番号	規模	棟方向	桁行(m)	梁行(m)	柱間寸法(m) 桁行	柱間寸法(m) 梁行	時期	備考
第100次調査（6ABI－T）								
SB6950	(1)×－	E5°N	(2.4)	－	2.4	－	奈良前期	南北棟の可能性有り
6951	(2)×(1)	E5°N	(4.2)	(2.4)	2.1	2.4	〃	SA6941より古
6952	－×2	N0°S	－	4.2	－	2.1	〃	
6953	－×2	N0°S	－	4.6	－	2.3	〃	
6954	(1)×(1)	E0°W	(2.4)	(2.4)	2.4	2.4	〃	南北棟の可能性有り
6955	(1)×－	E0°W	(2.2)	－	2.2	－	〃	南北棟の可能性有り
6956	(1)×(1)	N0°S	(2.1)	(2.1)	2.1	2.1	〃	東西棟の可能性有り
6957	(1)×(1)	N2°W	(2.7)	(2.7)	2.7	2.7	〃	東西棟の可能性有り
SA6940	(10)	E0°W	(21.6)		2.1		〃	10間分検出
6941	(9)	E0°W	(19.3)		2.1		〃	9間分検出　SA6940より新
6942	(9)	E0°W	(22.3)		2.4		〃	9間分検出　SA6941より新
6943	(4)	E0°W	(10.8)		2.7		〃	4間分検出　SA6942より新
第103次調査（6AEQ－A）								
SA6999	(1)	N4°W	(2.97?)		2.97?		平安初	
SA7000	(5)	E4°N	(14.85)		2.97		〃	
SB7050	－×(1)	E4°N	－	(2.10)	－	2.10	平安前Ⅰ	
SB7020	(4)×2	E4°W	12.00	4.80	2.40	2.40	平安前Ⅱ	5間×2間か
SB7024	5×2	N4°W	12.25	4.80	2.45	2.40	〃	
SB7033	(2)×2	E4°N	(4.00)	4.20	2.00	2.10	〃	3間×2間か・北と西に雨落溝
SB7047	(1)×－	E4°N	(2.40)	－	2.40	－	〃	SB7049と同一か
SB7049	(2)×－	E4°N	(4.80)	－	2.40	－	〃	SB7047と同一か
SA7016	(6)	N4°W	(12.30)		20.50		〃	
SB7018	(4)×2	E4°N	(10.80)	4.80	2.70	2.40	平安中	5間×2間か
SB7019	5×2	N4°W	9.75	4.80	1.95	2.40	〃	東庇出2.1m　SB7021より古
SB7021	3×2	E2°N	6.20	3.40	2.10	1.70	〃	南庇出1.2m
SB7023	5×2	E4°N	10.25	4.40	2.05	2.20	〃	
SB7025	5×2	N4°W	12.25	4.80	2.45	2.40	〃	SB7023・7028より古
SB7028	5×2	N4°W	10.00	4.40	2.00	2.20	〃	
SB7022	5×2	E3°N	10.00	3.80	2.00	1.90	平安後Ⅰ	
SB7026	3×2	E3°N	6.30	4.00	2.10	2.00	〃	
SB7027	2×2	N4°W	3.80	4.00	1.90	2.00	〃	総柱建物
SB7037	4×3	N2°W	7.20	5.40	1.80	1.80	〃	南庇出2.0m・桁3間分　総柱建物 SB7027より古
SB7038	2×2	N4°W	3.80	4.00	1.90	2.00	〃	総柱建物
SB7041	4×(2)	E2°S	8.00	(3.60)	2.00	1.80	〃	総柱建物
SB7042	(3)×2	E4°N	(7.20)	5.00	2.40	2.50	〃	
SB7043	(3)×2	E4°N	(6.20)	5.00	2.00	2.50	〃	SB7042より古
SB7044	4×2	E4°N	7.60	5.00	1.90	2.50	〃	SB7041より古
SB7048	(1)×2	N4°W	(2.10)	4.20	2.10	2.10	平安後Ⅱ	総柱建物

竪穴住居一覧表

遺構番号	規模(m)	長軸方向	深さ(cm)	柱穴	カマド	時期	備考
第103次調査（6AEQ－A）							
SB7045	(4)×－	不明	40	－	－	奈良後期	

遺物（土器）観察表

第99次調査

No.	出土遺構	器種	法量	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録番号
1	SE6920 下層	土師器 壺？	(底径) 9.9cm (残高) 5.5cm	口縁部ナデ、体部ケズリ	緻密	良好	内：橙 5YR7/6 外：橙 2.5YR6/6	底部の2/3	器表面の磨耗著しい	R 99
2	SE6920 上層下部	土師器 皿	(口径)14.3cm (器高) 1.8cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：橙 7.5YR7/6 外：〃 〃	約60%		R 53
3	SE6920 上層下部	土師器 椀	(口径)12.4cm (器高) 3.9cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	微細な砂粒含むが密	良好	内：にごった明黄褐 10YR6/6 外：〃 〃	約50%		R 54
4	SE6920 上層下部	土師器 椀	(口径)12.6cm (器高) 3.7cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：にぶい橙 7.5YR7/3 外：〃 〃	約70%		R 27
5	SE6920 上層下部	土師器 杯	(口径)13.0cm (器高) 3.0cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	やや微細砂多いが密	良好	内：浅黄橙 7.5YR8/3 外：〃 〃	約60%		R 28
6	SE6920 上層下部	土師器 杯	(口径)15.2cm (器高) 2.9cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：橙 5YR6/8 外：〃 〃	約50%		R 22
7	SE6920 上層下部	土師器 杯	(口径)15.8cm (器高) 3.4cm	口縁部ヨコナデ、体部ていねいなナデ・オサエ	緻密	良好	内：橙 5YR6/8 外：〃 〃	約60%		R 25
8	SE6920 上層下部	土師器 杯	(口径)14.0cm (器高) 3.3cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：橙 2.5YR6/8 外：〃 〃	約50%		R 50
9	SE6920 上層下部	土師器 杯	(口径)14.2cm (器高) 3.9cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：橙 5YR6/8 外：浅黄橙 10YR8/4	約40%	器表面剝離すすむ	R 51
10	SE6920 上層下部	土師器 杯	(口径)13.8cm (器高) 2.9cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：橙 5YR6/8 外：〃 〃	約50%		R 26
11	SE6920 上層下部	土師器 杯	(口径)19.6cm (器高) 5.5cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：明赤褐 5YR5/8 外：〃 〃	約40%	内面に放射状暗文、螺旋暗文施す	R 30
12	SE6920 上層下部	土師器 杯	(口径)21.6cm (器高) 5.5cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：橙 5YR6/6 外：〃 〃	約30%	内面に放射状暗文施す	R 31
13	SE6920 上層下部	土師器 杯	(口径)18.5cm (器高) 5.3cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ（一部指頭圧痕残る）	緻密	良好	内：橙 7.5YR6/6 外：〃 〃	約40%		R 29
14	SE6920 上層下部	土師器 甕	(口径)13.8cm (器高) 9.0cm	口縁部ヨコナデ、体部外面タテハケ、底部ナデ、内面ナデ	微細な砂粒を多量に含む	良好	内：にぶい橙 7.5YR7/4 外：浅黄 2.5YR7/3	約50%	内外面とも炭化物付着	R 34
15	SE6920 上層下部	灰釉陶器 椀	(口径)16.1cm (台径) 7.2cm (器高) 5.5cm	口縁部ヨコナデ、体部内外面ロクロナデ、底部付近ナデ	径1mm～5mmの砂粒も混入するが密	良好	内：灰オリーブ 5Y6/2 外：〃 〃	約60%	内面にのみハケヌリの灰釉のこる	R 47
16	SE6920 上層下部	土師器 鉢	(口径)29.7cm (器高)11.8cm	口縁部ヨコナデ、体部内外面板ナデ	密	良好	内：黄橙 10YR8/6 外：〃 〃	約60%		R 73
17	SE6920 上層上部	土師器 皿	(口径)14.7cm (器高) 1.6cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：明赤褐 5YR5/8 外：〃 〃	約90%		R 14
18	SE6920 上層上部	土師器 皿	(口径)14.4cm (器高) 1.4cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：橙 5YR7/6 外：〃 〃	完存		R 17
19	SE6920 上層上部	土師器 皿	(口径)15.4cm (器高) 1.5cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：明赤褐 5YR5/8 外：〃 〃	約50%		R 20
20	SE6920 上層上部	土師器 皿	(口径)15.8cm (器高) 1.7cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：橙 7.5YR7/6 外：〃 〃	約50%		R 11
21	SE6920 上層上部	土師器 杯	(口径)12.9cm (器高) 2.8cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密だが、微細な砂粒の混入多くややザラつく	良好	内：にぶい橙 7.5YR7/4 ～黒褐 10YR3/1 外：にぶい橙 7.5YR7/4	約80%		R 36
22	SE6920 上層上部	土師器 杯	(口径)13.6cm (器高) 3.4cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：浅黄橙 7.5YR8/4 外：〃 〃	約80%		R 7
23	SE6920 上層上部	土師器 杯	(口径)14.2cm (器高) 3.7cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：にぶい橙 5YR7/4 外：にぶい橙 7.5YR6/4	約60%	口縁部に黒色物付着	R 40
24	SE6920 上層上部	土師器 杯	(口径)13.7cm (器高) 3.8cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：にぶい黄橙 10YR7/4 外：〃 〃	ほぼ完存	器形のゆがみが大きく、内外面の磨耗が著しい	R 16
25	SE6920 上層上部	土師器 杯	(口径)14.5cm (器高) 3.2cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：橙 5YR7/6 外：〃 〃	約80%	同一方向に連続する爪圧痕(右手中指)あり	R 15
26	SE6920 上層上部	土師器 杯	(口径)15.0cm (器高) 3.3cm	口縁部二段ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密な砂粒が認められるが密	良好	内：にぶい橙 7.5YR7/4 外：〃 〃	約40%		R 57
27	SE6920 上層上部	土師器 杯	(口径)13.9cm (器高) 3.1cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：にぶい橙 7.5YR7/4 外：〃 〃	約90%		R 12
28	SE6920 上層上部	土師器 杯	(口径)13.2cm (器高) 3.1cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：橙 7.5YR6/8 外：〃 〃	約60%	内部に放射状暗文、螺旋暗文が施される	R 18
29	SE6920 上層上部	土師器 杯	(口径)15.5cm (器高) 3.2cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：橙 7.5YR7/6 外：〃 〃	約40%		R 21
30	SE6920 上層上部	土師器 杯	(口径)15.8cm (器高) 4.2cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：明赤褐 2.5YR5/8 外：〃 〃	約40%	内部に螺旋暗文、放射状暗文が施される	R 2

No.	出土遺構	器種	法量	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録番号
31	SE6920 上層上部	土師器 杯	(口径)16.8cm (器高) 4.2cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：にぶい橙 5YR6/4 外：〃 〃	約50%	内部に放射状暗文が施される	R 10
32	SE6920 上層上部	土師器 杯	(口径)18.0cm (器高) 4.3cm	口縁部二段ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：橙 2.5YR6/8 外：〃 〃	約60%		R 70
33	SE6920 上層上部	土師器 杯	(口径)13.6cm (器高) 3.0cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：橙 5YR6/6 外：〃 〃	約70%		R 38
34	SE6920 上層上部	土師器 杯	(口径)14.4cm (器高) 2.9cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：にぶい橙 7.5YR7/4 外：にぶい黄橙 10YR6/4	約40%		R 4
35	SE6920 上層上部	土師器 杯	(口径)13.8cm (器高) 3.1cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：浅黄橙 10YR8/3 外：〃 〃	約50%		R 3
36	SE6920 上層上部	土師器 杯	(口径)13.7cm (器高) 2.9cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：にぶい赤褐 5YR4/4 外：〃 〃	約50%		R 9
37	SE6920 上層上部	土師器 杯	(口径)13.6cm (器高) 3.1cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	微細な砂粒含むが密	良好	内：橙 5YR6/8 外：褐灰 5YR4/1	約90%		R 35
38	SE6920 上層上部	土師器 杯	(口径)13.8cm (器高) 3.5cm	口縁部ヨコナデ、体部比較的丁寧なナデ・オサエ	緻密	良好	内：にぶい黄橙 10YR7/4 外：〃 〃	約80%		R 13
39	SE6920 上層上部	土師器 杯	(口径)14.2cm (器高) 3.3cm	口縁部二段ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：明赤褐 5YR5/8 外：〃 〃	約40%	内面に黒色物付着	R 5
40	SE6920 上層上部	土師器 杯	(口径)14.8cm (残高) 2.9cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：にぶい黄橙 10YR7/4 外：〃 〃	約50%	口縁端部が沈線状にくぼむ	R 55
41	SE6920 上層上部	土師器 杯	(口径)14.4cm (器高) 2.9cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：明赤褐 2.5YR5/6 外：〃 〃	約40%		R 6
42	SE6920 上層上部	土師器 杯	(口径)14.7cm (器高) 3.1cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：橙 5YR7/6 外：〃 〃	約70%		R 1
43	SE6920 上層上部	土師器 杯	(口径)15.7cm (器高) 2.9cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：明赤褐 5YR5/8 外：〃 〃	約60%		R 56
44	SE6920 上層上部	土師器 杯	(口径)15.6cm (器高) 3.4cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：橙 7.5YR6/8 外：〃 〃	約50%		R 23
45	SE6920 上層上部	土師器 杯	(口径)15.8cm (器高) 3.2cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：橙 5YR6/8 外：〃 〃	約30%		R 58
46	SE6920 上層上部	土師器 杯	(口径)16.0cm (器高) 3.0cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：明赤褐 5YR5/8 外：〃 〃	約50%		R 8
47	SE6920 上層上部	黒色土器 杯	(口径)16.2cm (残高) 3.5cm	口縁部ヨコナデ、内外面ヘラミガキ	緻密	良好	内：黒 5Y2/1 外：にぶい褐 7/5YR5/4	約25%	黒色土器A類	R 101
48	SE6920 上層上部	黒色土器 鉢	(口径)15.0cm (器高) 6.0cm	口縁部ヨコナデ、内面ナデ外面ミガキ	密	堅緻	内：黒 5Y2/1 外：橙 5YR6/8	約20%	黒色土器A類	R 103
49	SE6920 上層上部	土師器 盤？	(口径)24.1cm	口縁部ヨコナデ、体部内外面ナデ、底部ナデ	微細砂多くやや粗	良好	内：浅黄橙 10YR8/4 外：〃 〃	杯部ほぼ残存	成形・調整とも雑	R 37
50	SE6920 上層上部	土師器 鉢	(口径)26.6cm (残高) 7.0cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：淡黄 2.5Y8/3 外：	口径の1/5 ～1/6		R 64
51	SE6920 上層上部	土師器 長胴甕	(口径)27.2cm (残高)20.8cm	口縁部ヨコナデ、体部外面タテハケ、内面ヨコ方向板ナデ、タテ方向ヘラケズリ	微細な砂粒含むが密	良好	内：橙 5YR6/6 ～暗灰黄 2.5Y5/2 外：橙 5YR6/6	口径の1/2 全体の30%	外面の一部赤変し黒色物付着	R 49
52	SE6920 上層上部	土師器 甕	(口径)18.4cm (残高)18.8cm	口縁部ヨコナデ、体部内面ヨコハケ、ヘラケズリ、外面タテハケ、ヘラケズリ	微細な砂粒多量に含む	良好	内：にごった浅黄 5Y7/3 外：〃 〃	口径の60% 全体の40%	外面に多量にスス付着	R 52
53	SE6920 上層上部	土師器 甕	(口径)25.0cm (残高) 8.8cm	口縁部ヨコナデ、体部外面タテハケ、内面板ナデ	微細な砂粒含むが密	良好	内：暗灰黄 2.5Y5/2 外：灰黄褐 10YR5/2	口径の1/4	口径部にスス付着	R 66
54	SE6920 上層上部	土師器 甕	(口径)13.8cm (残高) 6.7cm	口縁部ヨコナデ、体部外面タテハケ、内面ヨコハケ	微細な砂粒含むが密	良好	内：暗灰褐 2.5Y4/2 外：にぶい橙 5YR7/4	口径の1/3	二次焼成のため外面赤変	R 65
55	SE6920 上層上部	土師器 甕	(口径)14.4cm (残高) 9.5cm	口縁部ヨコナデ、体部外面タテハケ、内面板ナデ、底部ケズリ	微細な砂粒含むが密	良好	内：にぶい黄褐 10YR5/3 外：〃 〃	約60%		R 63
56	SE6920 上層上部	土師器 甕	(口径)17.0cm (残高) 6.2cm	口縁部ヨコナデ、体部外面タテハケ、内面ヨコハケ	微細な砂粒多量に含むが密	良好	内：にぶい橙 7.5YR7/4 外：〃 〃	口径の1/4	二次焼成のため外面一部赤変	R 62
57	SE6920 上層上部	土師器 長胴甕	(口径)24.8cm (残高)10.3cm	口縁部ヨコナデ、体部外面タテハケ、内面板ナデ	密	良好	内：浅黄 2.5Y7/3 外：橙 7.5YR6/6(ややくすむ)	口径の1/4		R 61
58	SE6920 上層上部	土師器 長胴甕	(口径)27.4cm (残高)37.5cm	口縁部ヨコナデ、体部外面タテハケ、内面ナデ、タテ方向のケズリ、	径1㎜～3㎜の砂粒を多量に含む	良好	内：にぶい黄橙 10YR6/4 外：〃 〃	口径の1/5 全体の30%		R 67
59	SE6920 上層上部	須恵器 杯	(口径)14.2cm (器高) 3.4cm	外面ロクロナデ、底部ケズリ、内面ロクロナデ	密	良好	内：にぶい黄橙 10YR7/2 外：灰黄 2.5Y7/2	約30%	口縁部に一部自然釉転用硯	R 100
60	SE6920 上層上部	灰釉陶器 段皿	(口径)14.0cm (台径) 6.1cm (器高) 2.9cm	口縁部ヨコナデ、内外面ロクロナデ	やや粗い	良好	内：灰白 2.5Y7/1 外：〃 〃	約30%	内面に灰緑色の釉	R 43
61	SE6920 上層上部	灰釉陶器 皿	(口径)15.0cm (台径) 7.5cm (器高) 2.9cm	口縁部ヨコナデ、体部外面ロクロナデ、ケズリ、内面ナデ	密	良好	内：灰 5Y6/1 外：〃 〃	約20%	内面のみ灰釉かかる	R 46
62	SE6920 上層上部	灰釉陶器 皿	(口径)11.4cm (台径) 6.3cm (器高) 3.1cm	口縁部ヨコナデ、体部外面ロクロケズリ、内面ロクロナデ	密	良好	内：灰白 5Y7/1 外：〃 〃	約70%	灰釉ツケガケ	R 48

No.	出土遺構	器種	法量	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録番号
63	SE6920 上層上部	灰釉陶器 椀	(口径)15.6cm (台径) 6.2cm (器高) 5.7cm	口縁部ヨコナデ、内外面ロクロナデ、底部ナデ	微細な砂粒含むが密	良好	体部：灰黄 2.5Y6/2 釉：灰白 7.5Y8/1	約30%	灰釉ハケ塗り	R 59
64	SE6920 上層上部	灰釉陶器 椀	(口径)17.0cm (台径) 5.8cm (器高) 8.2cm	口縁部ヨコナデ、外面ロクロナデ、内面ナデ	緻密	良好	体部：黄褐 2.5Y5/3 釉　：浅黄 5Y7/3	約40%	灰釉ハケ塗り	R 33
65	SE6920 上層上部	灰釉陶器 椀	(口径)15.5cm (台径) 6.8cm (器高) 5.2cm	口縁部ヨコナデ、内面ロクロナデ、外面ロクロナデ、底部ロクロヘラケズリ	砂質多く含むが密	良好	体部：にぶい黄橙 10YR7/3 釉　：淡黄 5Y8/3	約50%	灰釉ツケガケ、底部に「手」あるいは「壬申」の墨書、内面に重ね焼痕	R 72
66	SE6920 上層上部	灰釉陶器 椀	(口径)13.5cm (台径) 6.7cm (器高) 4.8cm	口縁部ヨコナデ、外面ロクロナデ、ロクロケズリ、底部ロクロナデ、内面ナデ	微細な砂粒含むが密	良好	内：浅黄 5Y7/3 外：灰白 7.5Y7/1	約60%	灰釉ハケ塗り	R 32
67	SE6920 上層上部	須恵器 長頸瓶	(残高)20.5cm (底径) 8.0cm	頸部ロクロナデ、体部外面ロクロ水挽き後板ナデ、底部回転糸切痕	密	良好	内：灰 5Y6/1 外：〃 〃	約90%	体部外半面に火がかり痕	R 74
68	SE6920 上層上部	須恵器 鉢？	(口径)22.8cm (残高)12.5cm	口縁部ヨコナデ、内外面ロクロナデ	密	良好	内：灰 7.5Y6/1 外：〃 〃	口径の1/4		R 60
69	SE6920 最上層	土師器 杯	(口径)13.4cm (器高) 3.1cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：橙 5Y6/8 外：〃 〃	約50%		R 39
70	SE6920 最上層	土師器 杯	(口径)16.3cm (器高) 3.9cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・連続的なオサエ	緻密	良好	内：橙 7.5YR7/6 外：にぶい褐 7.5YR6/4	約50%		R 41
71	SE6920 最上層	土師器 杯	(口径)14.6cm (器高) 2.9cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：明黄褐 5YR5/8 外：〃 〃	約50%	底部に成形時のくぼみ	R 19
72	SE6920 最上層	土師器 杯	(口径)16.0cm (器高) 3.2cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：明黄褐 5YR5/8 外：〃 〃	約60%		R 69
73	SE6920 最上層	土師器 皿	(口径)15.6cm (器高) 2.2cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：橙 5YR6/6 外：〃 〃	約50%		R 42
74	SE6920 最上層	土師器 台付杯	(口径)16.2cm (台径) 7.6cm (器高) 4.5cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ、外面ハケ、底部ナデ	緻密	良好	内：橙 5YR6/6 外：灰褐 7.5YR4/2	約40%	底部の高台接合のための乱ヘラ切り痕と体部外面のハケ目残る	R 24
75	SE6920 最上層	黒色土器 杯	(口径)14.4cm (器高) 3.4cm	口縁部ヨコナデ、外面横方向ケズリ、内面ミガキ	緻密	良好	内：黒 5Y2/1 外：淡黄 2.5Y8/3	約20%	黒色土器A類	R 104
76	SE6920 最上層	須恵器 杯	(残高) 2.2cm	内外面ロクロナデ、底部ロクロケズリ	微細な砂粒多いが密	良好	内：ややにごった灰白 7.5Y7/2 外：〃 〃	底部のみ残存	内面に一部自然釉がゴマメ状につく	R 44
77	SE6920 最上層	須恵器 瓶	(口径) 6.3cm (残高) 6.1cm	口縁部ヨコナデ、内外面ロクロナデ	密	良好	内：灰オリーブ 5Y6/2 外：暗赤灰 2.5YR3/1～5/3	口頸部のみ残存		R 45
78	SE6920 最上層	灰釉陶器 小椀	(口径)12.8cm (台径) 6.3cm (器高) 4.2cm	口縁部ヨコナデ、内外面ロクロナデ、底部糸切後ケズリ	密	良好	体部：灰白 7.5Y7/1 釉　：浅黄 5Y7/3	約70%		R 71
79	SE6920 最上層	土師器 鉢	(口径)28.2cm (底径)16.0cm (器高) 9.6cm	口縁部ヨコナデ、体部外面タテハケ、底部横方向ケズリと軽いナデ、内面ナデ	微細な砂粒含むが密	良好	内：にぶい黄橙 10YR7/4 外：〃 〃	約50%		R 68
80	SK6903	土師器 皿	(口径)17.2cm (器高) 2.6cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：にぶい橙 7.5YR7/4 外：〃 〃	約30%	内面にヘラ状工具による線刻	R 83
81	SK6903	土師器 甕	(口径)16.2cm (残高) 6.7cm	口縁部ヨコナデ、体部外面タテハケ、内面ヨコハケ	微細な砂粒含むが密	良好	内：浅黄橙 10YR8/3 外：にぶい橙 5YR6/4	口径の1/2		R 82
82	SK6916	土師器 皿	(口径)17.5cm (器高) 2.6cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：橙 7.5YR6/6 外：〃 〃	約60%		R 86
83	SK6916	土師器 皿	(口径)20.3cm (器高) 2.8cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ	やや砂質多いが密	良好	内：にぶい黄橙 10YR7/3 外：〃 〃 2.5Y3/1	約40%	外面に黒色物付着	R 87
84	SK6916	土師器 甕	(口径)16.1cm (器高)12.9cm	口縁部ヨコナデ、体部外面ナデ、底部ケズリ、内面上半ヨコハケ、下半ケズリ	砂質多量に含む	良好	内：にぶい黄橙 10YR6/3 ～にぶい黄褐 10YR5/3 外：〃 〃	約40%	外面にススト付着	R 88
85	SK6876	土師器 小皿	(口径) 8.5cm (器高) 1.5cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ	砂質多量に含むが密	良好	内：橙 7.5YR7/6 外：〃 〃	約90%	内面にヘラ状工具の当たり痕	R 90
86	SK6876	ロクロ土師器 台付皿	(口径) 9.4cm (台径) 3.0cm (器高) 2.3cm	内外面ロクロナデ、底部回転糸切痕	微細な砂質多量に含む	やや甘い	内：灰白 5Y8/2 外：〃 〃	約90%		R 89
87	SK6905	土師器 小皿	(口径) 9.0cm (器高) 0.9cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ	緻密	良好	内：橙 7.5YR7/6 外：〃 〃	約40%	京都系「て」の字口縁 胎土は在地か？	R 80
88	SK6905	黒色土器 椀	—	内外面ロクロナデ 底部静止糸切痕 内面にクシ状工具の沈線	密	良好	内：黒 10YR2/1 外：橙 7.5YR7/6	底部の1/3	回転台成形、他地方の産とは明瞭に判別しがたい	R 102
89	SK6870	須恵器 椀	(口径)14.7cm (底径) 5.4cm (器高) 4.2cm	口縁部ヨコナデ、体部外面ロクロナデ、内面ナデ、底部回転糸切痕	やや砂質含むが密	良好	内：灰オリーブ 5Y6/2 外：灰白 5Y7/1 ～灰 5Y4/1	約40%	数は不明だが輪花表現あり 半面に火がかり	R 97
90	SK6894	ロクロ土師器 杯	(口径)13.9cm (底径) 5.2cm (器高) 2.9cm	口縁部ヨコナデ、内外面ロクロナデ、底部回転糸切痕	微細な砂質多量に含む	良好	内：浅黄橙 10YR8/4 外：〃 〃	約80%		R 85
91	SD6870	土師器 皿	(口径)14.0cm (器高) 3.1cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ	微細な砂質含むが密	良好	内：浅黄 2.5YR7/3 外：〃 〃	約70%	口径のゆがみ大	R 93
92	SD6870	陶器 椀 (山茶椀)	(口径)14.7cm (台径) 5.9cm (器高) 5.7cm	口縁部ヨコナデ、体部内外面ロクロナデ、底部静止糸切痕	密	良好	内：灰 5Y6/1 外：〃 〃	約50%		R 94
93	SD6870	陶器 椀 (山茶椀)	(口径)14.8cm (台径) 6.2cm (器高) 4.5cm	口縁部ヨコナデ、体部外面ロクロナデ、内面ナデ、底部静止糸切痕	径1mm弱の砂粒多量に含む	良好	体部　：灰白 5Y7/1 自然釉：オリーブ灰 10Y5/2	約70%	体部内面から口縁端部外面にかけて自然釉付着	R 95
94	Q−39 攪乱土坑	陶器 椀 (山茶椀)	(口径)15.8cm (台径) 6.6cm (器高) 6.1cm	口縁部ヨコナデ、体部内外面ロクロナデ、底部静止糸切後ナデ	砂質多量に含むが密	良好	内：灰黄 2.5Y7/2 外：〃 〃	ほぼ完存	三方向に輪花表現	R 91

No.	出土遺構	器種	法量	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録番号
95	S D6870	陶器 椀 (山茶椀)	(口径)16.5cm (台径) 6.8cm (器高) 5.4cm	口縁部ヨコナデ、体部内外面ロクロナデ、底部糸切後雑なナデ	砂質多いが密	良好	内：灰オリーブ 5Y6/2 外：〃 〃	約80%	口縁端部等に部分的に黒色物付着	R 96
96	S X6900	土師器 杯	(口径)11.6cm (器高) 3.2cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：にぶい橙 7.5YR7/3 外：にぶい橙 5YR7/4	約70%		R 76
97	S X6900	土師器 杯	(口径)12.1cm (器高) 2.8cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：にぶい橙 7.5YR7/3 外：〃 〃	約70%	外面に粘土板接合痕残る	R 75
98	S X6900	土師器 杯	(口径)13.0cm (器高) 2.9cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：にぶい黄橙 10YR7/4 外：〃 〃	約90%	外面に粘土板接合痕残る	R 78
99	S X6900	土師器 杯	(口径)12.6cm (器高) 2.8cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：にぶい黄橙 10YR7/4 外：〃 〃	約50%	器表面の剝離著しい	R 77
100	S X6900	土師器 広口壺	(口径)11.2cm (底径) 8.8cm (器高)13.7cm	口縁部ヨコナデ、体部外面タテハケ、内面板ナデ、底部ナデ	緻密	ややあまい	内：淡黄 5Y8/3 外：〃 〃	約90%	胴部に約5cm×約4cmの内側からの焼成後穿孔がみられる	R 79
102	K－40 P 1	須恵器 猿面硯	(幅) 10.8cm (厚) 約1.1cm	背面ケズリ、表面同心円状のスタンプ文	径1mmほどの砂粒含む	良好	内：灰 5Y5/1 外：〃 〃	約50%	背面に「古」と焼成後線刻する	R 98

第100次調査

No.	出土遺構	器種	法量	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録番号
1	F－9 包含層	弥生土器 広口壺	(口径) － cm (器高) － cm	内外面ナデ、凹状平行沈線連続指オサエの貼付突帯	微細な砂粒多いが密	良好	内：淡黄 2.5Y8/3 外：〃 〃	－	外面に僅かに赤彩の痕跡あり	R 13
2	E－12 包含層II	弥生土器 広口壺	(口径) － cm (器高) － cm	内外面ナデ、断面三角形の貼付突帯	密	良好	内：浅黄橙 7.5YR8/4 外：〃 〃	－		R 22
3	F－8 包含層II	弥生土器 甕	(口径) － cm (器高) － cm	口縁部キザミ目、外面に細い平行沈線文	密	良好	内：にぶい黄橙 10YR6/4 外：〃 〃	－		R 16
4	表土	弥生土器 甕	(口径) － cm (器高) － cm	外面8本／1.3cmのハケ、内面ハケのちナデ	径1mm前後の砂粒多量に含む	良好	内：暗灰黄 2.5Y4/2 外：にぶい黄橙 10YR7/3	－		R 25
5	D－9 包含層II	弥生土器 広口壺	(口径) － cm (器高) － cm	内外面ナデ、連続指オサエの貼付突帯、平行沈線文	微細な砂粒含むが密	良好	内：明赤褐 2.5YR6/4 外：〃 〃	－		R 2
6	D－9 包含層	弥生土器 甕	(口径)24.6cm (残高)11.4cm	外面6本／cm程度のハケ、内面ハケのちナデ	細かい砂粒の混入目立つが密	良好	内：橙 7.5YR6/6 外：〃 〃	約30%		R 27
7	S K6945	弥生土器 広口壺	(口径) － cm (器高) － cm	内外面ナデ、横位・斜行平行沈線文	微細な砂粒含むが密	良好	内：褐 7.5YR4/3 外：〃 〃	－		R 20
8	F－9 包含層II	弥生土器 広口壺	(口径) － cm (器高) － cm	内外面ナデ、横位・斜行平行沈線文	1mm程度の砂粒を多量に含む	良好	内：にぶい橙 7.5YR6/4 外：にぶい黄橙 10YR7/4	－		R 9
9	F－9 包含層II	弥生土器 広口壺	(口径) － cm (器高) － cm	櫛描横線文、櫛描波状文、内面ナデ	微細な砂粒多量に含む	良好	内：にぶい黄橙 10YR7/4 外：にぶい黄橙 10YR6/3	－		R 10
10	F－9 遺構上面	弥生土器 甕	(口径) － cm (器高) － cm	口縁部ヨコナデ、外面櫛描横線文、内面ハケ	微細な砂質含むが密	良好	内外：淡黄～暗灰黄 2.5Y8/3 2.5Y4/2	－		R 17
11	D－9 包含層II	弥生土器 広口壺	(口径) － cm (器高) － cm	凹状の平行沈線文 7本／cmのハケ、内面ナデ	径1mm程の砂粒多量に含むが密	良好	内：橙 7.5YR6/6 外：〃 〃	－		R 1
12	F－11 撹乱土坑	弥生土器 広口壺	(口径) － cm (器高) － cm	棒状工具による平行沈線文	砂質多いが密	良好	内：明赤褐 5YR5/6 外：〃 〃	－		R 18
13	D－12 包含層II	弥生土器 細頸壺	(口径) － cm (器高) － cm	8本／1.1cmの櫛描横線文、内面ナデ	径1mm程の砂粒僅かに含むが密	良好	内：にぶい橙 7.5YR6/4 外：〃 〃	－		R 3
14	F－9 包含層	弥生土器 甕	(口径) － cm (器高) － cm	口縁部キザミ目、外面ハケ内面ナデ	微細な砂粒多量に含むが密	良好	内：浅黄橙 7.5YR7/6 外：にぶい黄橙 10YR7/4	－		R 12
15	E－8 P 2	弥生土器 広口壺	(口径) － cm (器高) － cm	内外面ナデ、外面一部ハケ口縁端部櫛描波状文	密	良好	内：浅黄橙 10YR8/3 外：〃 〃	－		R 7
16	F－8 遺構上面	弥生土器 細頸壺	(口径) － cm (器高) － cm	外面LR縄文、内面ナデ	微細な砂粒含むが密	良好	内：にぶい黄橙 10YR7/4 外：〃 〃	－		R 5
17	F－8 包含層	弥生土器 細頸壺	(口径) － cm (器高) － cm	外面区画沈線内にLR縄文を充填、内面ナデ	微細な砂粒含むが密	良好	内：にぶい黄橙 10YR7/3 外：〃 〃	－		R 14
18	F－11 包含層II	須恵器 杯	(口径)12.5cm (器高) 5.9cm	体部ロクロナデ、底部外面ロクロケズリ	密	良好	内：緑黒 7.5GY2/1 外：〃 〃	約70%	外面に斑状の模様ありロクロ右回転	R 46
19	E－9 包含層II	土師器 椀	(口径) 9.8cm (器高) 3.9cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：にぶい褐 7.5YR5/3 外：〃 〃	約60%	内面に黒色物付着 粘土接合痕あり	R 48
20	F－13 包含層II	須恵器 杯	(口径)15.9cm (台径)12.5cm (器高) 4.2cm	口縁部ヨコナデ、体部ロクロナデ、底部外面ロクロケズリ後ナデ、貼付高台	密	良好	内：灰オリーブ 5Y6/2 外：〃 〃	約50%	ロクロ右回転	R 51
21	E－12 包含層II	土師器 皿	(口径)22.0cm (器高) 2.6cm	外面ヘラケズリ、内面ナデ	密	良好	内：橙 5YR7/6 外：〃 〃	約20%		R 44
22	E－12 包含層II	土師器 杯	(口径)18.8cm (器高) 5.6cm	外面ヘラケズリ、内面ナデ	微細な砂質含むが密	良好	内：橙 7.5YR6/8 外：〃 〃	約30%		R 41
23	S D6960	土師器 台付杯	(口径)22.1cm (台径)16.5cm (器高) 7.6cm	口縁端部ヨコナデ、体部外面ヘラミガキ、内面放射状と螺旋状2段の暗文	密	良好	内：橙 5YR6/8 外：〃 〃	約20%		R 34

No.	出土遺構	器種	法量	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録番号
24	E－13 包含層Ⅱ	須恵器 甕	(口径)24.2cm (残高) 7.7cm	口頸部ロクロナデ、胴部外面平行タタキ痕、内面ナデ	径2mm～3mmの砂粒含むが緻密	良好	内：にぶい黄橙 10YR7/2 外：〃 〃	口径の約1/6	外面に自然釉かかる	R 52
25	F－10 包含層	土師器 杯	(口径)14.2cm (器高) 3.3cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：橙 7.5YR7/6 外：〃 〃	約70%		R 53
26	E－13 包含層Ⅱ	土師器 杯	(口径)15.4cm (器高) 3.5cm	口縁部ヨコナデ、体部内面ナデ・外面ケズリ	密	良好	内：橙 7.5YR7/6 外：橙 5YR7/6	約50%		R 49
27	F－12 包含層	土師器 皿	(口径)15.0cm (器高) 2.0cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：橙 5YR7/6 外：〃 〃	約40%		R 54
28	F－9 包含層	土師器 甕	(口径)15.5cm (器高)13.0cm	外面8本／1.7cmのハケ、内面ケズリ・板ナデ	密	良好	内：淡黄 2.5Y8/3 外：〃 〃	約80%		R 39
29	SK6949	土師器 杯	(口径)11.6cm (器高) 2.9cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：浅黄橙 10YR8/4 外：〃 〃	ほぼ完存		R 35
30	SK6949	土師器 杯	(口径)13.2cm (器高) 3.1cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：浅黄橙 10YR8/3 外：〃 〃	約90%		R 36
31	D－9 遺構上面	灰釉陶器 皿	(口径)12.1cm (台径) 5.4cm (器高) 2.5cm	口縁部ヨコナデ、体部ロクロナデ、底部糸切後未調整灰釉ツケガケ	緻密	良好	内：にぶい黄橙 10YR6/3 外：〃 〃	完存	ロクロ左回転	R 47
32	E－12 包含層	陶器 椀 (山茶椀)	(口径)14.8cm (台径) 6.0cm (器高) 6.3cm	口縁部ヨコナデ、体部ロクロナデ、底部糸切後未調整貼付高台	砂質が多い	良好	内：灰黄 2.5Y6/3 外：〃 〃	約40%	ロクロ左回転	R 38
33	F－9 包含層Ⅱ	土師器 皿	(口径)15.7cm (器高) 2.1cm	体部ナデ・オサエ	密	良好	内：浅黄橙 7.5YR8/4 外：〃 〃	約90%	粘土接合痕残る	R 42

第101次調査

No.	出土遺構	器種	法量	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録番号
1	SK6979	土師器 直口壺	(口径) 9.8cm (器高)13.0cm	外面15本/1.5cm単位のハケ内面ナデ・オサエ	緻密	堅緻	内：橙 7.5YR6/6 外：〃 〃	ほぼ完存		R 22
2	SK6979	土師器 甕	(口径)15.6cm (器高)14.8cm	外面11本/2.3cm単位のハケ内面ヘラケズリとハケ	砂質多いが密	良好	内：淡黄 2.5Y8/3 外：〃 〃	約70%	器表面風化著しい	R 23
3	SK6979	土師器 甕	(口径)16.8cm (器高)15.7cm	外面7本／1.5cm単位のハケ内面同原体のハケとケズリ	密	良好	内：浅黄橙 7.5YR8/4 外：淡黄 2.5Y8/3	約80%		R 21
4	SX6975	土師器 皿	(口径)13.7cm (器高) 3.0cm	口縁端部ヨコナデ、体部内外面ナデ・オサエ	密	良好	内：にぶい黄橙 10YR7/4 外：〃 〃	ほぼ完存	外面にヘラ状工具の当たり痕あり	R 1
5	SX6975	土師器 皿	(口径)13.6cm (器高) 2.8cm	口縁端部ヨコナデ、体部内外面ナデ・オサエ	密	良好	内：にぶい黄橙 10YR7/4 外：〃 〃	完存	外面にヘラ状工具の当たり痕あり	R 3
6	SX6975	土師器 皿	(口径)13.6cm (器高) 3.4cm	口縁端部ヨコナデ、体部内外面ナデ・オサエ	密	良好	内：にぶい黄橙 10YR7/3 外：〃 〃	完存	外面にヘラ状工具の当たり痕あり	R 2
7	SX6975	土師器 皿	(口径)15.3cm (器高) 2.8cm	口縁端部ヨコナデ、体部内外面ナデ・オサエ	密	良好	内：にぶい黄橙 10YR7/4 外：橙 7.5YR6/6	約60%	外面にヘラ状工具の当たり痕あり	R 4
8	SX6975	土師器 小皿	(口径) 8.2cm (器高) 1.5cm	口縁端部ヨコナデ、体部内外面ナデ・オサエ	砂質多いが密	良好	内：淡黄 2.5Y8/3 外：〃 〃	完存		R 5
9	SX6975	陶器 灰釉椀	(口径)10.6cm (台径) 3.8cm (器高) 4.5cm	削り出し高台、内外面輪花表現、高台内面以外全面施釉	緻密	堅緻	内外：淡青灰色の釉薬 5Y8/2 胎土：灰白	約40%	瀬戸産、見込み部に菊花スタンプ文	R 6
10	SX6975	土師器 鍋	(口径)17.5cm (器高)10.6cm	口縁部ヨコナデ、内外面ナデ・オサエ	径1mm前後の砂粒多量に含む	良好	内：浅黄 2.5Y7/4 外：〃 〃	胴部完存 口縁部1/3	外面に黒色物付着	R 7
12	SX6976	土師器 小皿	(口径) 7.7cm (器高) 1.0cm	内外面ナデ・オサエ	密	良好	内：浅黄 2.5Y7/3 外：〃 〃	約50%		R 12
13	SX6976	土師器 小皿	(口径) 8.0cm (器高) 1.0cm	内外面ナデ・オサエ	微細な砂粒多量に含む	良好	内：淡黄 2.5Y8/4 外：〃 〃	約40%		R 11
14	SX6976	土師器 皿	(口径)10.2cm (器高) 2.4cm	内外面ナデ・オサエ	緻密	良好	内：黄灰 2.5Y4/1 外：〃 〃	約50%		R 9
15	SX6976	土師器 皿	(口径)11.0cm (器高) 2.4cm	内外面ナデ・オサエ	緻密	良好	内：淡黄 2.5Y8/3 外：〃 〃	約40%		R 10
16	SX6976	土師器 皿	(口径)11.3cm (器高) 2.5cm	内外面ナデ・オサエ	砂質多いが密	良好	内：浅黄 2.5Y7/3 外：〃 〃	約50%		R 8
17	SX6976	土師器 鍋	(口径)23.2cm (器高)14.3cm	外面9本／cmのハケ、ケズリ、内面ナデ	密	良好	内：浅黄橙 10YR8/3 外：黒 5Y2/1	約60%	外面に多量のススト付着	R 20
18	SX6977	土師器 小皿	(口径) 7.7cm (器高) 1.0cm	内外面ナデ・オサエ	微細な砂質含むが密	良好	内：淡黄 2.5Y8/3 外：〃 〃	完存		R 14
19	SX6977	土師器 小皿	(口径) 7.2cm (器高) 0.9cm	内外面ナデ・オサエ	微細な砂質含むが密	良好	内：淡黄 2.5Y8/3 外：〃 〃	完存		R 15
20	SX6977	土師器 小皿	(口径) 7.6cm (器高) 1.2cm	内外面ナデ・オサエ	微細な砂質含むが密	良好	内：淡黄 2.5Y8/3 外：〃 〃	完存		R 16
21	SX6977	土師器 小皿	(口径) 7.2cm (器高) 1.1cm	内外面ナデ・オサエ	微細な砂質含むが密	良好	内：灰白 2.5Y8/2 外：〃 〃	完存	粘土板接合痕残る	R 17

No.	出土遺構	器種	法量	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録番号
22	S X6977	土師器 小皿	(口径) 7.4cm (器高) 1.1cm	内外面ナデ・オサエ	微細な砂質含むが密	良好	内：淡黄 2.5Y8/4 外：〃 〃	完存		R 18
23	S X6977	土師器 小皿	(口径) 7.7cm (器高) 1.2cm	内外面ナデ・オサエ	微細な砂質含むが密	良好	内：淡黄 2.5Y8/3 外：〃 〃	完存	やや厚手	R 19
24	S X6977	土師器 皿	(口径)11.8cm (器高) 2.7cm	内外面ナデ・オサエ	微細な砂質含むが密	良好	内：淡黄 2.5Y8/4 外：〃 〃	完存	粘土板接合痕残る	R 13
26	S D6984	陶器 小瓶	(底径) 4.5cm (残高) 7.7cm	内外面ロクロナデ、底部糸切痕残る	砂質多いが密	良好	内：灰 7.5Y6/1 外：〃 〃	口縁部のみ欠損		R 29
27	S D6984	陶器 小椀 (山皿)	(口径)10.1cm (台径) 3.9cm (器高) 3.7cm	口縁部ヨコナデ、体部ロクロナデ、底部内面回転糸切痕残る	やや砂質多いが密	良好	内：灰白 5Y7/2 外：〃 〃	約70%		R 30
28	S D6973	陶器 椀 (山茶椀)	(口径)16.4cm (台径) 7.1cm (器高) 4.9cm	口縁部ヨコナデ、体部ロクロナデ、底部内面回転糸切痕残る	1mm大の砂粒混入するが密	良好	内：灰白 7.5Y6/1 外：〃 〃	約80%	口縁部に輪花表現か？	R 32
29	S D6983	ロクロ土師器 台付椀	(口径)16.5cm (台径) 5.9cm (器高) 3.3cm	口縁部ヨコナデ、体部ロクロナデ、高台内面回転糸切痕残る	やや砂質多いが密	良好	内：淡黄 2.5Y8/3 外：〃 〃	約60%		R 24
30	S D0081	ロクロ土師器 杯	(口径)12.4cm (器高) 3.4cm	口縁部ヨコナデ、体部ロクロナデ、底部回転糸切痕	緻密	良好	内：橙 7.5YR7/6 外：〃 〃	約50%		R 25
31	包含層	土師器 鉢	(口径)22.2cm (器高) 9.9cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ	1mm以下の砂粒多量に含む	良好	内：灰白 5Y8/2 外：〃 〃	約70%	口縁端部折り返して肥厚させる	R 31
32	包含層	ロクロ土師器 杯	(口径) 8.5cm (器高) 1.8cm	口縁部ヨコナデ、体部ロクロナデ	砂質多いが密	良好	内：にぶい黄橙 10Y7/4 外：にぶい橙 5YR6/4	約90%		R 28

第103次調査

No.	出土遺構	器種	法量	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録番号
1	S B7045	土師器 杯	(口径)16.0cm (器高) 3.2cm	口縁部ヨコナデ、体部外面ヘラケズリ、内面ナデ	緻密	良好	内：橙 7.5YR7/6 外：〃 〃	約30%		R 278
2	S B7045	土師器 椀	(口径)13.5cm (器高) 3.9cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：にぶい黄橙 10YR7/3 外：橙 5YR7/6	約90%	外面に粘土板接合痕、内面に黒～茶褐色の付着物	R 273
3	S B7045	土師器 椀	(口径)13.9cm (器高) 3.5cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：にぶい橙 7.5YR6/4 外：〃 〃	約40%		R 274
4	S B7045	土師器 杯	(口径)17.2cm (器高) 3.3cm	口縁部ヨコナデ、体部外面ヘラケズリ、内面ナデ	やや砂質多いが密	良好	内：明赤褐 5YR5/8 外：〃 〃	約80%	器表面の磨耗著しい	R 272
5	S B7045	土師器 皿	(口径)20.2cm (器高) 3.1cm	口縁部ヨコナデ、体部外面ヘラケズリ、内面ナデ	やや砂質多いが密	良好	内：橙 5YR6/8 外：〃 〃	約40%		R 281
6	S B7045	土師器 皿	(口径)22.0cm (器高) 3.8cm	口縁部ヨコナデ、体部外面ヘラケズリ、内面ナデ	密	良好	内：橙 7.5YR7/6 外：橙 5YR6/8	約30%		R 279
7	S B7045	須恵器 杯	(口径)15.2cm (器高) 3.8cm	口縁部ヨコナデ、体部ロクロナデ、底部外面ナデ	径1mm～3mmの砂粒含む	良好	内：灰黄 2.5Y6/2 外：〃 〃	約50%		R 277
8	S B7045	須恵器 杯	(口径)15.0cm (器高) 3.3cm	外面ヨコナデ、体部ロクロナデ、底部板ナデ後ナデ	径1mm～5mmの砂粒、小石を含む	良好	内：オリーブ灰 5GY6/1 外：暗オリーブ灰 5GY4/1	約50%		R 276
9	S B7045	須恵器 杯	(口径)13.4cm (器高) 3.3cm	外面ヨコナデ、体部ロクロナデ、底部回転ヘラケズリ	径1mm以下の砂粒含むが密	良好	内：灰 5Y6/1 外：〃 〃	約70%		R 271
10	S B7045	須恵器 台付杯	(口径)13.3cm (台径) 9.3cm (器高) 3.5cm	外面ヨコナデ、体部ロクロナデ、底部回転ヘラケズリ	径1mm以下の砂粒含むが密	良好	内：灰黄 2.5Y7/2 外：〃 〃	約40%		R 270
11	S B7045	須恵器 台付杯	(口径)16.4cm (台径)13.1cm (器高) 3.8cm	外面ヨコナデ、体部ロクロナデ、底部回転ヘラケズリ	密	良好	内：灰黄 2.5Y7/2 外：〃 〃	約30%		R 275
12	S B7045	土師器 甕	(口径)16.7cm (残高) 8.8cm	口縁部ヨコナデ、体部外面タテハケ、内面ヨコハケ	微細な砂質多量に含む	良好	内：暗灰黄 2.5Y4/2 外：橙 5YR6/6 ～ 黄灰 2.5Y4/1	口径の1/4	外面二次焼成による赤変が一部みられる	R 280
13	S B7045	土師器 把手付鉢	(口径)24.2cm (底径)14.2cm (器高)10.2cm	口縁部ヨコナデ、体部外面タテハケ、把手部ケズリ後ナデ、底部ヘラケズリ、内面ヘラケズリ	緻密	良好	内：明赤褐 5YR5/8 外：〃 〃	約60%		R 269
14	S K7046	土師器 高杯	(口径)23.2cm (台径) 9.2cm (器高) 9.1cm	口縁部ヨコナデ	緻密・精良	良好	内：明赤褐 2.5YR5/8 外：〃 〃	約80%		R 286
15	S A7000	須恵器 杯蓋	(口径)14.5cm (器高) 3.0cm	口縁部ヨコナデ、上面ヘラケズリ、内面ロクロナデ	径1mm～2mmの長石粒含む	良好	内：暗オリーブ灰 2.5GY4/1 外：暗緑灰 10GY3/1	約60%		R 304
16	S K7017	土師器 杯	(口径)13.2cm (器高) 3.0cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ	やや砂質多いが密	良好	内：橙 5YR6/8 外：〃 〃	約40%	全面磨耗が著しい	R 229
17	S K7017	土師器 杯	(口径)13.7cm (器高) 3.6cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：橙 5YR7/6 外：〃 〃	約40%		R 215
18	S K7017	土師器 杯	(口径)13.6cm (器高) 3.4cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ	密	良好	内：橙 7.5YR6/6 外：〃 〃	約40%		R 214
19	S K7017	土師器 杯	(口径)13.4cm (器高) 3.1cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ	密	良好	内：橙 5YR6/8 外：〃 〃	約30%		R 237
20	S K7017	土師器 杯	(口径)14.3cm (器高) 2.3cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ	密	良好	内：明黄褐 10YR7/6 外：〃 〃	約70%		R 240

No.	出土遺構	器種	法量	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録番号
21	SK7017	土師器 杯	(口径)15.6cm (器高) 3.5cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：にぶい黄橙 10YR7/4 外：〃 〃	約30%		R 226
22	SK7017	土師器 杯	(口径)13.8cm (器高) 3.1cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	ややあまい	内：にぶい黄褐 10YR7/4 外：〃 〃	約40%	全面磨耗著しい	R 198
23	SK7017	土師器 杯	(口径)14.2cm (器高) 3.3cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：橙 5YR6/8 外：〃 〃	約30%	器表面磨耗すすむ	R 222
24	SK7017	土師器 杯	(口径)13.4cm (器高) 3.2cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ	密	良好	内：黄橙 10YR8/6 外：〃 〃	完存	全面磨耗著しい 見込み部黒色の地露出	R 200
25	SK7017	土師器 杯	(口径)13.7cm (器高) 3.1cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ	密	良好	内：橙 7.5YR6/6 外：〃 〃	約60%	器表面の磨耗著しい	R 257
26	SK7017	土師器 杯	(口径)14.2cm (器高) 3.6cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：橙 5YR6/8 外：〃 〃	約40%		R 253
27	SK7017	土師器 杯	(口径)14.8cm (器高) 3.4cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：橙 5YR6/8 外：〃 R〃	約50%		R 190
28	SK7017	土師器 杯	(口径)13.9cm (器高) 3.4cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	やや砂質多いが密	良好	内：橙 7.5YR7/6 外：〃 〃	約50%		R 231
29	SK7017	土師器 杯	(口径)13.2cm (器高) 2.9cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：橙 2.5YR6/6 外：明赤褐 2.5YR5/8	約90%		R 259
30	SK7017	土師器 杯	(口径)14.0cm (器高) 3.6cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	やや砂質多いが密	良好	内：橙 7.5YR6/6 外：〃 〃	約40%	器表面の風化すすむ	R 247
31	SK7017	土師器 杯	(口径)13.4cm (器高) 3.1cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：橙 7.5YR6/6 外：〃 〃	約40%		R 219
32	SK7017	土師器 杯	(口径)13.4cm (器高) 2.9cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：橙 5YR6/8 外：〃 〃	約70%	粘土板接合痕残る	R 248
33	SK7017	土師器 杯	(口径)14.6cm (器高) 3.2cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	堅緻	内：明赤褐 5YR5/6 外：〃 〃	約80%		R 233
34	SK7017	土師器 杯	(口径)14.7cm (器高) 3.2cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	堅緻	内：橙 7.5YR7/6 外：〃 〃	約50%		R 234
35	SK7017	土師器 杯	(口径)14.5cm (器高) 3.4cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：橙 7.5YR7/6 外：〃 〃	約30%		R 251
36	SK7017	土師器 杯	(口径)14.0cm (器高) 3.5cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：にぶい黄橙 10YR7/3 外：〃 〃	約60%		R 212
37	SK7017	土師器 杯	(口径)15.2cm (器高) 3.7cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：にぶい黄橙 10YR7/4 外：〃 〃	約40%		R 244
38	SK7017	土師器 杯	(口径)14.5cm (器高) 3.9cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ	やや砂質多いが密	ややあまい	内：浅黄橙 7.5YR8/4 外：〃 〃	約40%	全面磨耗著しい	R 210
39	SK7017	土師器 杯	(口径)14.4cm (器高) 3.7cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	ややあまい	内：浅黄橙 10YR8/4 外：〃 〃	約40%	内外面の風化すすむ	R 220
40	SK7017	土師器 杯	(口径)16.4cm (器高) 3.9cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	やや砂質多いが密	良好	内：橙 7.5YR7/6 外：〃 〃	約40%		R 265
41	SK7017	土師器 杯	(口径)17.0cm (器高) 3.9cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ	密	良好	内：橙 5YR6/8 外：〃 〃	約40%		R 211
42	SK7017	土師器 杯	(口径)15.4cm (器高) 3.2cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：明赤褐 2.5YR5/8 外：〃 〃	約80%		R 266
43	SK7017	土師器 杯	(口径)14.9cm (器高) 3.2cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：橙 5YR6/8 外：〃 〃	約70%		R 186
44	SK7017	土師器 杯	(口径)13.4cm (器高) 3.3cm	口縁部二段ヨコナデ、体部ナデ	密	良好	内：橙 5YR6/8 外：〃 〃	約30%		R 241
45	SK7017	土師器 杯	(口径)14.0cm (器高) 3.3cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ	緻密	良好	内：橙 5YR6/6 外：〃 〃	約40%		R 189
46	SK7017	土師器 杯	(口径)14.4cm (器高) 3.6cm	口縁部二段ヨコナデ、体部ナデ	密	良好	内：橙 7.5YR6/8 外：〃 〃	約40%		R 252
47	SK7017	土師器 杯	(口径)15.0cm (器高) 2.9cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	やや砂質多いが密	良好	内：にぶい黄橙 10YR7/4 外：〃 〃	約60%		R 246
48	SK7017	土師器 杯	(口径)15.8cm (器高) 3.4cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	砂質をやや多く含む	良好	内：橙 5YR6/6 外：〃 〃	約70%	器表面の風化すすみ器形のゆがみやや大	R 232
49	SK7017	土師器 杯	(口径)13.6cm (器高) 3.2cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：橙 5YR6/8 ～明黄褐 10YR7/6 外：橙 2.5YR6/8	約70%		R 185
50	SK7017	土師器 杯	(口径)13.4cm (器高) 2.8cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	やや砂質多いが密	良好	内：橙 7.5YR7/6 ～黒 10YR8/4 外：橙 7.5YR7/6	約90%		R 235
51	SK7017	土師器 杯	(口径)13.8cm (器高) 2.9cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：橙 5YR6/6 外：〃 〃	約40%	内外面に油煙付着	R 216
52	SK7017	土師器 杯	(口径)13.7cm (器高) 2.5cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：橙 5YR6/6 外：〃 〃	約70%		R 213

No.	出土遺構	器種	法量	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録番号
53	S K7017	土師器 杯	(口径)13.2cm (器高) 2.5cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：橙 外：〃 5YR6/6 〃	約40%		R 179
54	S K7017	土師器 杯	(口径)12.8cm (器高) 2.5cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：橙 外：〃 5YR6/8 〃	約40%		R 195
55	S K7017	土師器 杯	(口径)13.6cm (器高) 2.7cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	やや砂質多いが密	良好	内：橙 外：〃 5YR6/6 〃	約40%		R 264
56	S K7017	土師器 杯	(口径)14.1cm (器高) 2.9cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	やや砂質多いが密	良好	内：浅黄橙 外：〃 10YR8/4 〃	約80%		R 236
57	S K7017	土師器 杯	(口径)14.2cm (器高) 3.1cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ	砂質や多い	ややあまい	内：浅黄橙 外：〃 10YR8/3 〃	約50%		R 263
58	S K7017	土師器 杯	(口径)15.6cm (器高) 2.9cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：橙 外：〃 5YR6/8 〃	約30%		R 223
59	S K7017	土師器 杯	(口径)14.5cm (器高) 3.2cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：橙 外：〃 7.5YR6/6 〃	約30%		R 228
60	S K7017	土師器 杯	(口径)14.3cm (器高) 3.4cm	口縁部二段ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：橙 外：〃 5YR6/6 〃	約40%		R 260
61	S K7017	土師器 杯	(口径)14.4cm (器高) 3.0cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：橙 外：〃 7.5YR7/6 〃	約30%		R 242
62	S K7017	土師器 杯	(口径)13.0cm (器高) 2.9cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：橙 外：〃 7.5YR7/6 〃	約30%		R 191
63	S K7017	土師器 杯	(口径)14.2cm (器高) 2.9cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：明黄褐 外：〃 10YR7/6 〃	約30%		R 254
64	S K7017	土師器 杯	(口径)14.3cm (器高) 3.1cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：橙 外：〃 7.5YR6/6 〃	約30%		R 255
65	S K7017	土師器 杯	(口径)14.2cm (器高) 3.1cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密(胎土に2mm程の小石含む)	堅緻	内：橙 外：〃 5YR6/6 〃	完存	外面に粘土接合痕	R 201
66	S K7017	土師器 皿	(口径)15.0cm (器高) 2.3cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	やや砂質多いが密	良好	内：橙 外：〃 5YR6/8 〃	約90%		R 187
67	S K7017	土師器 皿	(口径)15.8cm (器高) 2.3cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：橙 外：〃 5YR6/6 〃	約90%		R 181
68	S K7017	土師器 皿	(口径)15.2cm (器高) 2.1cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：橙 外：〃 5YR6/8 〃	約60%		R 249
69	S K7017	土師器 皿	(口径)15.4cm (器高) 2.3cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	堅緻	内：橙 外：〃 5YR7/6 〃	約90%		R 197
70	S K7017	土師器 皿	(口径)16.2cm (器高) 2.1cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：橙 外：〃 7.5YR7/6 〃	約40%		R 225
71	S K7017	土師器 皿	(口径)15.7cm (器高) 2.3cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：橙 外：〃 7.5YR7/6 〃	約40%		R 180
72	S K7017	土師器 皿	(口径)16.5cm (器高) 2.2cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：橙 外：〃 7.5YR6/8 〃	約50%		R 262
73	S K7017	土師器 皿	(口径)16.5cm (器高) 2.5cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	堅緻	内：橙 外：〃 7.5YR7/6 〃	完存		R 204
74	S K7017	土師器 皿	(口径)16.2cm (器高) 1.7cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	堅緻	内：黄橙 外：〃 7.5YR7/8 〃	約40%		R 193
75	S K7017	土師器 皿	(口径)15.4cm (器高) 1.6cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	堅緻	内：橙 外：〃 5YR6/8 〃	約30%		R 258
76	S K7017	土師器 皿	(口径)15.2cm (器高) 1.7cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：橙 外：〃 5YR6/8 〃	ほぼ完存		R 245
77	S K7017	土師器 皿	(口径)14.4cm (器高) 1.6cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：橙 外：〃 5YR6/6 〃	約90%	器表面の磨耗著しい	R 196
78	S K7017	土師器 皿	(口径)14.8cm (器高) 1.6cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：橙 外：〃 5YR6/6 〃	約90%		R 238
79	S K7017	土師器 皿	(口径)14.4cm (器高) 1.7cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：橙 外：明黄褐 5YR6/8 10YR7/6	約50%		R 184
80	S K7017	土師器 皿	(口径)13.4cm (器高) 1.2cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	ややあまい	内：浅黄橙 外：〃 10YR8/3 〃	約50%	器表面の磨耗著しい	R 218
81	S K7017	土師器 皿	(口径)14.2cm (器高) 1.3cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：橙 外：〃 5YR6/8 〃	約30%		R 227
82	S K7017	土師器 皿	(口径)15.0cm (器高) 1.2cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：浅黄橙 外：黄橙 10YR8/4 10YR8/6	約40%		R 183
83	S K7017	土師器 皿	(口径)13.5cm (器高) 0.9cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：橙 外：〃 5YR6/6 〃	約50%		R 217
84	S K7017	土師器 皿	(口径)15.1cm (器高) 1.4cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：橙 外：〃 5YR6/6 〃	約40%		R 194

No.	出土遺構	器種	法量	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録番号
85	SK7017	土師器 皿	(口径)14.5cm (器高) 1.7cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：明赤褐 5YR5/8 外：〃 〃	完存		R 199
86	SK7017	土師器 皿	(口径)14.0cm (器高) 1.6cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：橙 7.5YR6/6 外：〃 〃	約30%		R 256
87	SK7017	土師器 皿	(口径)16.0cm (器高) 1.9cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	堅緻	内：橙 5YR6/8 外：〃 〃	約60%		R 207
88	SK7017	土師器 皿	(口径)14.9cm (器高) 1.2cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：橙 7.5YR7/6 外：〃 〃	約50%		R 267
89	SK7017	土師器 皿	(口径)13.9cm (器高) 1.6cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	ややあまい	内：明黄褐 10YR7/6 外：〃 〃	ほぼ完存	器表面磨耗著しい	R 268
90	SK7017	土師器 皿	(口径)13.6cm (器高) 1.3cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：橙 5YR6/6 外：〃 〃	約70%		R 261
91	SK7017	土師器 皿	(口径)14.3cm (器高) 1.7cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：にぶい橙 7.5YR7/4 外：〃 〃	約30%		R 192
92	SK7017	土師器 皿	(口径)14.6cm (器高) 1.7cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ	密	良好	内：にぶい橙 10YR7/4 外：〃 〃	約50%		R 209
93	SK7017	土師器 皿	(口径)14.5cm (器高) 1.5cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：橙 5YR6/6 外：〃 〃	約80%		R 239
94	SK7017	土師器 皿	(口径)14.7cm (器高) 1.5cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：橙 5YR6/6 外：〃 〃	約40%	底部内面にネズミの歯形残る	R 243
95	SK7017	土師器 皿	(口径)14.9cm (器高) 1.7cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ	緻密	堅緻	内：橙 5YR6/6 外：〃 〃	約70%		R 224
96	SK7017	土師器 皿	(口径)14.0cm (器高) 1.5cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：橙 5YR6/8 外：〃 〃	約90%		R 206
97	SK7017	土師器 皿	(口径)14.1cm (器高) 1.3cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	ややあまい	内：橙 7.5YR7/6 外：〃 〃	完存	器表面著しく磨耗	R 205
98	SK7017	土師器 皿	(口径)14.4cm (器高) 1.9cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	堅緻	内：橙 5YR6/8 外：〃 〃	完存		R 202
99	SK7017	土師器 皿	(口径)15.1cm (器高) 1.6cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ	密	良好	内：橙 7.5YR6/6 外：〃 〃	約60%	外面磨耗すすむ	R 208
100	SK7017	土師器 甕	(口径)36.0cm (残高)21.0cm	口縁部ヨコナデ、体部外面タテハケ、ケズリ、内面板ナデ	やや砂質多いが密	良好	内：浅黄橙 10YR8/6 外：浅黄橙 10YR8/3 ～黒褐 10YR3/1	口径の70%	外面二次焼成による黒化スス付着	R 203
101	SK7017	土師器 甕	(口径)37.4cm (残高)22.0cm	口縁部ヨコナデ、体部外面タテハケ、底部ヨコハケ、ケズリ、内面板ナデ	密	良好	内：灰黄褐 10YR5/2 外：にぶい黄橙 10YR7/4	口径の1/4		R 230
102	SK7017	土師器 甕	(口径)19.4cm (器高)14.3cm	口縁部ヨコナデ、体部外面タテハケ、ケズリ、内面ヨコハケ、ケズリ	密	良好	内：浅黄橙 10YR8/4 外：にぶい黄橙 10YR7/3	約30%		R 188
103	SK7030	土師器 杯	(口径)13.1cm (器高) 2.8cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	堅緻	内：橙 7.5YR7/6 外：にぶい橙 7.5YR7/4	約90%		R 59
104	SK7030	土師器 杯	(口径)12.8cm (器高) 2.2cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：淡黄 2.5Y8/3 外：〃 〃	約90%		R 61
105	SK7030	土師器 杯	(口径)13.4cm (器高) 3.1cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	やや砂質多く含むが密	良好	内：明黄褐 10YR7/6 外：〃 〃	約80%	体部に指頭圧による大きな凹みが数カ所つく	R 63
106	SK7030	土師器 杯	(口径)14.5cm (器高) 3.5cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：浅黄橙 10YR8/4 外：〃 〃	約90%	破断面黒色	R 62
107	SK7030	土師器 杯	(口径)13.7cm (器高) 2.4cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：にぶい橙 7.5YR7/4 外：〃 〃	約80%	ゆがみ極めて大、ゆがんだ際についたとみられる木目状圧痕あり	R 64
108	SK7030	土師器 杯	(口径)14.4cm (器高) 3.1cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	堅緻	内：褐灰 10YR4/1 外：にぶい黄橙 10YR6/3	約50%		R 60
109	SK7030	土師器 杯	(口径)13.8cm (器高) 2.7cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：にぶい黄橙 10YR7/3 外：〃 〃	約70%	器表面の磨耗すすむ	R 65
110	SK7030	土師器 杯	(口径)12.9cm (器高) 2.9cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	やや砂質多いが密	良好	内：にぶい橙 5YR7/3 外：〃 〃	約80%		R 67
111	SK7030	土師器 杯	(口径)12.6cm (器高) 3.1cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：浅黄橙 10YR8/3 外：〃 〃	約90%	破断面黒色	R 66
112	SK7030	土師器 杯	(口径)12.8cm (器高) 2.5cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	微細な砂質、植物質の他、若干の小石含む	良好	内：にぶい黄橙 10YR7/4 外：〃 〃	約50%	器形のゆがみややあり 器表面の磨耗すすむ	R 146
113	SK7030	土師器 杯	(口径)13.3cm (器高) 2.8cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：にぶい橙 7.5YR6/4 外：〃 〃	約80%		R 145
114	SK7030	土師器 杯	(口径)13.2cm (器高) 2.8cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	やや砂質含むが密	良好	内：にぶい黄橙 10YR6/4 外：〃 〃	約60%		R 151
115	SK7030	土師器 杯	(口径)15.0cm (器高) 3.1cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：にぶい黄橙 10YR7/4 外：〃 〃	約90%	器形ややゆがむ	R 150
116	SK7030	土師器 杯	(口径)13.4cm (器高) 2.6cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：橙 5YR6/8 外：〃 〃	約30%		R 153

No.	出土遺構	器種	法量	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録番号
117	SK7030	土師器 杯	(口径)12.2cm (器高) 2.7cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	微細な砂質含むが密	良好	内：にぶい黄橙 10YR7/4 外：〃 〃	約80%	器壁うすく器表面の磨耗すすむ	R 147
118	SK7030	土師器 杯	(口径)14.0cm (器高) 3.1cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：にぶい黄橙 10YR7/4 外：〃 〃	約30%		R 152
119	SK7030	土師器 杯	(口径)14.4cm (器高) 3.3cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：橙 7.5YR7/6 外：〃 〃	約30%		R 117
120	SK7030	土師器 杯	(口径)12.8cm (器高) 3.0cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：浅黄橙 10YR8/4 外：浅黄 2.5Y7/3	完存		R 58
121	SK7030	土師器 杯	(口径)13.6cm (器高) 2.7cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：淡黄 2.5Y8/3 外：〃 〃	約80%		R 114
122	SK7030	土師器 杯	(口径)13.7cm (器高) 2.0cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：淡黄 2.5Y8/3 外：〃 〃	約50%	器形のゆがみ大きい	R 116
123	SK7030	土師器 杯	(口径)14.1cm (器高) 3.1cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	やや砂質多いが密	良好	内：にぶい黄橙 10YR7/4 外：〃 〃	約60%	器表面の磨耗著しい	R 129
124	SK7030	土師器 杯	(口径)13.1cm (器高) 2.3cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：にぶい黄橙 10YR7/4 外：〃 〃	ほぼ完存	器表面の磨耗著しい	R 131
125	SK7030	土師器 杯	(口径)13.0cm (器高) 2.2cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：にぶい黄橙 10YR7/4 外：〃 〃	約60%		R 130
126	SK7030	土師器 甕	(口径)16.6cm (残高) 7.4cm	口縁部ヨコナデ、体部外面タテハケ、内面ヨコハケ後ナデ	砂質多いが密	良好	内：にぶい黄 2.5YR6/3 外：〃 〃	口径の1/4		R 174
127	SK7030	土師器 杯	(口径)13.1cm (器高) 2.5cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	砂質多いが密	堅緻	内：淡黄 2.5Y8/3 外：〃 〃	約70%		R 167
128	SK7030	土師器 杯	(口径)12.7cm (器高) 2.8cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	砂質多いが密	堅緻	内：にぶい黄橙 10YR7/4 外：〃 〃	ほぼ完存		R 166
129	SK7030	土師器 杯	(口径)13.5cm (器高) 2.4cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：にぶい橙 7.5YR7/4 外：〃 〃	約30%		R 87
130	SK7030	土師器 杯	(口径)13.2cm (器高) 2.8cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：にぶい橙 7.5YR7/4 外：淡黄 2.5Y8/3	約90%		R 86
131	SK7030	土師器 杯	(口径)13.2cm (器高) 2.8cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	堅緻	内：褐灰 10YR5/1 外：にぶい橙 10YR7/4	約80%		R 90
132	SK7030	土師器 杯	(口径)13.7cm (器高) 2.9cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：淡黄 2.5Y8/4 外：〃 〃	約70%	器表面の磨耗著しい	R 88
133	SK7030	土師器 杯	(口径)14.2cm (器高) 3.9cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	堅緻	内：橙 7.5RY6/8 外：〃 〃	約70%		R 84
134	SK7030	土師器 杯	(口径)13.0cm (器高) 3.5cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：橙 7.5YR6/6 外：〃 〃	約30%		R 85
135	SK7030	土師器 杯	(口径)18.6cm (器高) 4.3cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：橙 7.5YR6/6 外：〃 〃	約40%		R 89
136	SK7030	土師器 杯	(口径)12.5cm (器高) 2.5cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	堅緻	内：灰黄褐 10YR5/2 外：〃 〃	約30%		R 108
137	SK7030	土師器 杯	(口径)13.2cm (器高) 2.5cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：にぶい黄橙 10YR7/4 外：〃 〃	ほぼ完存		R 107
138	SK7030	土師器 杯	(口径)13.2cm (器高) 2.9cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：橙 5YR6/6 外：明赤褐 5YR5/8	約30%		R 112
139	SK7030	土師器 杯	(口径)14.6cm (器高) 3.3cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：橙 7.5YR6/6 外：〃 〃	約50%		R 106
140	SK7030	土師器 杯	(口径)15.2cm (器高) 2.7cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	堅緻	内：にぶい黄褐 10YR5/3 外：〃 〃	約20%		R 111
141	SK7030	土師器 杯	(口径)13.5cm (器高) 2.7cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	やや砂質多いが密	良好	内：橙 7.5YR7/6 外：〃 〃	約80%		R 142
142	SK7030	土師器 杯	(口径)13.2cm (器高) 2.6cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	やや砂質多いが密	良好	内：にぶい黄橙 10YR7/4 外：〃 〃	約90%		R 143
143	SK7030	土師器 杯	(口径)13.3cm (器高) 2.7cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	堅緻	内：にぶい黄褐 10YR5/3 外：〃 〃	約90%	内面見込みに強くナデた痕跡あり	R 168
144	SK7030	土師器 杯	(口径)12.5cm (器高) 2.4cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	堅緻	内：橙 7.5YR6/8 外：〃 〃	約80%		R 169
145	SK7030	土師器 杯	(口径)15.5cm (器高) 4.7cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：にぶい黄橙 10YR7/4 外：〃 〃	約70%		R 170
146	SK7030	土師器 杯	(口径)12.8cm (器高) 2.4cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：橙 7.5YR7/6 外：〃 〃	約60%		R 162
147	SK7030	土師器 杯	(口径)12.8cm (器高) 2.7cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：灰白 2.5Y8/2 外：淡黄 2.5Y8/3	約40%		R 161
148	SK7030	土師器 杯	(口径)12.6cm (器高) 2.7cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：淡黄 2.5Y8/4 外：〃 〃	約40%	破断面黒色	R 154

No.	出土遺構	器種	法量	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録番号
149	SK7030	土師器 杯	(口径)12.8cm (器高) 2.7cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：橙 7.5YR6/6 外：〃 〃	約40%		R 155
150	SK7030	土師器 杯	(口径)12.9cm (器高) 2.9cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：橙 7.5YR7/6 外：〃 〃	ほぼ完存		R 160
151	SK7030	土師器 杯	(口径)13.3cm (器高) 3.0cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：灰黄褐 10YR6/2 外：にぶい橙 7.5YR6/4	約50%		R 156
152	SK7030	土師器 杯	(口径)12.8cm (器高) 2.5cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：淡黄 2.5Y8/3 外：〃 〃	約50%		R 159
153	SK7030	土師器 杯	(口径)14.2cm (器高) 3.8cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：橙 7.5YR7/6 外：橙 5YR6/6	約50%		R 157
154	SK7030	土師器 杯	(口径)15.4cm (器高) 3.4cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	やや砂質多いが密	良好	内：浅黄橙 10Y8/4 外：〃 〃	約30%		R 158
155	SK7030	土師器 杯	(口径)15.7cm (器高) 3.3cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	若干あまい	内：淡黄 2.5Y8/3 外：〃 〃	約30%		R 144
156	SK7030	土師器 杯	(口径)13.0cm (器高) 2.4cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：にぶい黄橙 10YR7/4 外：〃 〃	約50%		R 133
157	SK7030	土師器 杯	(口径)12.8cm (器高) 2.5cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	やや砂質多いが密	良好	内：にぶい黄橙 10YR7/4 外：〃 〃	約40%		R 132
158	SK7030	土師器 杯	(口径)13.3cm (器高) 2.6cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：浅黄橙 10YR8/4 外：浅黄橙 7.5YR8/3	ほぼ完存	器表面の摩擦すすむ	R 104
159	SK7030	土師器 杯	(口径)13.0cm (器高) 2.5cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	堅緻	内：浅黄橙 10YR8/4 外：〃 〃	約90%		R 105
160	SK7030	灰釉陶器 皿	(台径) 6.7cm (残高) 1.7cm	外面ロクロナデ、底部ロクロナデ、内面ナデ	緻密	堅緻	内：灰黄 2.5Y7/2 外：〃 〃	高台径の1/3		R 96
161	SK7030	土師器 杯	(口径)13.2cm (器高) 3.4cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	やや砂質含むが密	良好	内：浅黄橙 10YR8/4 外：〃 〃	約90%		R 171
162	SK7030	土師器 杯	(口径)13.5cm (器高) 2.9cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：浅黄橙 10YR8/4 外：〃 〃	約80%		R 172
163	SK7030	土師器 杯	(口径)13.4cm (器高) 3.1cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	やや砂質多いが密	良好	内：にぶい橙 7.5YR7/4 外：〃 〃	ほぼ完存		R 173
164	SK7030	土師器 杯	(口径)13.1cm (器高) 2.9cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	ややシルト質強いが密	良好	内：橙 5YR7/8 外：〃 〃	ほぼ完存	器表面の磨耗・風化著しい	R 140
165	SK7030	土師器 杯	(口径)14.0cm (器高) 3.2cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	堅緻	内：にぶい橙 7.5YR7/4 外：〃 〃	約70%	器形のゆがみ大きい	R 139
166	SK7030	土師器 杯	(口径)13.0cm (器高) 2.7cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：にぶい橙 7.5YR7/4 外：〃 〃	約40%		R 75
167	SK7030	土師器 杯	(口径)13.0cm (器高) 3.0cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：にぶい橙 10YR7/3 外：〃 〃	約90%		R 68
168	SK7030	土師器 杯	(口径)12.8cm (器高) 3.1cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	堅緻	内：灰黄褐 10YR6/3 外：〃 〃	約60%		R 69
169	SK7030	土師器 杯	(口径)13.0cm (器高) 3.2cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：にぶい黄橙 10YR7/4 外：〃 〃	約50%		R 70
170	SK7030	土師器 杯	(口径)13.2cm (器高) 2.5cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：浅黄橙 10YR8/4 外：にぶい黄橙 10YR7/4	約30%		R 80
171	SK7030	土師器 杯	(口径)13.3cm (器高) 2.5cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：にぶい橙 7.5YR6/4 外：〃 〃	約60%	径5mm程度の焼成後穿孔を外から内へ施す	R 71
172	SK7030	土師器 杯	(口径)13.2cm (器高) 2.5cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	堅緻	内：橙 5YR6/6 外：〃 〃	約90%		R 72
173	SK7030	土師器 杯	(口径)14.9cm (器高) 2.7cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：にぶい黄橙 10YR6/4 外：〃 〃	約30%		R 77
174	SK7030	土師器 杯	(口径)14.5cm (器高) 2.8cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：にぶい黄橙 10YR7/4 外：〃 〃	約30%		R 78
175	SK7030	土師器 杯	(口径)15.3cm (器高) 3.6cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：にぶい黄橙 10YR7/4 外：〃 〃	約40%		R 76
176	SK7030	土師器 杯	(口径)19.5cm (残高) 4.0cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	やや砂粒多いが密	良好	内：にぶい黄橙 10YR7/4 外：〃 〃	約30%	外面に粘土板接合痕	R 79
177	SK7030	土師器 杯	(口径)13.0cm (器高) 2.5cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：橙 7.5YR7/6 外：〃 〃	ほぼ完存	器表面の磨耗すすむ	R 83
178	SK7030	土師器 杯	(口径)13.3cm (器高) 2.9cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：淡黄 2.5Y8/3 外：橙 7.5YR7/6	約30%		R 81
179	SK7030	土師器 杯	(口径)13.0cm (器高) 2.5cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：橙 7.5YR7/6 外：橙 7.5YR6/6	約20%		R 82
180	SK7030	土師器 杯	(口径)13.0cm (器高) 2.9cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：にぶい橙 7.5YR7/4 外：〃 〃	約70%		R 164

No.	出土遺構	器種	法量	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録番号
181	SK7030	土師器 杯	(口径)13.1cm (器高) 2.9cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	ややあまい	内：淡黄 2.5Y8/3 外：〃 〃	約80%		R 165
182	SK7030	土師器 杯	(口径)13.4cm (器高) 2.6cm	口縁部ヨコナデ、体部丁寧なナデ・オサエ	密	良好	内：にぶい黄橙 10YR7/4 外：〃 〃	ほぼ完存		R 163
183	SK7030	土師器 皿？	(口径)12.7cm (器高) 2.0cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：橙 7.5YR7/6 外：〃 〃	約30%	口縁部強くナデて、大きく屈曲する	R 126
184	SK7030	土師器 杯	(口径)13.7cm (器高) 2.5cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	堅緻	内：にぶい黄橙 10YR6/3 外：灰黄褐 10YR5/2	約50%		R 109
185	SK7030	土師器 杯	(口径)14.0cm (器高) 3.2cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：橙 7.5YR6/6 外：〃 〃	約30%		R 110
186	SK7030	土師器 杯	(口径)15.2cm (残高) 3.6cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：にぶい黄橙 10YR7/3 外：〃 〃	約30%		R 127
187	SK7030	土師器 杯	(口径)13.6cm (器高) 3.4cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：橙 7.5YR7/6 外：〃 〃	約40%		R 128
188	SK7030	土師器 杯	(口径)11.9cm (器高) 2.8cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：にぶい黄橙 10YR7/4 外：〃 〃	約40%		R 134
189	SK7030	土師器 杯	(口径)12.2cm (器高) 2.7cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：浅黄橙 10YR8/4 外：〃 〃	約60%		R 102
190	SK7030	土師器 杯	(口径)13.6cm (器高) 2.9cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	堅緻	内：にぶい黄橙 10YR7/4 外：〃 〃	約80%		R 135
191	SK7030	土師器 杯	(口径)13.1cm (器高) 2.5cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：にぶい橙 7.5YR7/4 外：〃 〃	約60%		R 103
192	SK7030	土師器 杯	(口径)13.2cm (器高) 2.7cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：浅黄橙 10YR8/4 外：〃 〃	約70%		R 136
193	SK7030	土師器 鉢	(口径)24.6cm (器高)11.7cm	口縁部ヨコナデ、体部外面タテハケ、ケズリ、内面ナデ、ケズリ	密	良好	内：橙 外：〃 〃	約70%		R 73
194	SK7030	土師器 杯	(口径)13.2cm (残高) 3.1cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：にぶい橙 7.5YR7/4 外：〃 〃	約30%		R 138
195	SK7030	土師器 杯	(口径)13.1cm (器高) 3.1cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：橙 7.5YR6/6 外：〃 〃	約40%		R 137
196	SK7030	土師器 杯	(口径)12.5cm (器高) 2.7cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ	緻密	良好	内：橙 5YR6/6 外：〃 〃	約30%		R 93
197	SK7030	土師器 杯	(口径)12.5cm (器高) 2.8cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：にぶい橙 7.5YR7/4 外：〃 〃	約30%		R 101
198	SK7030	土師器 杯	(口径)14.2cm (器高) 2.5cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：浅黄橙 10YR8/4 外：〃 〃	約30%		R 100
199	SK7030	土師器 杯	(口径)14.0cm (器高) 2.9cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：浅黄橙 10YR8/4 外：〃 〃	約60%		R 92
200	SK7030	土師器 杯	(口径)14.5cm (器高) 3.0cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：橙 7.5YR7/6 外：〃 〃	約30%		R 94
201	SK7030	土師器 杯	(口径)15.4cm (器高) 3.9cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：橙 5YR6/8 外：〃 〃	約70%		R 91
202	SK7030	土師器 杯	(口径)16.6cm (器高) 3.7cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：橙 7.5YR7/6 外：〃 〃	口径の1/4		R 99
203	SK7030	土師器 鉢	(口径)25.4cm (底径)12.8cm (器高) 9.7cm	口縁部ヨコナデ、体部内外面ナデ、底部外面ヘラケズリ	密	良好	内：にぶい黄橙 10YR7/4 外：〃 〃	約60%		R 74
204	SK7030	土師器 杯	(口径)13.2cm (器高) 2.9cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：にぶい橙 7.5YR7/4 外：〃 〃	約80%		R 118
205	SK7030	土師器 杯	(口径)13.0cm (器高) 2.9cm	口縁部ヨコナデ、体部丁寧なナデ・オサエ	緻密	堅緻	内：にぶい黄橙 10YR6/3 外：〃 〃	ほぼ完存		R 56
206	SK7030	土師器 杯	(口径)12.8cm (残高) 2.4cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：にぶい橙 7.5YR7/4 外：〃 〃	約20%		R 122
207	SK7030	土師器 杯	(口径)14.8cm (器高) 3.8cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：橙 7.5YR7/6 外：〃 〃	約90%	器表面の摩耗すすむ	R 125
208	SK7030	土師器 杯	(口径)14.5cm (器高) 3.6cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：橙 7.5YR6/6 外：〃 〃	約50%		R 123
209	SK7030	土師器 杯	(口径)13.8cm (器高) 3.8cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：にぶい橙 7.5YR7/4 外：〃 〃	約90%		R 120
210	SK7030	土師器 杯	(口径)13.3cm (器高) 2.7cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：にぶい橙 7.5YR7/4 外：〃 〃	約90%		R 141
211	SK7030	土師器 杯	(口径)13.5cm (器高) 2.6cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：浅黄橙 10YR8/4 外：〃 〃	約90%		R 121
212	SK7030	土師器 杯	(口径)13.2cm (器高) 2.8cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：浅黄橙 10YR8/4 外：〃 〃	ほぼ完存	器表面磨耗著しい	R 57

No.	出土遺構	器種	法量	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録番号
213	SK7030	土師器 杯	(口径)15.2cm (器高) 3.6cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：にぶい褐 7.5YR6/3 外：にぶい黄褐 10YR5/3	約70%		R 113
214	SK7030	土師器 杯	(口径)13.4cm (器高) 2.4cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	堅緻	内：にぶい黄橙 10YR7/4 外：〃 〃	約70%		R 55
215	SK7030	土師器 杯	(口径)14.1cm (器高) 2.4cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：にぶい黄橙 10YR6/3 外：〃 〃	約50%		R 119
216	SK7030	灰釉陶器 椀	(台径) 9.1cm (残高) 3.2cm	外面ロクロナデ、内面ナデ	密	堅緻	内：にぶい黄色 10YR7/2 外：〃 〃	約50%		R 95
217	SK7030	須恵器 杯	(底径) 5.9cm (残高) 2.5cm	内外面ロクロナデ、底部静止糸切痕	密	良好	内：灰白 5Y7/1 外：灰黄 2.5Y7/1	底径の1/3		R 97
218	SK7030	土師器 台付鉢	(台径)14.7cm (残高) 5.0cm	外面粗いタテハケ、内面ナデ	やや砂質多いが密	良好	内：浅黄橙 7.5YR8/4 外：橙 5YR7/6	台径の1/4		R 177
219	SK7030	土師器 鉢	(口径)18.4cm (残高) 7.1cm	口縁部ヨコナデ、底部外面ナデ、オサエ、内面ナデ	やや砂質多いが密	良好	内：浅黄橙 7.5YR8/4 外：〃 〃	口径の1/4	器表面の摩耗すすむ	R 176
220	SK7030	土師器 鉢	(口径)28.6cm (残高) 7.3cm	口縁部ヨコナデ、体部外面タテハケ、内面ナデ	密	良好	内：浅黄橙 10YR8/3 外：〃 〃	口径の1/4		R 178
221	SK7040	土師器 杯	(口径)12.0cm (器高) 2.8cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	堅緻	内：にぶい黄橙 10YR7/4 外：〃 〃	約60%		R 3
222	SK7040	土師器 杯	(口径)11.8cm (器高) 2.2cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：橙 7.5YR6/8 外：〃 〃	約40%		R 25
223	SK7040	土師器 杯	(口径)11.9cm (器高) 2.3cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：浅黄橙 10YR8/4 外：〃 〃	約40%		R 48
224	SK7040	土師器 杯	(口径)11.8cm (器高) 2.8cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	微細な砂粒含むが密	良好	内：淡黄 2.5YR8/4 外：〃 〃	約90%		R 15
225	SK7040	土師器 杯	(口径)12.3cm (器高) 2.7cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：にぶい黄橙 7.5YR6/8 外：〃 〃	ほぼ完存		R 11
226	SK7040	土師器 杯	(口径)13.1cm (器高) 3.2cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：浅黄橙 10YR8/4 外：〃 〃	約50%		R 34
227	SK7040	土師器 杯	(口径)13.2cm (器高) 3.2cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：淡黄 2.5YR8/4 外：〃 〃	約40%		R 39
228	SK7040	土師器 杯	(口径)14.2cm (器高) 3.1cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：橙 7.5YR7/6 外：〃 〃	約30%		R 54
229	SK7040	土師器 杯	(口径)13.9cm (器高) 3.5cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：浅黄橙 10YR8/3 外：〃 〃	約40%		R 30
230	SK7040	土師器 杯	(口径)14.5cm (器高) 3.4cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：浅黄橙 10YR8/4 外：〃 〃	約80%		R 20
231	SK7040	土師器 杯	(口径)13.2cm (器高) 2.9cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：にぶい黄橙 10YR7/4 外：〃 〃	約60%		R 36
232	SK7040	土師器 杯	(口径)12.9cm (器高) 2.7cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：にぶい黄橙 10YR7/4 外：〃 〃	約60%		R 49
233	SK7040	土師器 杯	(口径)12.0cm (器高) 2.4cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：浅黄橙 10YR8/4 外：〃 〃	約40%		R 29
234	SK7040	土師器 杯	(口径)12.8cm (器高) 2.9cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：にぶい黄橙 10YR7/4 外：〃 〃	ほぼ完存		R 9
235	SK7040	土師器 杯	(口径)12.8cm (器高) 2.8cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：にぶい黄橙 10YR7/4 外：〃 〃	完存		R 43
236	SK7040	土師器 杯	(口径)12.6cm (器高) 2.6cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：浅黄橙 10YR8/4 外：〃 〃	約60%		R 37
237	SK7040	土師器 杯	(口径)13.3cm (器高) 2.8cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	微細な砂質含むが密	良好	内：明黄褐 10YR7/6 外：〃 〃	約70%	粘土板接合痕残る	R 38
238	SK7040	土師器 杯	(口径)13.2cm (器高) 2.9cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	微細な砂粒多いが密	良好	内：橙 7.5YR7/6 外：〃 〃	約30%	口縁部に油煙付着	R 35
239	SK7040	土師器 杯	(口径)12.8cm (器高) 2.7cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：浅黄橙 10YR8/4 外：〃 〃	約50%		R 45
240	SK7040	土師器 杯	(口径)12.9cm (器高) 2.7cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	ややあまい	内：浅黄橙 10YR8/4 外：〃 〃	約60%	全面著しく磨耗	R 52
241	SK7040	土師器 杯	(口径)13.0cm (器高) 2.7cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	微細な砂粒含むが密	良好	内：にぶい黄橙 10YR7/4 外：〃 〃	ほぼ完存		R 2
242	SK7040	土師器 杯	(口径)13.3cm (器高) 2.9cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：浅黄橙 10YR8/4 外：橙 7.5YR7/6	約40%	器表面著しく磨耗	R 51
243	SK7040	土師器 杯	(口径)12.5cm (器高) 2.3cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：橙 5YR6/8 外：〃 〃	約50%		R 7
244	SK7040	土師器 杯	(口径)12.5cm (器高) 2.6cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：淡黄 2.5Y8/3 外：〃 〃	約60%		R 22

No.	出土遺構	器種	法量	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録番号
245	S K7040	土師器 杯	(口径)13.3cm (器高) 2.5cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：にぶい黄橙 10YR7/4 外：〃 〃	約40%	粘土板接合痕残る	R 26
246	S K7040	土師器 杯	(口径)13.3cm (器高) 2.7cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：にぶい黄橙 10YR7/3 外：〃 〃	約50%		R 40
247	S K7040	土師器 杯	(口径)12.8cm (器高) 2.7cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：にぶい黄橙 10YR7/3 外：〃 〃	完存		R 18
248	S K7040	土師器 杯	(口径)12.9cm (器高) 2.7cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：にぶい黄橙 10YR7/4 外：〃 〃	約40%		R 31
249	S K7040	土師器 杯	(口径)12.8cm (器高) 2.9cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：橙 5YR6/6 外：〃 〃	約50%	器形のゆがみ大きい	R 46
250	S K7040	土師器 杯	(口径)12.5cm (器高) 2.6cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：浅黄橙 7.5YR8/4 外：〃 〃	完存		R 17
251	S K7040	土師器 杯	(口径)14.3cm (器高) 3.2cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：浅黄橙 10YR8/4 外：〃 〃	ほぼ完存		R 19
252	S K7040	土師器 杯	(口径)14.2cm (器高) 3.3cm	口縁部二段ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：橙 5YR7/6 外：〃 〃	約60%	底部がよく磨耗する	R 44
253	S K7040	土師器 杯	(口径)16.0cm (器高) 3.1cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：橙 7.5YR6/6 外：〃 〃	約40%		R 32
254	S K7040	土師器 杯	(口径)15.4cm (器高) 3.2cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：浅黄橙 10YR8/4 外：〃 〃	約40%		R 24
255	S K7040	土師器 杯	(口径)15.1cm (器高) 3.5cm	口縁部二段ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：橙 5YR6/6 〜にぶい黄橙 10YR7/4 外：にぶい褐 7.5YR5/3	約60%	内面に黒色物付着 外面二次焼成による赤変認められる	R 4
256	S K7040	土師器 杯	(口径)18.8cm (残高) 3.7cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：浅黄橙 10YR8/3 外：〃 〃	約20%		R 53
257	S K7040	土師器 杯	(口径)12.4cm (器高) 2.8cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：橙 5YR6/8 外：〃 〃	約70%		R 284
258	S K7040	土師器 杯	(口径)12.3cm (器高) 2.8cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：灰白 7.5YR8/2 外：淡黄 2.5Y8/3	完存		R 1
259	S K7040	土師器 杯	(口径)15.3cm (器高) 3.0cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：橙 7.5YR7/6 外：〃 〃	約40%		R 182
260	S K7040	土師器 杯	(口径)12.8cm (器高) 2.2cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：橙 5YR6/6 外：〃 〃	約50%		R 47
261	S K7040	土師器 杯	(口径)12.5cm (器高) 2.5cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	微細な砂粒含むが密	良好	内：橙 5YR6/8 外：〃 〃	約90%		R 21
262	S K7040	土師器 皿	(口径)11.8cm (器高) 2.5cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：浅黄橙 10YR8/4 外：明黄褐 10YR6/6	約40%		R 28
263	S K7040	土師器 皿	(口径)12.4cm (器高) 2.3cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：橙 7.5YR7/6 外：〃 〃	完存		R 10
264	S K7040	土師器 皿	(口径)13.5cm (器高) 2.3cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：にぶい黄橙 10YR6/3 外：〃 〃	約50%		R 5
265	S K7040	土師器 皿	(口径)13.8cm (器高) 2.4cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：淡黄 2.5Y8/4 外：〃 〃	約70%		R 41
266	S K7040	土師器 皿	(口径)13.2cm (器高) 1.8cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：橙 7.5YR7/6 外：〃 〃	約70%	外面に粘土板接合痕あり	R 14
267	S K7040	土師器 皿	(口径)12.1cm (器高) 1.9cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：浅黄橙 10YR8/4 外：〃 〃	約80%		R 16
268	S K7040	土師器 皿	(口径)12.6cm (器高) 1.7cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：にぶい黄橙 10YR7/4 外：〃 〃	約50%		R 27
269	S K7040	土師器 皿	(口径)12.7cm (器高) 1.9cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	砂質多い	ややあまい	内：橙 5YR7/8 外：〃 〃	約50%	器表面の磨耗すすむ	R 285
270	S K7040	土師器 皿	(口径)13.5cm (器高) 1.9cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：にぶい黄橙 10YR7/4 外：〃 〃	約80%		R 8
271	S K7040	土師器 皿	(口径)12.3cm (器高) 1.8cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：にぶい黄橙 10YR7/4 外：〃 〃	約80%	一部口縁部が強く歪んで屈曲する 外面に粘土接合痕あり	R 13
272	S K7040	土師器 皿	(口径)12.2cm (器高) 1.6cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：にぶい橙 7.5YR7/4 外：〃 〃	約50%		R 23
273	S K7040	土師器 皿	(口径)12.1cm (器高) 1.8cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	微細な砂粒含むが密	良好	内：橙 7.5YR6/8 外：〃 〃	ほぼ完存		R 12
274	S K7040	土師器 皿	(口径)14.0cm (器高) 1.5cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：にぶい黄橙 10YR7/4 外：〃 〃	ほぼ完存	内面に束状の植物茎？が当たった痕跡あり	R 6
275	S K7040	土師器 皿	(口径)13.9cm (器高) 1.8cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：浅黄橙 10YR8/4 外：〃 〃	ほぼ完存	器形のゆがみ大きい	R 282
276	S K7040	土師器 皿	(口径)12.4cm (残高) 1.4cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：にぶい黄橙 10YR7/4 外：〃 〃	約30%		R 33

No.	出土遺構	器種	法量	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録番号
277	SK7040	土師器 皿	(口径)12.4cm (器高) 1.4cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：浅黄橙 10YR8/4 外：〃 〃	約50%		R 283
278	SK7040	土師器 台付杯	(台径) 8.4cm (残高) 3.7cm	口縁部ナデ、体部外面タテハケ、底部ナデ、内面ナデ	緻密	堅緻	内：橙 7.5YR7/6 外：橙 10YR8/4	高台径の約50%		R 50
279	SK7040	灰釉陶器 皿	(台径) 7.2cm (残高) 1.9cm	口縁部ロクロナデ、体部内外面ロクロナデ	緻密	堅緻	内：灰白 5YR7/2 外：〃 〃	高台径の1/4		R 42
280	SK7029	土師器 皿	(口径) 9.4cm (器高) 1.7cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ	密	良好	内：にぶい黄橙 10YR7/4 外：〃 〃	ほぼ完存		R 306
281	SK7029	土師器 皿	(口径)10.0cm (器高) 1.8cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ	やや砂質多いが密	良好	内：にぶい黄橙 10YR7/4 外：〃 〃	約70%		R 307
282	SK7029	ロクロ土師器 杯	(口径) 9.4cm (底径) 4.7cm (器高) 2.2cm	口縁部ヨコナデ、体部内外面ロクロナデ、底部回転糸切痕	やや砂質多いが密	良好	内：橙 7.5YR6/8 外：〃 〃	約60%		R 308
283	SK7029	ロクロ土師器 椀	(口径)14.3cm (底径) 4.9cm (器高) 4.1cm	口縁部ヨコナデ、体部内外面ロクロナデ、底部回転糸切痕	やや砂質多いが密	良好	内：淡黄 2.5Y8/3 外：〃 〃	約70%		R 305
284	SK7029	ロクロ土師器 台付椀	(口径)14.5cm (台径) 7.2cm (器高) 3.8cm	口縁部ヨコナデ、底部外面ロクロナデ、内面ナデ、底部ナデ	密	良好	内：淡黄橙 10YR8/4 外：〃 〃	約70%	内面に多数のヘラ状工具の当たり痕、調整は雑	R 309
285	SK7052	土師器 皿	(口径) 9.3cm (器高) 2.0cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	微細な砂質多いが密	良好	内：にぶい黄橙 10YR7/4 外：〃 〃	約60%		R 301
286	SK7052	土師器 皿	(口径) 9.3cm (器高) 1.6cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	砂質多量に含むが密	ややあまい	内：にぶい黄橙 10YR7/4 外：〃 〃	約90%		R 299
287	SK7052	土師器 皿	(口径)12.0cm (器高) 3.1cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	砂質多量に含みややもろい	ややあまい	内：浅黄 2.5Y7/4 外：〃 〃	約60%		R 300
288	SK7052	ロクロ土師器 杯	(口径) 8.9cm (底径) 4.2cm (器高) 1.8cm	口縁部ヨコナデ、体部内外面ロクロナデ、底部回転糸切痕	やや砂質多いが密	ややあまい	内：浅黄橙 10YR8/3 外：〃 〃	約80%		R 297
289	SK7052	ロクロ土師器 台付杯	(口径) 4.6cm (器高) 1.8cm	口縁部ヨコナデ、体部内外面ロクロナデ、底部回転糸切痕	やや砂質多いが密	良好	内：淡黄 2.5Y8/3 外：〃 〃	約80%		R 298
290	SK7052	ロクロ土師器 台付杯	(台径) 4.6cm (残高) 2.0cm	口縁部ヨコナデ、体部内外面ロクロナデ、底部ヘラ状工具ナデ	密	良好	内：淡黄 2.5Y8/3 外：〃 〃	約60%		R 302
291	SK7052	ロクロ土師器 台付杯	(台径) 8.0cm (器高) 4.0cm	口縁部ヨコナデ、体部内外面ロクロナデ	密	良好	内：灰黄 2.5Y6/2 外：〃 〃	高台部のみ残存		R 303
292	SK7051	土師器 皿	(口径) 9.4cm (器高) 1.7cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	砂質多いが密	良好	内：にぶい黄橙 10YR7/4 外：〃 〃	完存		R 293
293	SK7051	土師器 小皿	(口径) 9.3cm (器高) 1.8cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	砂質多量に含むが密	良好	内：淡黄 2.5Y8/3 外：〃 〃	ほぼ完存	外面に粘土板接合痕	R 292
294	SK7051	ロクロ土師器 杯	(口径) 8.1cm (底径) 3.3cm (器高) 1.9cm	口縁部ヨコナデ、体部内外面ロクロナデ、底部回転糸切痕	砂質多い	ややあまい	内：灰白 2.5Y8/2 外：〃 〃	ほぼ完存	器表面の風化すすむ	R 291
295	SK7051	ロクロ土師器 杯	(口径) 9.5cm (底径) 3.9cm (器高) 2.5cm	口縁部ヨコナデ、体部内外面ロクロナデ、底部回転糸切痕	密	良好	内：灰黄 2.5Y7/2 外：〃 〃	約90%		R 290
296	SK7051	陶器 椀 (山茶椀)	(台径) 6.3cm (残高) 3.2cm	体部内外面ロクロナデ、底部回転糸切痕	径1㎜～2㎜以下の小石・砂粒含むが密	良好	内：浅黄 2.5Y7/3 外：〃 〃	高台部のみ残存		R 294
297	SK7051	ロクロ土師器 台付杯	(台径) 6.7cm (残高) 3.8cm	体部内外面ロクロナデ、貼り付高台部と底部に棒状工具のオサエ	やや砂質多いが密	良好	内：浅黄 2.5Y8/3 外：〃 〃	高台部のみ残存		R 295
298	SK7051	ロクロ土師器 台付杯	(口径)10.0cm (台径) 4.4cm (器高) 3.1cm	口縁部ヨコナデ、内面ロクロナデ、底部ヘラ切り	密	良好	内：橙 7.5YR7/6 外：〃 〃	約90%		R 289
299	SK7051	土師器 皿	(口径)11.7cm (器高) 2.6cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	砂質多いが密	良好	内：淡黄 5Y8/3 外：〃 〃	約30%	粘土板接合痕あり	R 296
300	SD7014	緑釉陶器 椀	(台径) 7.0cm (残高) 1.9cm	体部内外面ヘラミガキ、貼付蛇目高台	緻密	良好	釉：もえぎ色 胎土：灰白色 7.5Y8/1	高台径の1/2	内外全面に施釉 猿投産	R 310
301	SD7007	緑釉陶器 椀	(台径) 7.7cm (残高) 1.5cm	体部外面ロクロナデ、貼付高台部内面に沈線、底部回転糸切痕、内面ナデ	緻密	良好	釉：深緑色 胎土：淡黄 2.5Y8/4	高台部のみ残存	近江産	R 311

第104次調査

No.	出土遺構	器種	法量	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録番号
1	SE7060	土師器 杯	(口径)13.2cm (器高) 2.6cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ	微細な砂質多いが密	良好	内：橙 5YR6/6 外：〃 〃	約70%		R 13
2	SE7060	土師器 杯	(口径)13.4cm (器高) 2.8cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ	密	堅緻	内：橙 7.5YR7/6 外：〃 〃	約70%	内面に放射状暗文	R 22
3	SE7060	土師器 杯	(口径)13.4cm (器高) 2.5cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	砂質多いが密	良好	内：橙 5YR6/6 外：〃 〃	約40%		R 25
4	SE7060	土師器 杯	(口径)14.5cm (器高) 3.2cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	やや砂質含むが密	良好	内：橙 5YR6/6 外：〃 〃	約60%		R 14
5	SE7060	土師器 杯	(口径)13.8cm (器高) 3.1cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	堅緻	内：橙 5YR6/6 外：〃 〃	約90%		R 16

No.	出土遺構	器種	法量	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録番号
6	SE7060	土師器 杯	(口径)13.4cm (器高) 3.0cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：橙 外：〃 5YR6/8 〃	約70%		R 6
7	SE7060	土師器 杯	(口径)13.5cm (器高) 3.0cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	やや砂質多いが密	良好	内：橙 外：〃 7.5YR7/6 〃	完存		R 3
8	SE7060	土師器 杯	(口径)13.3cm (器高) 3.0cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：淡黄 外：〃 2.5Y8/3 〃	約70%		R 34
9	SE7060	土師器 杯	(口径)14.1cm (器高) 3.2cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：橙 外：〃 5YR6/8 〃	約80%		R 17
10	SE7060	土師器 杯	(口径)14.5cm (器高) 2.7cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：橙 外：〃 5YR7/8 〃	約50%	器表面磨耗著しい	R 20
11	SE7060	土師器 杯	(口径)14.3cm (器高) 3.1cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：橙 外：〃 7.5YR7/6 〃	約60%		R 23
12	SE7060	土師器 杯	(口径)14.2cm (器高) 3.0cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：橙 外：〃 5YR7/6 〃	約30%		R 33
13	SE7060	土師器 杯	(口径)16.6cm (器高) 3.6cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：橙 外：〃 7.5YR7/6 〃	約50%		R 8
14	SE7060	土師器 杯	(口径)14.2cm (器高) 2.5cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	緻密	良好	内：橙 外：〃 7.5YR7/6 〃	約40%	内面にネズミの歯形が残る	R 24
15	SE7060	土師器 杯	(口径)13.9cm (器高) 3.4cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：にぶい黄橙 外：〃 10YR7/4 〃	約50%		R 31
16	SE7060	土師器 杯	(口径)14.4cm (器高) 3.6cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：橙 外：〃 5YR7/8 〃	約80%		R 5
17	SE7060	土師器 杯	(口径)14.4cm (器高) 3.7cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：橙 外：〃 5YR6/8 〃	約80%	内底面に十字にヘラ線刻	R 15
18	SE7060	土師器 杯	(口径)15.8cm (器高) 3.8cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：橙 外：〃 7.5YR6/6 〃	約70%	内面に放射状と螺旋状の暗文	R 12
19	SE7060	土師器 杯	(口径)14.2cm (器高) 3.3cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：にぶい橙 外：〃 7.5YR7/4 〃	ほぼ完存	底部に内面からの穿孔	R 7
20	SE7060	土師器 杯	(口径)17.3cm (器高) 3.9cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	やや砂質多いが密	良好	内：橙 外：〃 7.5YR7/6 〃	約40%		R 35
21	SE7060	土師器 皿	(口径)14.0cm (器高) 1.5cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：橙 外：〃 5YR6/8 〃	約90%		R 9
22	SE7060	土師器 皿	(口径)14.6cm (器高) 1.7cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：にぶい黄橙 外：〃 10YR7/4 〃	約90%		R 4
23	SE7060	土師器 皿	(口径)14.0cm (器高) 2.3cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	やや砂質多いが密	良好	内：橙 外：〃 7.5YR7/6 〃	約90%	粘土接合痕残る	R 10
24	SE7060	土師器 台付杯	(台径)11.0cm (残高) 5.8cm	外面5本／cmのハケ、内面ナデ、高台端部ヨコナデ	緻密	良好	内：橙 外：〃 7.5YR7/6 〃	台部のみ残存		R 32
25	SE7060	黒色土器 杯	(口径)19.8cm (器高) 5.7cm	内面ヘラミガキ、外面ケズリ、口縁端部ヨコナデ	緻密	良好	内：黒 外：橙 N1.5/0 7.5YR7/6	約80%	黒色土器A類 内面に螺旋状暗文	R 1
26	SE7060	黒色土器 杯	(口径)17.4cm (器高) 4.6cm	内面ヘラミガキ、外面ケズリ、口縁端部ヨコナデ	緻密	良好	内：黒 外：橙 N1.5/0 7.5YR7/6	約60%	黒色土器A類 内面に螺旋状暗文	R 2
27	SE7060	土師器 甕	(口径)16.2cm (器高)13.2cm	外面7本／2cm、内面27本／2.5cmのハケ、底部ケズリ	やや砂質多いが密	良好	内：にぶい赤褐 外：にぶい黄褐 5YR5/4 10YR4/3	約50%	底部内面に黒色物付着、また埋没時に鉄分付着	R 18
28	SE7060	土師器 甕	(口径)17.1cm (器高)16.2cm	外面5本／cmのハケ、内面底部外面ケズリ	密	良好	内：浅黄橙 外：〃 10YR8/4 〃	約70%	使用痕認められない	R 19
29	SE7060	灰釉陶器 椀	(口径)14.2cm (台径) 6.3cm (器高) 4.7cm	体部ロクロナデ、底部に回転糸切痕、口縁部ヨコナデ	密	良好	内：灰白 外：〃 5Y8/1 〃	約60%	内面に輪状に重ね焼き痕 自然釉が付着するが灰釉はとぶ	R 29
30	SE7060	灰釉陶器 皿	(台径) 6.5cm (残高) 2.4cm	体部ロクロナデ、底部回転ヘラケズリ、釉ツケガケ	緻密	良好	体部：灰白 釉　：〃 5Y7/1 7.5Y7/2	高台部のみ残存	内面に輪状に重ね焼き痕	R 28
31	SE7060	灰釉陶器 皿	(口径)14.6cm (台径) 7.0cm (器高) 2.6cm	体部外面ロクロナデ、内面ナデ、底部回転糸切痕残る釉ツケガケ	密	良好	体部：灰白 釉　：〃 5Y7/1 5Y7/2	完存	底部外面に墨痕残る	R 37
32	SE7060	灰釉陶器 皿	(口径)18.0cm (台径) 8.4cm (器高) 4.1cm	体部ロクロナデ、底部回転ヘラケズリ、釉ツケガケ	緻密	ややあまい	内：にぶい黄橙 外：灰 10YR7/3 5Y7/1	約60%		R 27
33	SE7060	灰釉陶器 小瓶	(口径) 4.0cm (底径) 5.9cm (器高)11.5cm	口縁部ヨコナデ、体部上半ロクロナデ、下半ヘラケズリ、底部回転糸切痕	径1mm以下の黒色粒含むが密	良好	体部：灰白 釉：灰オリーブ 5Y8/1 7.5Y5/3	完存	外面に多量の自然釉付着	R 11
34	SE7060	灰釉陶器 広口壺	(口径)12.2cm (残高)14.6cm	口縁部ヨコナデ、体部ロクロナデ、釉ハケ塗り	密	堅緻	体部：灰白 釉　：明緑灰 5Y8/1 7.5GY8/1	胴上半のみ残存	自然釉も一部付着	R 26
35	SE7060	須恵器 円面硯	(口径)11.6cm (残高) 3.0cm	貼付突帯、体部ナデ	密	良好	内：灰白 外：〃 7.5Y7/1 〃	口径の約1/8	台部に一部ヘラ描き沈線残る	R 40
36	SE7060	土師器 杯	(口径)13.2cm (器高) 2.9cm	口縁部ヨコナデ、体部ナデ・オサエ	密	良好	内：橙 外：〃 5YR6/8 〃	約80%	底部外面に「本」の墨書	R 36
37	SE7060	灰釉陶器 皿	(口径)14.7cm (台径) 7.3cm (器高) 2.7cm	体部外面ロクロナデ、内面ナデ、底部回転ヘラケズリ釉ツケガケ	密	良好	体部：灰白 釉：オリーブ黄 5Y7/1 5Y6/3	約90%	底部外面に「文」の墨書と筆擦痕、内面に輪状に重ね焼き痕	R 38

No.	出土遺構	器種	法量	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録番号
38	SE7065	土師器 小皿	(口径) 8.3cm (器高) 1.0cm	内面ナデ、外面ナデ・オサエ	密	良好	内：淡黄 2.5Y8/3 外：〃 〃	完存		R 41
39	SE7065	土師器 皿	(口径)11.5cm (器高) 2.0cm	内面ナデ、外面ナデ・オサエ	密	良好	内：灰白 2.5Y8/2 外：〃 〃	約90%		R 43
40	SE7065	土師器 皿	(口径)12.7cm (器高) 2.4cm	内面ナデ、外面ナデ・オサエ	微細な砂粒含むが密	良好	内：にぶい黄橙 10YR6/4 外：〃 〃	約90%	粘土接合痕残る	R 42
41	SD7063	灰釉陶器 椀	(口径)16.4cm (台径) 5.6cm (器高) 6.8cm	体部外面ロクロナデとヘラケズリ、内面ナデ、底部糸切後ロクロナデ	緻密	良好	体部：灰白 7.5Y7/1 釉：オリーブ黄 7.5Y6/3	約80%	内面に輪状に重ね焼き痕	R 30
42	包含層	青磁 椀	(台径) 4.8cm (残高) 3.0cm	高台内面ケズリ、他は全面施釉	密	良好	体部：浅黄橙 10YR8/4 灰白 N8/0 釉：オリーブ灰 10Y5/2	高台径の約1/2	見込み部に不鮮明な印刻	R 39

注）○No.は本書遺物実測図の番号と一致する。

○器種の項では、それぞれ「～形土器」の表現を省略した。

○法量の「口径」は口縁端部の最高点を結んだ長さを示す。

○色調は農林水産省農林水産技術会議事務局他監修の『新版標準土色帖』(1988年度版)を参照した。

○登録番号は遺物・図面の整理及び管理上の番号で、各調査次数ごとに実測された遺物すべてに通して付されている。

斎宮跡発掘調査次数一覧表

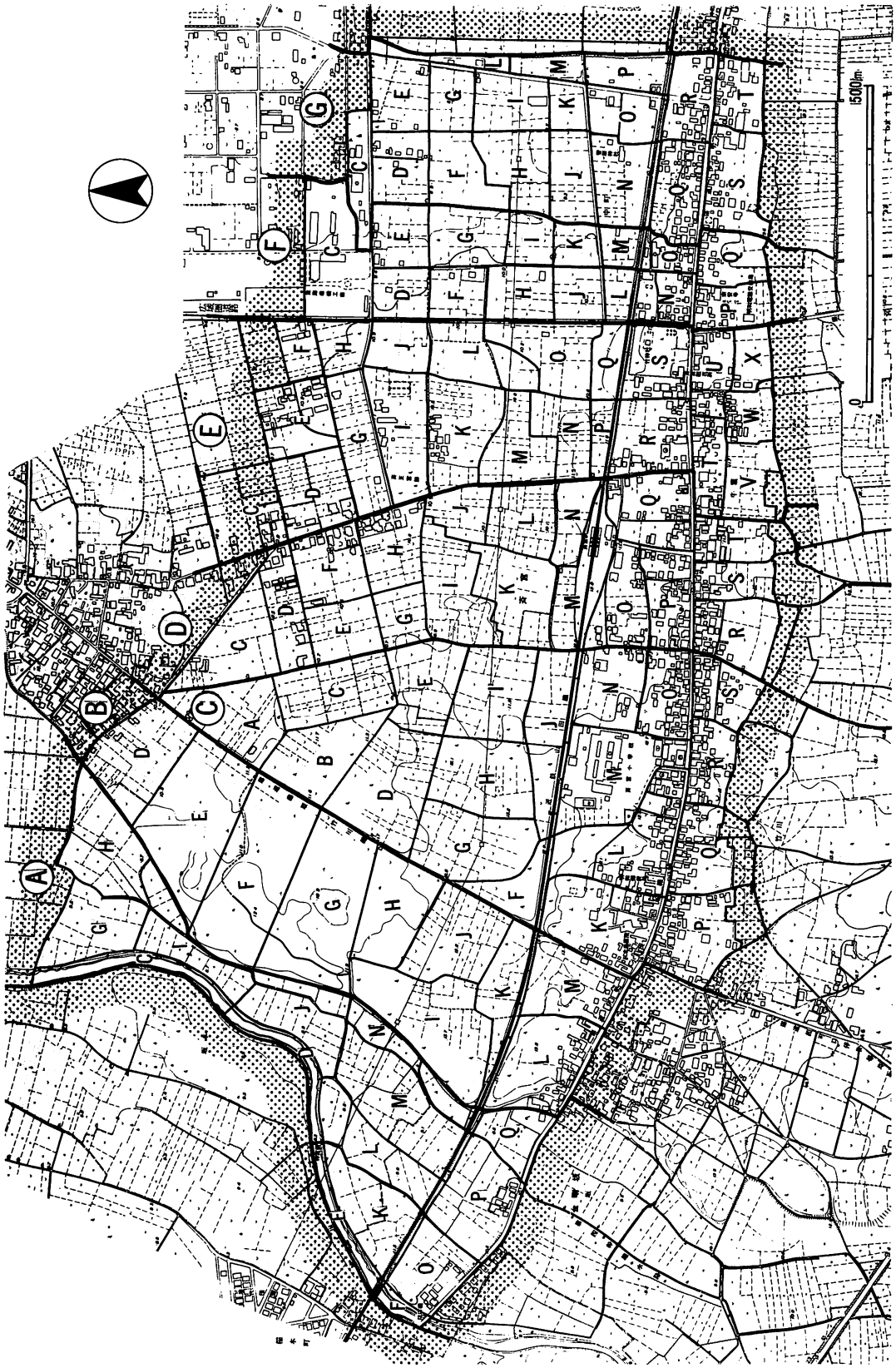
次	年度	調査地区
1	S45	試掘
2	46	古里A地区
3		〃 B地区
4	47	〃 C地区
5	48	〃 D地区
6－1		Aトレンチ
6－2		Bトレンチ
6－3		Cトレンチ
6－4		Dトレンチ
6－5		Eトレンチ
7	49	古里E地区
8－1		Fトレンチ
8－2		Gトレンチ
8－3		Hトレンチ
8－4		Iトレンチ
8－5		Jトレンチ
8－6		Kトレンチ
8－7		Lトレンチ
8－8		Mトレンチ
8－9		Nトレンチ
8－10		Oトレンチ
8－11		Pトレンチ
9－1	50	Qトレンチ
9－2		Rトレンチ
9－3		Sトレンチ
9－4		Tトレンチ
9－5		Uトレンチ
9－6		Vトレンチ
9－7		Wトレンチ
9－8		Xトレンチ
9－9		Yトレンチ
9－10		Zトレンチ
10		広域圏道路
11－1		西加座2661－1（山中）
11－2		〃 2681－1（山名）
11－3		東前沖2483－2（前田）
11－4		下　園2926－9（吉木）
12－1	51	2Aトレンチ
12－2		2Bトレンチ
12－3		2Cトレンチ
12－4		2Dトレンチ
13－1		東加座2436－7（浜口）
13－2		〃 2436－4（中村）
13－3		古　里3283（村上）
13－4		楽　殿2916～2917（松井）
13－5		御　館2974－1（川本）
13－6	51	中垣内375－1（南）
13－7		東　裏328（小川）
13－8		西加座2771－1（細井）
13－9		〃 2773（細井）
13－10		東　裏362－1（児島）
13－11		西加座2681－1（浮田）
13－12		〃 2721－3，2724－2（森川）
13－13		東前沖2506－2（宮下）
14－1	52	2Eトレンチ
14－2		2Fトレンチ
14－3		2Gトレンチ
14－4		2Hトレンチ
14－5		2Iトレンチ
15		斎宮小学校
16－1		竹川町道A
16－2		〃 B
16－3		〃 C
16－4		〃 D
16－5		〃 E
16－6		〃 F
17－1		竹神社社務所
17－2		竹神社防火用水
17－3		西加座2721－6（西沢）
17－4		楽　殿2894－1（中川）
17－5		〃 2895－1（西口）
17－6		出在家3237－3（吉川）
17－7		〃 3237－1（里中）
17－8		楽　殿2894－1（西村）
17－9		東海造機
18	53	6AEL－E・I（下園）
19		6AEN－M・N・O（御館）
20		6AEO－I・J（柳原）
21－1		6AGN－B（鍛冶山、北山）
21－2		6AEI－D（西加座2711－2，2717－4他、山路）
21－3		6AFD－D（西前沖2649－1、大西）
21－4		6AFH－F（西加座2678，2679－3、森下）
21－5		6AGD－K（東前沖、渡部）
21－6		6ACA－T（古里3269－2、中西）
21－7		6AFE－F（東前沖2631－1、鈴木）
21－8		6AEG－A（楽殿2909－3、大西）
21－9		6AED－R（篠林3218－3、宇田）
22－1		6AGU
22－2		6AGU
22－3		6AGW
23	54	6AEL－B（下園）
24		6AGF－D（西加座）

次	年度	調　査　地　区
25－1	54	6ADP－K（牛葉3029－1、三重土地ホーム）
25－2		6ACA－Y（古里3270、脇田）
25－3		6ADD－F（篠林3139－3、池田）
25－4		6AER－H（牛葉3014、牛葉公民館）
25－5		6AGN－H（鍛冶山2392、丸山）
25－6		6AFH－A（西加座2675－5、谷口）
25－7		6AEK－V（下園2926－10、奥田）
25－8		6AFC－D（西前沖2064－5、山本）
25－9		6ACN－C（広頭3387－1、北出）
25－10		6AEV－A（鈴池339－1、永島）
25－11		6ACF－B（東裏364－1、沢）
25－12		6AEE－Y（楽殿2892－3、山本）
25－13		6AEJ－E（西加座2766－1、山内）
26－1		6AFR　（中西）
26－2		6AEX～6ACQ（鈴池、木葉山、南裏）
26－3		6AEV・W・X（鈴池）
26－4		6ACR　（木葉山、南裏）
27		6ACG－S・T（東裏）
28		6AEO－D（柳原）
29		6AF1、6AFL、6AFK、6AFM、6AGJ
30	55	6ABJ－M・X・W（中垣内）
31－1		6ADO－M（内山3038－13、岩見）
31－2		6ACP－I（南裏227－2、鈴木）
31－3		6ABD－A（古里588－4、北藪）
31－4		6ADQ－T（牛葉3018－2、百五銀行）
31－5		6ACC－G（塚山3338－3、水谷）
31－6		6ABO－X（古里576－1、池田）
31－7		6AGI－L（東加座2427－1、竹内）
31－8		6ACN－G（広頭3388－1・5・8・9、森）
31－8		6AGD－L（北野2487－1、中川）
31－10		6ADM－O（内山3043-3、斎宮駅）
31－11		6ADT－I（木葉山304－2、澄野）
31－12		6ADT－J（木葉山304－7、宇田）
32		6ACE－D・E・F（塚山）
33		6ADE－C・D他（篠林）
34		6ADE－F・G・H（西加座）
35		6APE他（西前沖）
36	56	6ABI－F（中垣内）
37－1		6AFC－M（西前沖2064、日本経木）
37－2		6ADQ－R（牛葉3021－2、野田）
37－3		6AFC－F（西前沖2604－6、神田）
37－4		6AFC－M（西前沖2604、日本経木）
37－5		6AFC－G（西前沖2064－7、中村）
37－6		6ABD－A（古里588－2、北藪）
37－7		6AEC－M（苅干2861－2、斎王公民館）
37－8		6ADR－P（木葉山128－8・13・14、富山）
37－8		6AGK－E（東加座2355－1、竹内）
37－10		6AED－O（楽殿3217－1、渡部）
37－11		6ADN－O（内山3043－3、斎宮駅）

次	年度	調　査　地　区
37－12	56	6AFH－J（西加座2681－1・3・4、渋谷）
37－13		6AGK－F（西加座2385－3、2386－3、竹内）
38		6ACD－S（塚山）
39		6ABD－R・S・T（古里）
40		6AGH－L・M（東加座）
41		6AGJ－J他（斎宮地内）
42－1	57	6AEI－D・F（楽殿）
42－2		6AEK－A・B（楽殿）
43－1		6ADC－C（出在家3235－2、永田）
43－2		6ADT－B（木葉山308－1、山本）
43－3		6ACP－T（南裏241－1、辻）
43－4		6ADS－D（牛葉123－3、西山）
43－5		6ADE－D（篠林3220－3、澄野）
43－6		6AGE（東前沖、町道側溝）
43－7		6ABD－F（古里588－6、今西）
43－8		6ADQ－H（牛葉3025－2、大西）
44		6AFL－A・B（鍛冶山2759－1、他）
45		6AEG－P・Q（楽殿2904－2、他）
46		6AGN－C・D（鍛冶山2737－1、他）
47		6ADJ－D・G他（西加座、御館、宮ノ前、上園）
48－1	58	6AGM－M（広頭3385、斎宮小）
48－2		6ADP－Q（牛葉3033－1・2、吉田）
48－3		6ABL－M（中垣内434－6、西川）
48－4		6AGL－B（東前沖2480、倉田）
48－5		6AGD～6AFE（東前沖、町道側溝）
48－6		6AGC－A（西前沖3550－1、今西）
48－7		6ADT－H（木葉山307、森西）
48－8		6ACL－E・F・G（東裏334－15、他）
48－9		6AEV－J（鈴池341－1、乾）
48－10		6AGT（牛葉、町道側溝）
48－11		6ADP－E（鍛冶山2351－1,2352－1、榊原）
48－12		6AFC－H（西前沖2604－8・9、清水）
48－13		6ACM－O（東裏、斎宮小）
48－14		6AET（牛葉、町道側溝）
49		6ADI－D・U・V・W・X（上園3083、他）
50		6ACH－H（東裏294,297、山本）
51		6AFF－D（西加座2663－1・4,2664、森下）
52		6AGF－D（西加座2703、他）
53－1	59	6ACM－P（東裏284、体育館）
53－2		6ACA－M（古里3280－2、中西）
53－3		6ABE（古里573－2、永納）
53－4		6ACL－S（東裏271－1、田所）
53－5		6ACR（木葉山97－5、田中）
53－6		6AGO（鍛冶山、町道側溝）
53－7		6ADD－U（篠林3147－3、野呂）
53－8		6AGE－O（東前沖2470－2、上田）
53－9		6ACS－O（木葉山95－2、浅尾）
53－10		6ACA－R（古里3267－1、西川）
53－11		6ADR－W（木葉山131－7、西村）

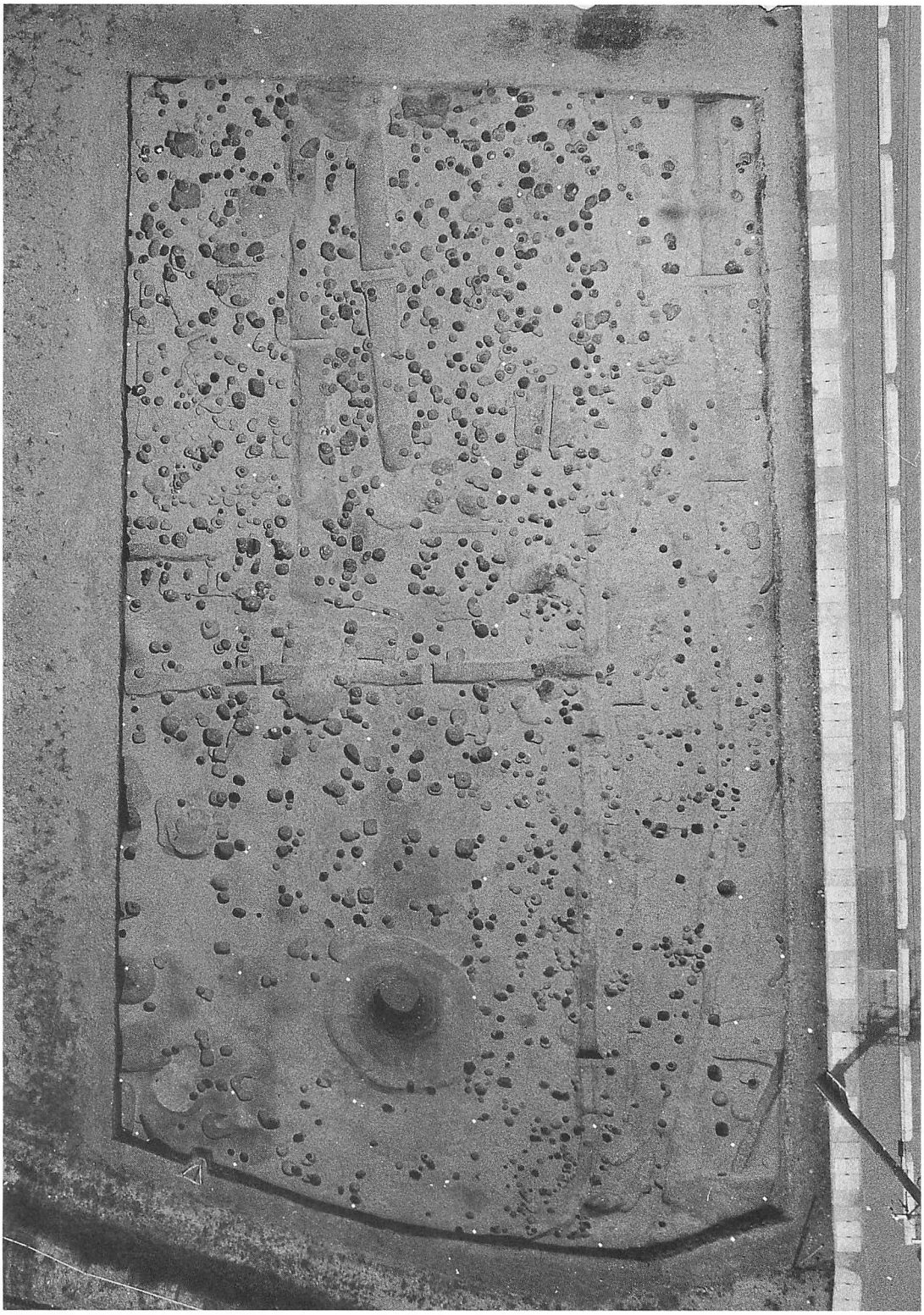
次	年度	調査地区
53－12	59	6ABL－K（中垣内464－2、沢）
53－13		6ADQ－L（牛葉3022、辻）
53－14		6ACM－O（東裏287－3、体育庫）
53－15		6AFK－C・D（西加座2721－1、鈴木）
54		6AFE－N（西前沖2630、他）
55		6AEN－P（柳原、御館2785－1、他）
56		6ACH－S（東裏289－1、他）
57		6AGF－H・I（東加座2441、他）
58－1	60	6AFK－C・D（西加座2721－1、鈴木）
58－2		6AFH－N（西加座2681－8、三村）
58－3		6ACM－N（東裏3385－2、斎宮小）
58－4		6ABL－A（中垣内4731－1、小家）
58－5		6ADQ－Q（牛葉、町道側溝）
58－6		6ADR－V（木葉山131－3、西山）
58－7		6AGS－G（中西611、山路）
58－8		6ABM－A（中垣内430－3他、近鉄）
59		6ACJ－I（広頭3379－1、他）
60		6AGJ－B・D・G（東加座2450－1、他）
61		6AFF－H・I・D（西加座2663－1、他）
62		6AGI－J・K（東加座2425、他）
63		6AFG－M・N（西加座2659－1、他）
64－1	61	6ACO－H（牛葉3395－1、トーカイ）
64－2		6AGL－F（東加座2435－1、大和谷）
64－3		6ADD－A（篠林3136－1、山路）
64－4		6AGR－N（笛川2340、丸山）
64－5		6ACM－R・Q・P（東裏3385－2、斎宮小）
64－6		6ACK　（東裏361－2、竹川自治会）
64－7		6AGI－G（東加座2435－2、大和谷）
64－8		6AGR－J（笛川2341－6、山下）
64－9		6ADQ－M（牛葉、町道側溝）
64－10		6ACF－A（東裏365－1、樋口）
64－11		6ACM－O（東裏3385－2、斎宮小）
64－12		6ADE－B（篠林3162－3、江崎）
65－1		6ACC－M（塚山3331－1）
65－2		6AEG－S（楽殿2908－2、他）
65－3		6AEI－L・M(楽殿2917－4、他）
66		6AGG－C（東加座2437－1、他）
67		6ABF　（古里523、他）
68		6ABF　（古里502、他）
69		6AGM－E～H（東加座2373、他）
70－1	62	6ACC－X（塚山3325－1、江崎）
70－2		6AEE－W（楽殿2875－2、岡田）
70－3		6ADR－I（木葉山129－5、大西）
70－4		6ACN－A・B・E・L（広頭3389－8、林）
70－5		6AEW－A（鈴池333－1、八田）
70－6		6ABL－S（中垣内430－6、奥山）
70－7		6AEE－T（楽殿577、浅尾）
70－8		6AEU・6AEX－A（牛葉、鈴池、三重県）
70－9		6AEP－C・D（御館、榊原、近鉄）
70－10	62	6AFD－B・D（西前沖2649－4、大西）
70－11		6AGO－H（鍛冶山2363－2、川合）
70－12		6ADD－F・G（篠林3158、長谷川）
70－13		6AEC－N・G（苅干、佐藤）
70－14		6ABL－R（中垣内459、北岡）
70－15		6AFD－A（西前沖2644－1、山本）
70－16		6ACB－A他（町道塚山線拡幅）
71		6ABE　（古里501、他）
72－1		6ABE　（古里500、他）
72－2		6ABF　（古里523、他）
72－3		6ABF　（古里551－2、他）
72－4		6ABF　（古里528－1、他）
73		6AFF－B・C・E・G（西加座2663－5、他）
74－1		6ABF　（古里523、他）
74－2		6ABF　（古里522、他）
74－3		6ABE・F（古里524、他）
74－4		6ABE　（古里548－1、他）
74－5		6ABE　（古里543、他）
75		6AGF－C（西加座2702、他）
76－1	63	6ADB－A～D（町道塚山線拡幅）
76－2		6ADE－F・G（篠林3158、長谷川）
76－3		6ABE　（古里554、明和町）
76－4		6ACK　（東裏354－13、山際）
76－5		6AEE－W（楽殿577、岡田）
76－6		6ACB－A（塚山3276－1、今西）
76－7		6ACM－M（広頭3385－2、斎宮小）
76－8		6AFM－G（鍛冶山2736－3、近鉄）
76－9		6ACQ　（南裏144－1、田所）
76－10		6ABD－U（古里579、池田建設）
76－11		6ABE　（古里554、明和町）
76－12		6AEE　（楽殿、町道下水管）
76－13		6ADD－K（篠林3143、中西）
76－14		6AEE－S（楽殿2878－3、山路）
76－15		6ABF～6ABH（中垣内、県道拡幅）
76－16		6AEK－B（下園2936－2、明和町）
76－17		6AEV－A（鈴池339－5、永島）
77		6AGJ－D（東加座2453、他）
78		6ADL　（宮ノ前3054、他）
79		6AGG－A・B（東加座2440、他）
80		6AFG－F～I（西加座2696、他）
81－1	H1	6AEC～F（町道塚山線拡幅）
81－2		6ABJ、6ABK（古里、県道拡幅）
81－3		6ADS－M（木葉山137、中川）
81－4		6AED－L（楽殿2881－2、山本）
81－5		6AFQ－C（中西597－2、木戸口）
81－6		6ADD－F（篠林313、池田）
81－7		6ABL－U（中垣内430－7、川本）
81－8		6ABJ　（古里、明和町）
81－9		6ACF　（中垣内、三重県）

次	年度	調　査　地　区
81－10	1	6ＡＤＲ－Ｖ（木葉山297、明和町）
81－11		6ＡＣＭ－Ｎ（広頭3385－２、明和町）
81－12		6ＡＥＤ－Ａ（篠林3225、中川）
81－13		6ＡＣＢ　（塚山3276－19他、明和町）
81－14		6ＡＥＤ－Ｆ（楽殿2844－２、澄野）
81－15		6ＡＥＤ－Ｕ（楽殿2885－２、西山）
81－16		6ＡＧ　（北野3655－１、他）
82－１		6ＡＤＩ－Ｆ～Ｊ（上園3095、他）
82－２		6ＡＤＩ－Ｋ・Ｌ（上園3100、他）
83		6ＡＦＪ－Ｃ～Ｆ（西加座2770－３、他）
84－１		6ＡＦＪ－Ｇ（西加座2764－３）
84－２		6ＡＦＨ－Ｇ・Ｈ（西加座2679－１、他）
85－１	2	6ＡＢＤ～6ＡＣＤ（古里、三重県）
85－２		6ＡＣＡ－Ｐ（古里3279、松本）
85－３		6ＡＣＪ－Ｂ・Ｄ（東裏、明和町）
85－４		6ＡＢＥ　（竹川573－１、永納）
85－５		6ＡＥＤ－Ｕ（楽殿2885－２、西山）
85－６		6ＡＦＨ－Ｂ（西加座、明和町）
85－７		6ＡＣＢ－Ｃ（塚山3276－３他、加藤）
85－８		6ＡＢＩ－Ｎ（中垣内427－１、小林）
86		6ＡＦＨ－Ｆ・Ｇ・Ｈ（西加座2679－１他）
87		6ＡＣＥ－Ｎ・Ｑ・Ｒ（塚山3356他）
88		6ＡＧＮ－Ｃ・Ｄ（鍛冶山2411－１他）
89－１	3	6ＡＤＭ－Ｏ（内山3043－５、近鉄斎宮駅）
89－２		6ＡＧＩ－Ｍ（東加座2432－２他、北村）
89－３		6ＡＤＭ－Ｎ・Ｏ（内山3060－４、近鉄斎宮駅）
90		6ＡＦＨ－Ａ・Ｂ（西加座2680他）
91	3	6ＡＢＨ－Ｆ（中垣内393、他）
92		6ＡＧＮ－Ａ（鍛冶山2734－３）
93		6ＡＤＮ（内山3045－12、他）
94		6ＡＥＭ（御館2942）
95	4	6ＡＤＮ（内山3046－17、他）
96－１		6ＡＧＭ（東加座2374　丸山）
96－２		6ＡＤＯ（内山3068－３、他　明和町）
96－３		6ＡＣＡ－Ｄ（古里3260　清水）
96－４		6ＡＦＮ（中西2749－１　本山）
96－５		6ＡＤＲ－Ｔ（木葉山28－３　加藤）
96－６		6ＡＤＤ－Ｄ（篠林3138－１　藤井）
97		6ＡＥＭ（中垣内482、他）
98		6ＡＦＭ－Ｃ・Ｅ（鍛冶山2745、他）
99	5	6ＡＤＮ（内山3046－11、他）
100		6ＡＢＩ－Ｔ（中垣内423）
101		6ＡＤＧ（篠林3194）
102－１		6ＡＤＳ（木葉山119－５　澄野）
102－２		6ＡＥＤ－Ｊ（楽殿2882－５　杉本）
102－３		6ＡＡＱ（花園663－１　中川）
102－４		6ＡＣＦ－Ａ（東裏365－１　樋口）
102－５		6ＡＢＪ－Ｄ（中垣内493－６　川口）
102－６		6ＡＧ　（鍛冶山地内　明和町）
102－７		6ＡＣＧ－Ｅ（東裏318－１　川本）
102－８		6ＡＥ　（楽殿地内　明和町）
103		6ＡＥＱ－Ａ（柳原2779－３）
104		6ＡＧＴ（笛川1048－１、他）

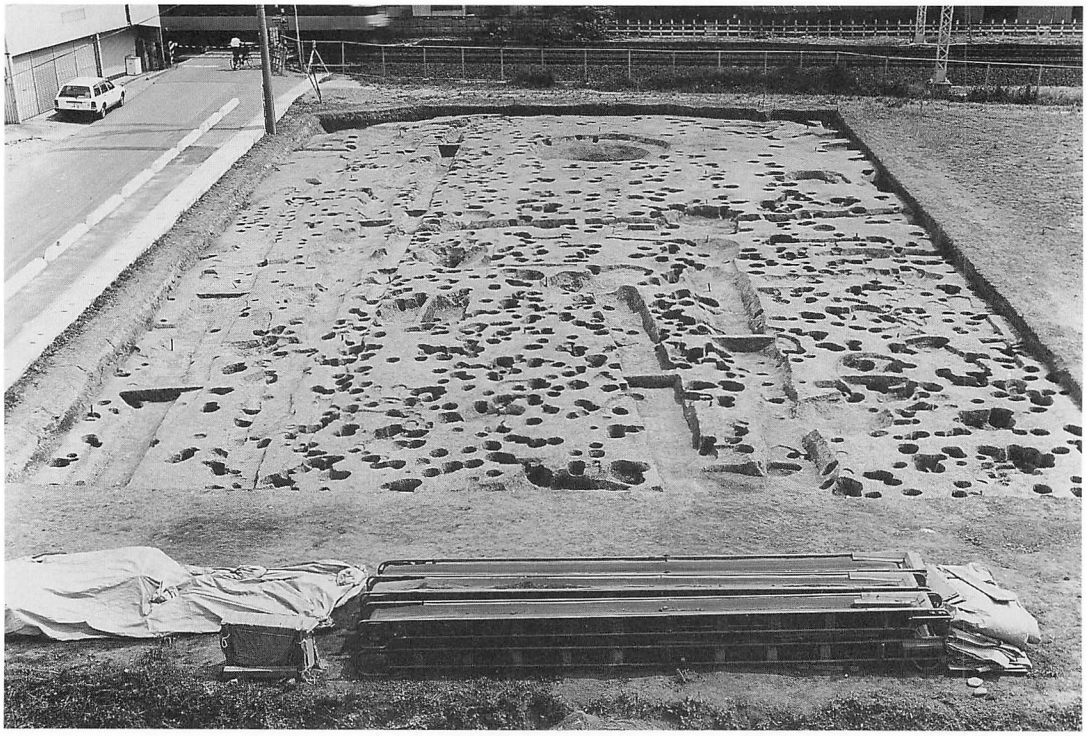


第40図　斎宮跡地区表示

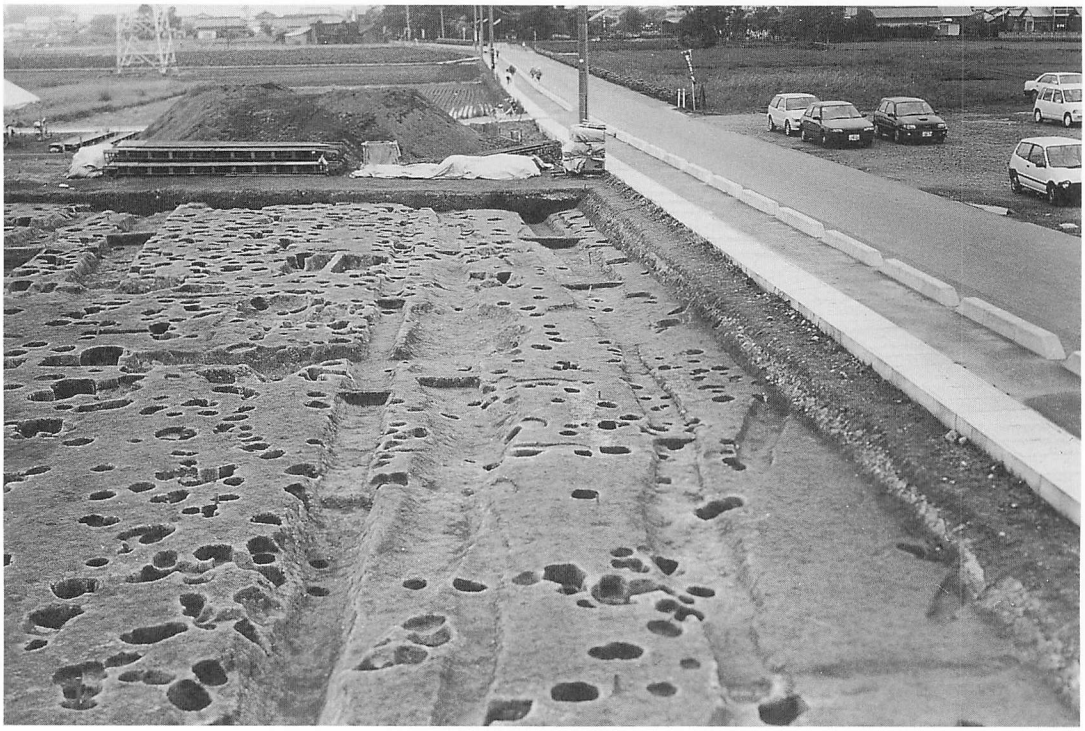
図　　版



調査区全景（真上から）

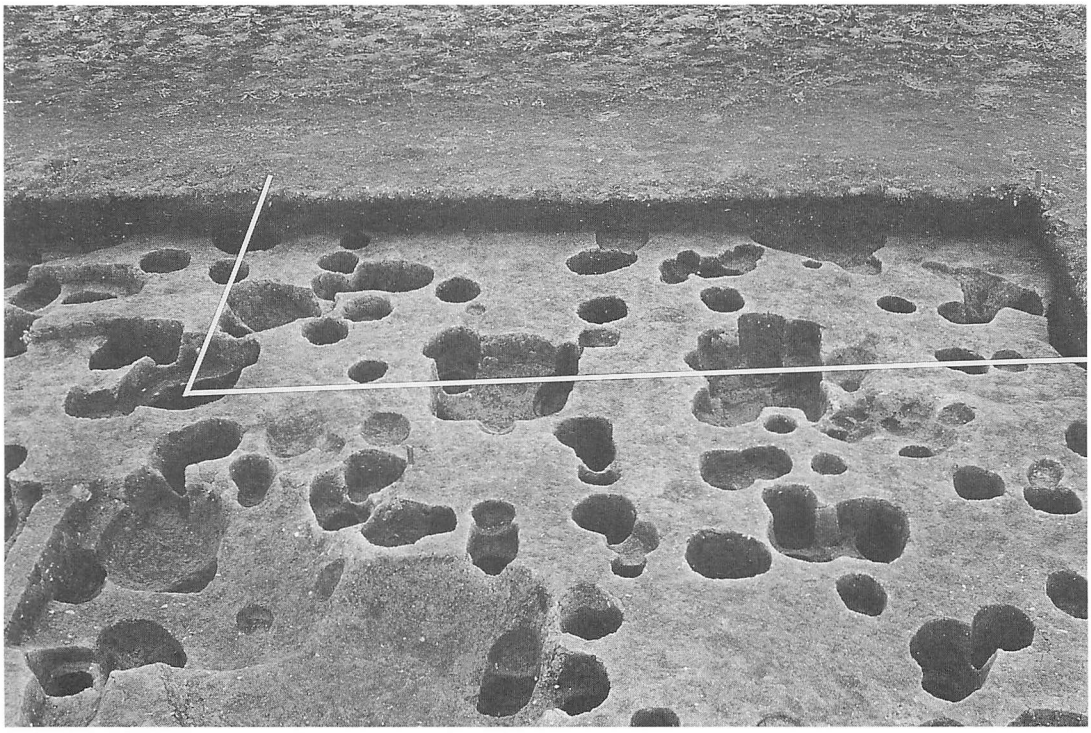


調査区全景（北から）

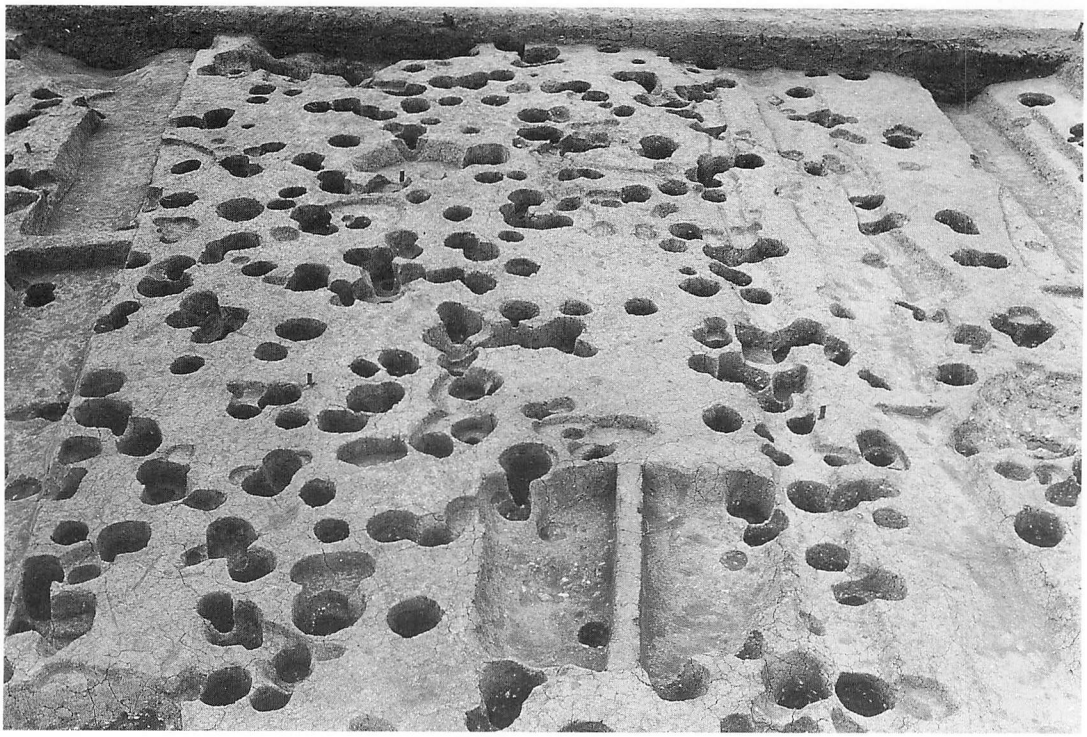


調査区北東部（南から）

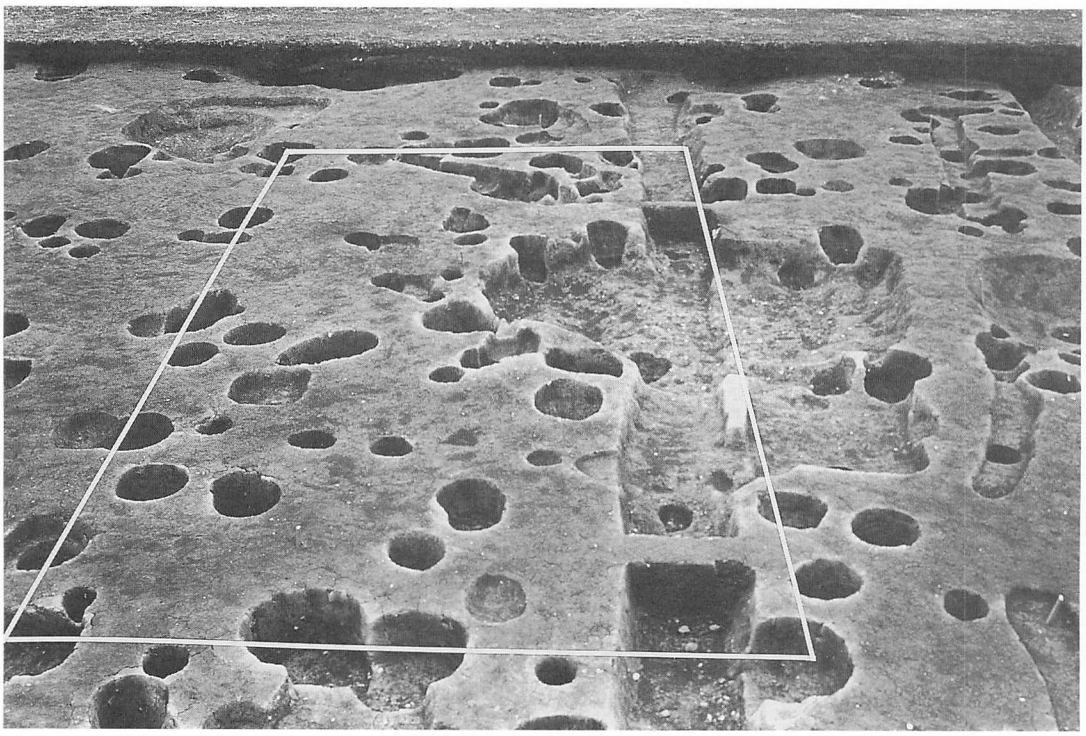
調査区南東部（北から）



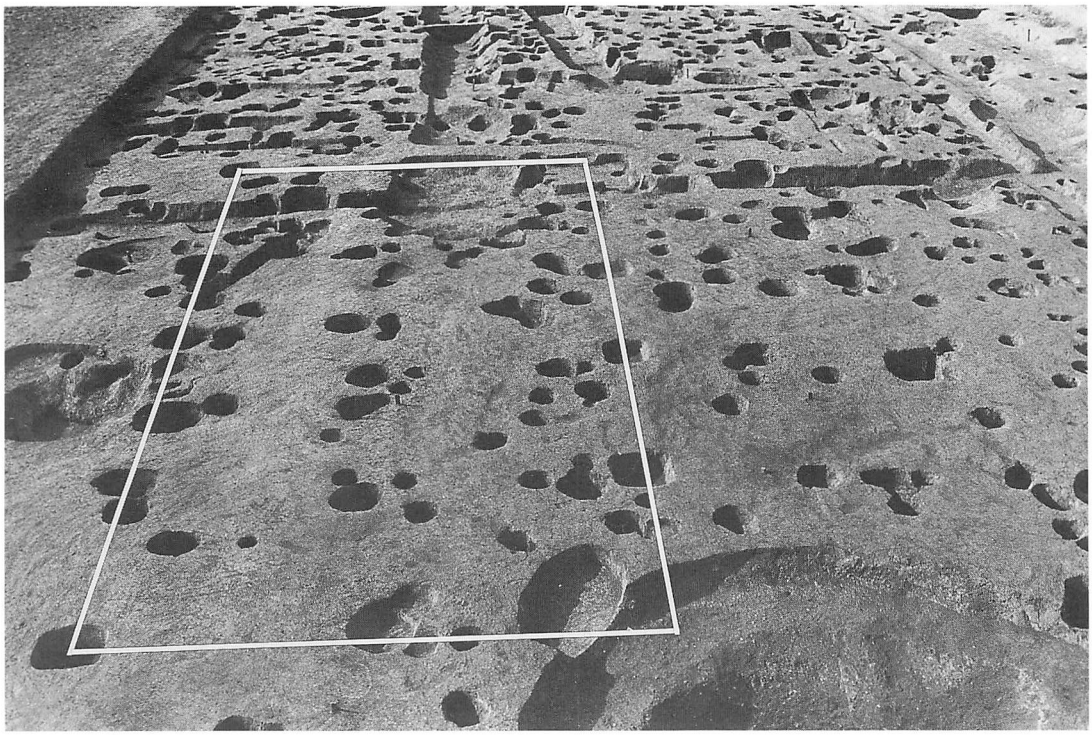
ＳＢ0251（東から）



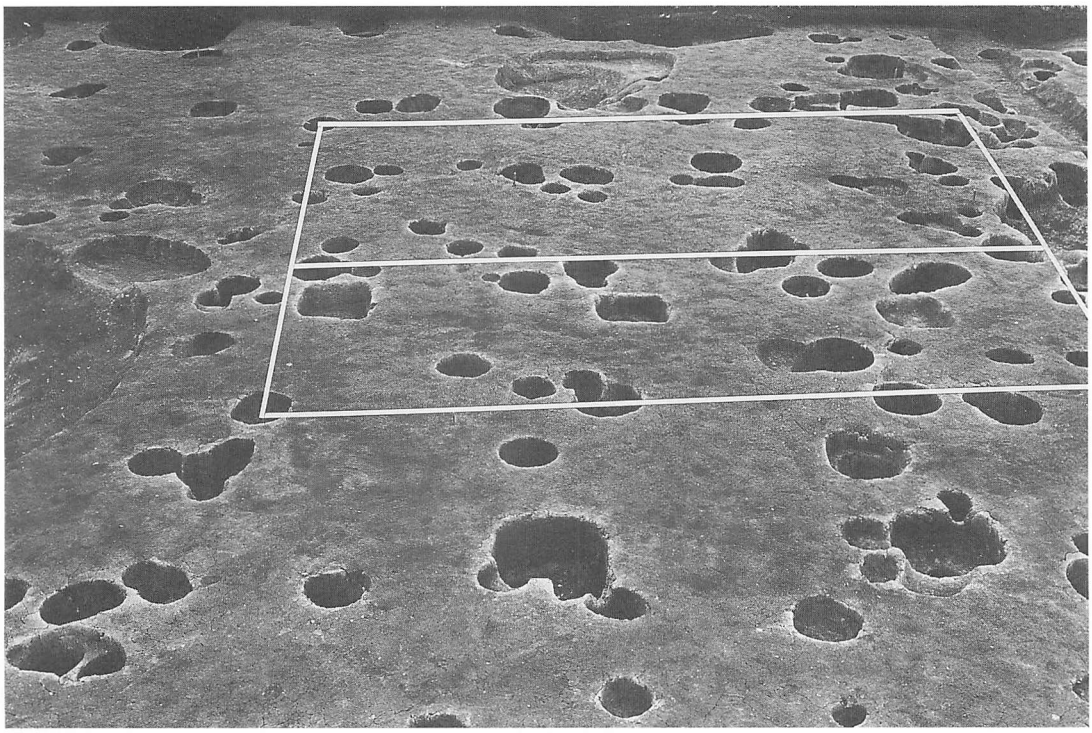
調査区北部（南から）



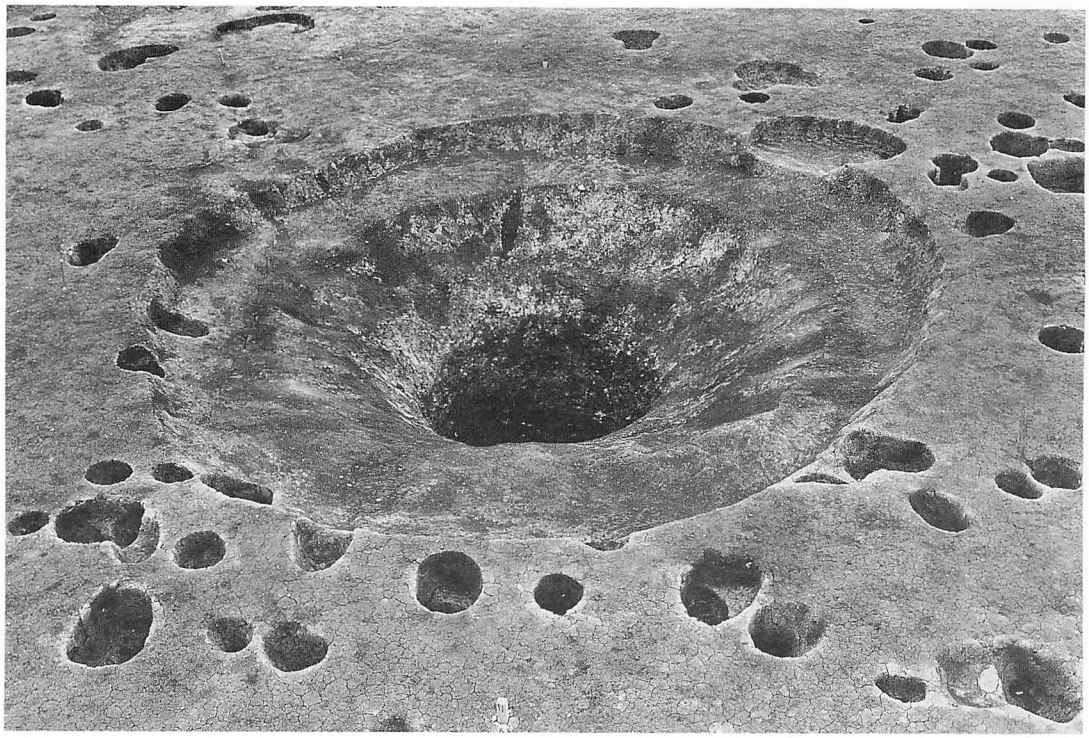
ＳＤ6919・ＳＢ6922（東から）



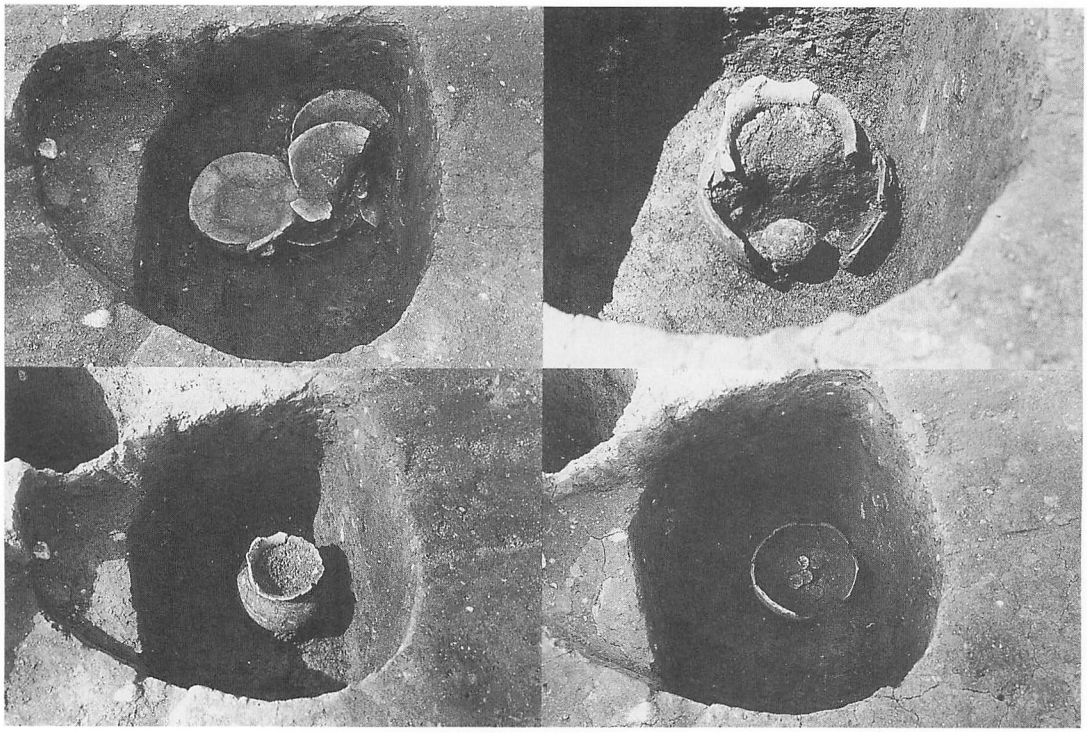
ＳＢ6918（南から）



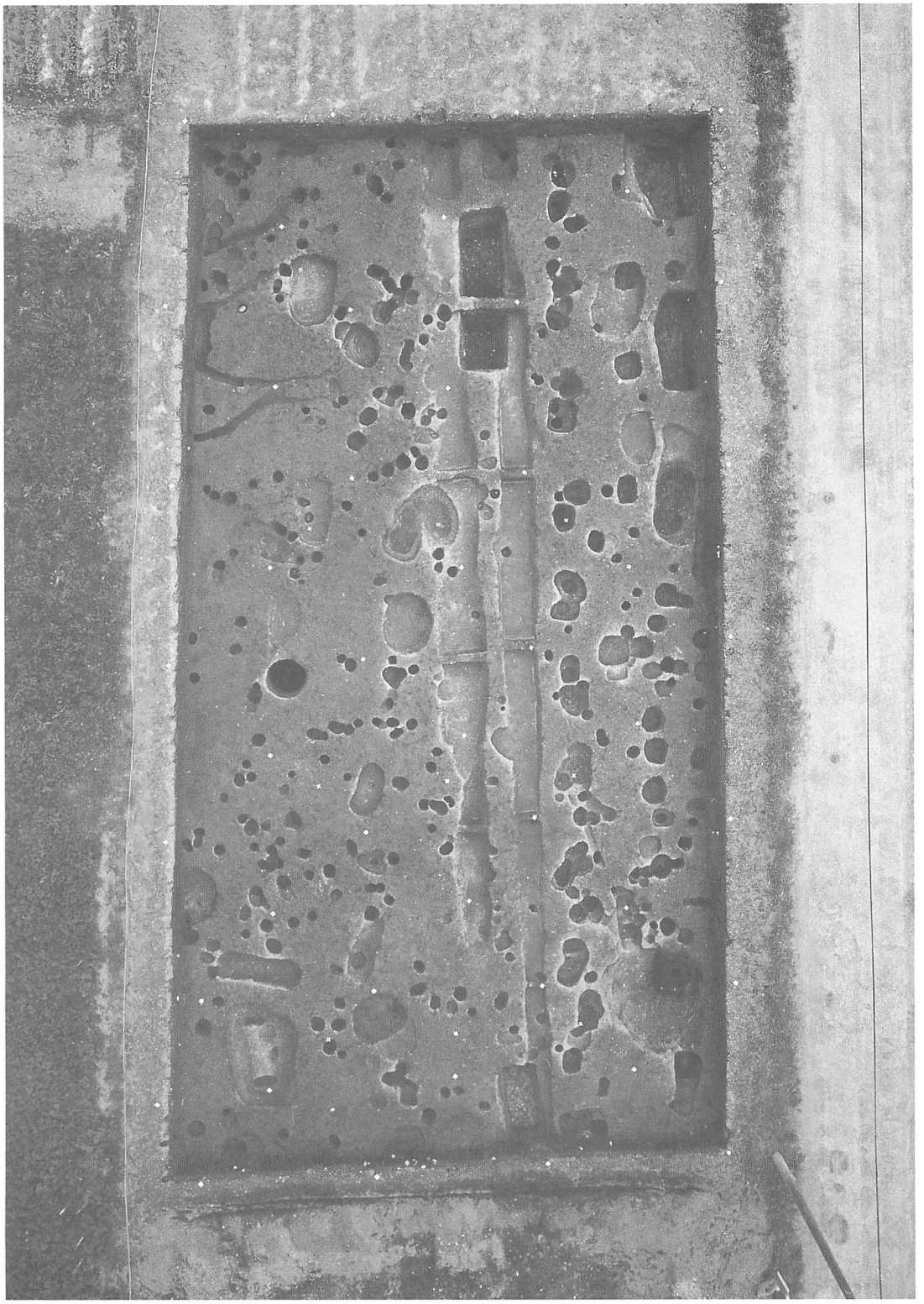
ＳＢ6923（東から）



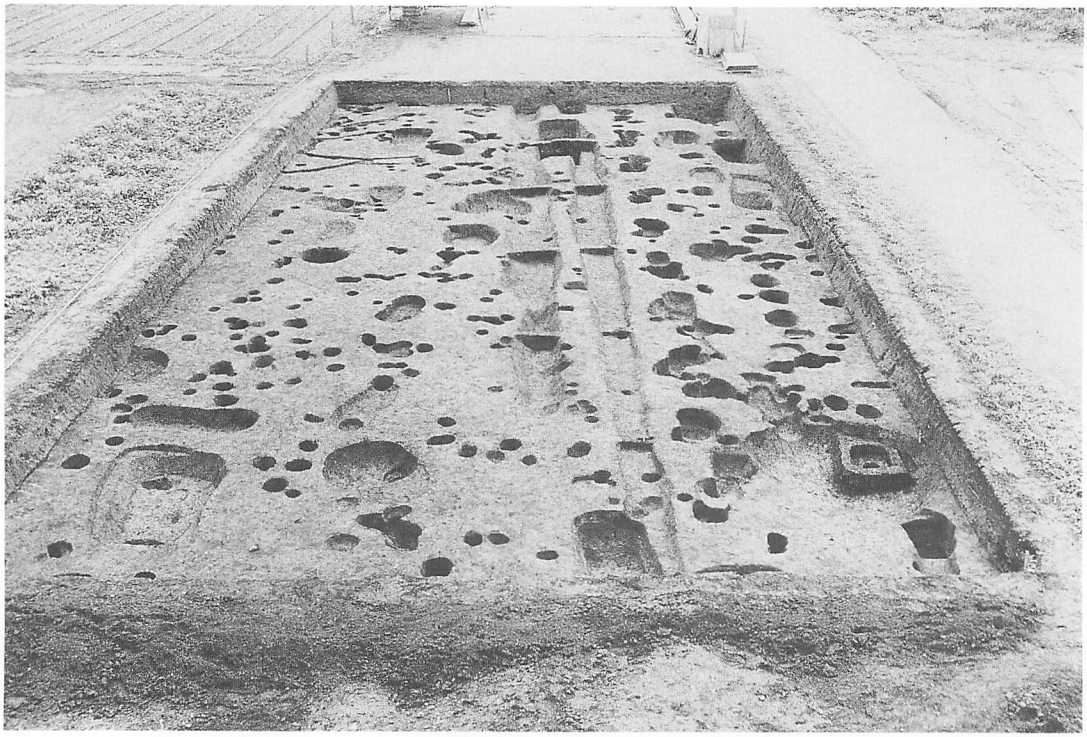
ＳＥ6920（東から）



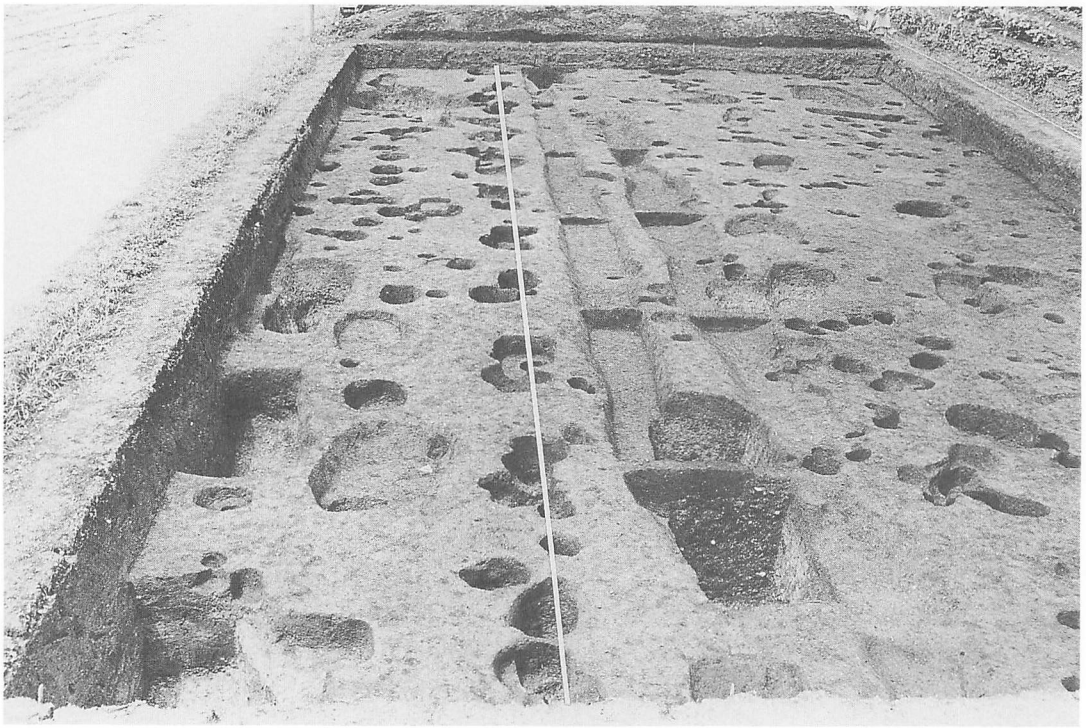
ＳＸ6900検出状況（南から）



調査区全景（真上から）



調査区全景（西から）

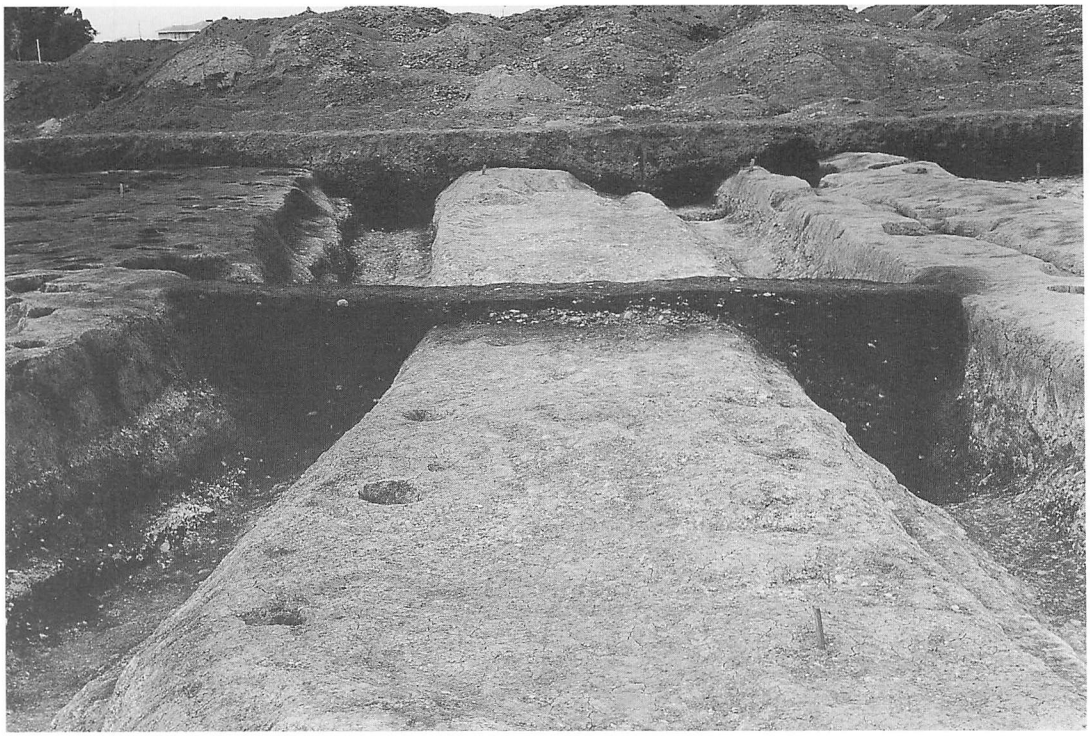


ＳＡ6940・6941～6943（東から）

調査区全景（真上から）

調査区全景（北から）

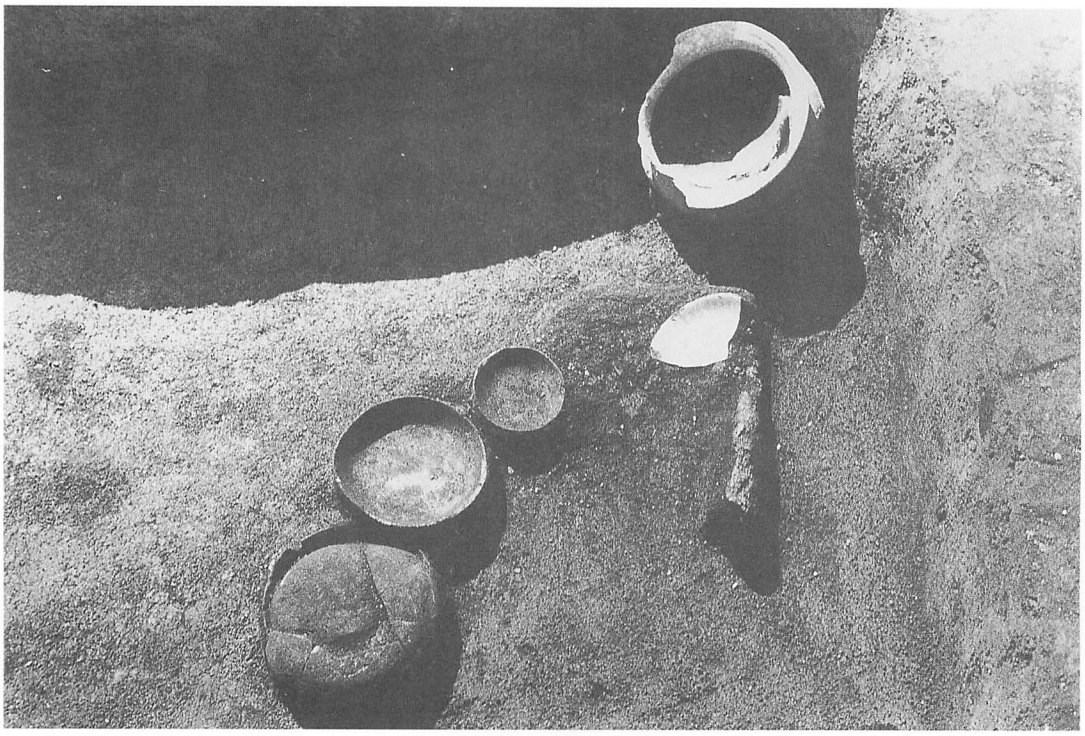
ＳＦ6983南端（西から）



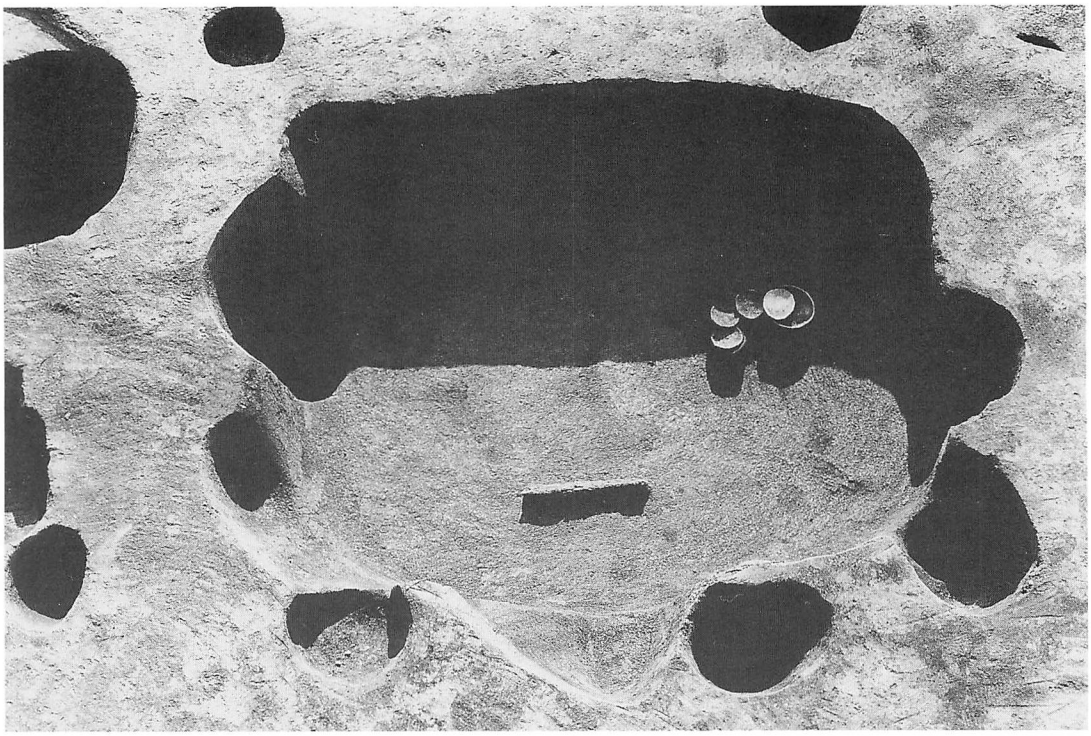
ＳＦ6983（南から）

中世墓群（北から）

ＳＸ6975（南から）

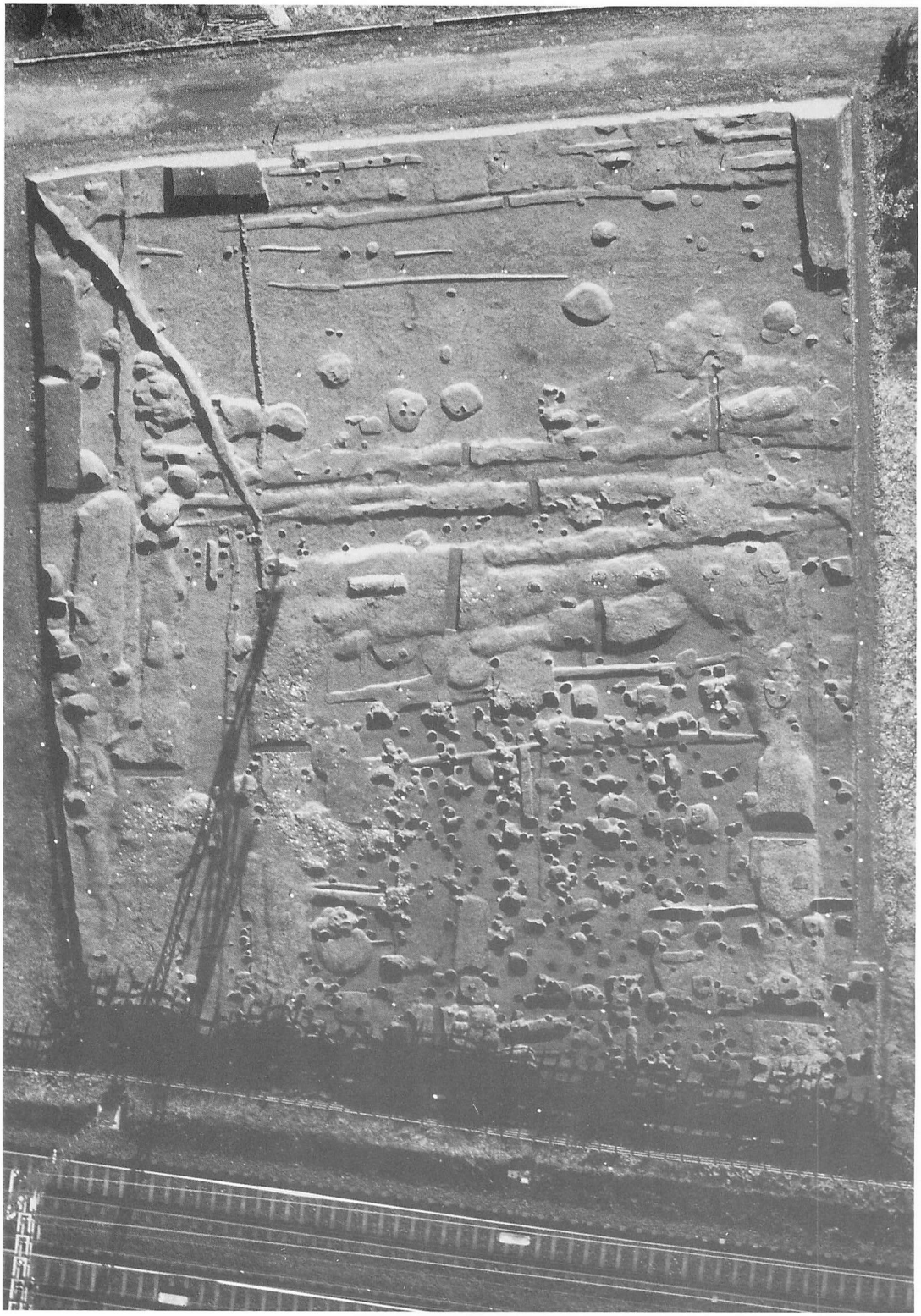


ＳＸ6975遺物検出状況（東から）



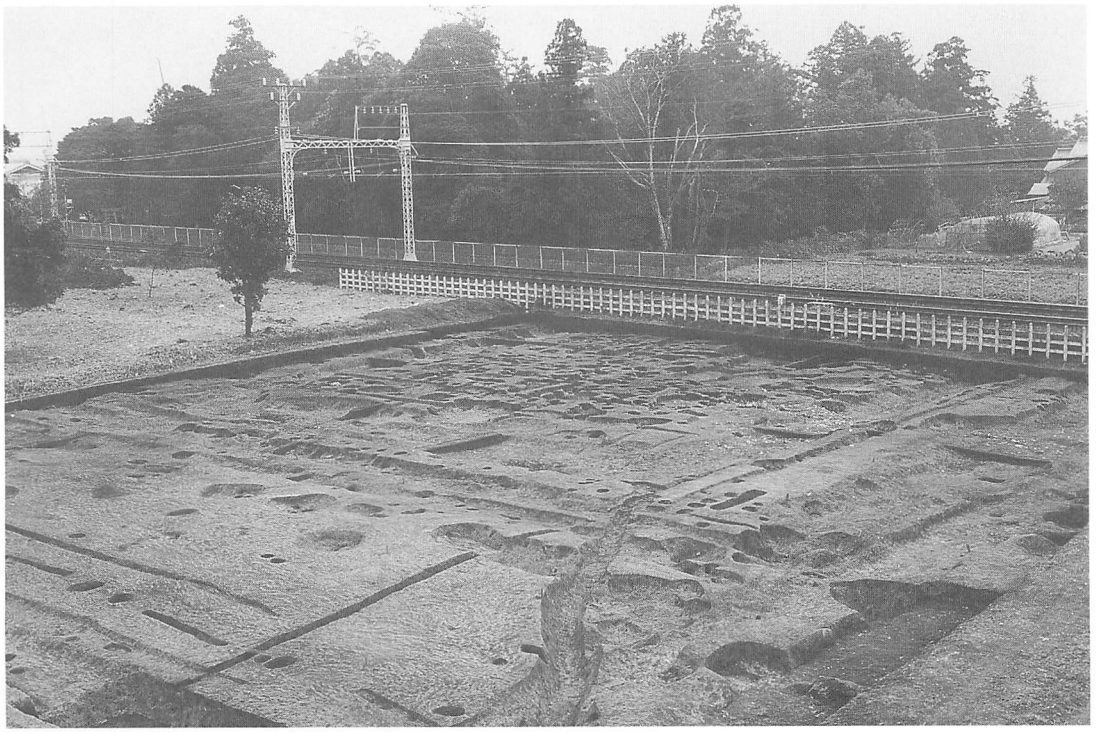
ＳＸ6977（東から）

ＳＸ6976（南から）

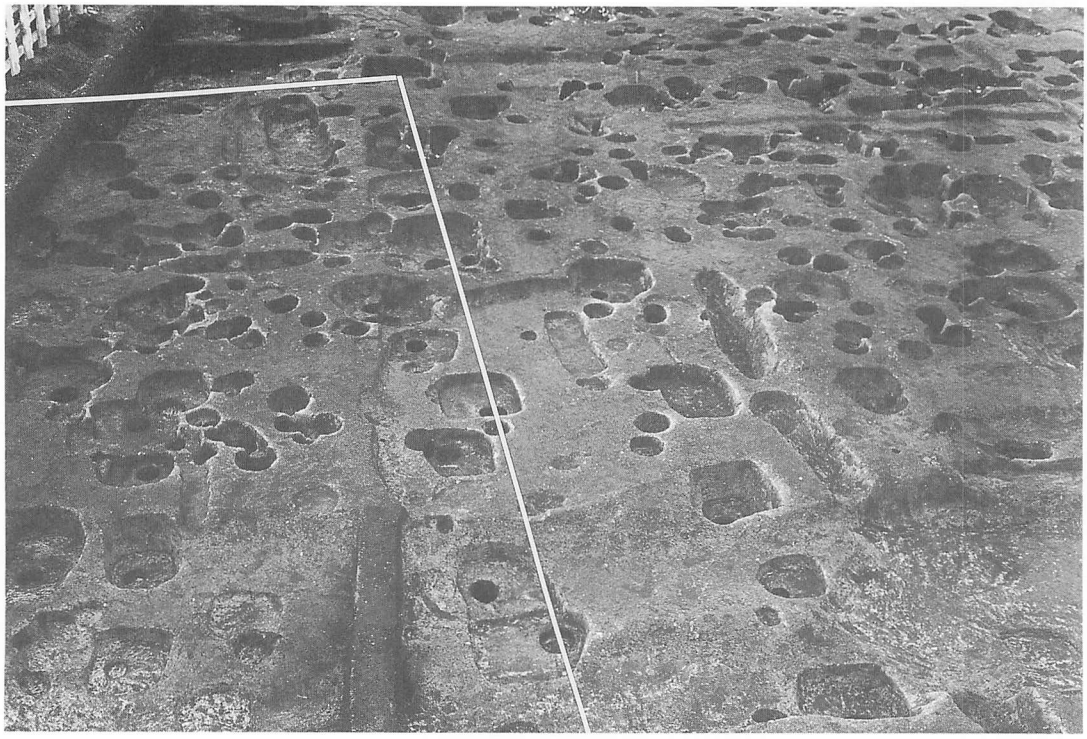


調査区全景（真上から）

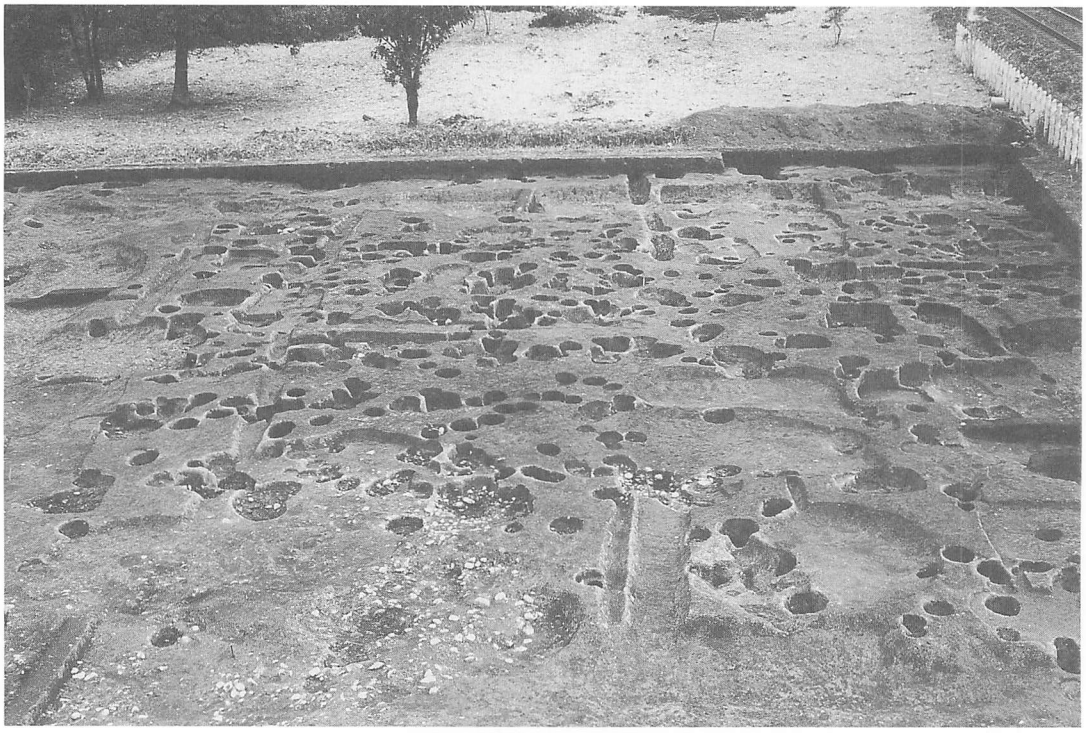
調査区全景（西から）



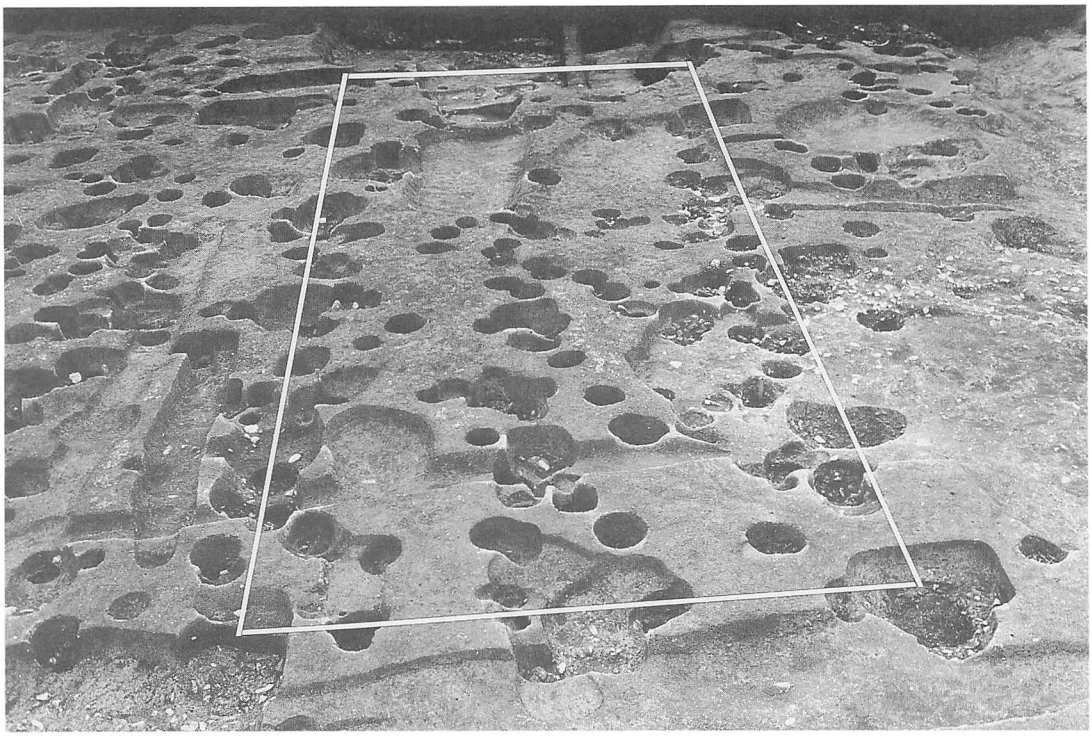
調査区全景（北西から）



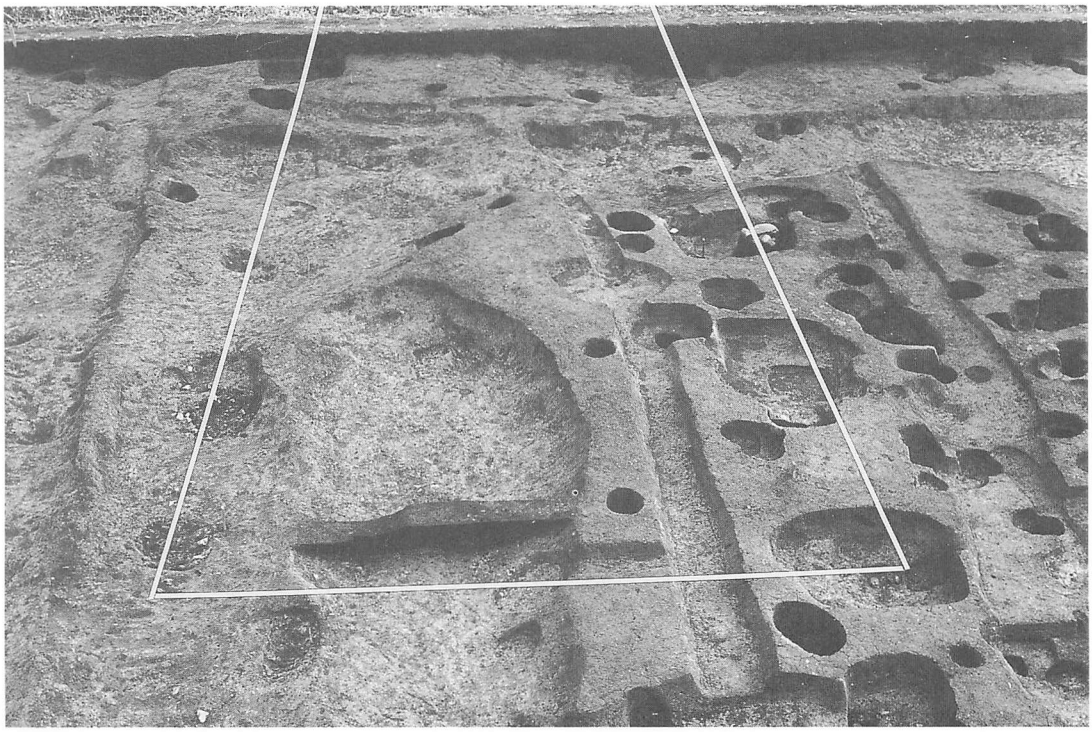
ＳＡ7000（東から）



調査区南東部（西から）



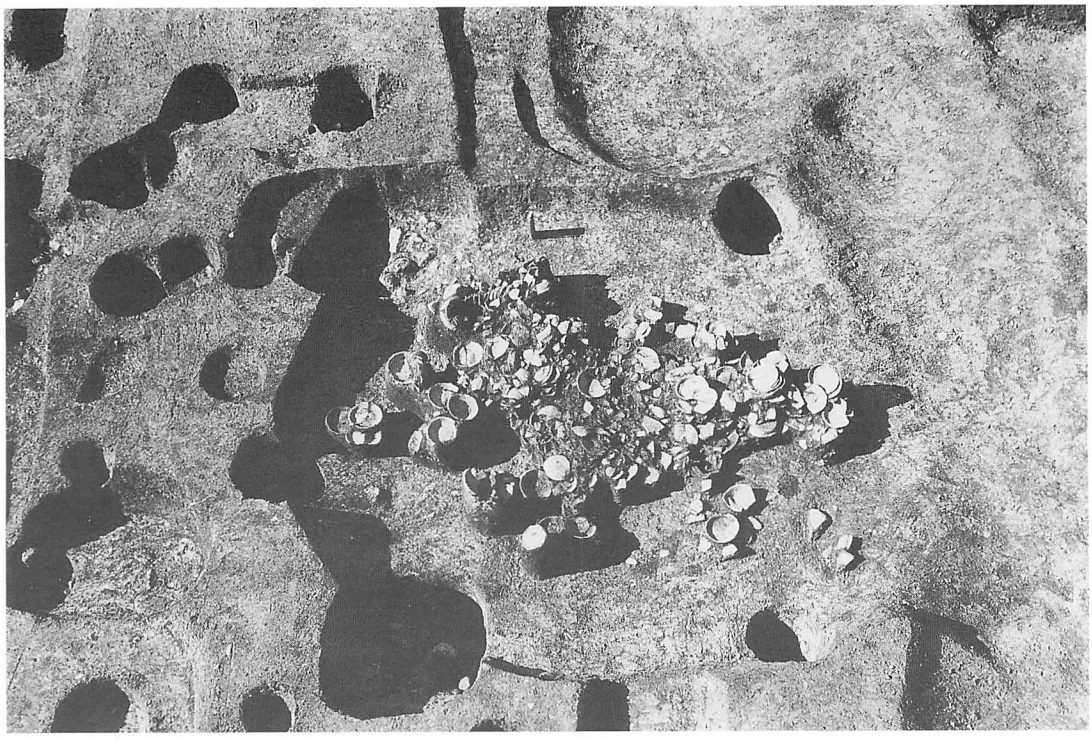
ＳＢ7024（北から）



ＳＢ7020（西から）

ＳＫ7017（東から）

ＳＫ7040（北から）

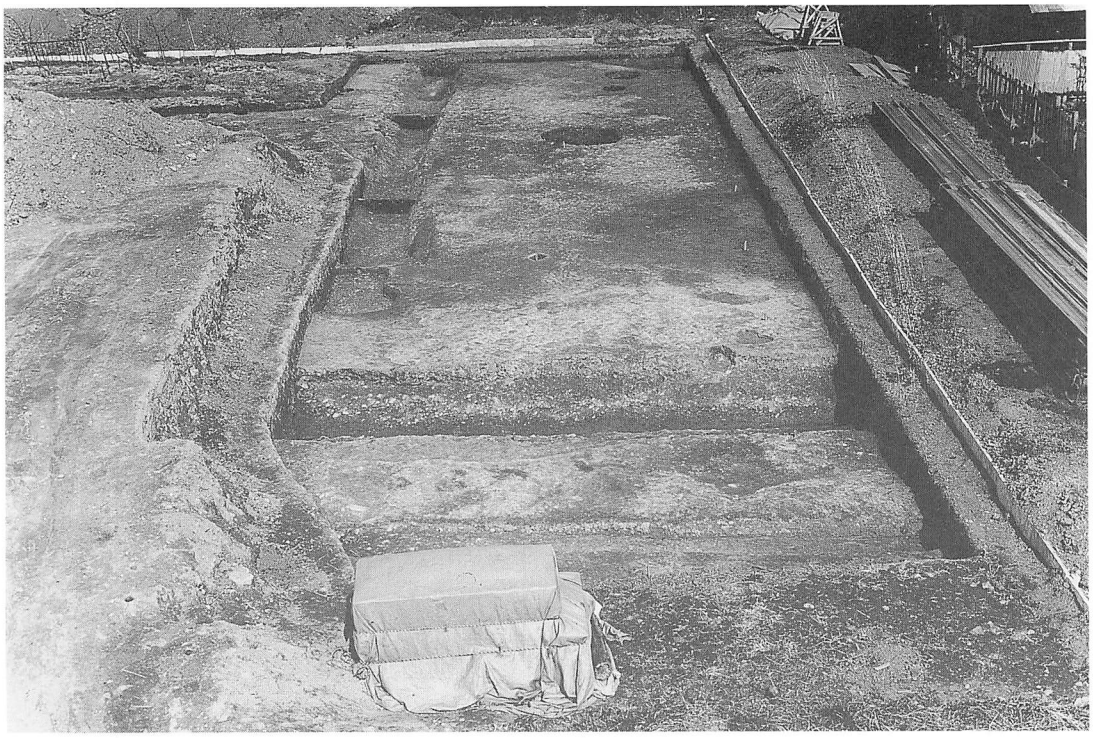


ＳＫ7030（東から）

ＳＫ7030遺物検出状況（北東から）

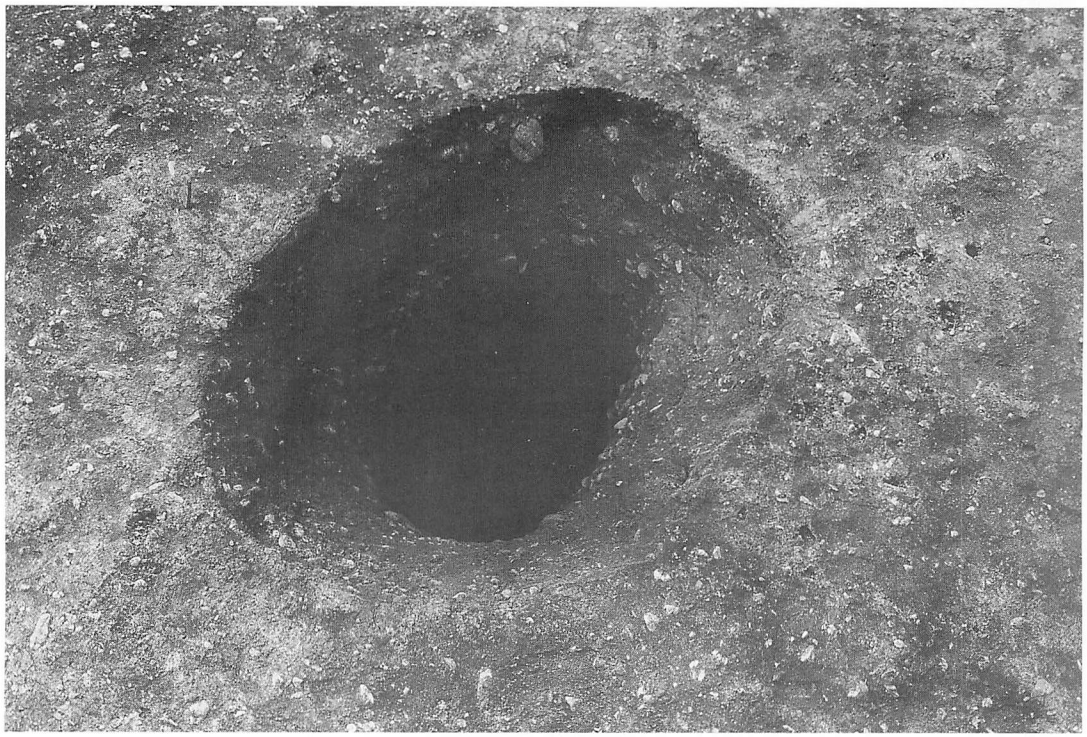
調査区遠景（南から）

調査区遠景（東から）



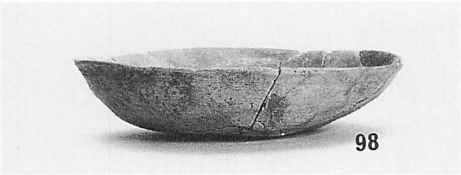
調査区全景（南から）

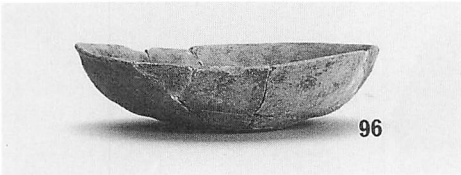
ＳＤ7067（西から）

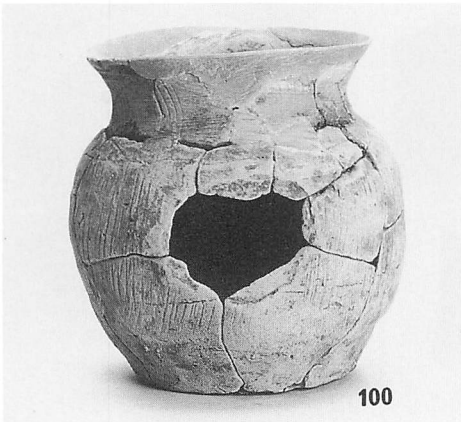


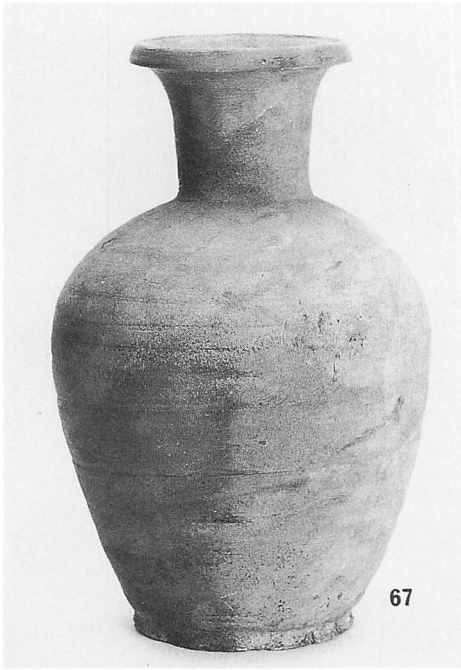
ＳＥ7060（東から）

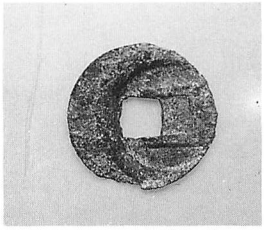
ＳＤ7063（南から）

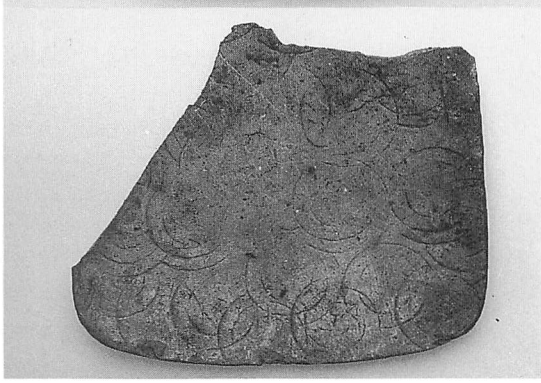




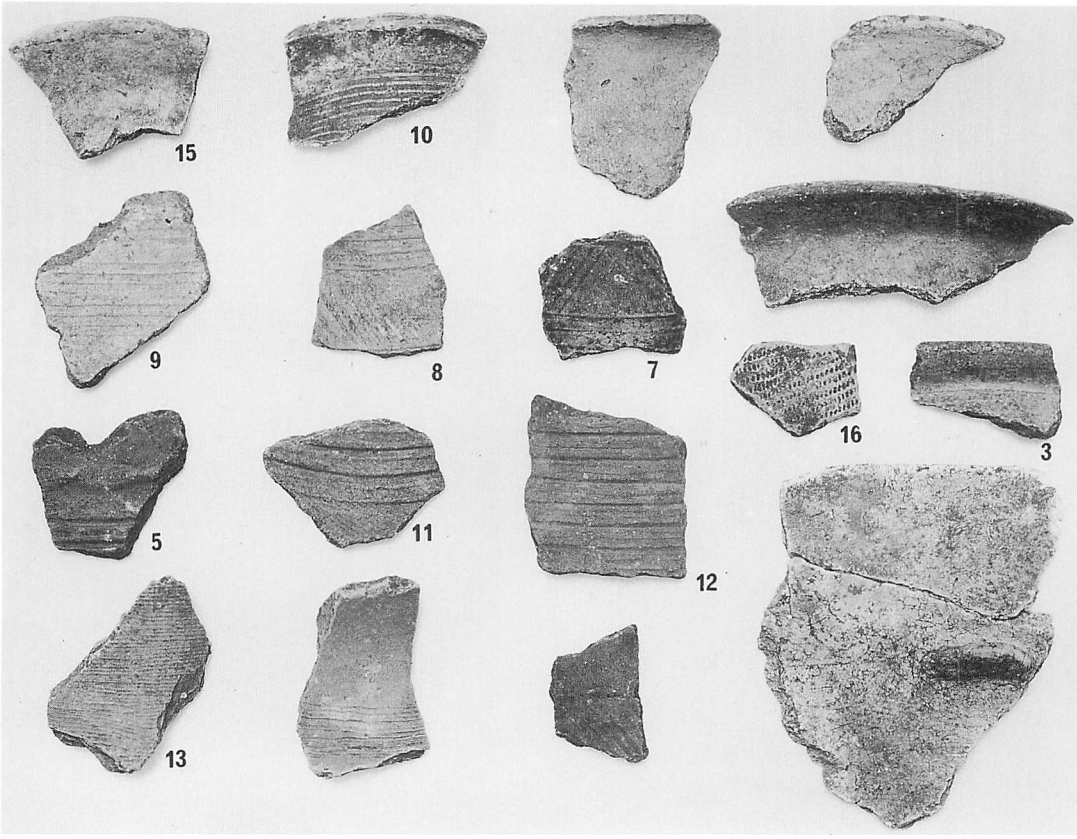




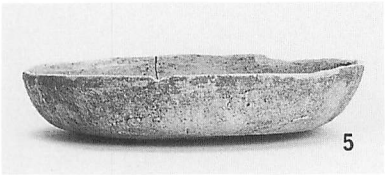


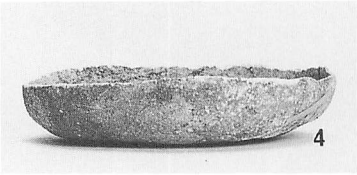


第99次調査　出土遺物

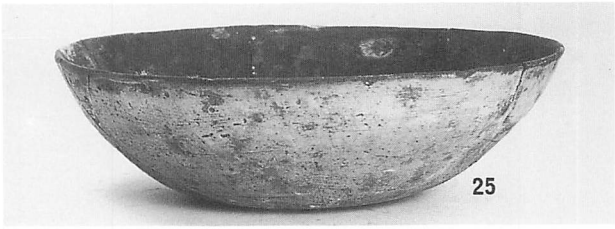


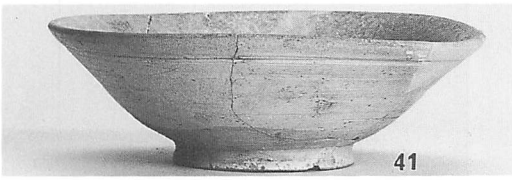
第100次調査　出土遺物



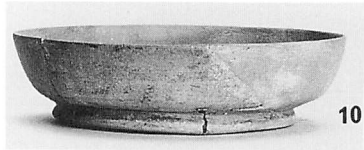


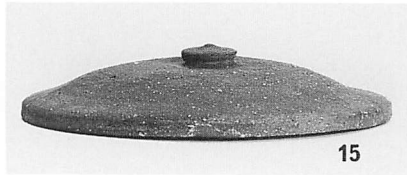
第101次調査　出土遺物





第104次調査　出土遺物





第103次調査　出土遺物

国史跡　斎宮跡

平成5年度

発掘調査概報

平成6年3月31日

編集発行　斎宮歴史博物館

印　　刷　光出版印刷株式会社